

7. 占冠PAランプ橋

図 面 目 録

占冠 P A ランプ橋 上部工設計図

図面番号	図 面 名
1	数量総括表
2～3	橋梁一般図（その 1～2）
4	上部工構造一般図
5～6	線形図（その 1～2）
7	支承配置図
8～9	断面構成図（その 1～2）
10～11	共通詳細図（その 1～2）
12～16	主桁 G 1 （その 1～5）
17～21	主桁 G 2 （その 1～5）
22～23	スタッドジベル配置図（その 1～2）
24～25	端支点上横桁（その 1～2）
26	中間支点上横桁
27	中間横桁
28～30	巻き立てコンクリート（その 1～3）
31～33	巻き立てコンクリートスタッド配置図（その 1～3）
34	P C 鋼材配置図
35～42	床版配筋図（その 1～8）
43～45	壁高欄配筋図（その 1～3）
46～47	支承詳細図（その 1～2）
48～55	伸縮装置（その 1～8）
56～57	排水装置詳細図（その 1～2）
58	橋名板・橋歴板
59～60	落橋防止構造図（その 1～2）
61～62	コンクリート表面被覆工（その 1～2）

占冠 P A ランプ橋 下部工設計図

図面番号	図 面 名
63～64	A 1 橋台構造一般図（その 1～2）
65～73	A 1 橋台配筋図（その 1～9）
74	P 1 橋脚構造一般図
75～76	A 2 橋台構造一般図（その 1～2）
77～85	A 2 橋台配筋図（その 1～9）

項 目		種 別		単 位	数 量	摘 要	
コンクリート		A1-1		m3	17.2	巻き立てコンクリート部 (σck=30N/mm2)	
		A1-4		m3	64.5	壁高欄部 (σck=30N/mm2)	
		P2-2		m3	179.2	床版部 (σck=40N/mm2)	
		P2-2		m3	3.5	調整コンクリート (σck=40N/mm2)	
		合計		m3	260.8		
型わく		A	床版部		m2	504.8	床版部
			床版部以外		m2	489.7	壁高欄部、巻き立てコンクリート部
		合計		m2	994.5		
鉄筋		A	床版部	D13	t	-	SD345、重ね継手
				D16～D25	t	35.139	SD345、重ね継手
				合計	t	35.139	SD345、重ね継手
			床版以外	D13	t	2.763	SD345、重ね継手
				D16～D25	t	1.106	SD345、重ね継手
				D29～D35	t	0.500	SD345、重ね継手
				合計	t	4.369	SD345、重ね継手
		A(E)	床版部	D13	t	10.708	SD345、重ね継手、エポキシ樹脂塗装鉄筋
				D16～D25	t	-	SD345、重ね継手、エポキシ樹脂塗装鉄筋
				合計	t	10.708	SD345、重ね継手、エポキシ樹脂塗装鉄筋
			床版以外	D13	t	6.560	SD345、重ね継手、エポキシ樹脂塗装鉄筋
				D16～D25	t	0.575	SD345、重ね継手、エポキシ樹脂塗装鉄筋
				D29～D35	t	-	SD345、重ね継手、エポキシ樹脂塗装鉄筋
				合計	t	7.135	SD345、重ね継手、エポキシ樹脂塗装鉄筋
PC鋼材		PC鋼より線 (1S28.6)S		kg	4545	プレグラウトPC鋼材 4.23kg/m	
鋼構造物の製作		製作材料費 (鋼板) A		t	8.071	SS400, SM400	
		製作材料費 (鋼板) B		t	93.778	SM490, SM490Y, SM520	
		製作材料費 (鋼板) C		t	-	SM570	
		製作材料費 (形鋼) A		t	3.664	鋼板、スタッドジベル以外の材料	
		製作材料費 (スタッドジベル)		t	2.436	スタッドジベル (φ22、3944本)	
		大型部材の製作		個	63	主桁、横桁のフランジ、ウェブ	
				t	81.843		
		小型部材の製作		個	591	補剛材, ブラケット, 仕口等	
				t	20.006		
		中間横桁部材の製作		個	8	中間横桁のH形鋼	
				t	3.664		
T継手溶接工		m	725.1	主桁、横桁等のフランジ、ウェブ同士のT継手溶接実長			

項 目	種 別	単 位	数 量	摘 要
鋼構造物の防錆	C-5	m2	1367.4	全塗装面積
鋼構造物の輸送	鋼橋の輸送	t	107.676	
鋼構造物の架設	鋼橋の架設	t	107.676	
	高力ボルト本締工	t	0.807	高力ボルト組数 S10T (1400)組
	鋼橋の現場溶接工	m	55.7	
支承	E-10	箇所	4	ゴムを主材料とした支承 (A1, A2)
	E-11	箇所	2	ゴムを主材料とした支承 (P1)
伸縮装置	A	kg	9608	鋼製フィンガージョイント (A1, A2)
排水装置	排水ますA1	箇所	6	ガラス繊維強化熱硬化性樹脂、753×333×450
	排水ますA2	箇所	6	ガラス繊維強化熱硬化性樹脂、335×240×450
橋名板		箇所	1	アルミ製
橋歴板		箇所	1	アルミ製
落橋防止構造	A9	kg	124	PC鋼材を主材料とするもの (A1)
	A10	kg	124	PC鋼材を主材料とするもの (A2)
表面保護工	コンクリート表面被覆工	m2	115.0	橋台部 (A1, A2)

下部工数量総括表（上部工施工分）

項 目	種 別		単位	A1橋台	P1橋脚	A2橋台	合 計	摘 要
コンクリート	A1-3		m ³	63.0	0.0	68.1	131.1	躯体 (σ ck=30N/mm2)
	A1-4		m ³	5.1	0.0	5.6	10.7	地覆壁高欄 (σ ck=30N/mm2)
型わく	C		m ²	137.3	0.0	134.6	271.9	橋台後打ち
			m ²	36.8	0.0	36.8	73.6	壁高欄
鉄筋	A	D13	t	0.231	0.0	0.231	0.462	SD345
		D16～D25	t	0.156	0.0	0.156	0.312	SD345
		合計	t	0.387	0.0	0.387	0.774	
	B	D13	t	0.0	0.0	0.0	0.0	SD345、機械式継手
		D16～D25	t	0.515	0.0	0.513	1.028	SD345、機械式継手 (116箇所)
		合計	t	0.515	0.0	0.513	1.028	
	A (E)	D13	t	0.660	0.0	0.653	1.313	SD345、エポキシ樹脂塗装鉄筋
		D16～D25	t	0.617	0.0	1.305	1.922	SD345、エポキシ樹脂塗装鉄筋
		D29～D32	t	4.348	0.0	2.762	7.110	SD345、エポキシ樹脂塗装鉄筋
		合計	t	5.625	0.0	4.720	10.345	
	C (E)	D13	t	0.0	0.0	0.0	0.0	SD345、エポキシ樹脂塗装鉄筋
		D16～D25	t	0.072	0.0	0.072	0.144	SD345、エポキシ樹脂塗装鉄筋
		合計	t	0.072	0.0	0.072	0.144	

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 数量総括表		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

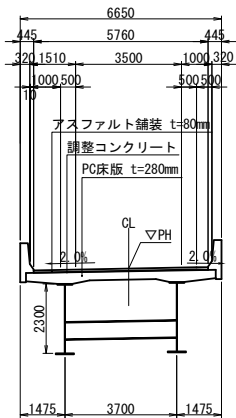
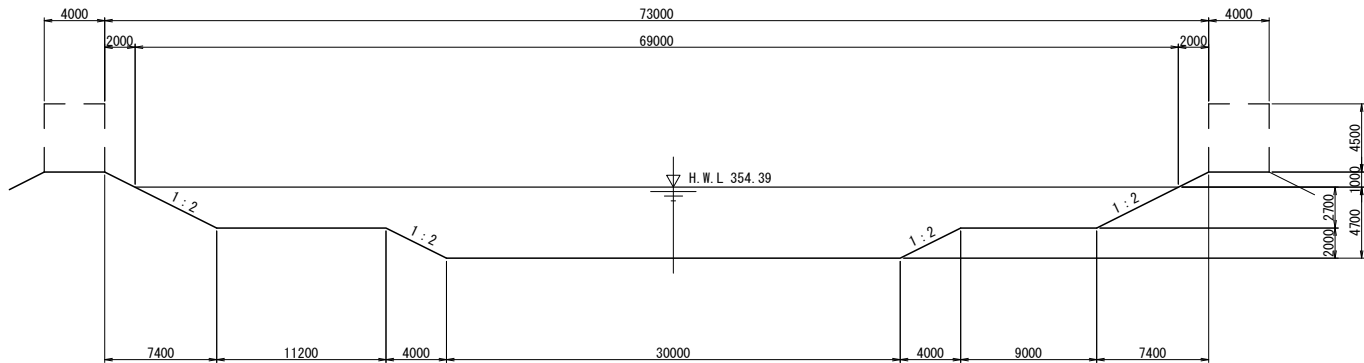
交 差 条 件 S=1:500

一級河川 鵠川

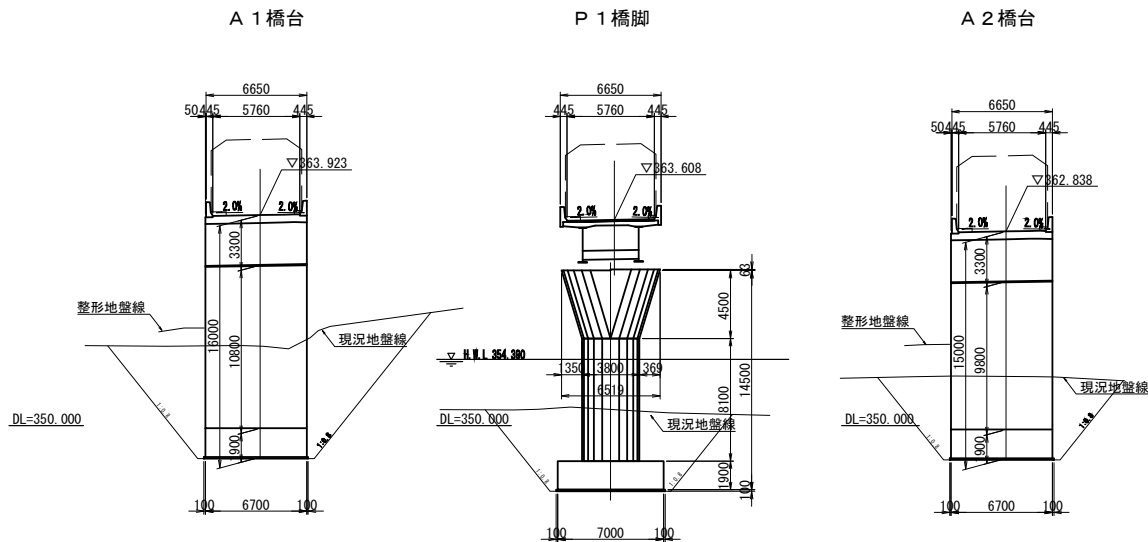
計画高水流量 Q=900 (m3/sec)

300+74.004

上部工標準断面図 S=1:250

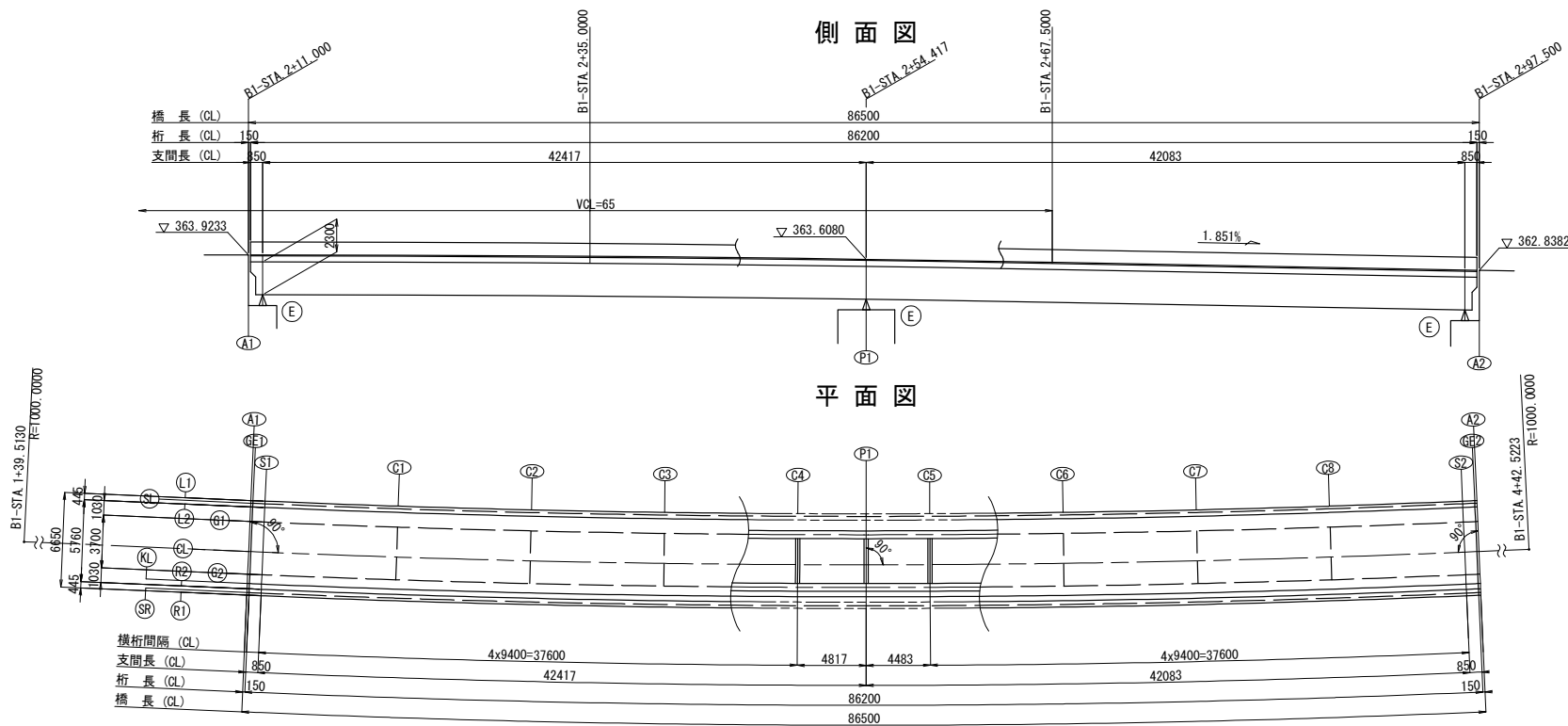


断面図 S=1:500



設 計 条 件				
基本条件	路線名	道東自動車道		
	橋名	占冠PAランプ橋		
	道路規格	A規格ランプ		
	設計速度	40km/h		
	計画交通量	636台/日	大型車交通量：90台/日	
	橋長	A1-A2： 86. 50m (CL上)		
	桁長	A1-A2： 86. 20m (CL上)		
	支間長	A1-A2： 42. 417+42. 083m (CL上)		
	全幅員	6. 650m	非常駐車帯部： —	
	有効幅員	5. 760m	非常駐車帯部： —	
耐荷性能条件	平面線形	R= 1000m		
	縦断線形	i=0. 250% — ～i=1. 851% —		
	横断線形	i=2. 000% —		
	斜角	90° 00' 00"		
	橋の耐荷性能	橋の耐荷性能 2		
	設計供用期間	100年		
	舗装荷重	アスファルト舗装 t=80mm		
	遮音壁荷重	設置しない（設計荷重は両側w=1. 45kN/mとして考慮）		
	雪荷重	考慮しない		
	設計活荷重	B活荷重		
耐久性条件	温度変化条件	-10～ +50℃（基準温度20℃） 支承・伸縮装置 -40～+40℃（基準温度0℃）		
	橋の重要度区分	B種の橋		
	地域補正係数	B2地域： Cz=0. 85, CⅠ z=1. 0, CⅡ z=0. 85		
	地盤種別	Ⅰ 種地盤 kh = Cz・kho = 0. 85 × 0. 20 = 0. 17		
	地盤の液状化	なし		
	設計水平震度	レベル1	橋軸方向： 0. 17	直角方向： 0. 17
		レベル2 (Ⅰ)	橋軸方向： 0. 91	直角方向： 0. 90
		レベル2 (Ⅱ)	橋軸方向： 0. 87	直角方向： 0. 86
	固有周期	レベル1	橋軸方向： 0. 77	直角方向： 0. 59
		レベル2 (Ⅰ)	橋軸方向： 1. 14	直角方向： 1. 16
レベル2 (Ⅱ)		橋軸方向： 1. 15	直角方向： 1. 16	
上部構造条件	架橋環境条件	地域区分C 200m以上		
	塩害対策区分	該当なし		
	維持管理の制約	なし		
	部材の設計耐久期間	100年		
下部構造条件	鋼桁塗装仕様	C塗装系		
	鉄筋被り	床版：40mm、下部工：80mm（土中、水中）		
	橋梁形式	鋼2径間連続合成少数版桁橋		
	防護欄形式	フロリダ型 SC種		
上部構造条件	使用材料	主要鋼材	SS400、SM400、SM490、SM490Y、SM520、S10T	
		コンクリート	σ ck=40N/mm2（床版） σ ck=30N/mm2（地覆、壁高欄）	
		鉄筋	SD345	
		P C鋼材	1S28. 6 (SWPR19L)	
下部構造条件	架設方法	送出し工法		
	構造形式	逆 T 式橋台 (A1, A2橋台)、柱式橋脚 (P1橋脚)		
	基礎形式	直接基礎 (A1, A2橋台、P1橋脚)		
	使用材料	コンクリート	σ ck=30N/mm2（躯体）	
σ ck=24N/mm2（フーチング）				
σ ck=18N/mm2（均しコンクリート）				
支持層	鉄筋	SD345、SD490		
	中部蝦夷層群（Ymm-m）	N値267		
支承形式	橋軸方向：免震支承	橋軸直角方向：免震支承		
落橋防止システム	落橋防止構造	PCケーブル連結		
		段差防止構造		
維持管理条件	点検方法	上部工検査路、下部工検査路		
		本線から：法面階段 (A1)、桁下から：A1橋脚昇降梯子		
その他検討事項	地震時の点検補修部位	支承部他		
	振動・騒音条件	なし		
適用基準等	道路標示方書・同解説	I ～ V 編（平成29年11月）日本道路協会		
	設計要領第二集（平成28年8月）東日本高速道路株式会社			

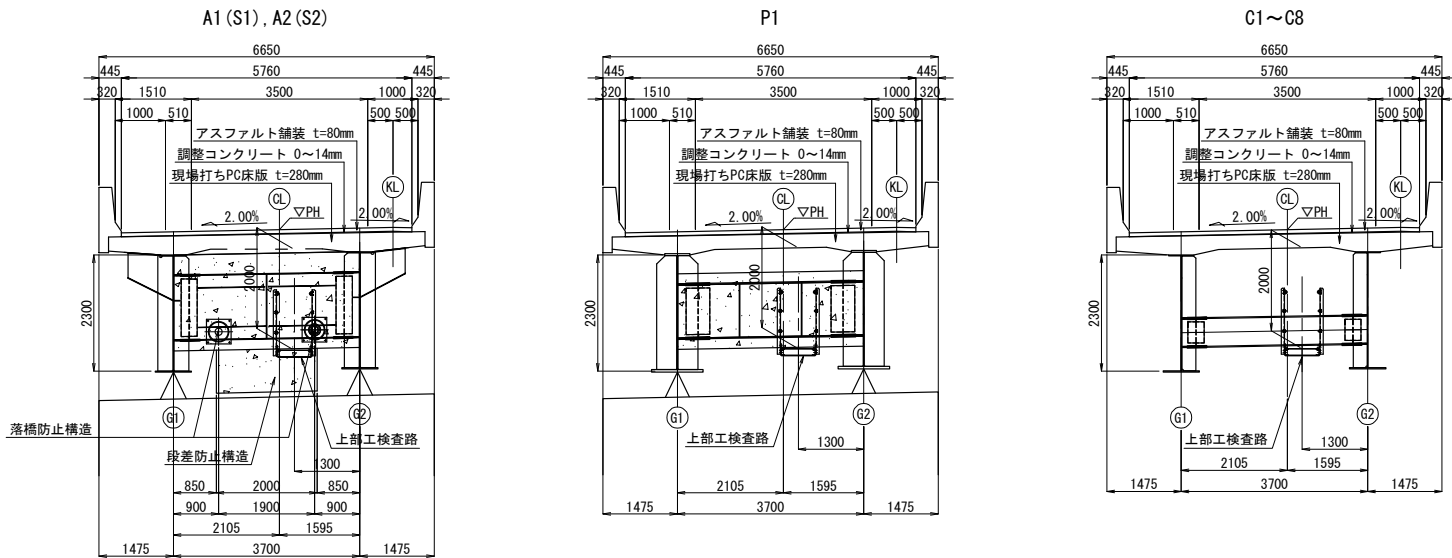
道東自動車道			
本流鵠川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	橋梁一般図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



設計条件

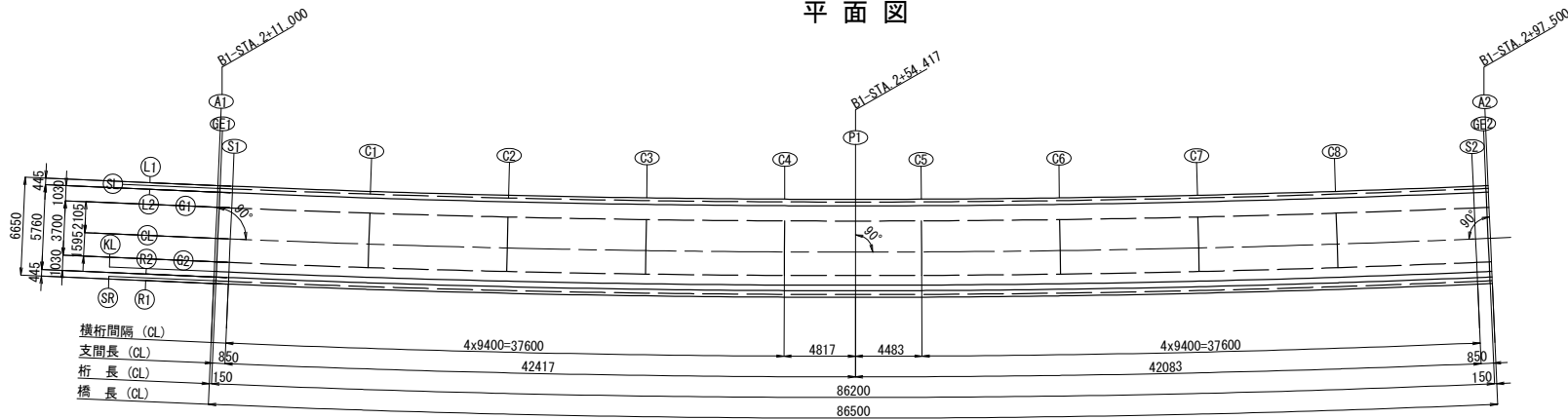
基本条件	路線名	道東自動車道
	橋名	占冠PAランプ橋
	道路規格	A規格
	設計速度	V=40km/h
	橋長	86.500m (CL上)
	桁長	86.200m (CL上)
	支間長	42.417m + 42.083m (CL上)
	全幅員	6.650m
	有効幅員	5.760m
	平面線形	R=1000m
能条件 耐荷性	縦断線形	0.250% ~ 1.851%
	横断線形	2.000% (路肩部: 2.000%)
	斜角	90° 00' 00" (CLに対して)
	床版	場所打ちPC床版 t=280mm
	橋の耐荷性能	橋の耐荷性能 2
	舗装荷重	アスファルト舗装 80mm
	遮音壁荷重	設置しない (設計荷重は両側w=1.45kN/mとして考慮)
	設計活荷重	B活荷重
	橋の重要度区分	B種の橋
	温度変化範囲	-10℃~+50℃ (基準温度20℃) (上部工設計) -40℃~+40℃ (基準温度0℃) (伸縮装置設計)
耐久性 条件	設計供用期間	100年
	防錆防食	普通鋼材+塗装仕様
	橋梁形式	鋼2径間連続合成少数版桁橋
	高欄形式	フロリダ型壁高欄SC種
	使用材料	普通鋼材 SM490Y, SM400, SS400, SM520, SM570, S10T
		コンクリート σ _{ck} =40N/mm ² (場所打ちPC床版)
		σ _{ck} =30N/mm ² (巻き立てコンクリート, 壁高欄)
	鉄筋	SD345
		PC鋼材 SWPR19L 1S28.6
	架設方法	送出し工法
適用基準等	支承形式	免震支承
		道路橋示方書・同解説 I~V編 (平成29年11月) 日本道路協会 設計要領第二集 平成28年8月 東日本高速株式会社

断面図 S=1:150

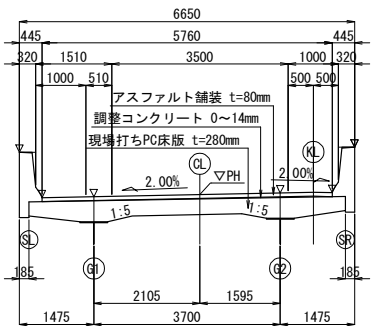


道東自動車道 本流鶴川第一橋 (鋼上部工) 工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 上部工構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

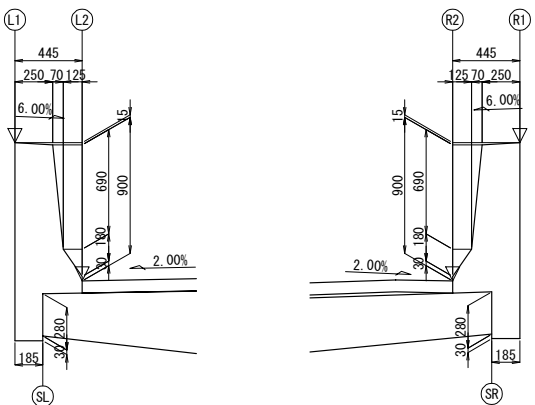
平面図



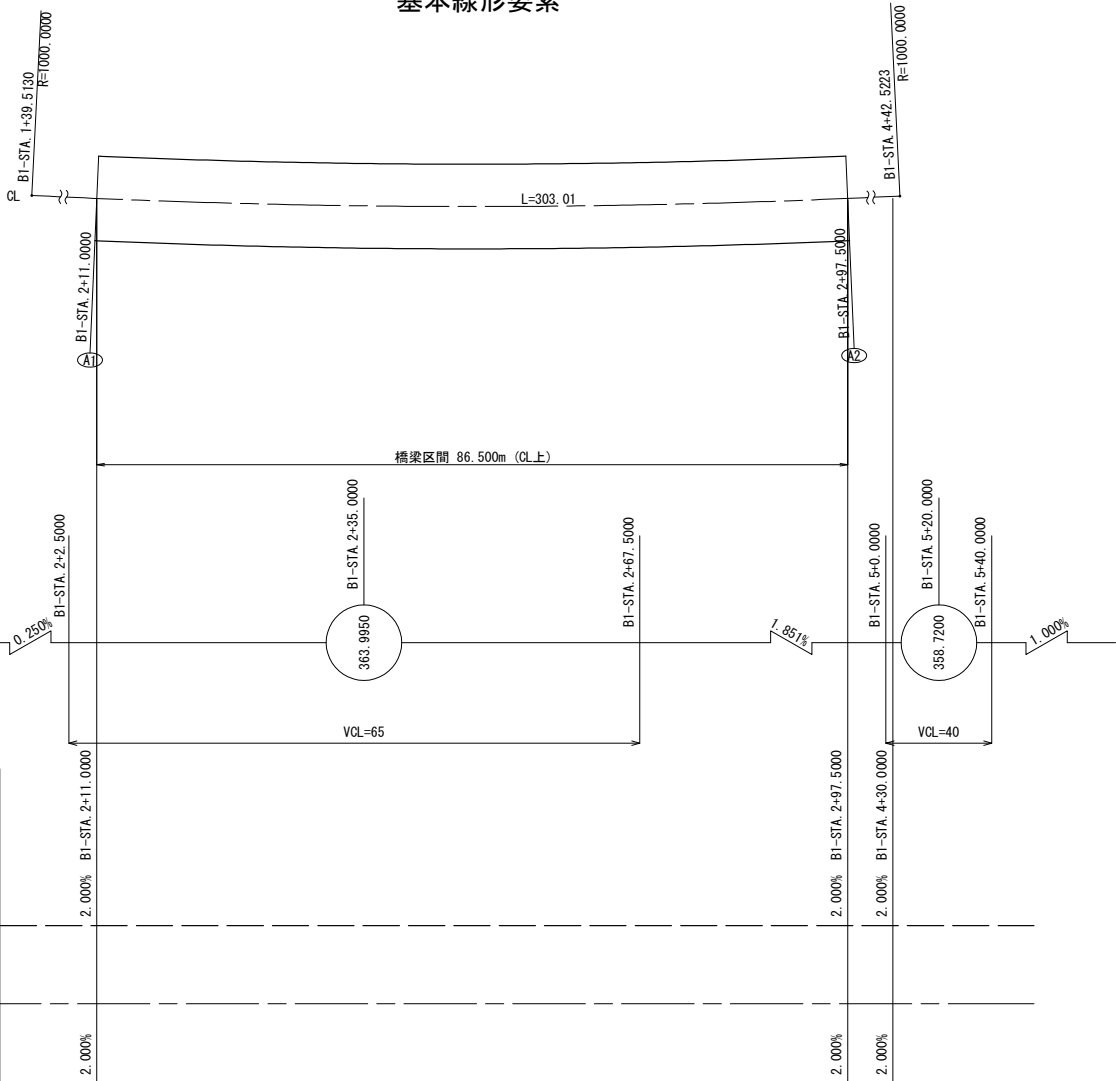
断面図 S=1:150



壁高欄詳細図 S=1:50



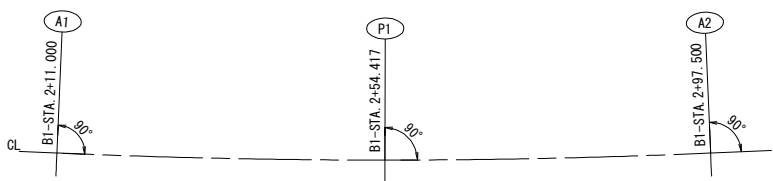
基本線形要素



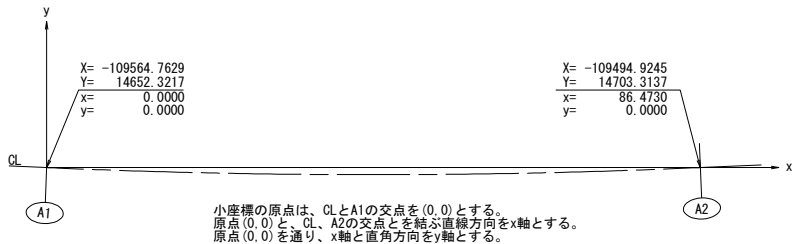
主要点座標値

主要点名	測点	X座標	Y座標	線形要素
EBC 1-1	1+39.513	-109618.980079	14605.752271	R=1000.0000
KA 2-1	4+42.523	-109368.816289	14774.668292	

ピア設定方法



小座標の設定



桁配置要領

- 桁端線、支承線の設定
GE1 : A1からA2に向かって、CLライン上で0.150mの位置でA1に平行とする。
S1 : A1からA2に向かって、CLライン上で1.000mの位置でA1に平行とする。
GE2 : A2からA1に向かって、CLライン上で0.150mの位置でA2に平行とする。
S2 : A2からA1に向かって、CLライン上で1.000mの位置でA2に平行とする。
- 主桁の設定
G1 : CLに平行で離れをL1方向に2.105mとする。
G2 : CLに平行で離れをR1方向に1.595mとする。
- 横桁の設定
C1~C8 : CL上にて平面図に示す間隔でCLの法線方向に配置する。

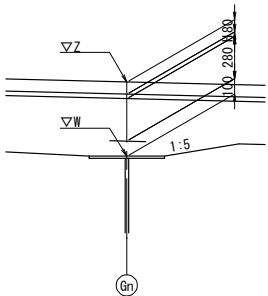
道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	線形図（その1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

小座標および路面高

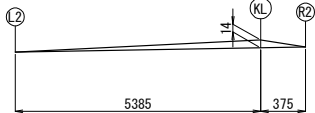
		A1	GE1	S1	C1	C2	C3	C4	P1	O5	C6	C7	C8	S2	GE2	A2
L1	X	0.1548	0.3046	1.1539	10.5100	19.8726	29.2373	38.6032	43.4029	47.8699	57.2358	66.6004	75.9630	85.3192	86.1684	86.3182
	Y	3.5767	3.5702	3.5339	3.1824	2.9188	2.7432	2.6556	2.6449	2.6556	2.7432	2.9188	3.1824	3.5339	3.5702	3.5767
	Z	364.7756	364.7756	364.7752	364.7556	364.7074	364.6306	364.5253	364.4603	364.3930	364.2310	364.0570	363.8830	363.7091	363.6933	363.6905
L2	X	0.1355	0.2854	1.1346	10.4954	19.8622	29.2310	38.6011	43.4030	47.8719	57.2420	66.6109	75.9776	85.3384	86.1876	86.3375
	Y	3.1321	3.1256	3.0893	2.7377	2.4739	2.2983	2.2106	2.1999	2.2106	2.2983	2.4739	2.7377	3.0893	3.1256	3.1321
	Z	363.8606	363.8606	363.8602	363.8406	363.7924	363.7156	363.6103	363.5453	363.4780	363.3160	363.1420	362.9680	362.7941	362.7783	362.7755
G1	X	0.0910	0.2409	1.0901	10.4616	19.8380	29.2166	38.5963	43.4032	47.8767	57.2565	66.6350	76.0115	85.3829	86.2322	86.3820
	Y	2.1030	2.0966	2.0603	1.7082	1.4442	1.2684	1.1807	1.1699	1.1807	1.2684	1.4442	1.7082	2.0603	2.0966	2.1030
	Z	363.8812	363.8812	363.8808	363.8612	363.8130	363.7362	363.6309	363.5659	363.4986	363.3366	363.1626	362.9886	362.8146	362.7989	362.7961
	H	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0027	0.0026	0.0027	0.0027
	W	363.4185	363.4185	363.4181	363.3985	363.3503	363.2735	363.1682	363.1032	363.0359	362.8739	362.6999	362.5259	362.3520	362.3362	362.3334
CL	X	0.0000	0.1499	0.9991	10.3924	19.7887	29.1870	38.5865	43.4035	47.8865	57.2861	66.6844	76.0806	85.4739	86.3232	86.4730
	Y	0.0000	-0.0065	-0.0427	-0.3956	-0.6602	-0.8364	-0.9243	-0.9351	-0.9243	-0.8364	-0.6602	-0.3956	-0.0427	-0.0065	0.0000
	Z	363.9233	363.9233	363.9229	363.9033	363.8551	363.7783	363.6730	363.6080	363.5407	363.3787	363.2047	363.0307	362.8567	362.8410	362.8382
	X	-0.0690	0.0809	0.9301	10.3400	19.7513	29.1646	38.5791	43.4038	47.8939	57.3085	66.7218	76.1330	85.5429	86.3921	86.5420
G2	Y	-1.5935	-1.6000	-1.6362	-1.9898	-2.2548	-2.4313	-2.5193	-2.5301	-2.5193	-2.4313	-2.2548	-1.9898	-1.6362	-1.6000	-1.5935
	Z	363.9552	363.9552	363.9548	363.9352	363.8870	363.8102	363.7049	363.6399	363.5726	363.4106	363.2366	363.0626	362.8886	362.8729	362.8701
	H	0.0123	0.0123	0.0123	0.0123	0.0123	0.0123	0.0124	0.0123	0.0123	0.0124	0.0123	0.0123	0.0123	0.0123	0.0123
	W	363.4829	363.4829	363.4825	363.4629	363.4147	363.3379	363.2326	363.1675	363.1003	362.9382	362.7643	362.5903	362.4163	362.4006	362.3978
KL	X	-0.0973	0.0526	0.9018	10.3185	19.7359	29.1554	38.5761	43.4039	47.8970	57.3177	66.7371	76.1545	85.5712	86.4205	86.5703
	Y	-2.2479	-2.2544	-2.2906	-2.6444	-2.9096	-3.0862	-3.1743	-3.1851	-3.1743	-3.0862	-2.9096	-2.6444	-2.2906	-2.2544	-2.2479
	Z	363.9683	363.9683	363.9679	363.9483	363.9001	363.8233	363.7180	363.6530	363.5857	363.4237	363.2497	363.0757	362.9017	362.8860	362.8832
R2	X	-0.1135	0.0364	0.8856	10.3062	19.7271	29.1501	38.5743	43.4040	47.8987	57.3229	66.7459	76.1668	85.5874	86.4367	86.5865
	Y	-2.6225	-2.6290	-2.6653	-3.0192	-3.2845	-3.4612	-3.5493	-3.5601	-3.5493	-3.4612	-3.2845	-3.0192	-2.6653	-2.6290	-2.6225
	Z	363.9608	363.9608	363.9604	363.9408	363.8926	363.8158	363.7105	363.6455	363.5782	363.4162	363.2422	363.0682	362.8942	362.8785	362.8757
R1	X	-0.1327	0.0171	0.8664	10.2916	19.7167	29.1438	38.5723	43.4040	47.9008	57.3292	66.7564	76.1814	85.6067	86.4559	86.6058
	Y	-3.0671	-3.0736	-3.1099	-3.4640	-3.7294	-3.9061	-3.9943	-4.0051	-3.9943	-3.9061	-3.7294	-3.4640	-3.1099	-3.0736	-3.0671
	Z	364.8758	364.8758	364.8754	364.8558	364.8076	364.7308	364.6255	364.5605	364.4932	364.3312	364.1572	363.9832	363.8092	363.7935	363.7907

X : x座標
Y : y座標
Z : 路面計画高
H : 調整コンクリート厚
W : 上フランジ上面高

ハンチ詳細図 S=1:50

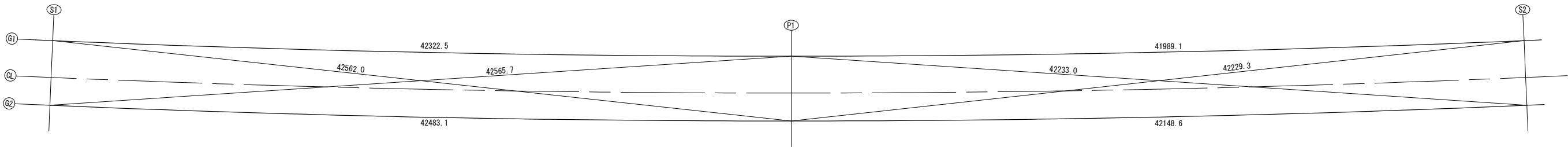


調整コンクリート詳細図 S=1:50



道東自動車道 本流島川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 線形図（その2）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

平面図

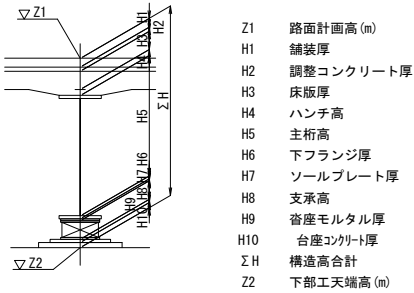


支承位置平面座標

		S1		P1		S2	
		G1	G2	G1	G2	G1	G2
大座標	X	-109562.6676	-109564.9766	-109529.0192	-109531.2006	-109494.5899	-109496.6405
	Y	14651.3006	14654.1917	14676.9711	14679.9597	14701.0069	14704.0867
小座標	x	1.0901	0.9301	43.4032	43.4038	85.3829	85.5429
	y	2.0603	-1.6362	1.1699	-2.5301	2.0603	-1.6362

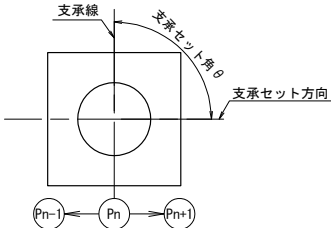
支点上構造高

支点上構造高			A1 (S1)		P1		A2 (S2)	
			G1	G2	G1	G2	G1	G2
路面計画高	Z1	m	363.881	363.955	363.566	363.640	362.815	362.889
舗装厚	H1	mm	80	80	80	80	80	80
調整コンクリート	H2	mm	3	12	3	12	3	12
床版厚	H3	mm	280	280	280	280	280	280
ハンチ高	H4	mm	100	100	100	100	100	100
主桁高	H5	mm	2300	2300	2300	2300	2300	2300
下フランジ厚	H6	mm	22	22	48	50	22	22
ソールプレート厚	H7	mm	40	40	45	45	44	44
支承高	H8	mm	287	287	363	363	287	287
沓座モルタル厚	H9	mm	33	33	30	30	38	38
台座コンクリート厚	H10	mm	180	180	-	-	190	190
構造高合計	ΣH	mm	3325	3334	3247	3258	3344	3353
下部工天端高	Z2	m	360.556	360.621	360.317	360.380	359.471	359.536



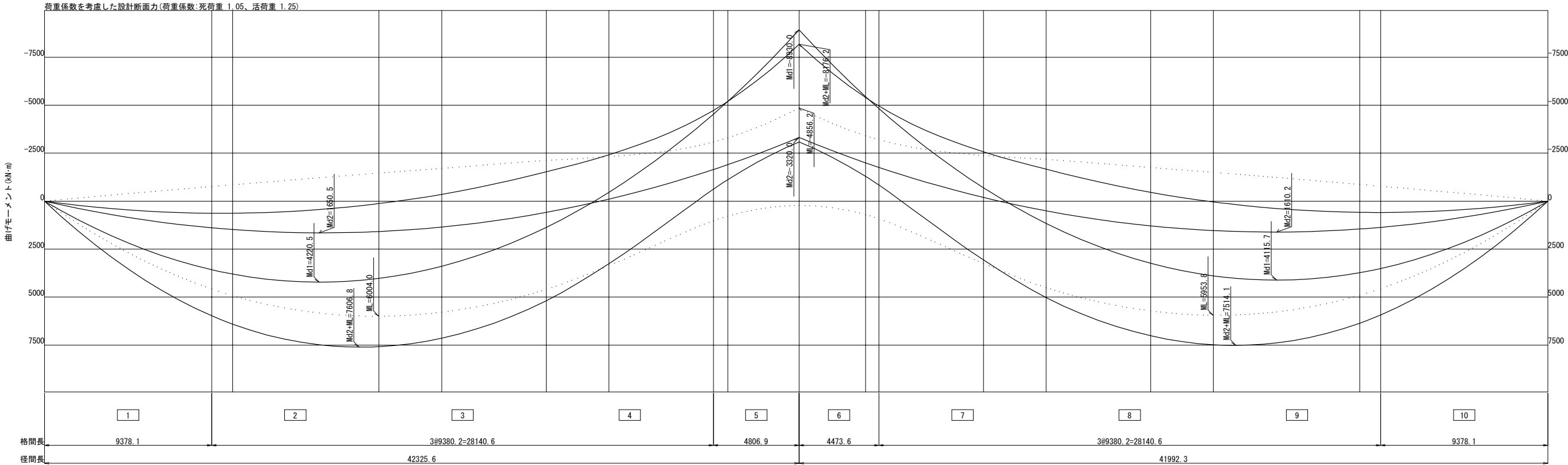
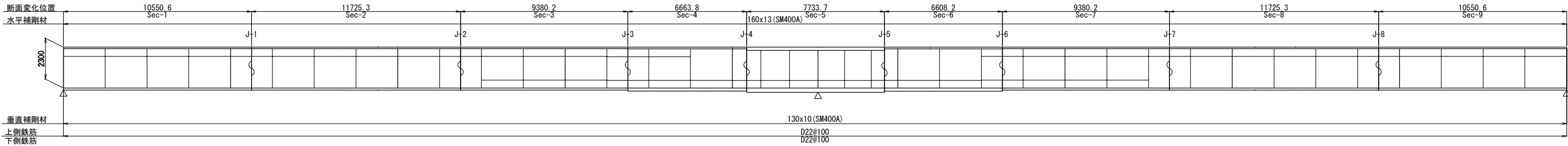
支承セット角

	A1 (S1)	P1	A2 (S2)
G1	89-56-33	90-00-00	90-03-27
G2	89-56-34	90-00-00	90-03-26



道東自動車道 本流島川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 支承配置図		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

合成前死荷重 Md1
合成後死荷重 Md2
活荷重 ML
Md2+ML



		単位: mm N/mm ²								
第1主桁		1	2	3	4	5	6	7	8	9
断面名		Sec-1	Sec-2	Sec-3	Sec-4	Sec-5	Sec-6	Sec-7	Sec-8	Sec-9
上フランジ	幅	500	500	500	500	500	500	500	500	500
	厚	16(3)	16(3)	16(3)	19(3)	37(3)	19(3)	16(3)	16(3)	16(3)
腹板	高さ	2284	2284	2284	2281	2263	2281	2284	2284	2284
	厚	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	14(3)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)
下フランジ	幅	700	700	700	700	700	700	700	700	700
	厚	22(3)	22(3)	22(3)	33(3)	48(7)	35(3)	22(3)	22(3)	22(3)
上フランジ	σ _d	-249	-264	-221	220	264	229	-214	-259	-246
	σ _{ud}	272	272	272	272	272	272	272	272	272
	σ _{ud} -σ _d	22	8	51	51	8	43	58	13	25
下フランジ	応力ケース	2:鋼+鉄筋	2:鋼+鉄筋	2:鋼+鉄筋	14:鋼+鉄筋	14:鋼+鉄筋	14:鋼+鉄筋	2:鋼+鉄筋	2:鋼+鉄筋	2:鋼+鉄筋
	σ _d	214	244	215	-206	-244	-207	-134	239	212
	σ _{ud}	272	272	272	214	253	214	167	272	272
腹板	σ _{ud} -σ _d	57	28	57	8	9	7	33	32	60
	応力ケース	5:合成	5:合成	5:合成	6:鋼+鉄筋	6:鋼+鉄筋	6:鋼+鉄筋	6:鋼+鉄筋	5:合成	5:合成
	σ _d	51	-25	-48	-62	-73	63	49	25	-51
決定要因	σ _{ud}	157	157	157	157	157	157	157	157	157
	合成	0.69	0.76	0.54	0.75	1.05	0.80	0.51	0.73	0.67
	上フランジ	D	D	D	E	A	E	D	D	D
腹板	下フランジ	D	D	D	B	B	B	D	D	D
	腹板	c	c	c	b	b	b	c	c	c

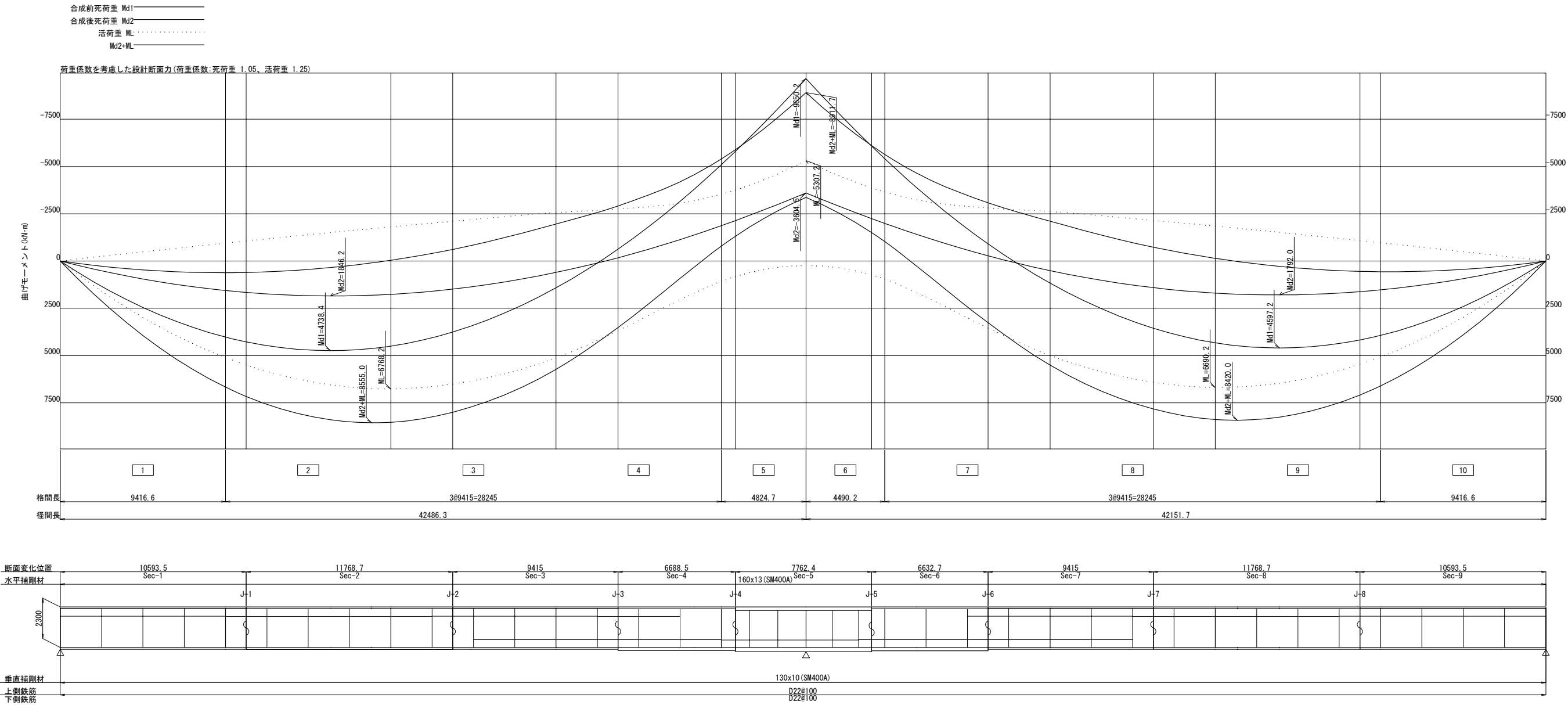
材質 (1): SM400 (5): SM400-H
(2): SM490 (6): SM490-H
(3): SM490Y (7): SM520-H
(4): SM570 (8): SM570-H
(9): SBHS400
(10): SBHS500

応力ケース: 以下の番号と抵抗断面で表示
1: D1 [①] (合成前死荷重)
2: D+TF+CR+SH [①]
3: D+TF+CR+SH [②]
4: D+Lmax+TF+CR+SH [②]
5: D+Lmax+TF+CR+SH [③]
6: D+Lmin+TF+CR+SH [③]
7: D+Lmin+TF+CR+SH [④]
[] : 道示 I 表-3.3.1 作用の組合せ番号

抵抗断面 鋼桁: 鋼桁のみ (合成前)
鋼+鉄筋: 鋼桁+鉄筋 (合成後)
合成: 鋼桁+コンクリート床版 (合成後)

決定要因 A: 引張応力度
B: 圧縮応力度
C: 孔引応力度
D: フランジ自由突出
E: フランジ板厚差
a: 最低板厚
b: 合成応力度
c: 補剛材間隔照査

道東自動車道			
本流鶴川第一橋 (鋼上部工) 工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 断面構成図 (その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



第 2主桁		単位 : mm N/mm ²									
		2	3	4	5	6	7	8	9		
断面名		Sec-1	Sec-2	Sec-3	Sec-4	Sec-5	Sec-6	Sec-7	Sec-8	Sec-9	
上フランジ	幅	500	500	500	500	500	500	500	500	500	
	厚	17(3)	19(3)	16(3)	20(3)	40(3)	20(3)	16(3)	18(3)	16(3)	
	高さ	2283	2281	2284	2280	2260	2280	2284	2282	2284	
腹板	厚	13(3)	13(3)	13(3)	14(3)	14(3)	14(3)	13(3)	13(3)	13(3)	
	幅	700	700	700	700	700	700	700	700	700	
	厚	22(3)	23(3)	22(3)	37(3)	50(7)	39(3)	22(3)	22(3)	22(3)	
下フランジ	σ _d	-262	-264	-247	233	266	242	-235	-265	-264	
	σ _{ud}	272	272	272	272	272	272	272	272	272	
	σ _{ud} -σ _d	9	7	24	38	5	29	36	6	8	
上フランジ	応力ケース	2:鋼+鉄筋	2:鋼+鉄筋	26:鋼+鉄筋	14:鋼+鉄筋	14:鋼+鉄筋	14:鋼+鉄筋	26:鋼+鉄筋	2:鋼+鉄筋	2:鋼+鉄筋	
	σ _d	239	263	239	-207	-247	-208	-151	265	236	
	σ _{ud}	272	272	272	213	253	213	167	272	272	
下フランジ	σ _{ud} -σ _d	32	9	33	6	6	5	16	7	36	
	応力ケース	5:合成	5:合成	5:合成	6:鋼+鉄筋	6:鋼+鉄筋	6:鋼+鉄筋	6:鋼+鉄筋	5:合成	5:合成	
	σ _d	55	-28	-53	-65	-75	65	54	29	-55	
腹板	σ _{ud}	157	157	157	157	157	157	157	157	157	
	合成	0.76	0.77	0.67	0.84	1.08	0.89	0.61	0.77	0.76	
決定要因	上フランジ	B	B	D	E	A	E	D	B	D	
	下フランジ	D	A	D	B	B	B	D	D	D	
	腹板	c	c	c	b	b	b	c	c	c	

材質 (1): SM400 , (5): SM400-H
(2): SM490 , (6): SM490-H
(3): SM490Y , (7): SM520-H
(4): SM570 , (8): SM570-H
(9): SBHS400
(10): SBHS500

応力ケース: 以下の番号と抵抗断面で表示

1: D1〔①〕 (合成前死荷重)
2: D+TF+CR+SH〔①〕
3: D-TF+CR+SH〔 〃 〕
4: D+Lmax+TF+CR+SH〔②〕
5: D+Lmax-TF+CR+SH〔 〃 〕
6: D+Lmin+TF+CR+SH〔 〃 〕
7: D+Lmin-TF+CR+SH〔 〃 〕

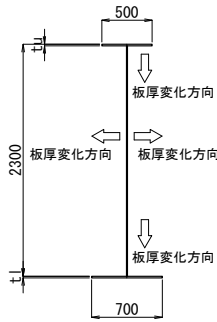
〔 〕: 道示 I 表-3.3.1 作用の組合せ番号

抵抗断面 鋼桁: 鋼桁のみ (合成前)
鋼+鉄筋: 鋼桁+鉄筋 (合成後)
合成: 鋼桁+コンクリート床版 (合成後)

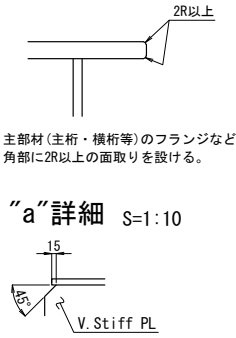
決定要因 A: 引張応力度
B: 圧縮応力度
C: 孔引応力度
D: フランジ自由突出
E: フランジ板厚差
a: 最低板厚
b: 合成応力度
c: 補剛材間隔照査

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋			
断面構成図（その2）			
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

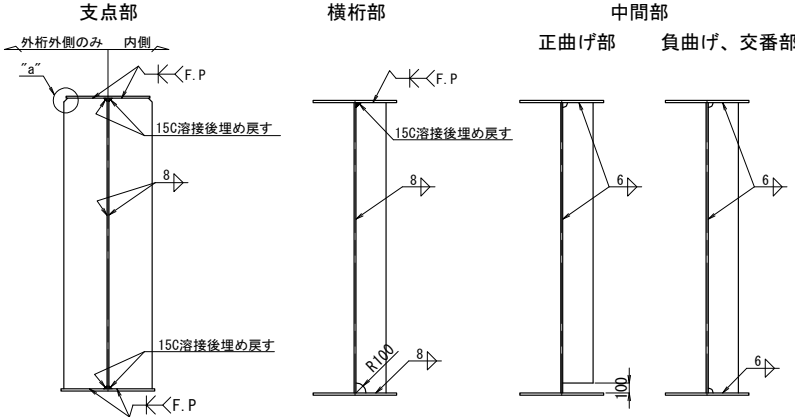
主桁基本図 S=1:75



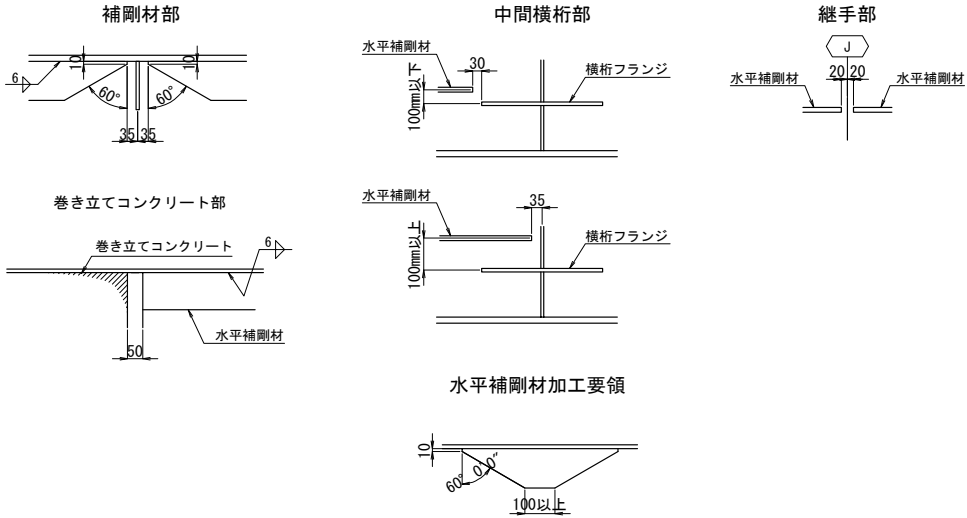
面取り詳細図 S=1:75



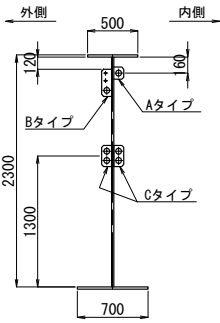
垂直補剛材詳細 S=1:75



水平補剛材詳細

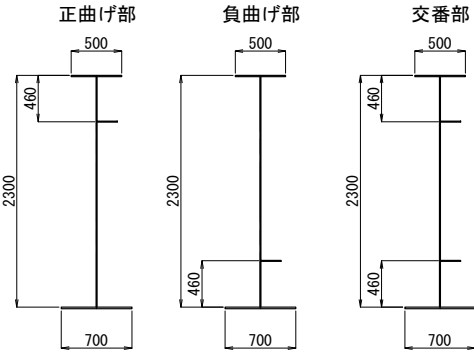


足場用吊金具取付位置図 S=1:75

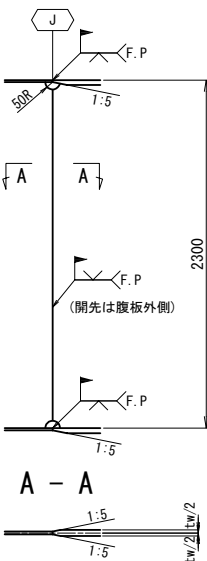


※ 吊金具間隔は下記の記載通り取り付けのこと。
Aタイプ 1.800m以下
Bタイプ 0.900m以下
Cタイプ 0.900m以下

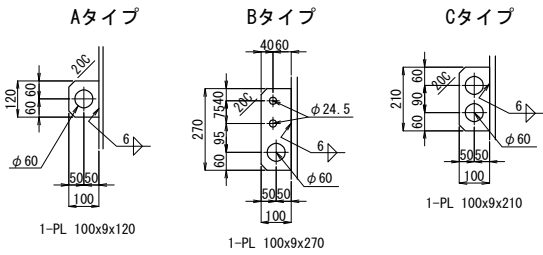
水平補剛材設置位置 S=1:75



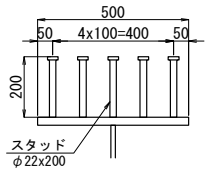
主桁現場溶接部詳細 S=1:75



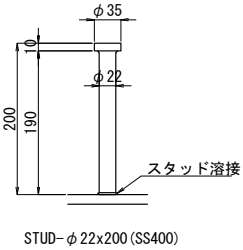
足場用吊金具詳細



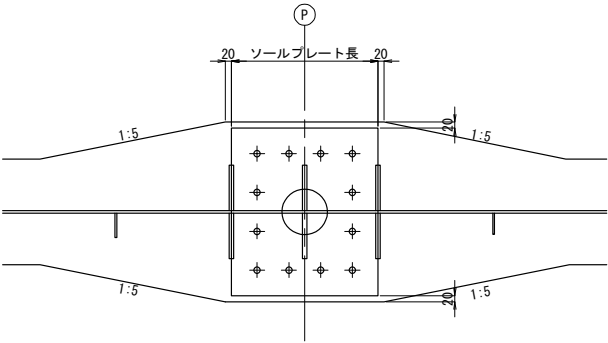
スタッド配置詳細



スタッドジベル詳細 S=1:10

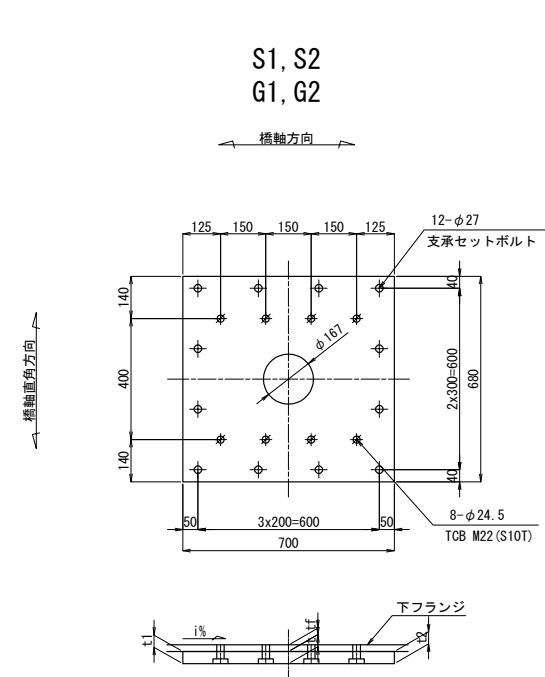


下フランジ拡幅要領

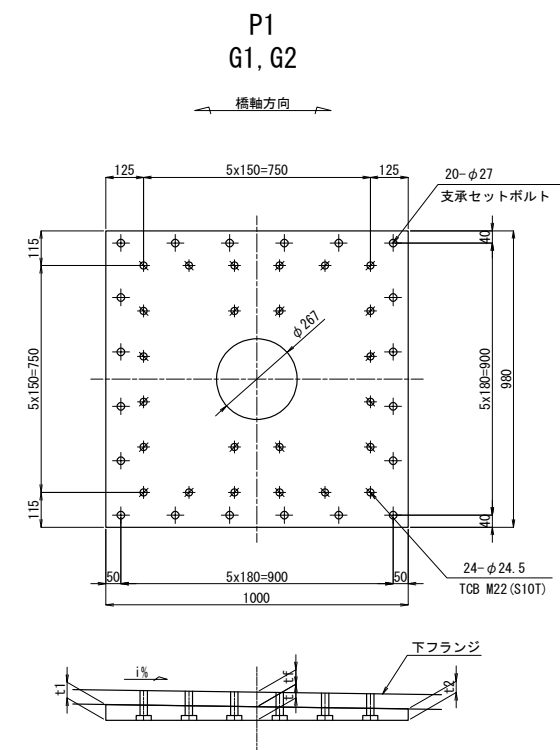


注記
1. 特記なき材質は全て、SM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て、50Rとする。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 共通詳細図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



主桁下フランジ厚…tf
1-SOLE PL 680xTx700 (SM490C)
G1, G2
2-TCB M22xLL1 (S10T)
2-TCB M22xLL2 (S10T)
2-TCB M22xLL3 (S10T)
2-TCB M22xLL4 (S10T)

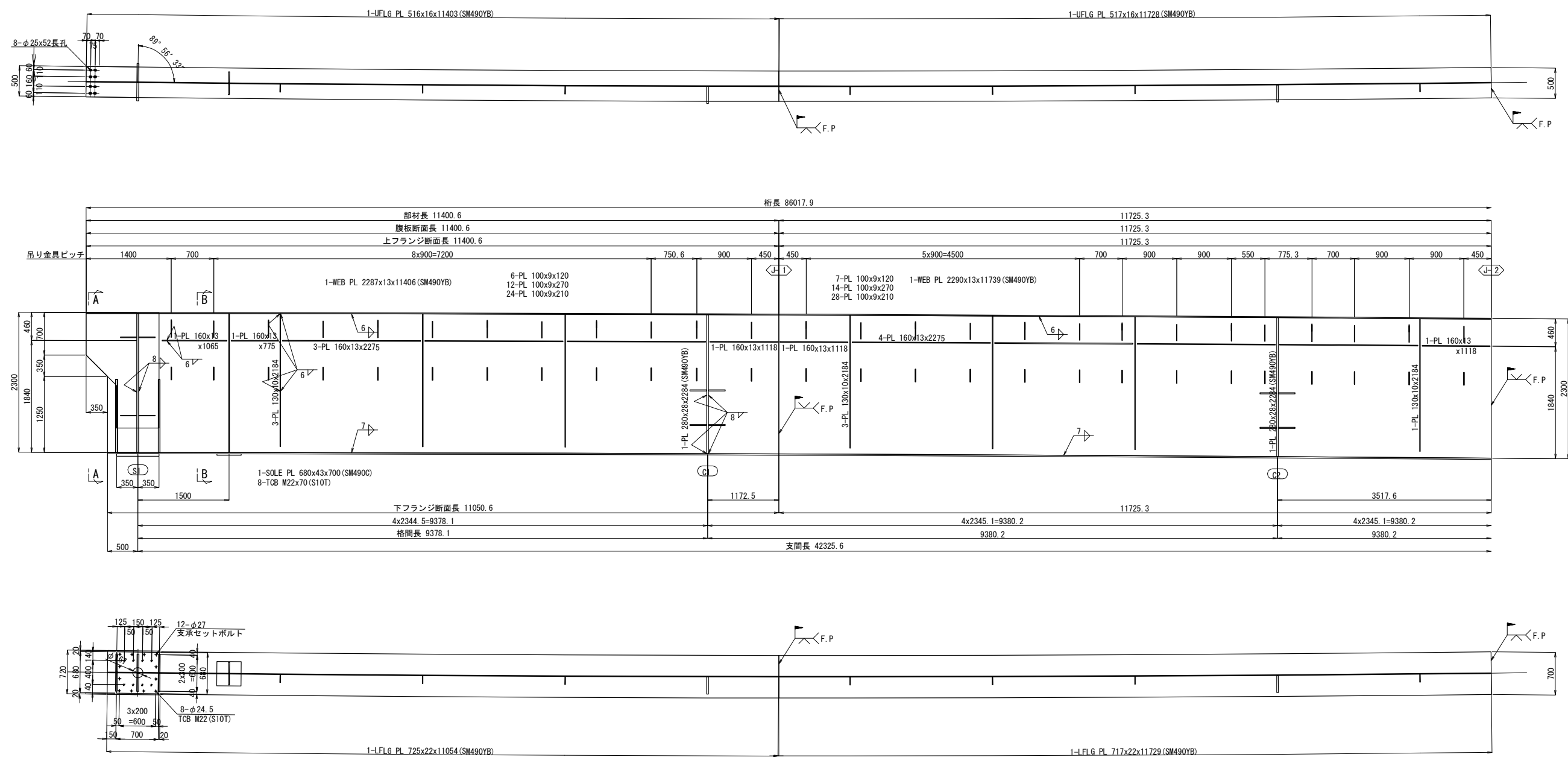


主桁下フランジ厚…tf
1-SOLE PL 980xTx1000 (SM490C)
G1, G2
6-TCB M22xLL1 (S10T)
2-TCB M22xLL2 (S10T)
4-TCB M22xLL3 (S10T)
4-TCB M22xLL4 (S10T)
2-TCB M22xLL5 (S10T)
6-TCB M22xLL6 (S10T)

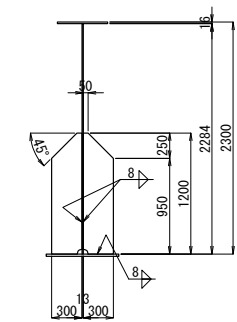
		勾配	中心厚	左厚	右厚	材料厚	下フランジ厚	ボルト長					
		i	t	t1	t2	T	tf	LL1	LL2	LL3	LL4	LL5	LL6
S1	G1	0.043	40	40.2	39.8	43	22	70	70	70	70	-	-
	G2	0.043	40	40.2	39.8	43	22	70	70	70	70	-	-
P1	G1	1.429	45	52.1	37.9	55	48	105	105	100	100	95	95
	G2	1.423	45	52.1	37.9	55	50	110	105	105	100	100	95
S2	G1	1.855	44	50.5	37.5	53	22	80	75	70	70	-	-
	G2	1.848	44	50.5	37.5	53	22	80	75	70	70	-	-

注記
1. 特記なき材質は全て、SM400Aとする。
2. 印部材は主桁取り付けボルトを示す。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠P Aランプ橋 共通詳細図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

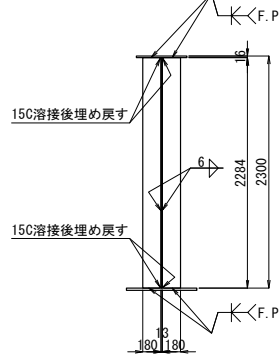


A - A



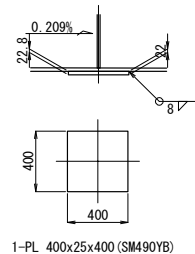
4-PL 300x30x1200 (SM490YB)

B - B



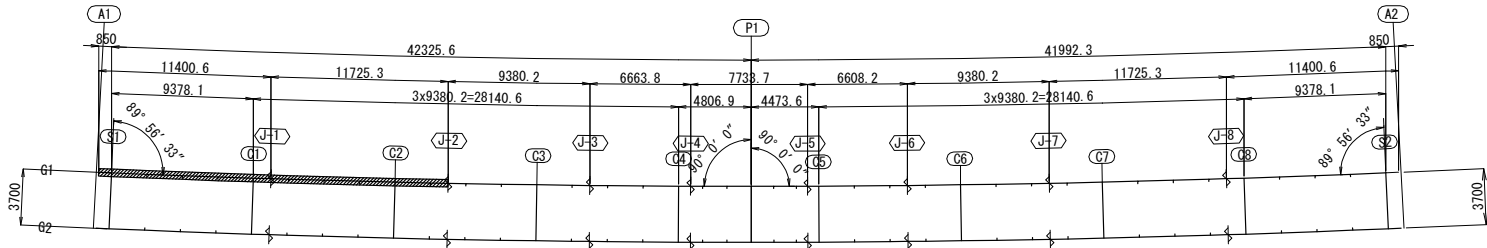
2-PL 180x18x2284 (SM490YB)

ジャッキアップベース詳細 S=1:50



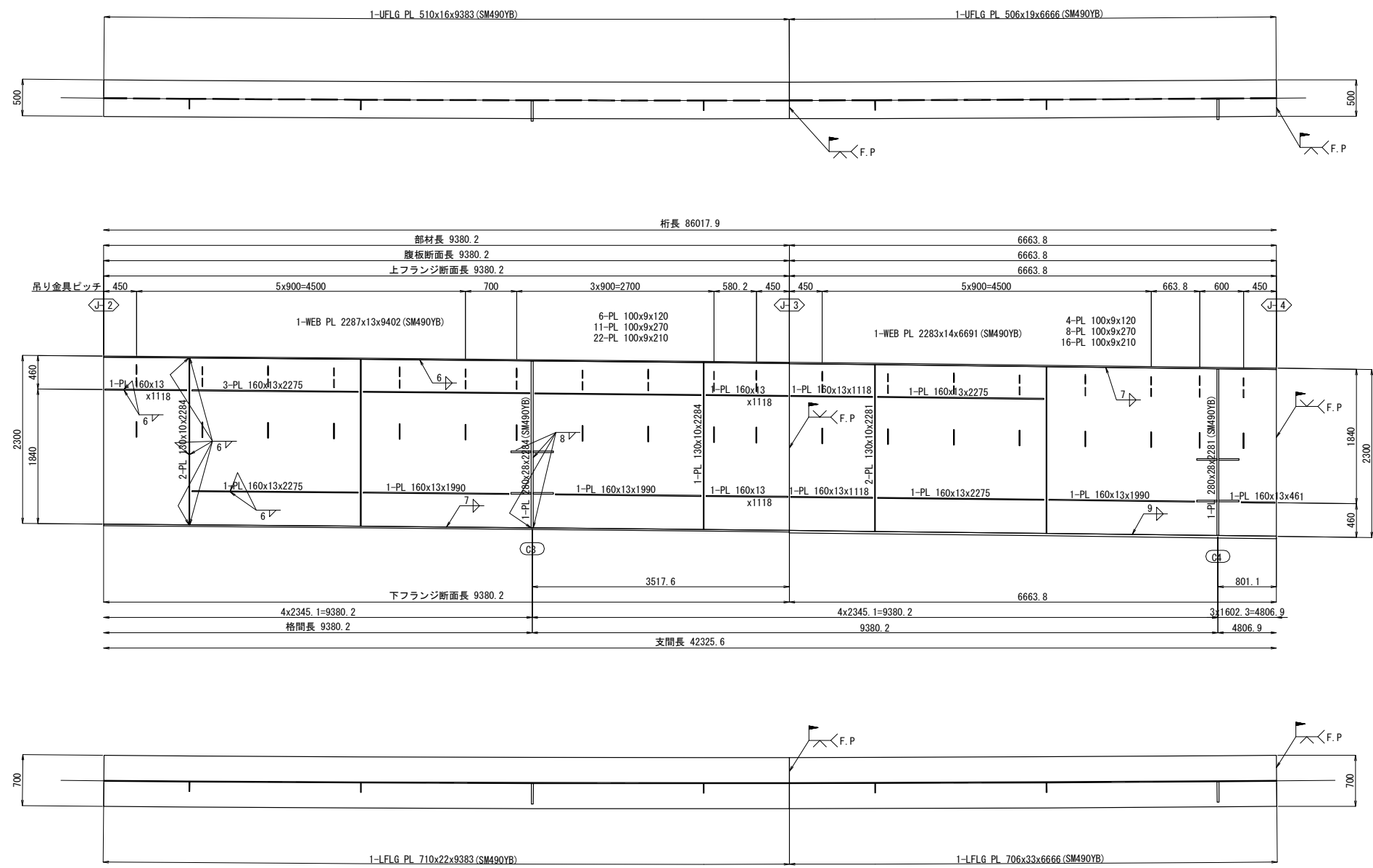
1-PL 400x25x400 (SM490YB)

配置図 S=1:500

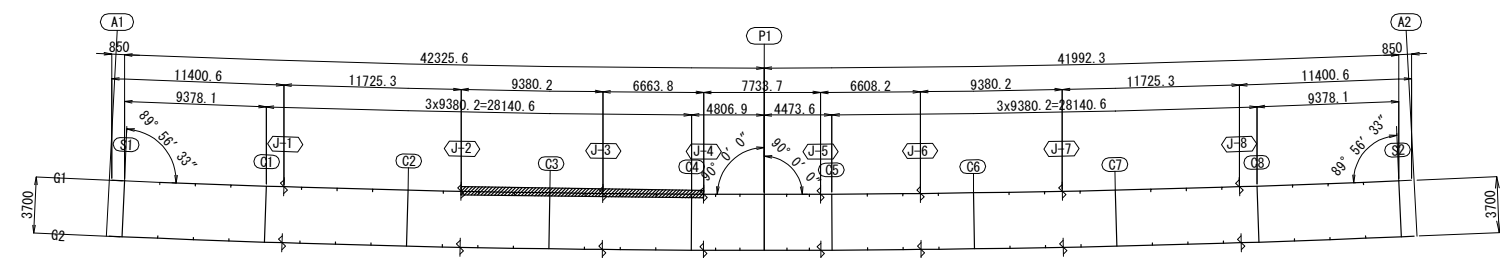


注記
1. 特記なき材質は全て、SM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て、50Rとする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 主桁G1（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



配置図 S=1:500

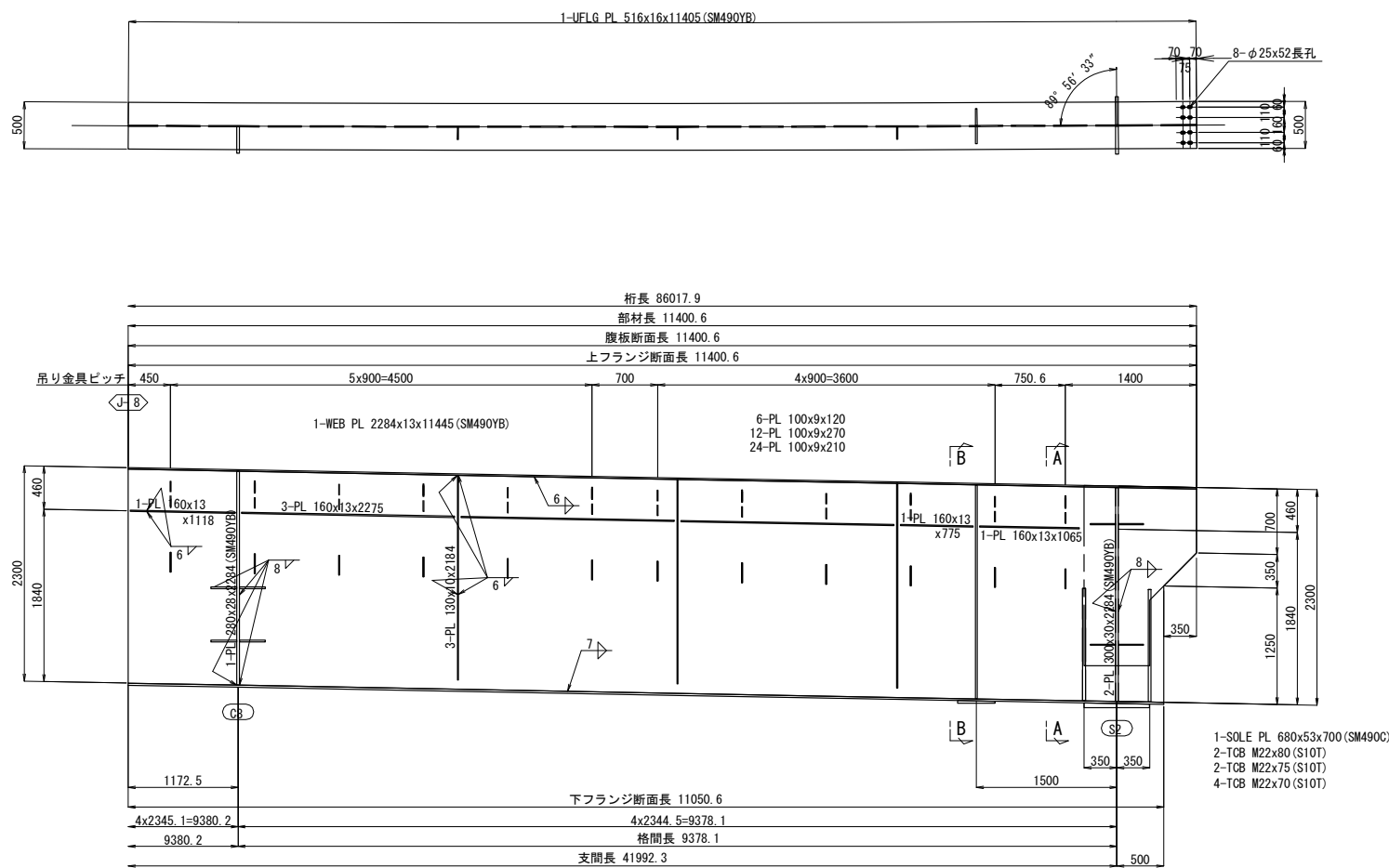
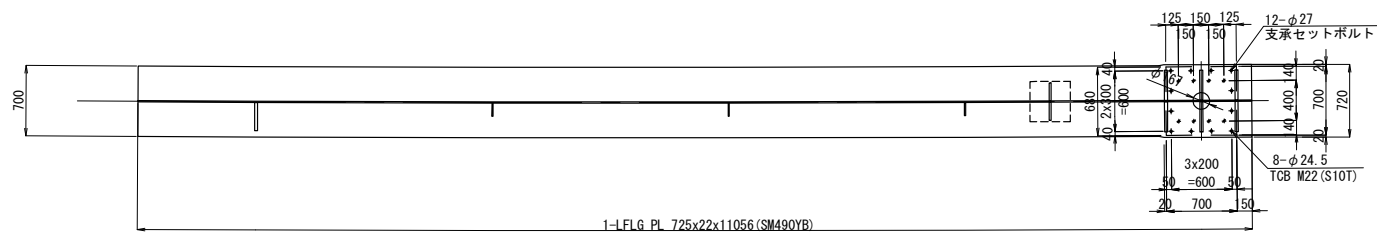


注記

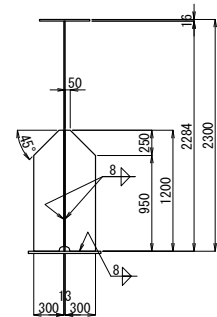
1. 特記なき材質は全て、SM400Aとする。

2. 特記なきスカーラップは全て、50Rとする。

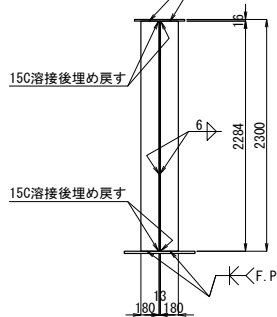
道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 主桁G1（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



A - A

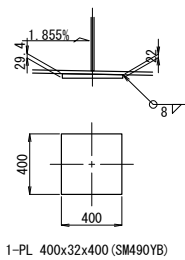


B - B

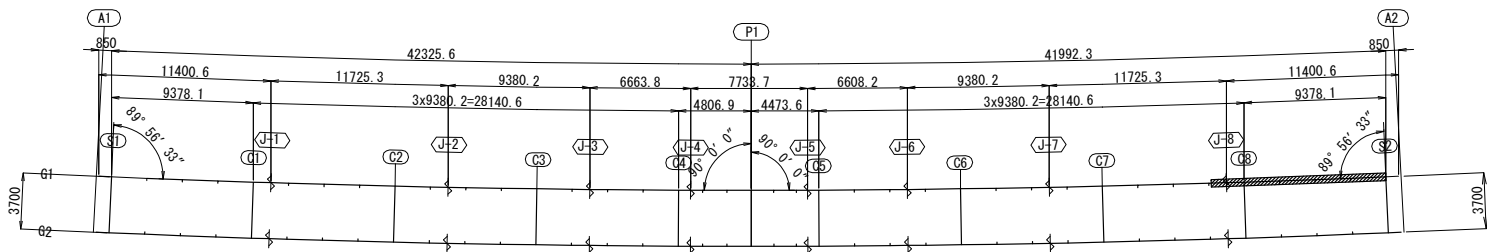


ジャッキアップベース詳細

S=1:50

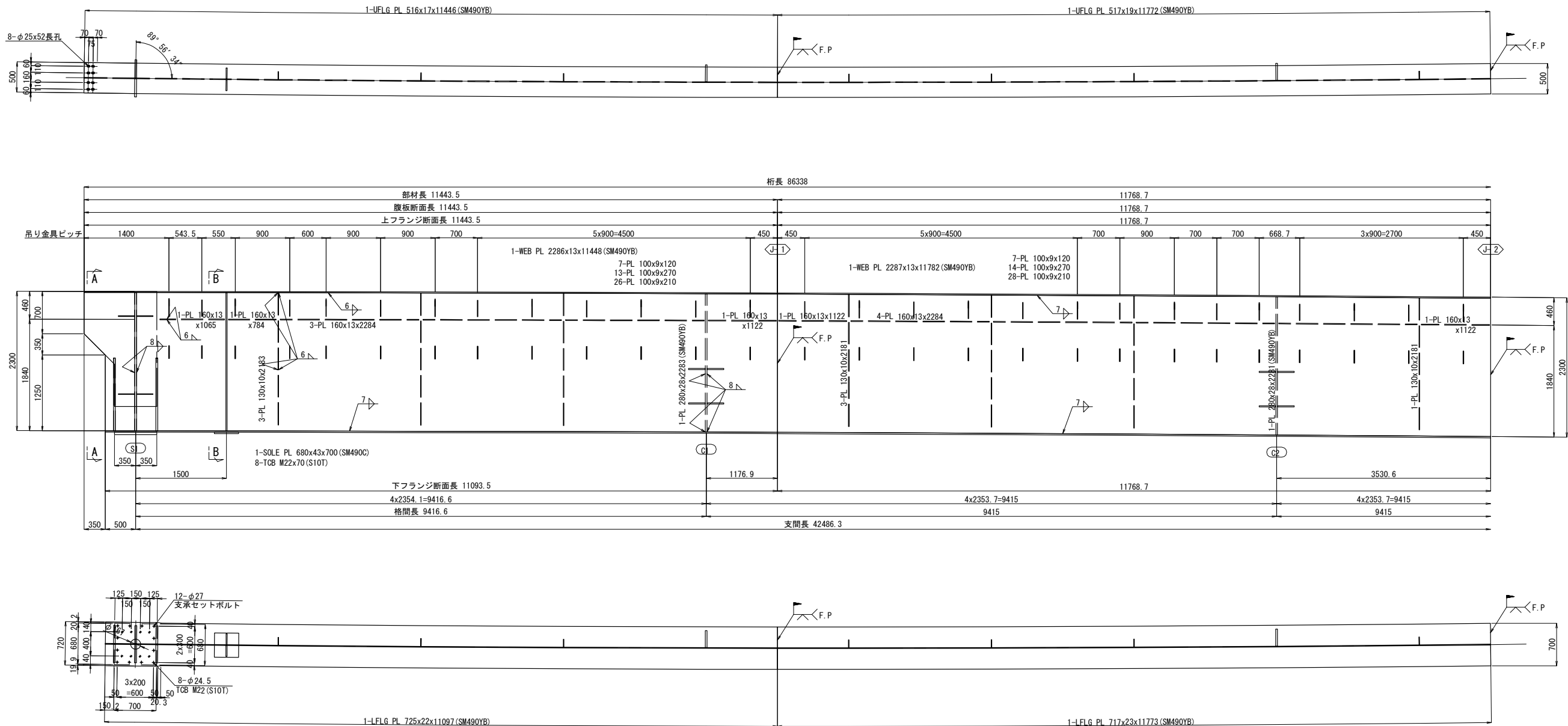


配置図 S=1:500

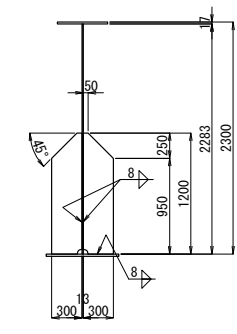


注記
1. 特記なき材質は全て、SM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て、50Rとする。

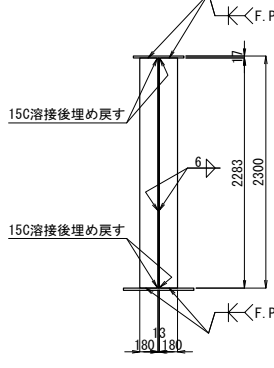
道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	主桁G1（その5）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
	帯広工事事務所		



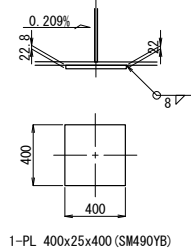
A - A



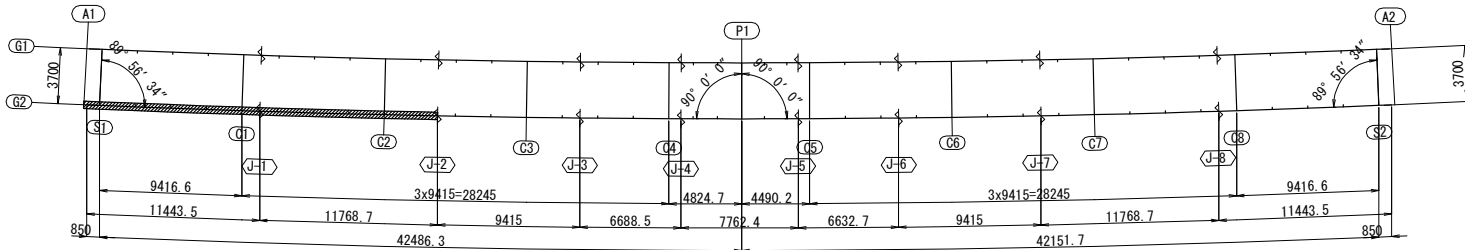
B - B



ジャッキアップベース詳細 S=1:50



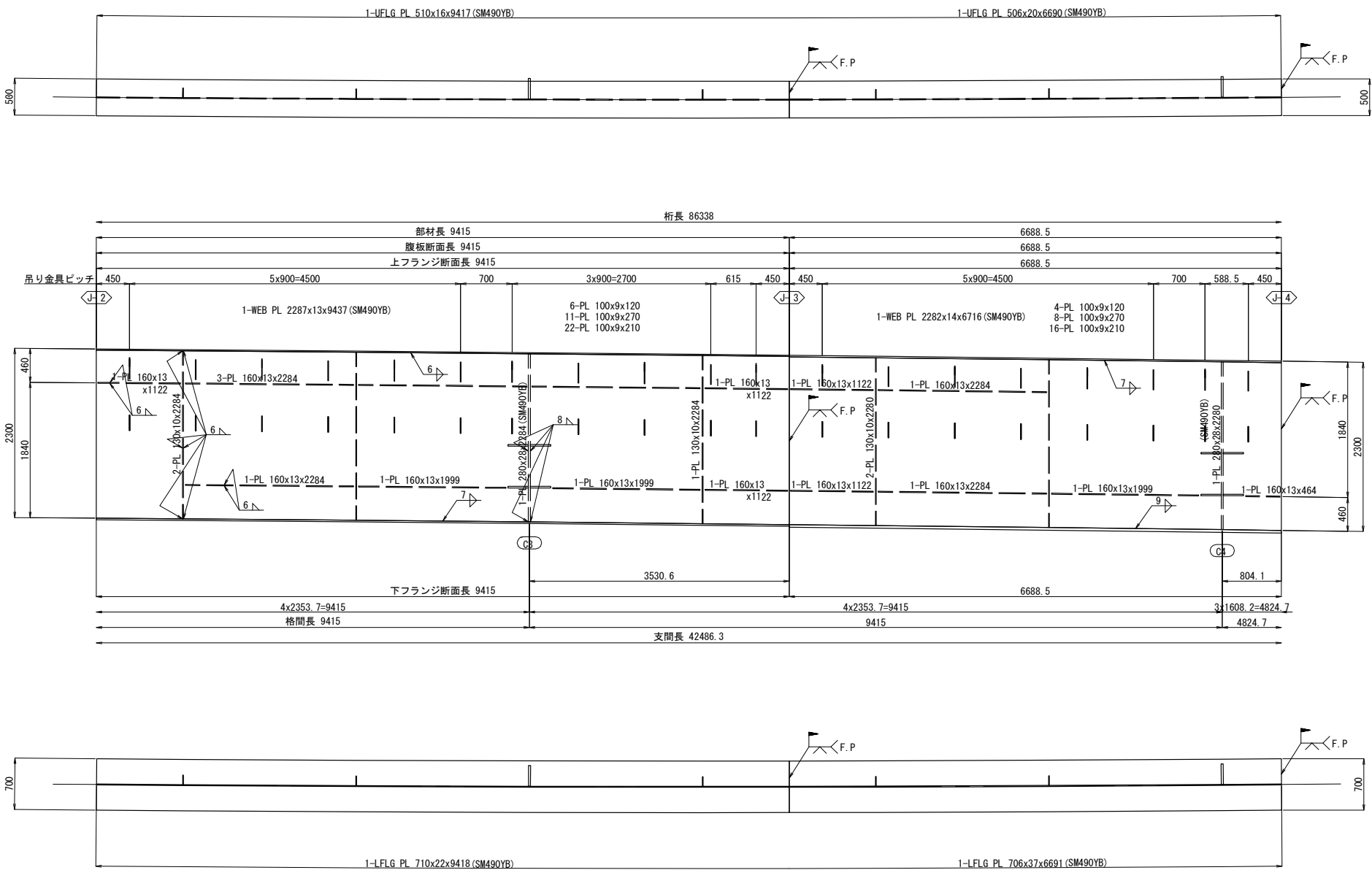
配置図 S=1:500



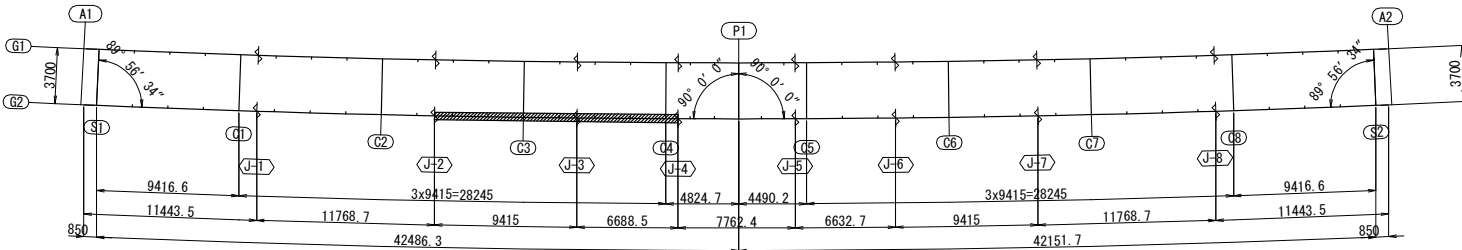
道東自動車道
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事

占冠PAランプ橋
主桁G2（その1）

図面の種類	縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社	日本橋造橋梁研究所		
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社			帯広工事事務所

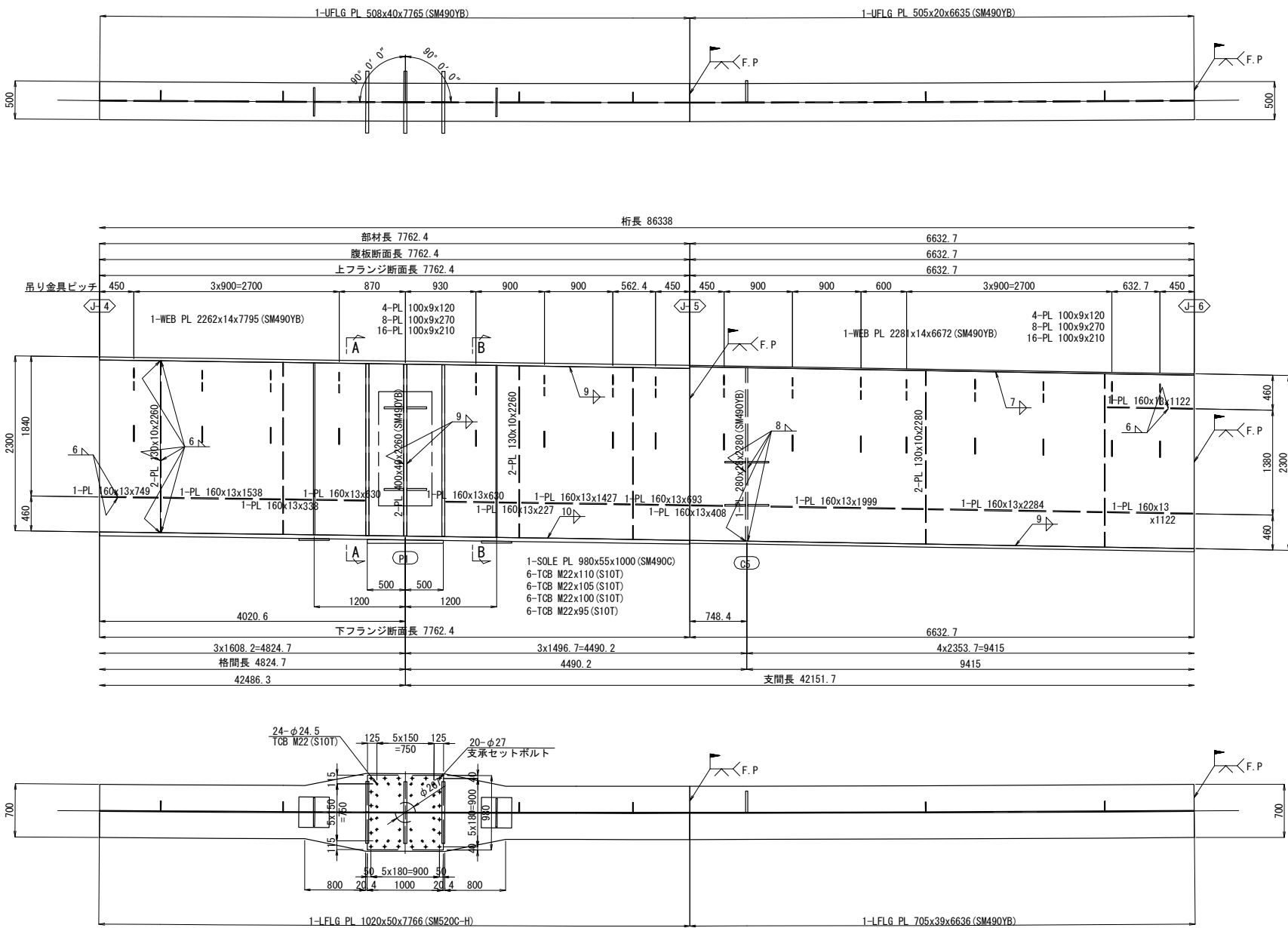
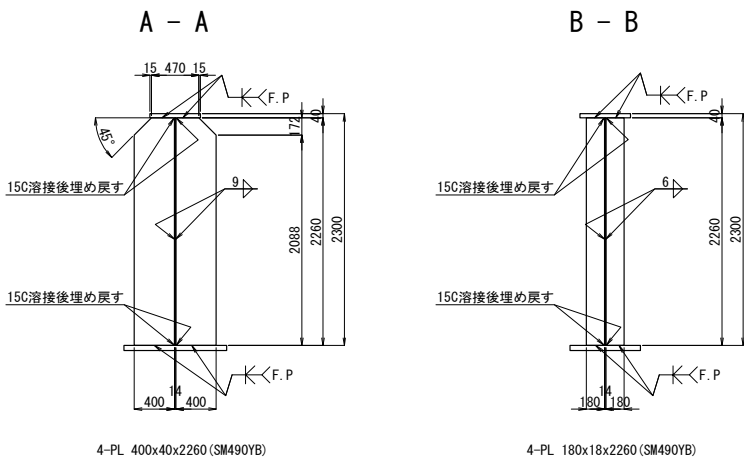


配置図 S=1:500

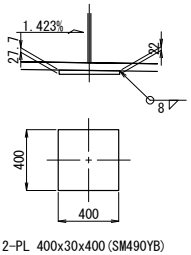


注記
1. 特記なき材質は全て、SM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て、50Rとする。

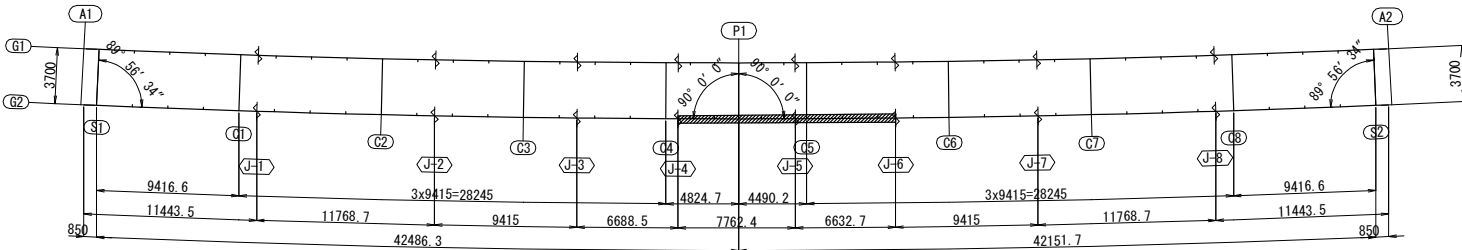
道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 主桁G2（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



ジャッキアップベース詳細 S=1:50

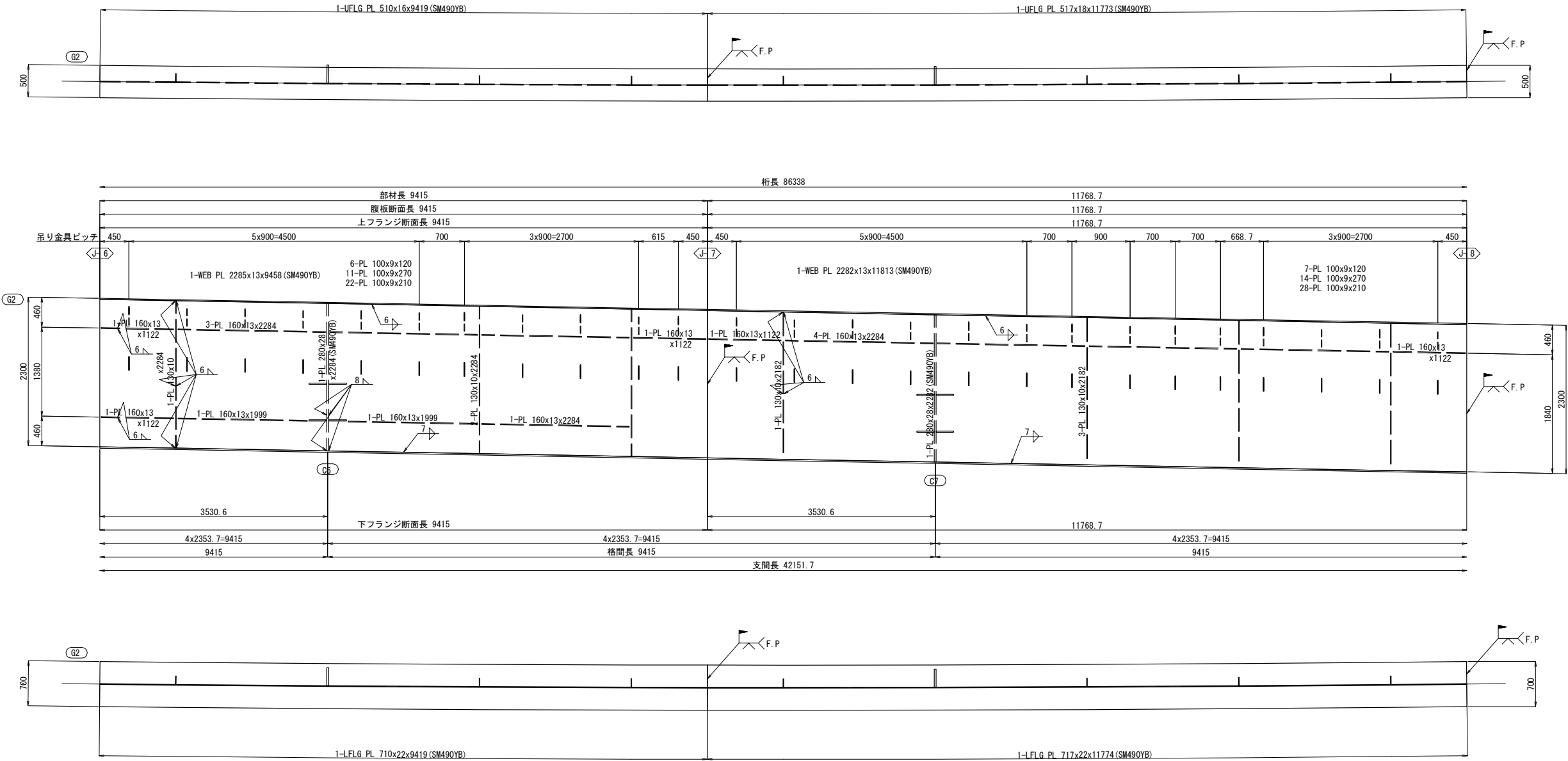


配置図 S=1:500

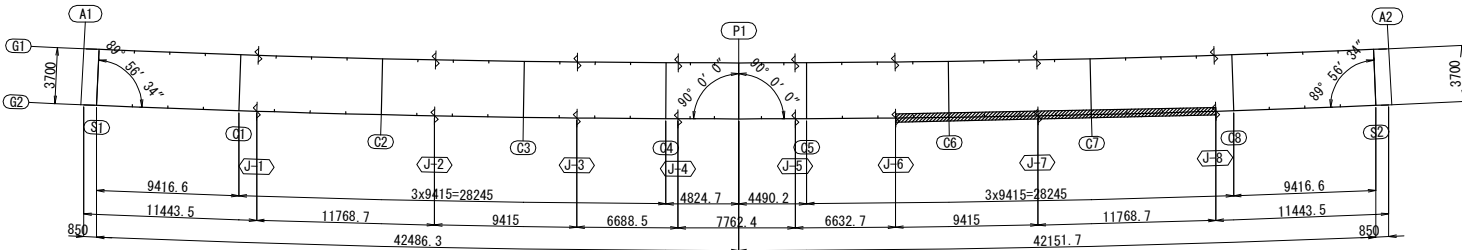


- 注記
1. 特記なき材質は全て、SM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て、50Rとする。

図面の種類	道東自動車道		
	本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事		
	占冠PAランプ橋		
縮尺	主桁G2（その3）		
	図示	図面番号	-
	設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所	
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
	帯広工事事務所		



配置図 S=1:500



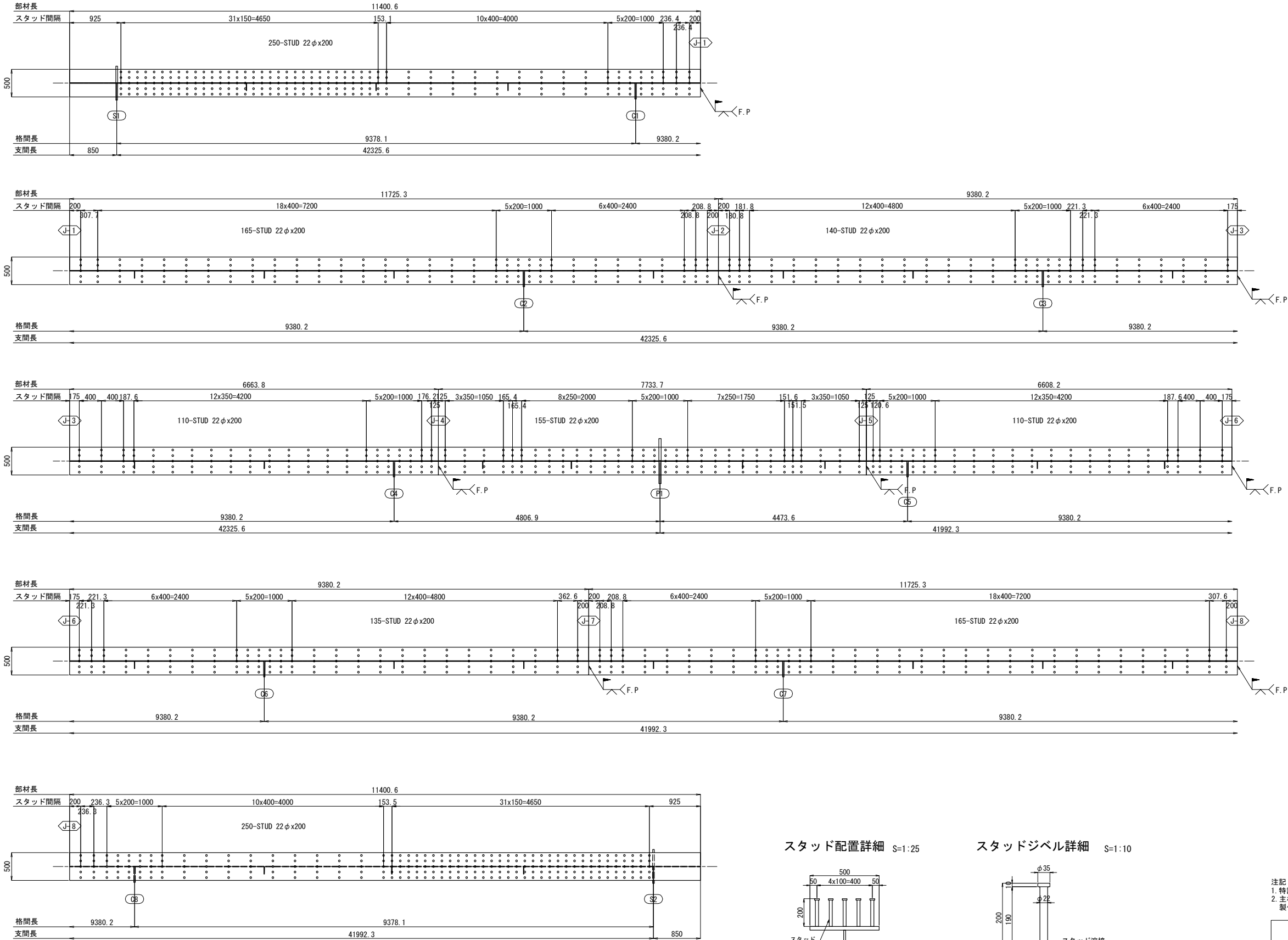
注記

1. 特記なき材質は全て、SM400Aとする。

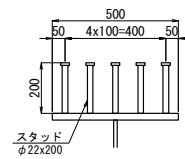
2. 特記なきスカーラップは全て、50Rとする。

道東自動車道				
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事				
図面の種類		占冠PAランプ橋 主桁G2（その4）		
縮尺	図示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社	日本構造橋梁研究所		
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

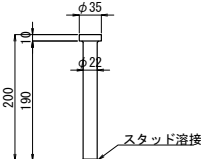
G1



スタッド配置詳細 S=1:25



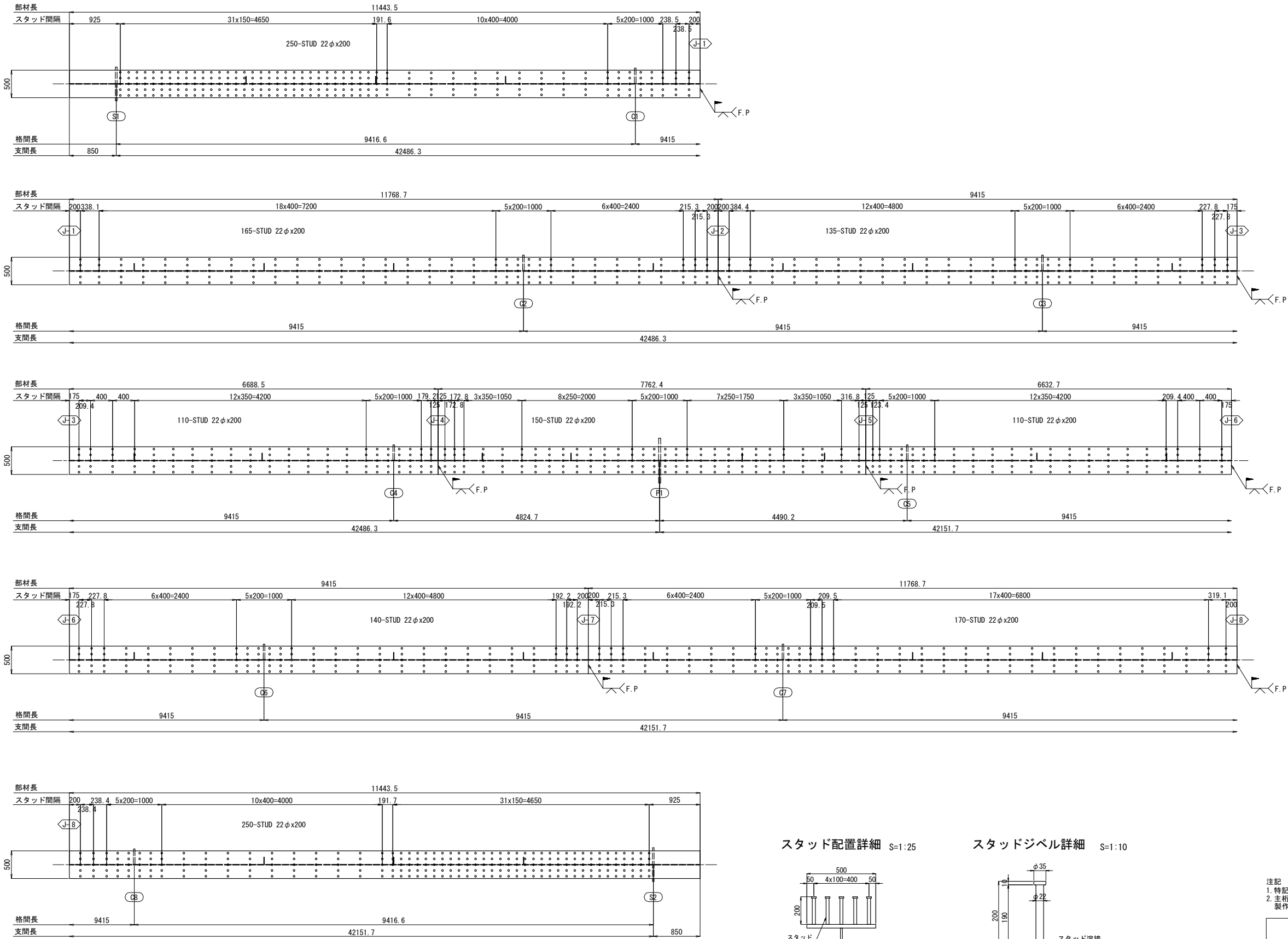
スタッドジベル詳細 S=1:10



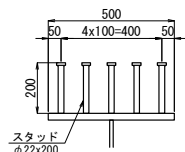
注記
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 主桁上フランジ現場溶接付近のスタッド溶接は、製作時に位置を調整したうえで溶接とする。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 スタッドジベル配置図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

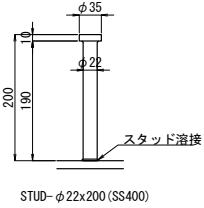
G2



スタッド配置詳細 S=1:25



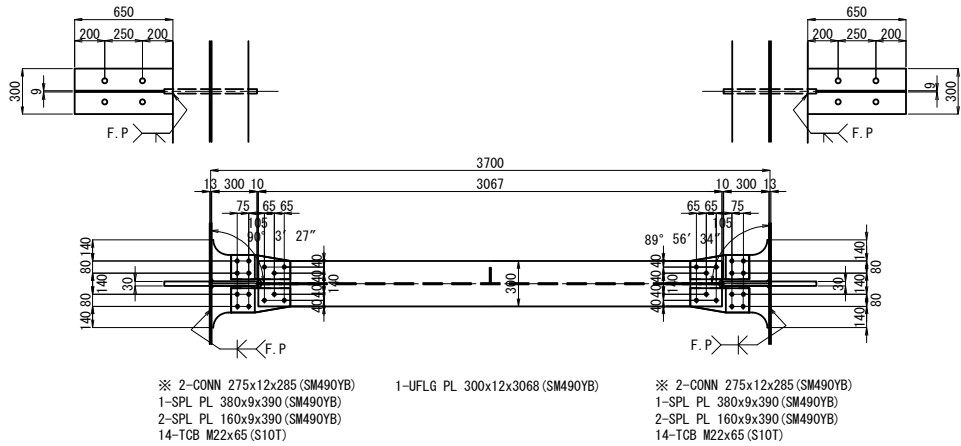
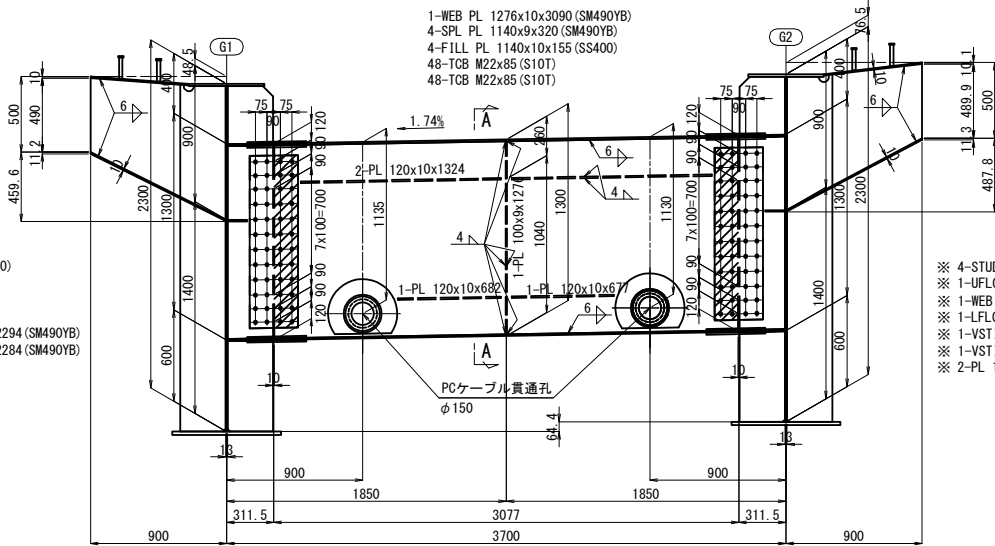
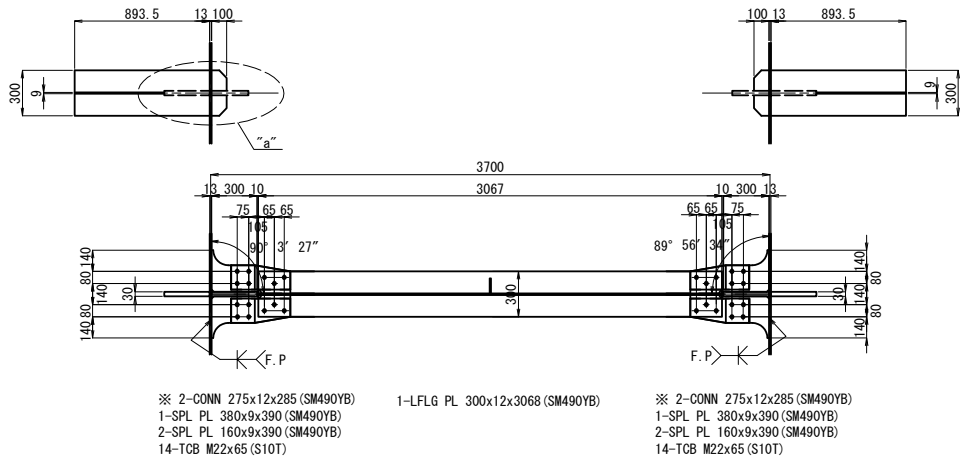
スタッドジベル詳細 S=1:10



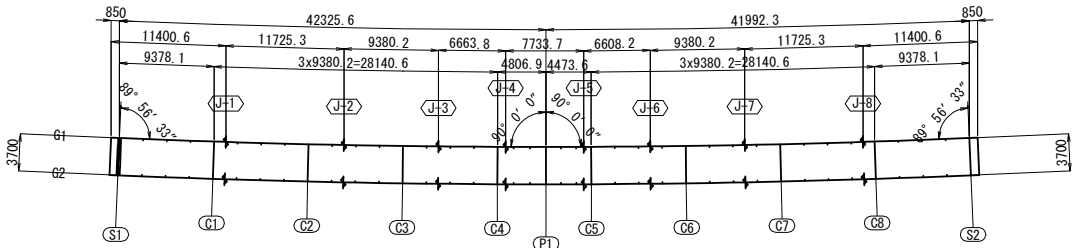
注記
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 主桁上フランジ現場溶接付近のスタッド溶接は、製作時に位置を調整したうえで溶接とする。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 スタッドジベル配置図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

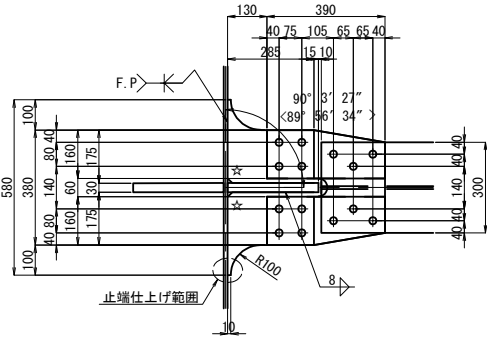
S1



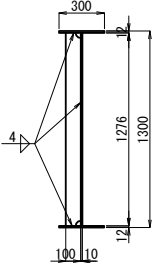
配置図 S=1:750



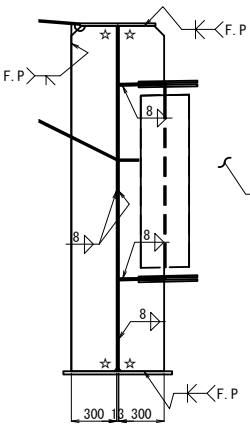
フランジ添接詳細図 S=1:25



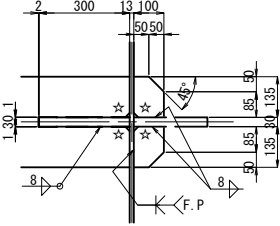
A - A



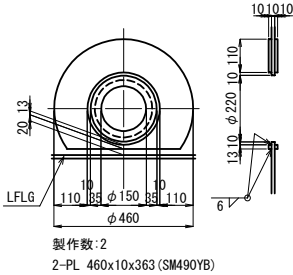
主桁V. STIFFと横桁FLG及び
ブラケットFLGとの溶接詳細



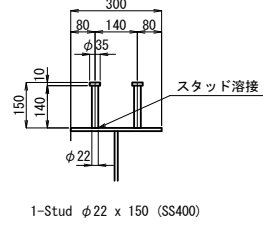
"a"部詳細 S=1:25



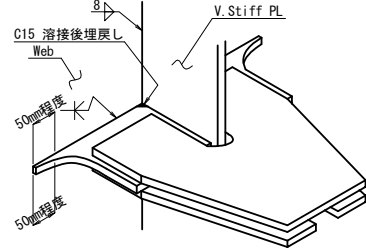
PCケーブル貫通孔 S=1:25



スタッド詳細 S=1:25



溶接仕上げ範囲詳細



止端仕上げ範囲

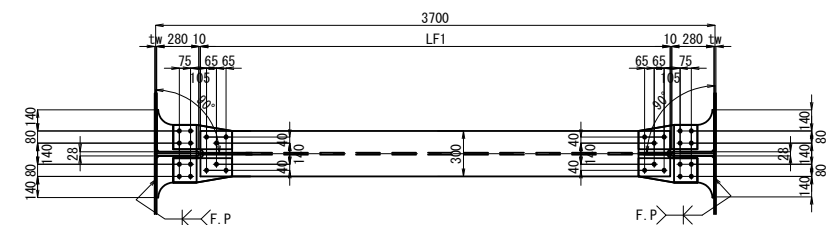


注記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. ボルト印はTCB (S10T) M22を示す。
4. ※印付きの数量は主桁にて計上のこと。
5. ☆印部は、15C溶接後埋め戻しとする。
6. 特記なき詳細は、共通詳細図を参照のこと。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	端支点上横桁（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鏡上部工）工事			
図面の種類	占冠 P A ランプ橋		
	中間支点上横桁		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

C1~C8

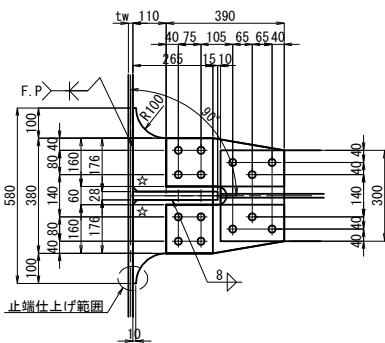


※ 2-CNN 276x20x265
1-SPL PL 380x12x390 (SS400)
2-SPL PL 160x14x390 (SS400)
14-TCB M22x85 (S10T)

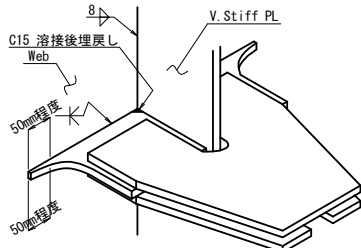
※ 2-CNN 276x20x265
1-SPL PL 380x12x390 (SS400)
2-SPL PL 160x14x390 (SS400)
14-TCB M22x85 (S10T)

	tw	LF1	LF2	LF3	RLHK
C1	13	3107	3117	291.5	3118
C2	13	3107	3117	291.5	3118
C3	13	3107	3117	291.5	3118
C4	14	3106	3116	292	3117
C5	14	3106	3116	292	3117
C6	13	3107	3117	291.5	3118
C7	13	3107	3117	291.5	3118
C8	13	3107	3117	291.5	3118

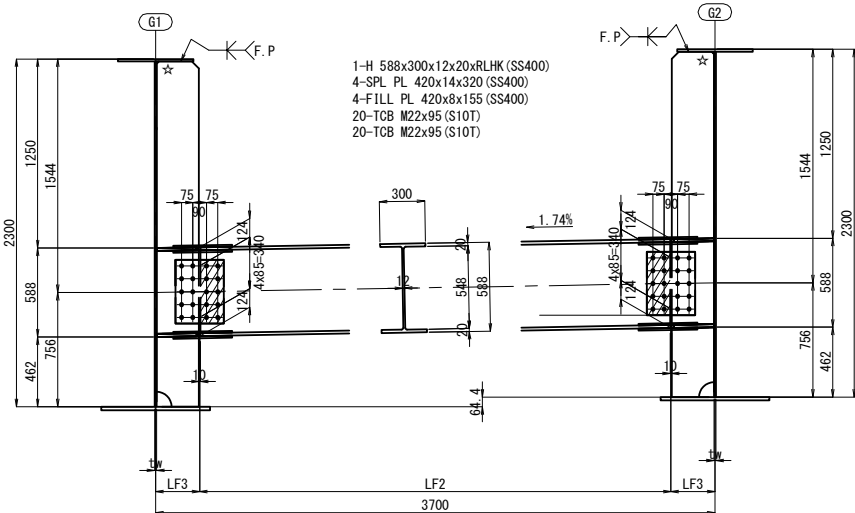
フランジ添接詳細図 S=1:25



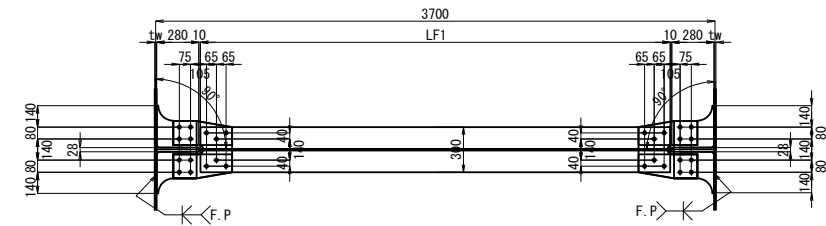
溶接仕上げ範囲詳細



止端仕上げ範囲



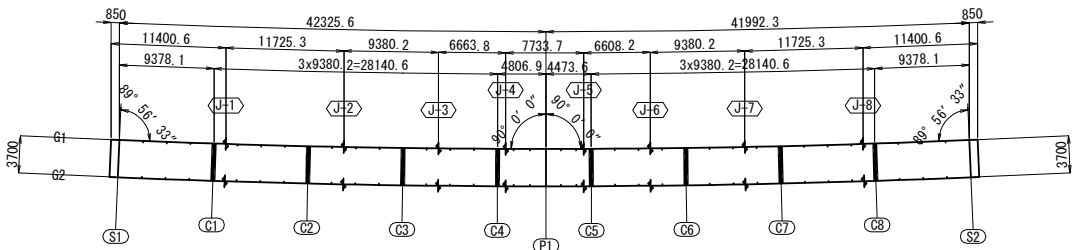
1-H 588x300x12x20xRLHK (SS400)
4-SPL PL 420x14x320 (SS400)
4-FILL PL 420x8x155 (SS400)
20-TCB M22x95 (S10T)
20-TCB M22x95 (S10T)



※ 2-CNN 276x20x265
1-SPL PL 380x12x390 (SS400)
2-SPL PL 160x14x390 (SS400)
14-TCB M22x85 (S10T)

※ 2-CNN 276x20x265
1-SPL PL 380x12x390 (SS400)
2-SPL PL 160x14x390 (SS400)
14-TCB M22x85 (S10T)

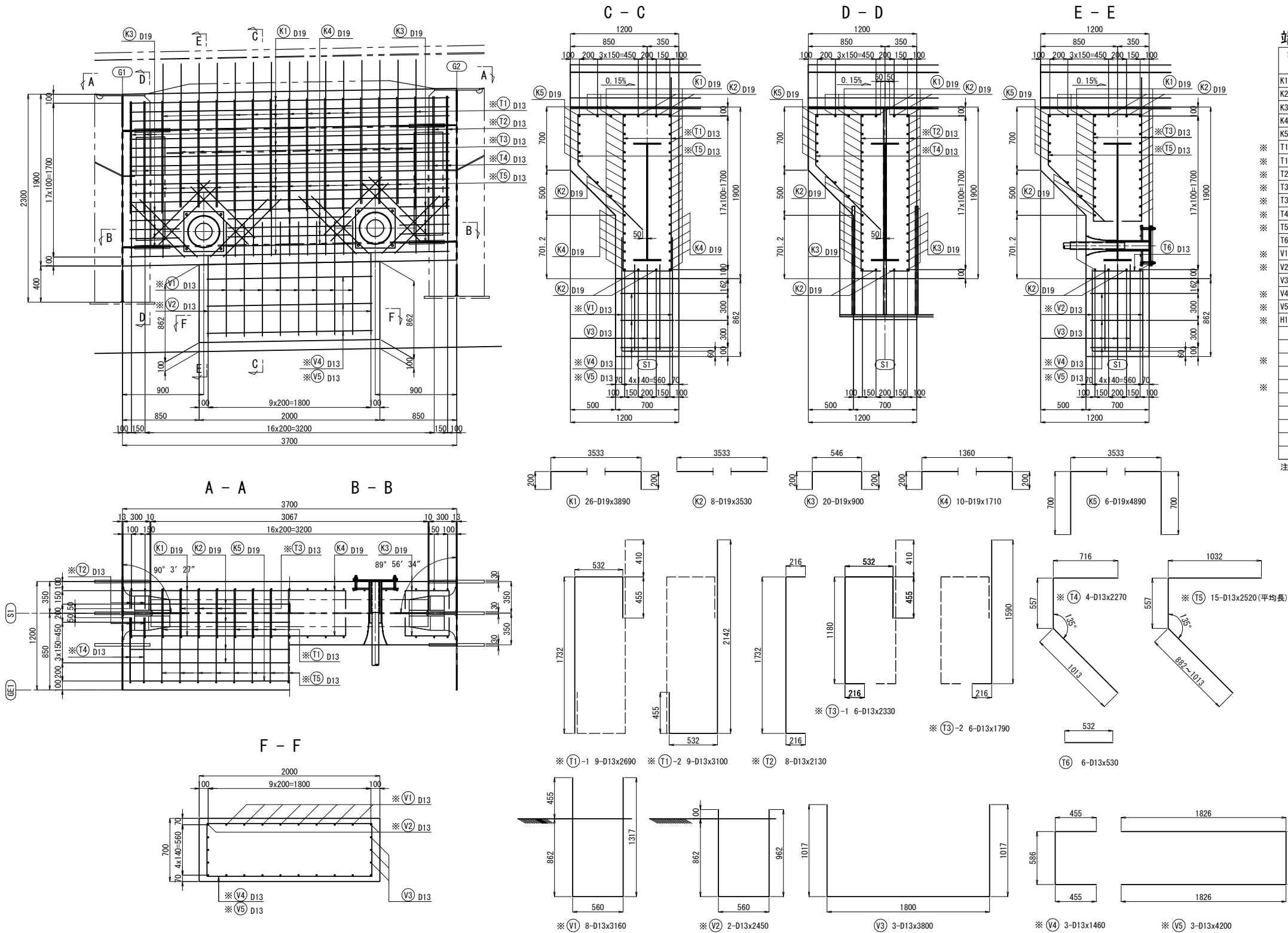
配置図 S=1:750



- 注記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. ボルト印はTCB (S10T) M22を示す。
 4. ※印付きの数量は主桁にて計上のこと。
 5. ☆印部は、15C溶接後埋め戻しとする。
 6. 特記なき詳細は、共通詳細図を参照のこと。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠P Aランプ橋 中間横桁		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

S1

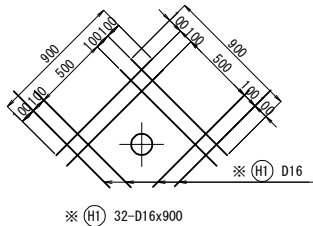


端支点S1

記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
K1	D19	3890	26	2.25	8.75	228	┌┐
K2	D19	3530	8	2.25	7.94	64	┌┐
K3	D19	900	20	2.25	2.03	41	┌┐
K4	D19	1710	10	2.25	3.85	39	┌┐
K5	D19	4890	6	2.25	11.0	66	┌┐
T1-1	D13	2690	9	0.995	2.68	24	┌┐
T1-2	D13	3100	9	0.995	3.08	28	┌┐
T2	D13	2130	8	0.995	2.12	17	┌┐
T3-1	D13	2330	6	0.995	2.32	14	┌┐
T3-2	D13	1790	6	0.995	1.78	11	┌┐
T4	D13	2270	4	0.995	2.26	9	┌┐
T5	D13	2520	15	0.995	2.51	38	┌┐
T6	D13	530	6	0.995	0.527	3	┌┐
V1	D13	3160	8	0.995	3.14	25	┌┐
V2	D13	2450	2	0.995	2.44	5	┌┐
V3	D13	3800	3	0.995	3.78	11	┌┐
V4	D13	1460	3	0.995	1.45	4	┌┐
V5	D13	4200	3	0.995	4.18	13	┌┐
H1	D16	900	32	1.56	1.40	45	┌┐
685 Kg							
鉄筋							
エポキシ樹脂塗装鉄筋 D13 (SD345)							188 Kg
D13 (SD345)							14 Kg
エポキシ樹脂塗装鉄筋 D16 (SD345)							45 Kg
D19 (SD345)							438 Kg
コンクリート体積 (σck=30N/mm2)							6.64 m3
型枠面積							18.14 m2

注) ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

PCケーブル開口部補強



※ (H1) D16 32-D16x900

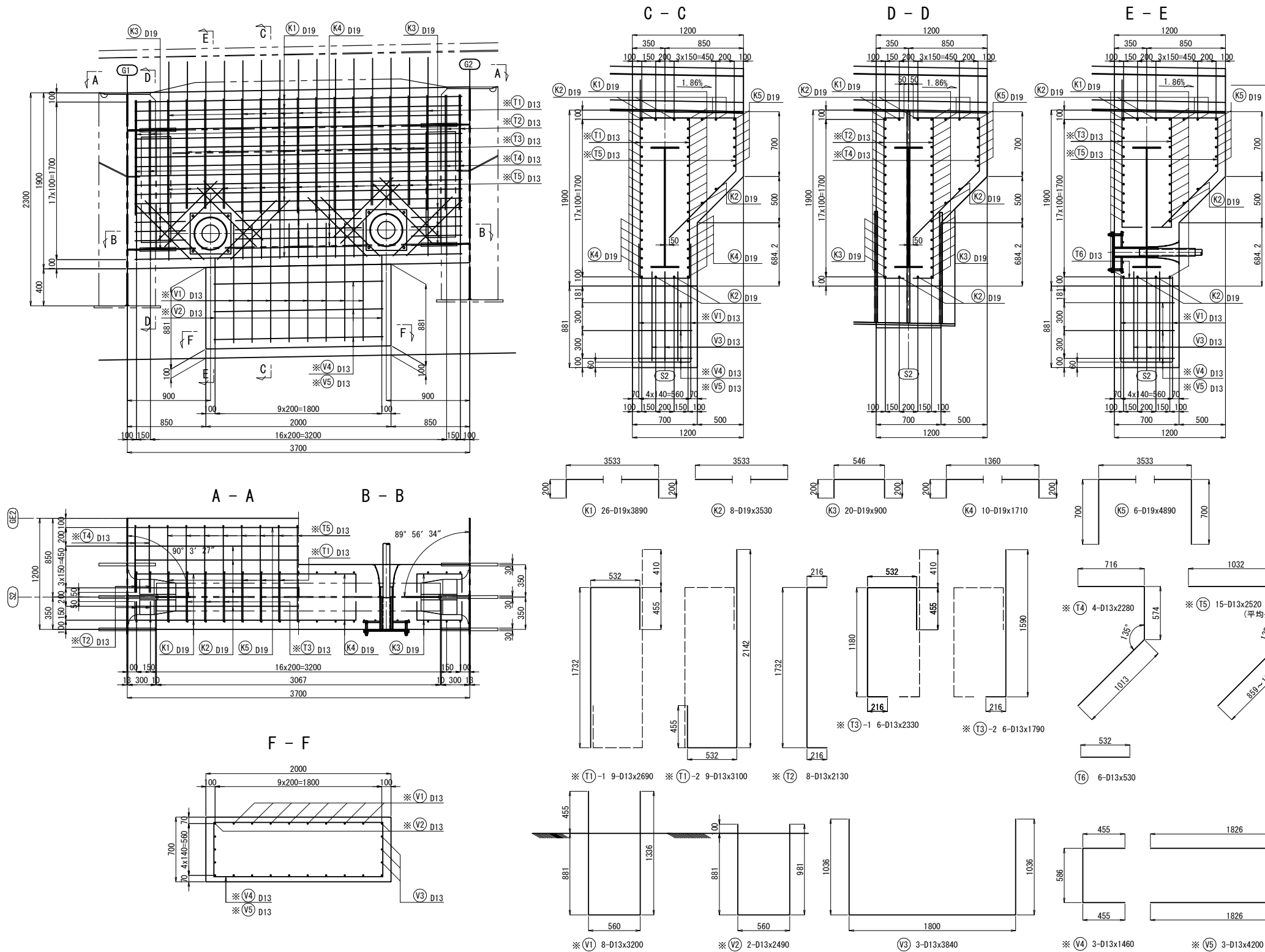
鉄筋加工寸法表

$\theta \leq 90^\circ$ $R = 3\phi$		$\theta > 90^\circ$ $R = 5.5\phi$				
						
$dL = 2L - a$						
径	$\theta = 90^\circ$			$\theta = 135^\circ$		
	R	a	dL	R	a	dL
D13	39	61	17	71.5	56	3
D19	57	90	24	104.5	82	5

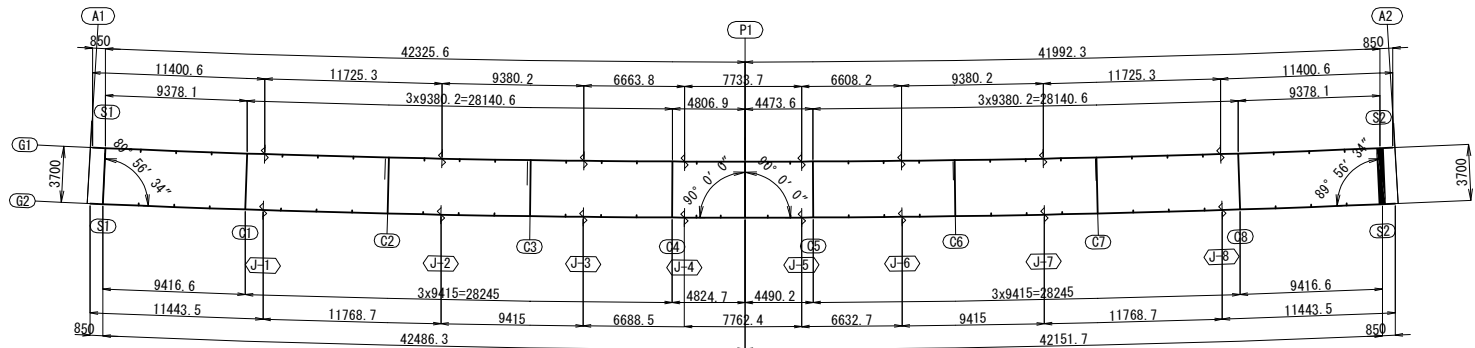
注記
1. 特記なき鉄筋材質は、全てSD345とする。
2. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とする。
3. ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

道東自動車道 本流川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 巻き立てコンクリート（その1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋道橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

S2



配置図 S=1:500

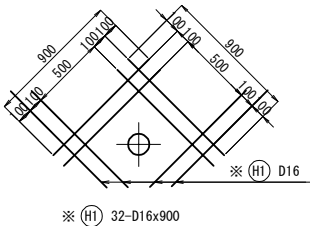


端支点S2

記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
K1	D19	3890	26	2.25	8.75	228	┌┐
K2	D19	3530	8	2.25	7.94	64	
K3	D19	900	20	2.25	2.03	41	┌┐
K4	D19	1710	10	2.25	3.85	39	
K5	D19	4890	6	2.25	11.0	66	┌┐
T1-1	D13	2690	9	0.995	2.68	24	
T1-2	D13	3100	9	0.995	3.08	28	┌┐
T2	D13	2130	8	0.995	2.12	17	
T3-1	D13	2330	6	0.995	2.32	14	┌┐
T3-2	D13	1790	6	0.995	1.78	11	
T4	D13	2280	4	0.995	2.27	9	┌┐
T5	D13	2520	15	0.995	2.51	38	
T6	D13	530	6	0.995	0.527	3	┌┐
V1	D13	3200	8	0.995	3.18	25	
V2	D13	2490	2	0.995	2.48	5	┌┐
V3	D13	3840	3	0.995	3.82	11	
V4	D13	1460	3	0.995	1.45	4	┌┐
V5	D13	4200	3	0.995	4.18	13	
H1	D16	900	32	1.56	1.40	45	┌┐
						685 Kg	
鉄筋							
エポキシ樹脂塗装鉄筋				D13 (SD345)		188 Kg	
				D13 (SD345)		14 Kg	
エポキシ樹脂塗装鉄筋				D16 (SD345)		45 Kg	
				D19 (SD345)		438 Kg	
コンクリート体積 (σck=30N/mm2)						6.65 m3	
型枠面積						18.10 m2	

注) ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

PCケーブル開口部補強



※ (H1) 32-D16x900

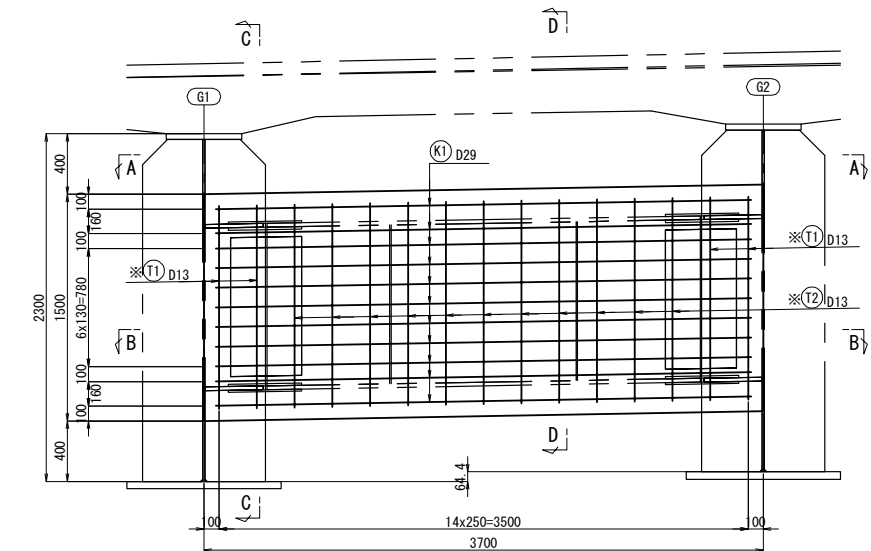
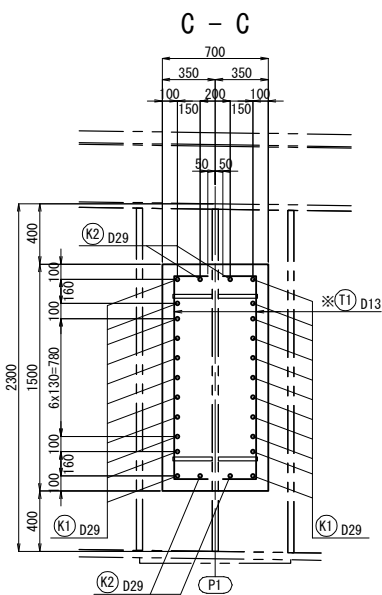
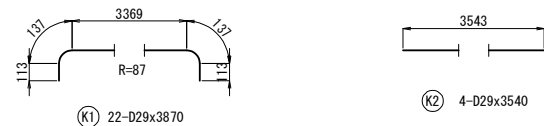
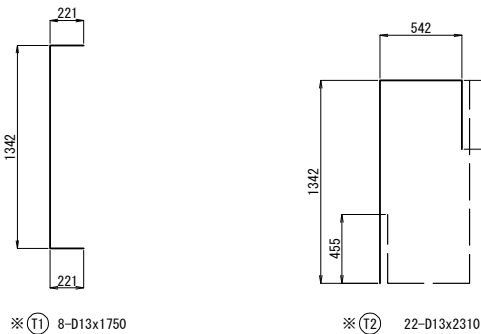
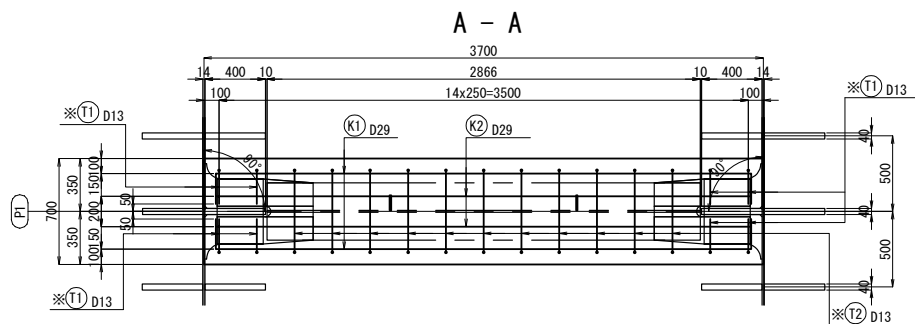
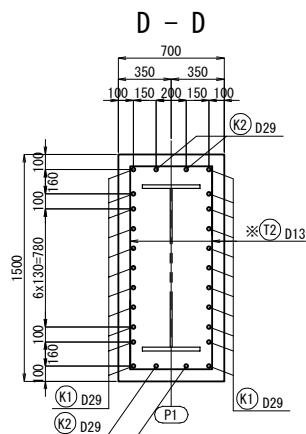
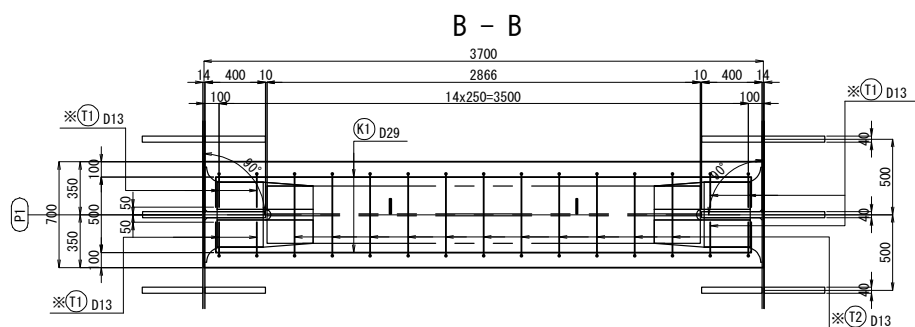
鉄筋加工寸法表

径	$\theta \leq 90^\circ$			$\theta > 90^\circ$		
	R	a	dL	R	a	dL
D13	39	61	17	71.5	56	3
D19	57	90	24	104.5	82	5

注記
1. 特記なき鉄筋材質は、全てSD345とする。
2. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とする。
3. ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 巻き立てコンクリート（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

P1

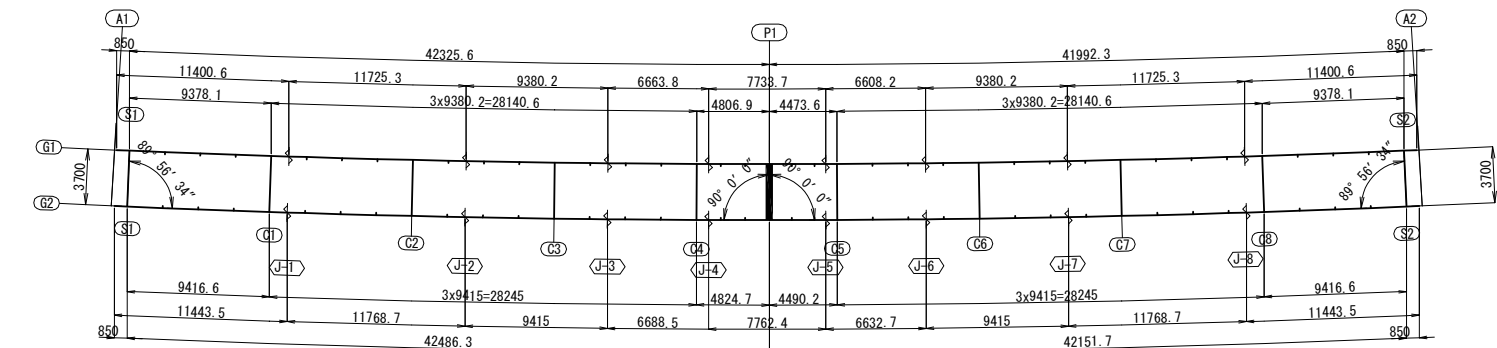


中間支点上横桁P1

記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
K1	D29		22	5.04	19.5	429	
K2	D29		4	5.04	17.8	71	
T1	D13		8	0.995	1.74	14	
T2	D13		22	0.995	2.30	51	
565 Kg							
1箇所当り 鉄筋							
エポキシ樹脂塗装鉄筋				D13 (SD345)		65 Kg	
				D29 (SD345)		500 Kg	
コンクリート体積 (σck=30N/mm2)							3.89 m3
型枠面積							13.69 m2

注) ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

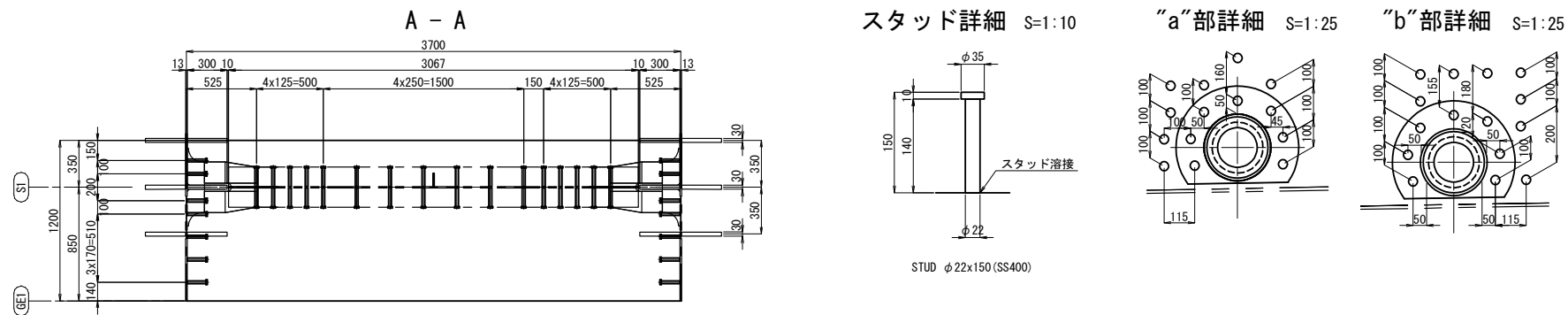
配置図 S=1:500



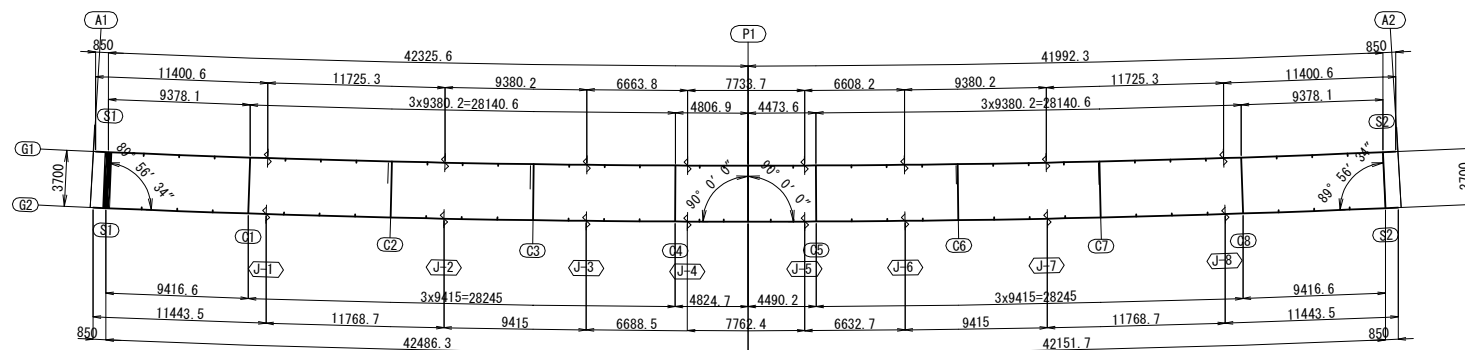
鉄筋加工寸法表						
ΔL = 2L - a						
径	θ = 90°			θ = 135°		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3
D29	87	137	37	159.5	125	7

- 注記
1. 特記なき鉄筋材質は、全てSD345とする。
2. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2とする。
3. ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 巻き立てコンクリート（その3）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

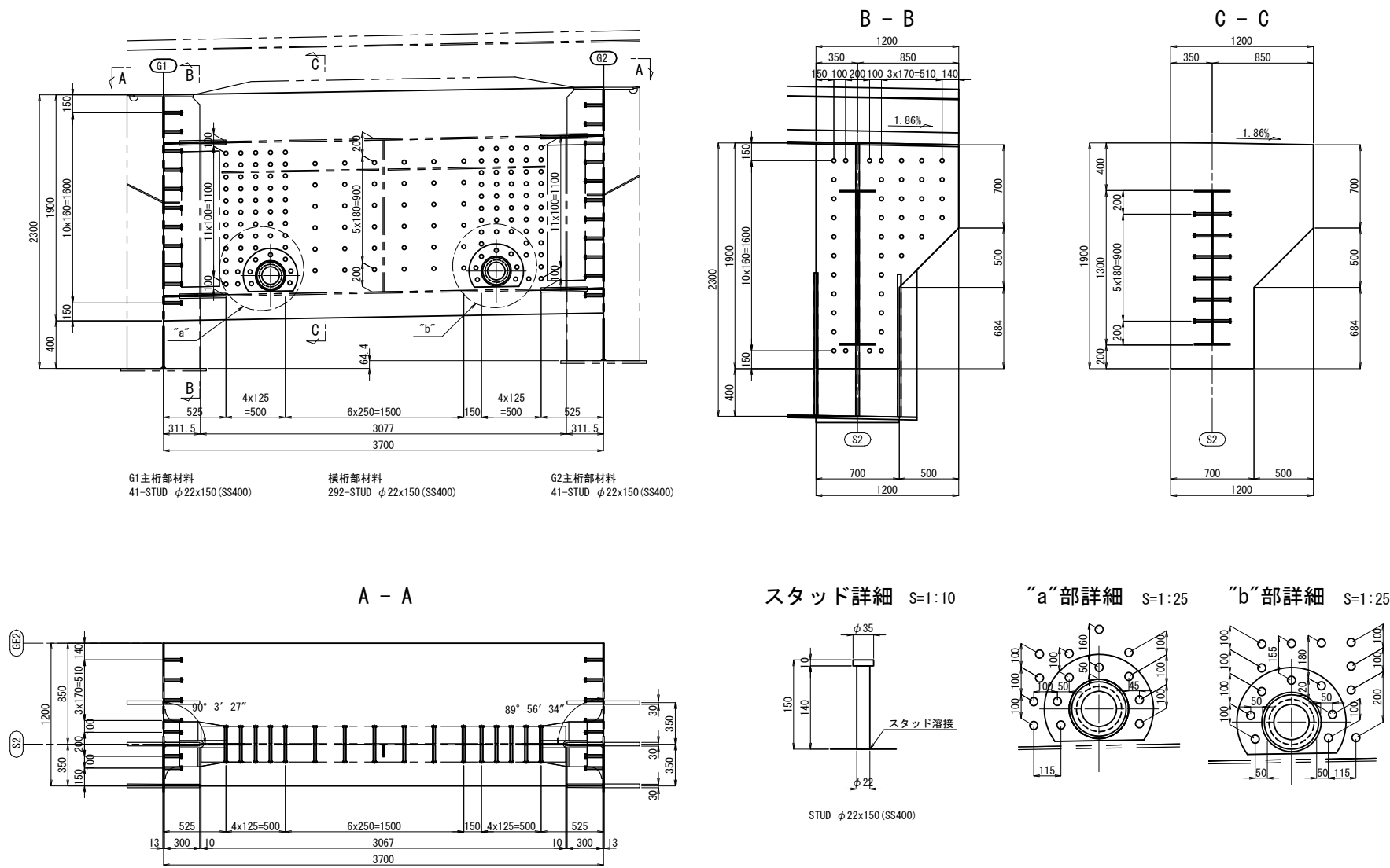


配置図 S=1:500

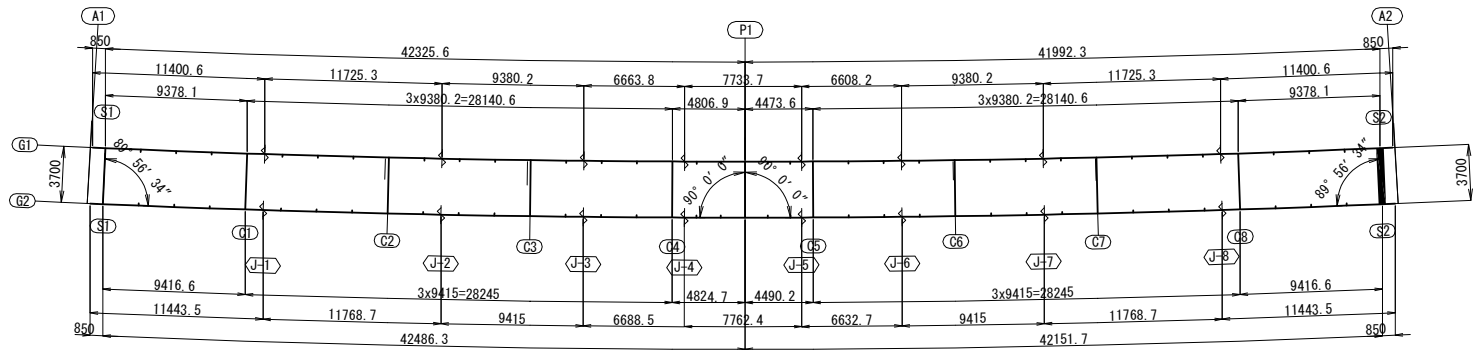


道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占取PAランプ橋 巻き立てコンクリートスタッド配置図 （その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

S2



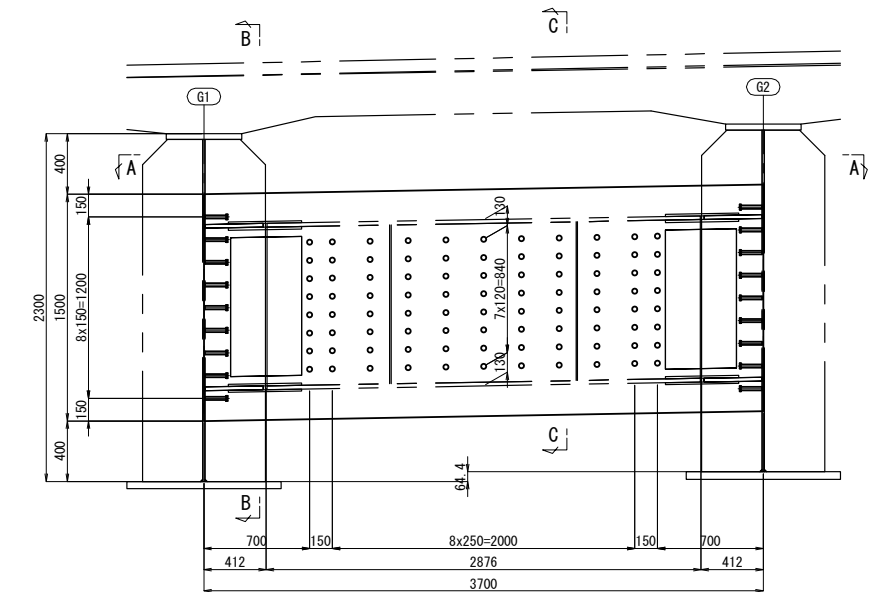
配置図 S=1:500



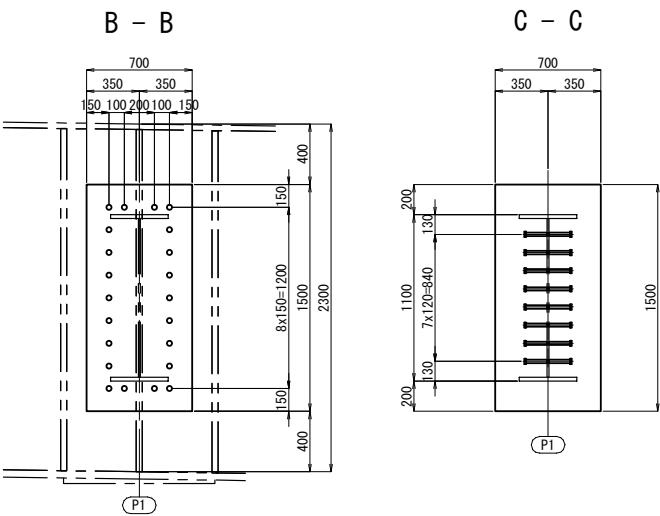
注記
1. 特記なき鉄筋材質は、全てSD345とする。
2. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ とする。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 巻き立てコンクリートスタッド配置図 （その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

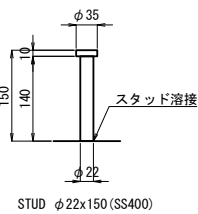
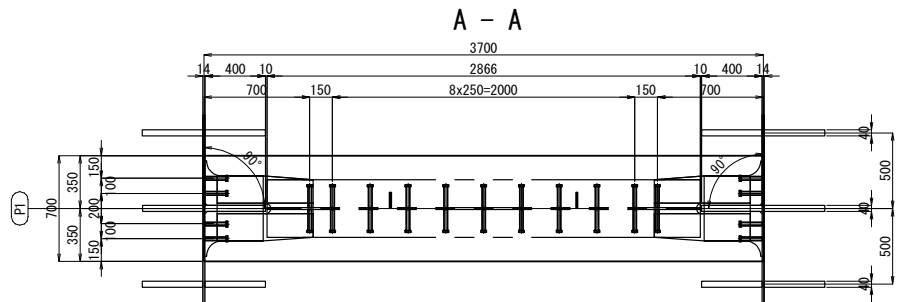
P1



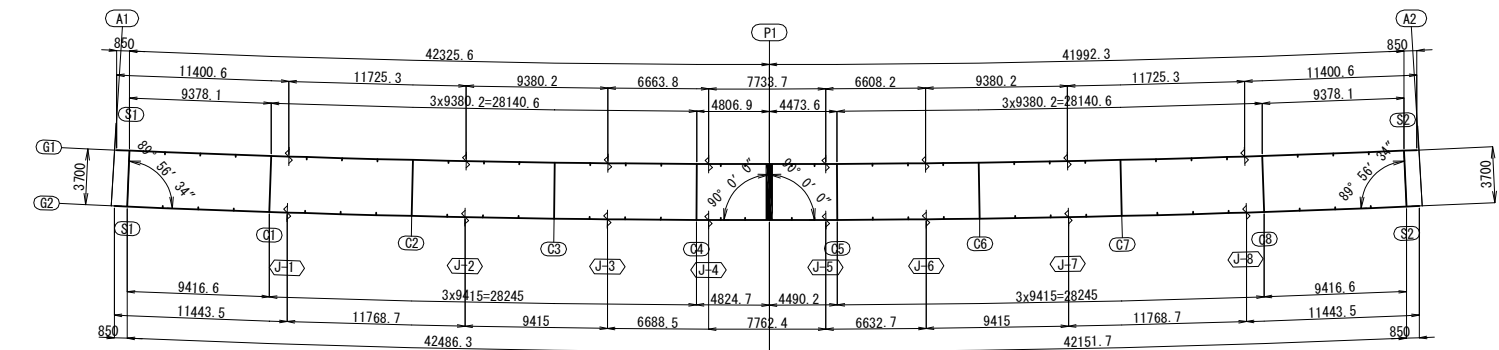
G1主桁部材料 22-STUD ϕ 22x150 (SS400) 横桁部材料 176-STUD ϕ 22x150 (SS400) G2主桁部材料 22-STUD ϕ 22x150 (SS400)

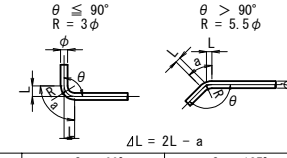


スタッド詳細 S=1:12.5



配置図 S=1:500

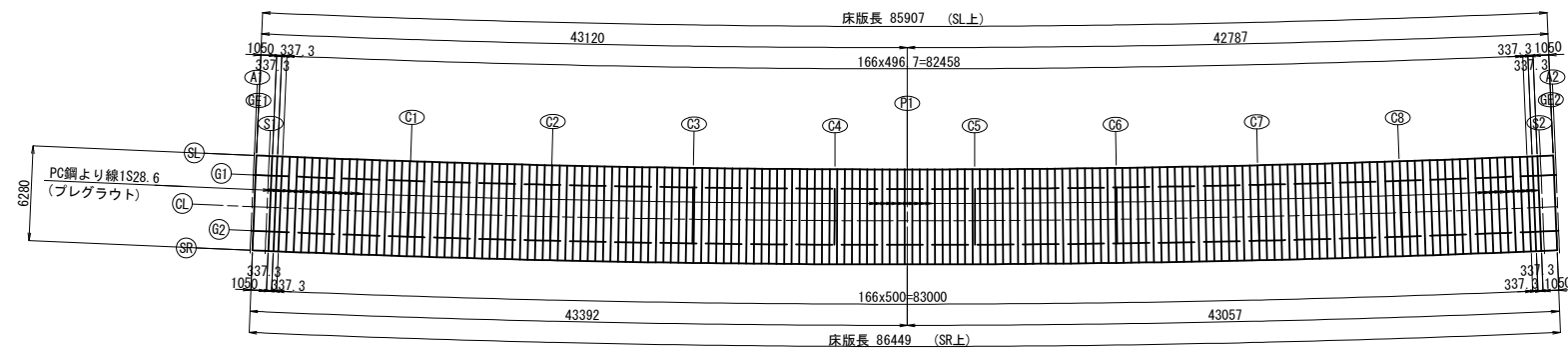


鉄筋加工寸法表						
						
$\Delta L = 2L - a$						
$\theta = 90^\circ$						
径	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3
D29	87	137	37	159.5	125	7

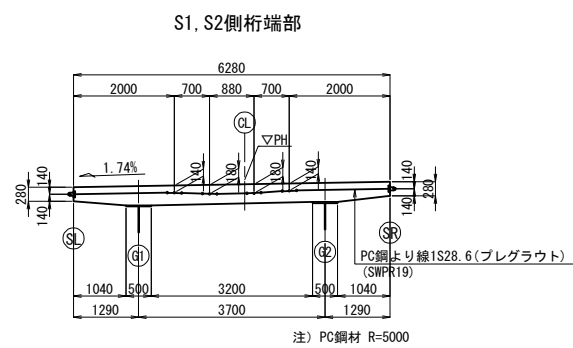
注記
1. 特記なき鉄筋材質は、全てSD345とする。
2. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ とする。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 巻き立てコンクリートスタッド配置図 （その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

平面图



断面図 S=1:150

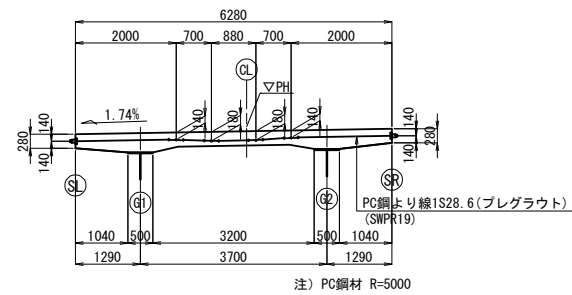


加工図



40 - 1S28.6 x 6284

標準部



加工図

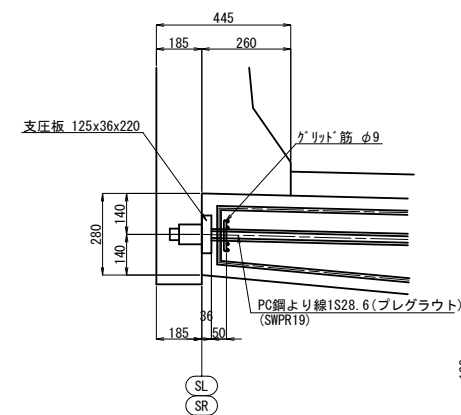


131 - 1S28.6 x 6284

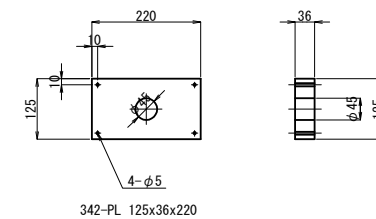
PC鋼材質量表

記号	長さ (m)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	延長 (m)	質量 (kg)	摘要
タイプ1	6.284	171	4.23	1074.6	4545	
延長合計					1075	m
質量合計					4545	kg

横締定着部詳細図 S=1:25

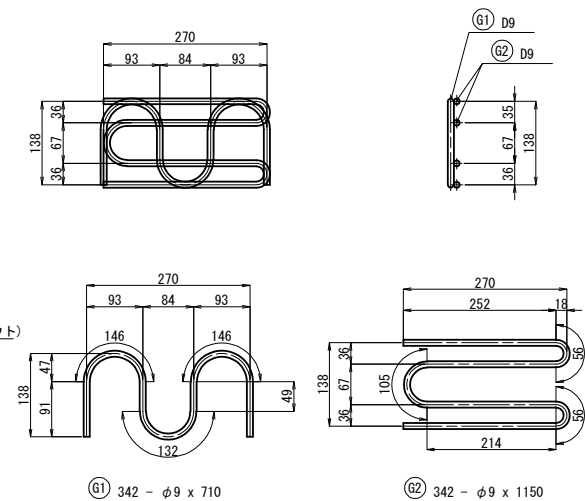


長方形支圧板 S=1:25



(参考図)

グリッド筋 S=1:12.5



グリッド筋質量表

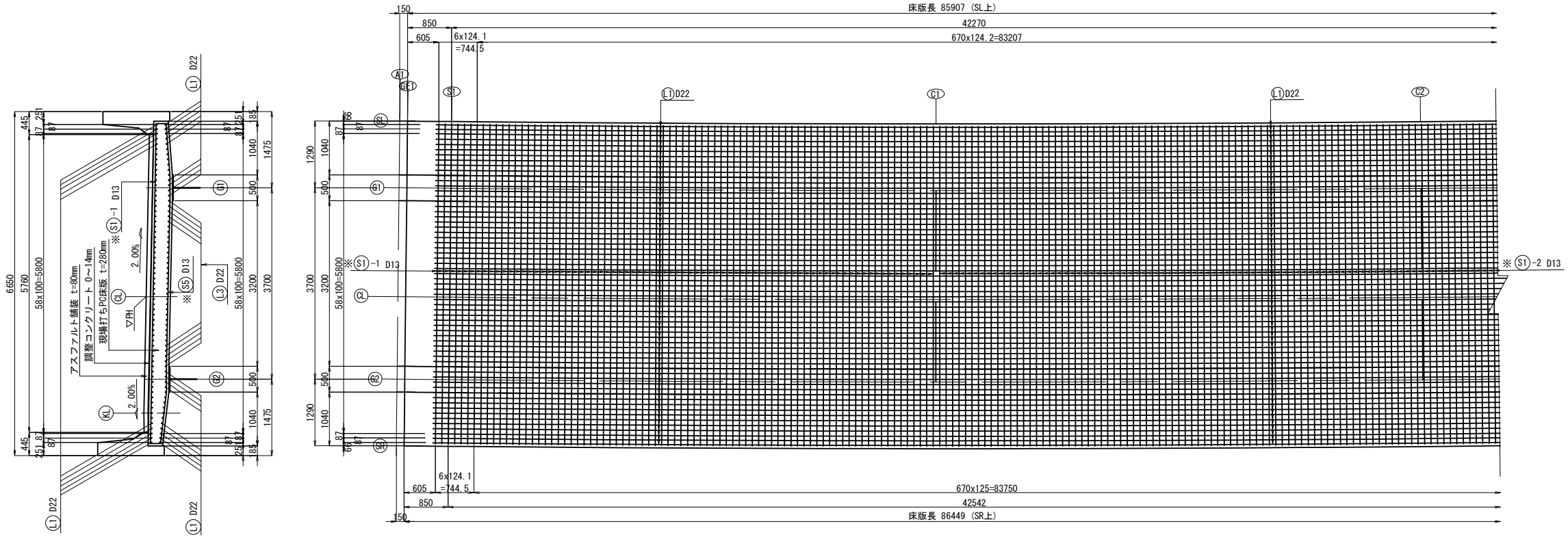
記号	径	長さ (mm)	本 数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
G1	φ9	710	342	0.499	0.354	121	
G2	φ9	1150	342	0.499	0.574	196	
延長合計						636 m	
SD345						合 計	317 kg

注記

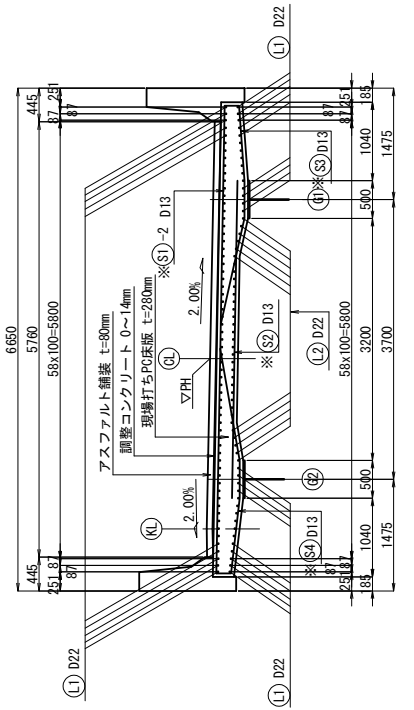
1. PC鋼材の緊張方向は、交互引きとする。

道東自動車道 本流鶏川第一橋（鋼上土工）工事			
図面の種類		①冠Pランプ橋 P C鋼材配置図	
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

桁端部断面図 (S1)



中間部断面図(C1~C8)

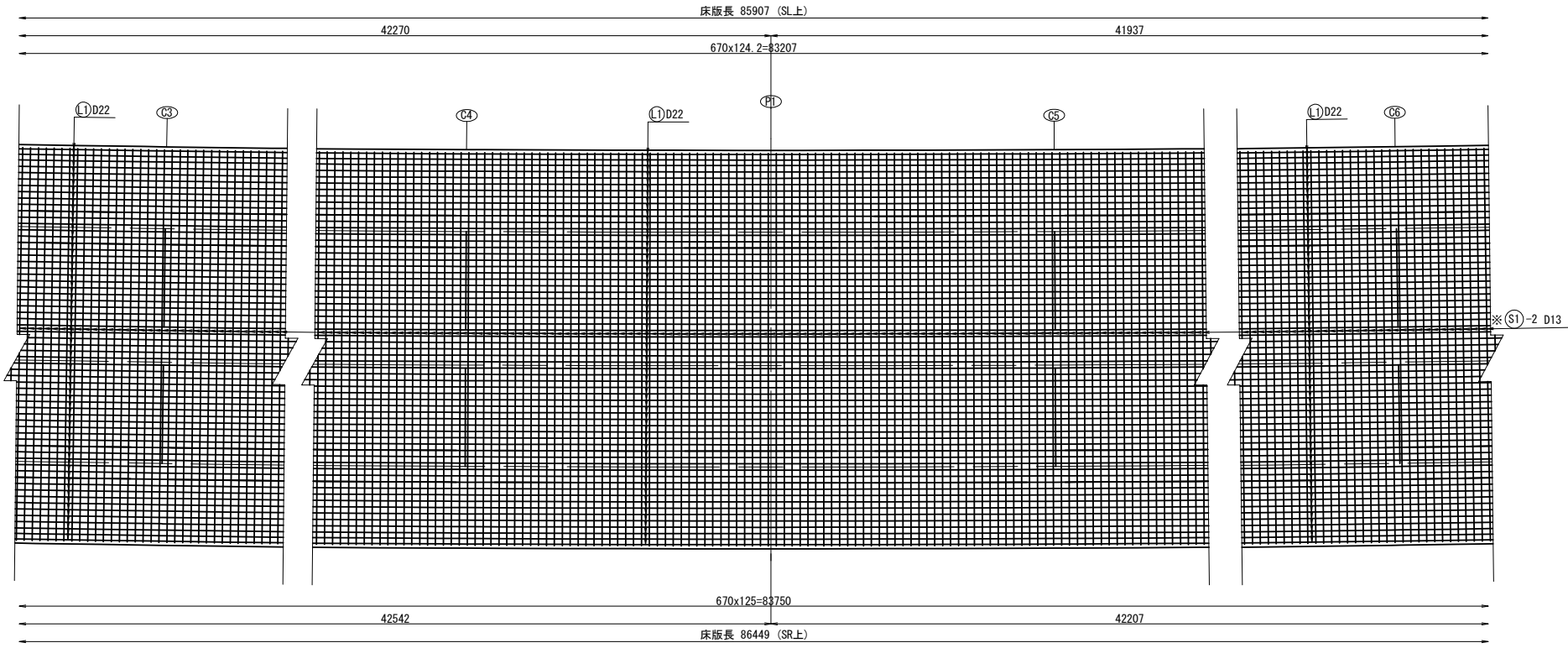


Technical drawing of a bridge deck cross-section showing reinforcement details. The drawing includes dimensions for the deck width (670x124.1), reinforcement bars (D13, D22), and concrete cover (744.4). It also shows the location of reinforcement bars relative to the deck edge and the centerline. The drawing is labeled with "床版長 85907 (86449)" and "670x124.1 2=83207 (670x125=83750)".

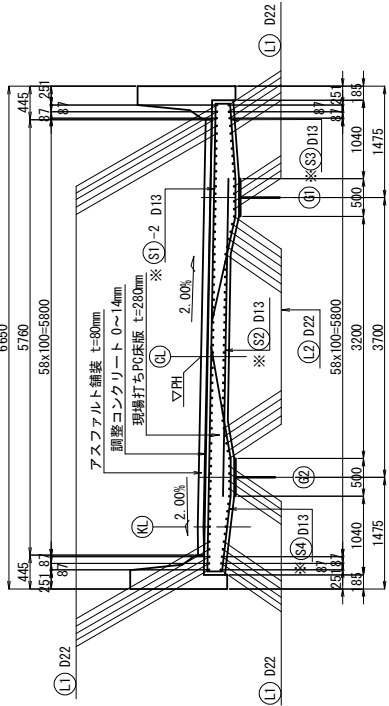
Technical drawing of a bed frame showing dimensions and component labels. The drawing includes a side view of the bed frame with a hatched section on the left. Dimensions are provided for the bed length (床版長) and the frame length (床版長). Labels A1, A2, B1, B2, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, C10, C11, C12, C13, C14, C15, C16, C17, C18, C19, C20, C21, C22, C23, C24, C25, C26, C27, C28, C29, C30, C31, C32, C33, C34, C35, C36, C37, C38, C39, C40, C41, C42, C43, C44, C45, C46, C47, C48, C49, C50, C51, C52, C53, C54, C55, C56, C57, C58, C59, C60, C61, C62, C63, C64, C65, C66, C67, C68, C69, C70, C71, C72, C73, C74, C75, C76, C77, C78, C79, C80, C81, C82, C83, C84, C85, C86, C87, C88, C89, C90, C91, C92, C93, C94, C95, C96, C97, C98, C99, C100, C101, C102, C103, C104, C105, C106, C107, C108, C109, C110, C111, C112, C113, C114, C115, C116, C117, C118, C119, C120, C121, C122, C123, C124, C125, C126, C127, C128, C129, C130, C131, C132, C133, C134, C135, C136, C137, C138, C139, C140, C141, C142, C143, C144, C145, C146, C147, C148, C149, C150, C151, C152, C153, C154, C155, C156, C157, C158, C159, C160, C161, C162, C163, C164, C165, C166, C167, C168, C169, C170, C171, C172, C173, C174, C175, C176, C177, C178, C179, C180, C181, C182, C183, C184, C185, C186, C187, C188, C189, C190, C191, C192, C193, C194, C195, C196, C197, C198, C199, C200, C201, C202, C203, C204, C205, C206, C207, C208, C209, C210, C211, C212, C213, C214, C215, C216, C217, C218, C219, C220, C221, C222, C223, C224, C225, C226, C227, C228, C229, C230, C231, C232, C233, C234, C235, C236, C237, C238, C239, C240, C241, C242, C243, C244, C245, C246, C247, C248, C249, C250, C251, C252, C253, C254, C255, C256, C257, C258, C259, C260, C261, C262, C263, C264, C265, C266, C267, C268, C269, C270, C271, C272, C273, C274, C275, C276, C277, C278, C279, C280, C281, C282, C283, C284, C285, C286, C287, C288, C289, C290, C291, C292, C293, C294, C295, C296, C297, C298, C299, C300, C301, C302, C303, C304, C305, C306, C307, C308, C309, C310, C311, C312, C313, C314, C315, C316, C317, C318, C319, C320, C321, C322, C323, C324, C325, C326, C327, C328, C329, C330, C331, C332, C333, C334, C335, C336, C337, C338, C339, C340, C341, C342, C343, C344, C345, C346, C347, C348, C349, C350, C351, C352, C353, C354, C355, C356, C357, C358, C359, C360, C361, C362, C363, C364, C365, C366, C367, C368, C369, C370, C371, C372, C373, C374, C375, C376, C377, C378, C379, C380, C381, C382, C383, C384, C385, C386, C387, C388, C389, C390, C391, C392, C393, C394, C395, C396, C397, C398, C399, C400, C401, C402, C403, C404, C405, C406, C407, C408, C409, C410, C411, C412, C413, C414, C415, C416, C417, C418, C419, C420, C421, C422, C423, C424, C425, C426, C427, C428, C429, C430, C431, C432, C433, C434, C435, C436, C437, C438, C439, C440, C441, C442, C443, C444, C445, C446, C447, C448, C449, C450, C451, C452, C453, C454, C455, C456, C457, C458, C459, C460, C461, C462, C463, C464, C465, C466, C467, C468, C469, C470, C471, C472, C473, C474, C475, C476, C477, C478, C479, C480, C481, C482, C483, C484, C485, C486, C487, C488, C489, C490, C491, C492, C493, C494, C495, C496, C497, C498, C499, C500, C501, C502, C503, C504, C505, C506, C507, C508, C509, C510, C511, C512, C513, C514, C515, C516, C517, C518, C519, C520, C521, C522, C523, C524, C525, C526, C527, C528, C529, C530, C531, C532, C533, C534, C535, C536, C537, C538, C539, C540, C541, C542, C543, C544, C545, C546, C547, C548, C549, C550, C551, C552, C553, C554, C555, C556, C557, C558, C559, C560, C561, C562, C563, C564, C565, C566, C567, C568, C569, C570, C571, C572, C573, C574, C575, C576, C577, C578, C579, C580, C581, C582, C583, C584, C585, C586, C587, C588, C589, C590, C591, C592, C593, C594, C595, C596, C597, C598, C599, C600, C601, C602, C603, C604, C605, C606, C607, C608, C609, C610, C611, C612, C613, C614, C615, C616, C617, C618, C619, C620, C621, C622, C623, C624, C625, C626, C627, C628, C629, C630, C631, C632, C633, C634, C635, C636, C637, C638, C639, C640, C641, C642, C643, C644, C645, C646, C647, C648, C649, C650, C651, C652, C653, C654, C655, C656, C657, C658, C659, C660, C661, C662, C663, C664, C665, C666, C667, C668, C669, C670, C671, C672, C673, C674, C675, C676, C677, C678, C679, C680, C681, C682, C683, C684, C685, C686, C687, C688, C689, C690, C691, C692, C693, C694, C695, C696, C697, C698, C699, C700, C701, C702, C703, C704, C705, C706, C707, C708, C709, C710, C711, C712, C713, C714, C715, C716, C717, C718, C719, C720, C721, C722, C723, C724, C725, C726, C727, C728, C729, C730, C731, C732, C733, C734, C735, C736, C737, C738, C739, C740, C741, C742, C743, C744, C745, C746, C747, C748, C749, C750, C751, C752, C753, C754, C755, C756, C757, C758, C759, C760, C761, C762, C763, C764, C765, C766, C767, C768, C769, C770, C771, C772, C773, C774, C775, C776, C777, C778, C779, C780, C781, C782, C783, C784, C785, C786, C787, C788, C789, C790, C791, C792, C793, C794, C795, C796, C797, C798, C799, C800, C801, C802, C803, C804, C805, C806, C807, C808, C809, C810, C811, C812, C813, C814, C815, C816, C817, C818, C819, C820, C821, C822, C823, C824,

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上土工）工事			
図面の種類	冠庇ＰＡランプ橋		
	床版配筋図（その１）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

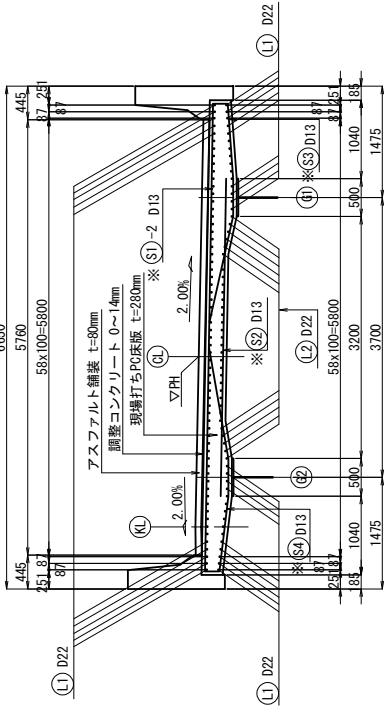
上面



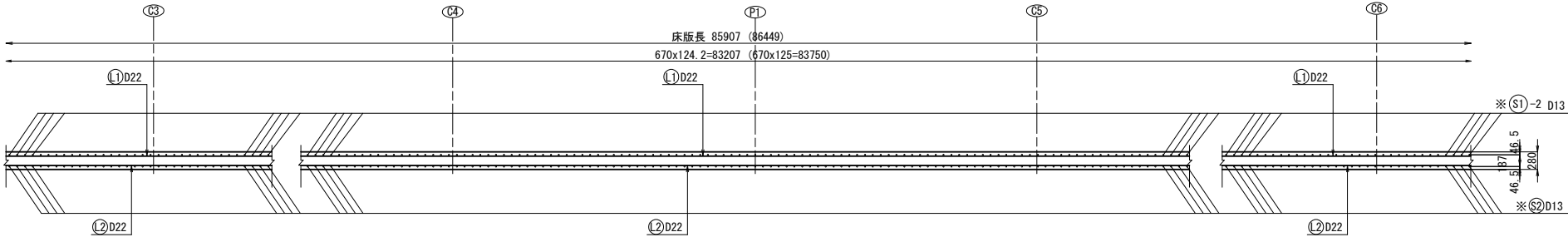
中間部断面図 (C1~C8)



中間支点部断面図 (P1)

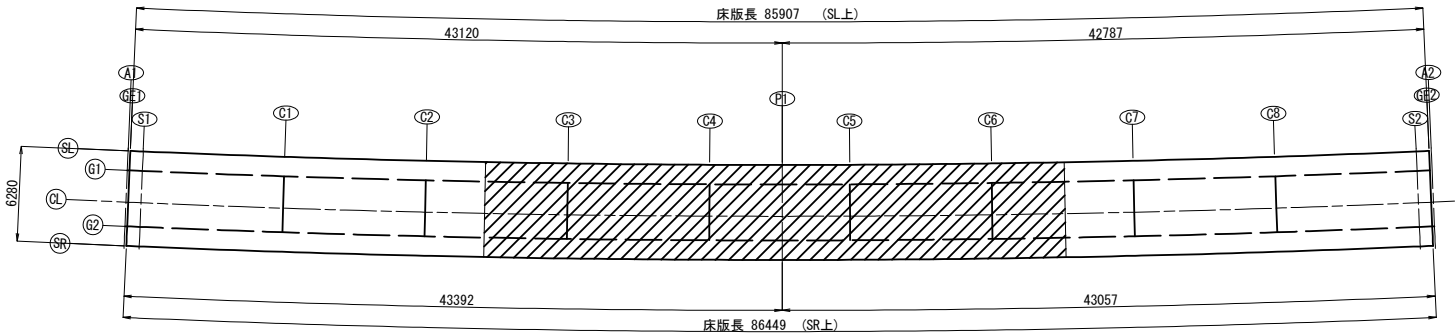


側面図



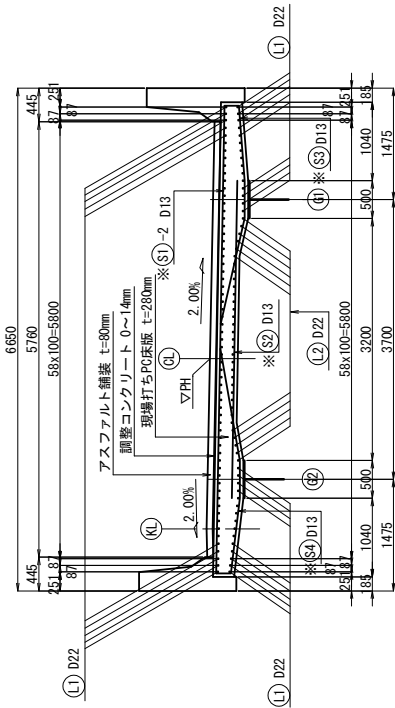
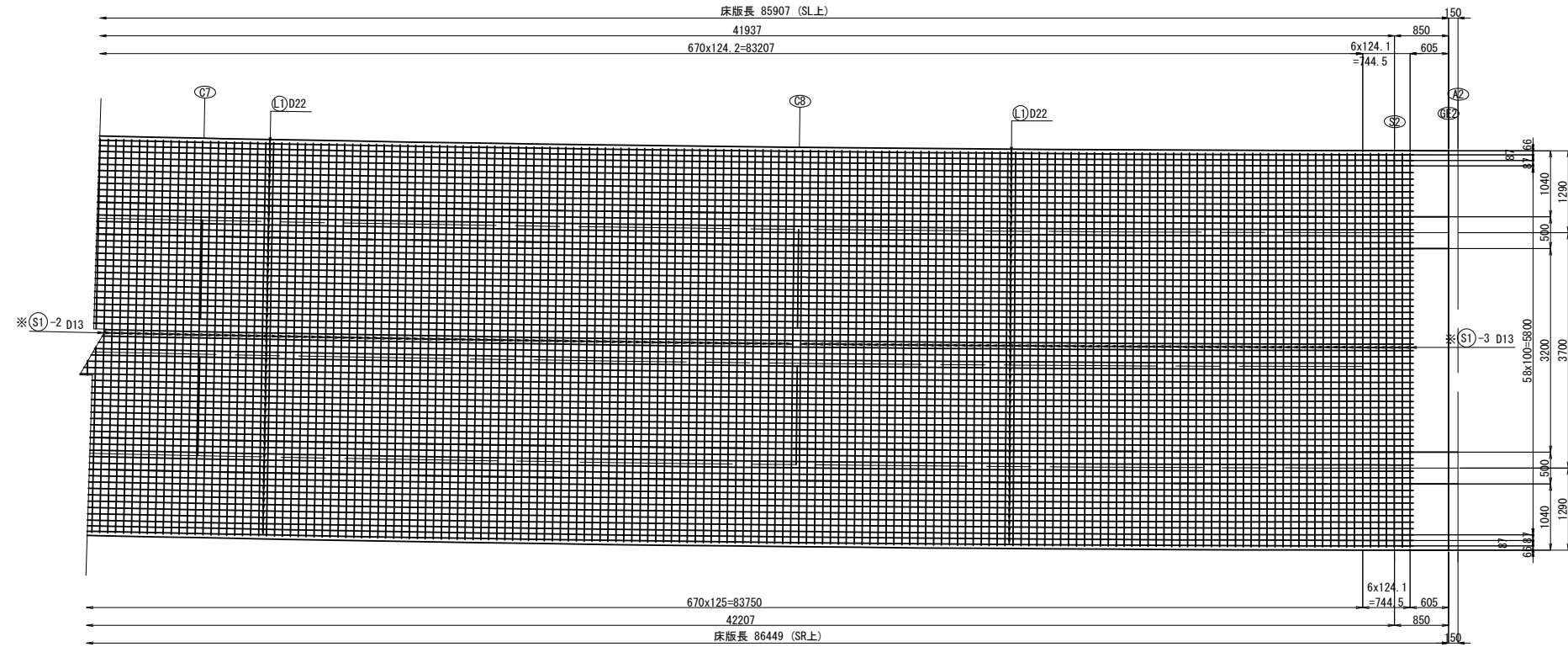
注：() 内数値はSR側を示す。

平面図



道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	床版配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

中間部断面図(C1~C8)



桁端部断面図 (S2)

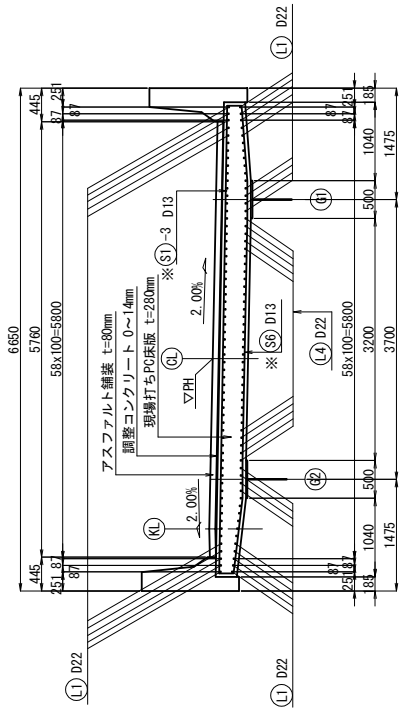


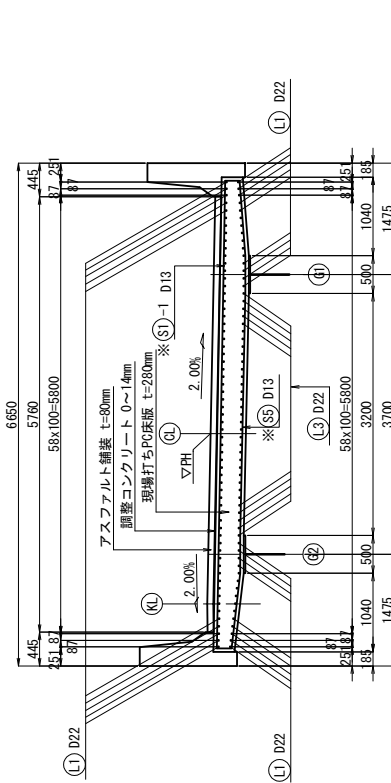
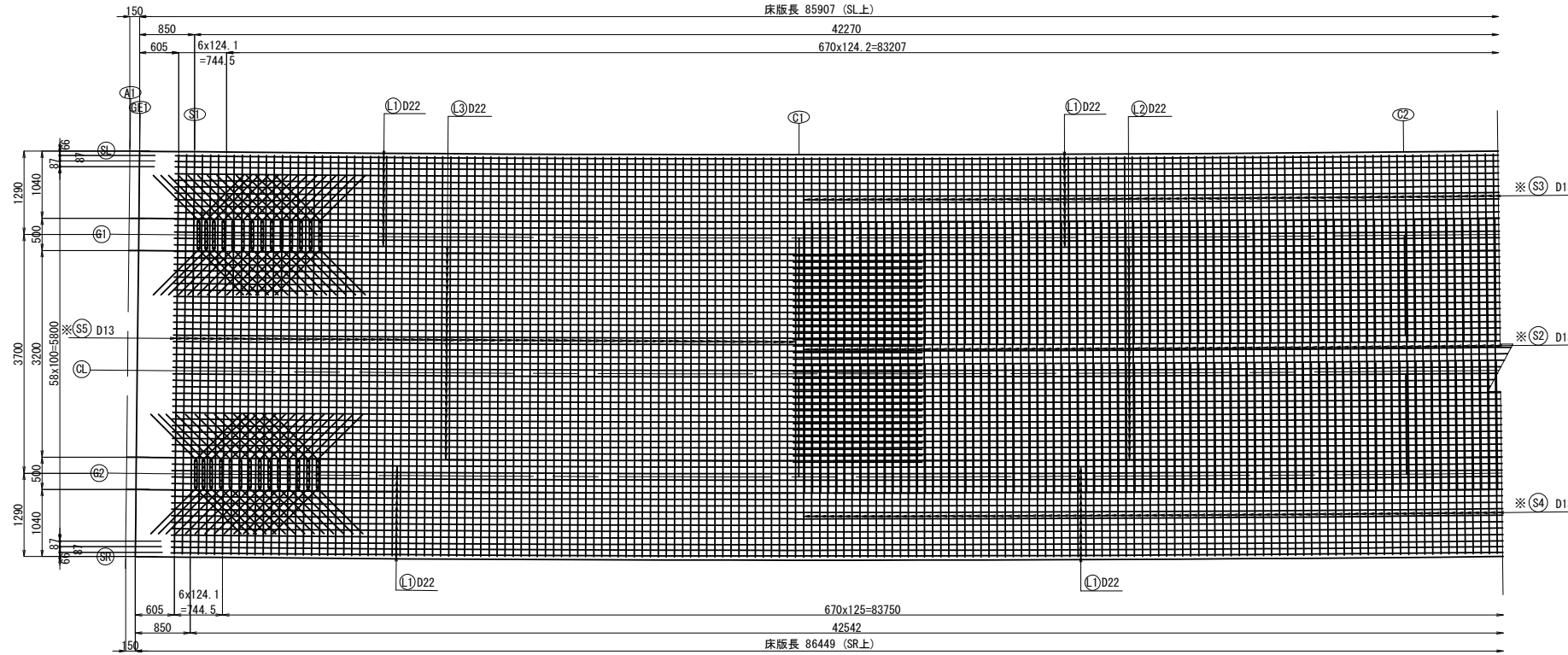
Figure 2 is a technical drawing of a bridge structure, showing a side elevation. The drawing includes the following details:

- Dimensions and Labels:**
 - Top labels: C7, C8, S2, A2.
 - Bottom labels: (S1)-2 D13, (L1) D22, (L2) D22, (L4) D22, (S1)-3 D13, (S0) D13, GE2.
 - Horizontal dimensions: 200, 46.5, 8, 550, 500, 9400, 760, 850, 150, 605, 744.5, 746, 65.5, 390.
 - Vertical dimensions: 46.5, 46.5, 150, 605, 744.5, 746, 65.5, 390.
 - Text labels: 床版長 85907 (864497), 670x124.2=83207 (670x125=83750), 6x124.1=744.5, 伸縮あと打ちコンクリート範囲.
- Structural Features:**
 - Bridge deck and supports.
 - Central pier (C8) and side piers (C7, C9).
 - Bridge deck sections (D22) and support sections (D13).
 - Bridge deck sections (D22) and support sections (D13).
 - Bridge deck sections (D22) and support sections (D13).
 - Bridge deck sections (D22) and support sections (D13).
- Note:**

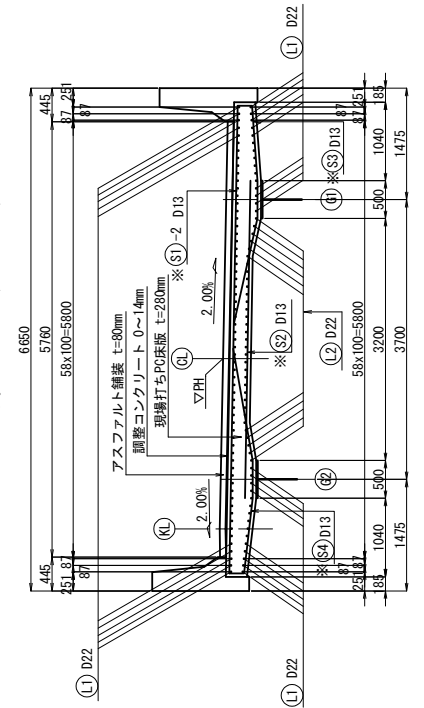
注：()内数値はSR側を示す。

道東自動車道				
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事				
図面の種類	占冠P.Aランブリ橋 床版配筋図（その３）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

桁端部断面図 (S1)



中間部断面図(C1~C8)

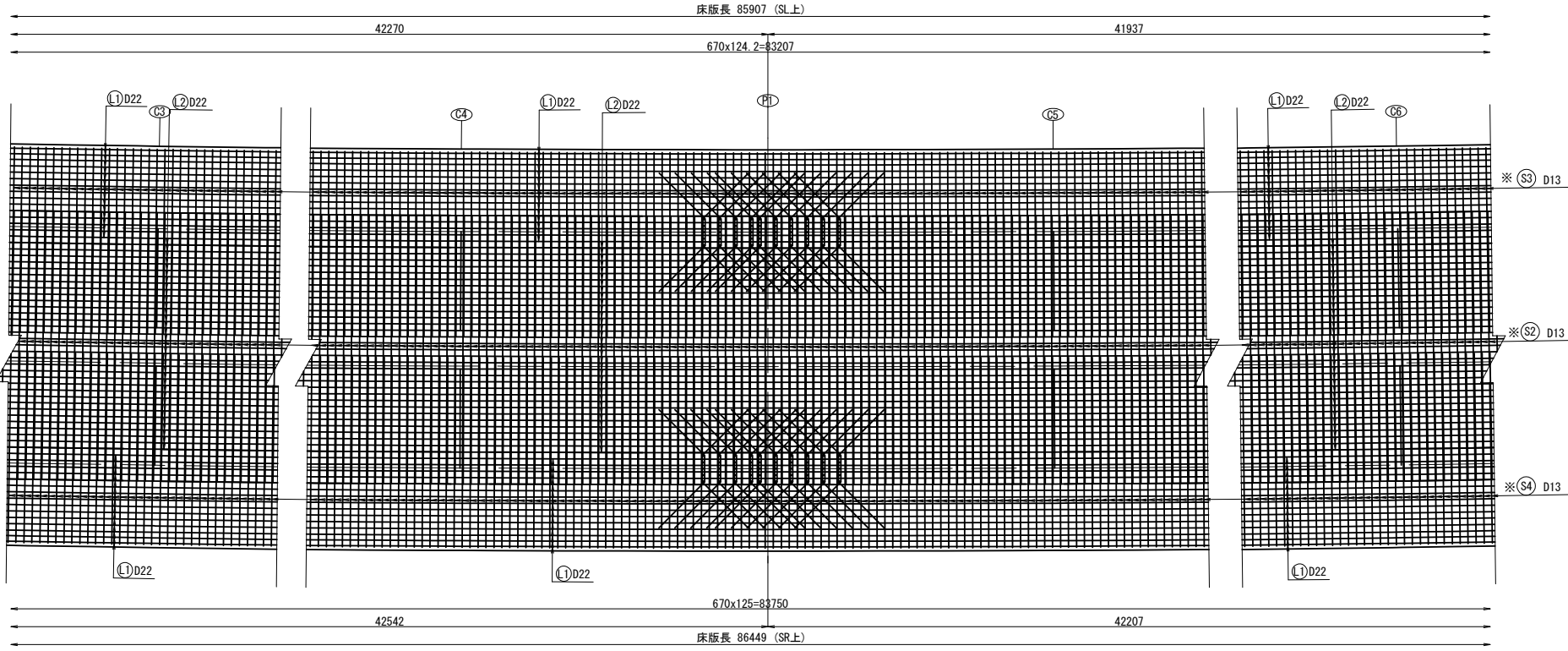


Technical drawing of a bridge deck cross-section. The drawing shows a horizontal section with various dimensions and reinforcement details. Key dimensions include a total width of 8590.7 mm (86449 mm) and a deck width of 670x124.2 mm (670x125=83750 mm). Reinforcement details include D13 bars (S1, S2, S3) and D22 bars (L1, L2, L3). The drawing also shows the location of the bridge piers (A1, C1, C2) and the bridge deck (床版長 8590.7 (86449)).

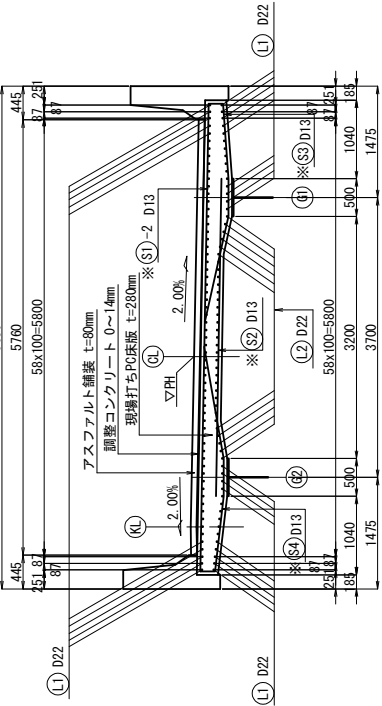
Technical drawing of a machine bed (床版) showing dimensions and component locations. The drawing is a side view of a long, narrow rectangular bed. Key dimensions include a total length of 43120 (top), 42787 (top right), 43392 (bottom left), and 43057 (bottom right). A central vertical line is labeled "床版長 85907 (SL上)". On the left side, there are labels for components: SL, CL, SR, G1, G2, and a shaded area labeled "C1". On the right side, there are labels for components: C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, and S2. The drawing also shows a series of vertical lines and a dashed line running through the center.

道東自動車道				
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事				
図面の種類		占冠P.Aランブリ橋		
床版配筋図（その４）				
縮	尺	図 示	図面番号	-
設計会社名		株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名				
事務所名		東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

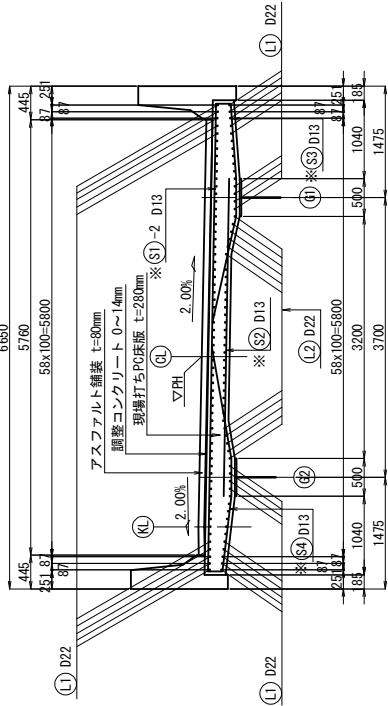
下面



中間部断面図 (C1~C8)

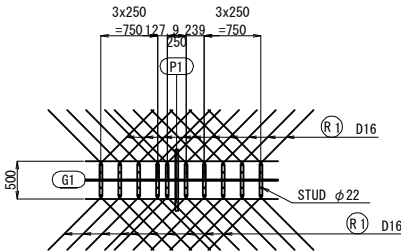


中間支点部断面図 (P1)

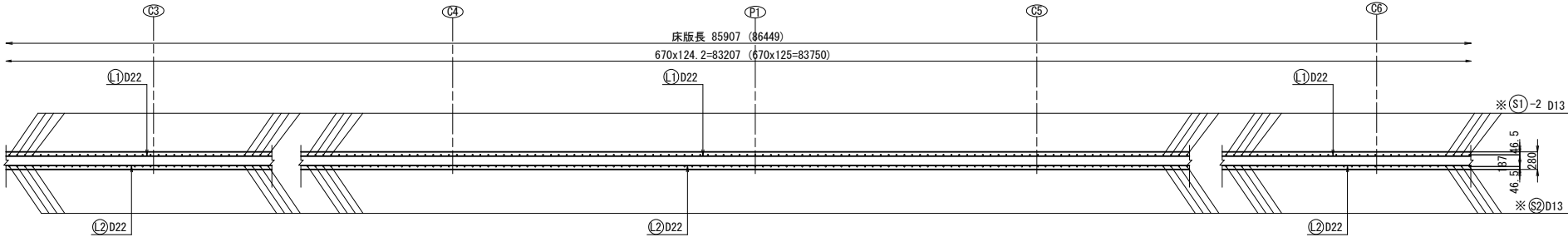


ジベル補強筋詳細

P1側, G1上



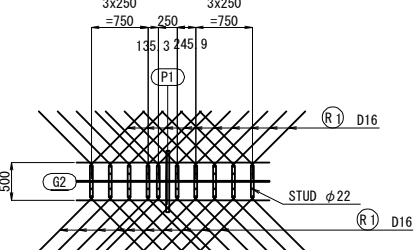
側面図



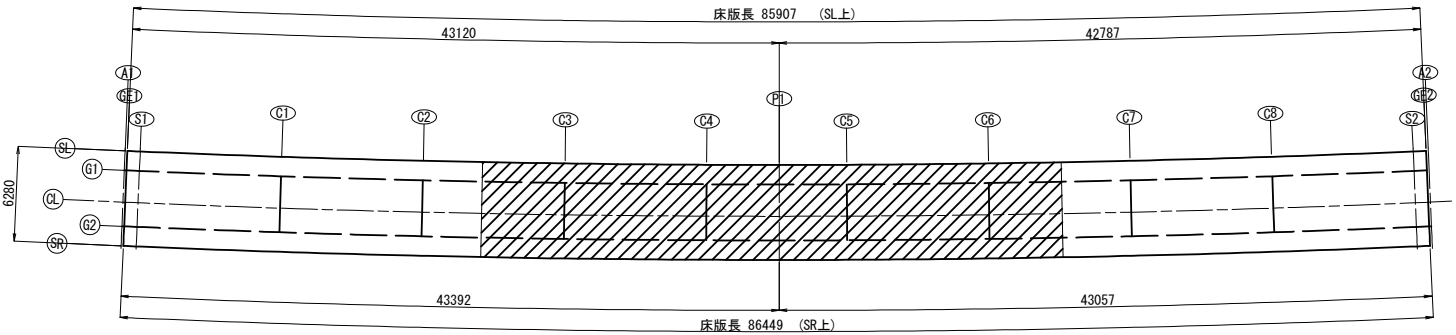
注：() 内数値はSR側を示す。

ジベル補強筋詳細

P1側, G2上



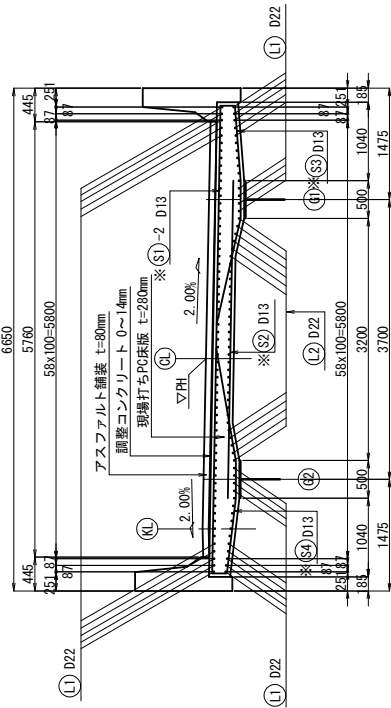
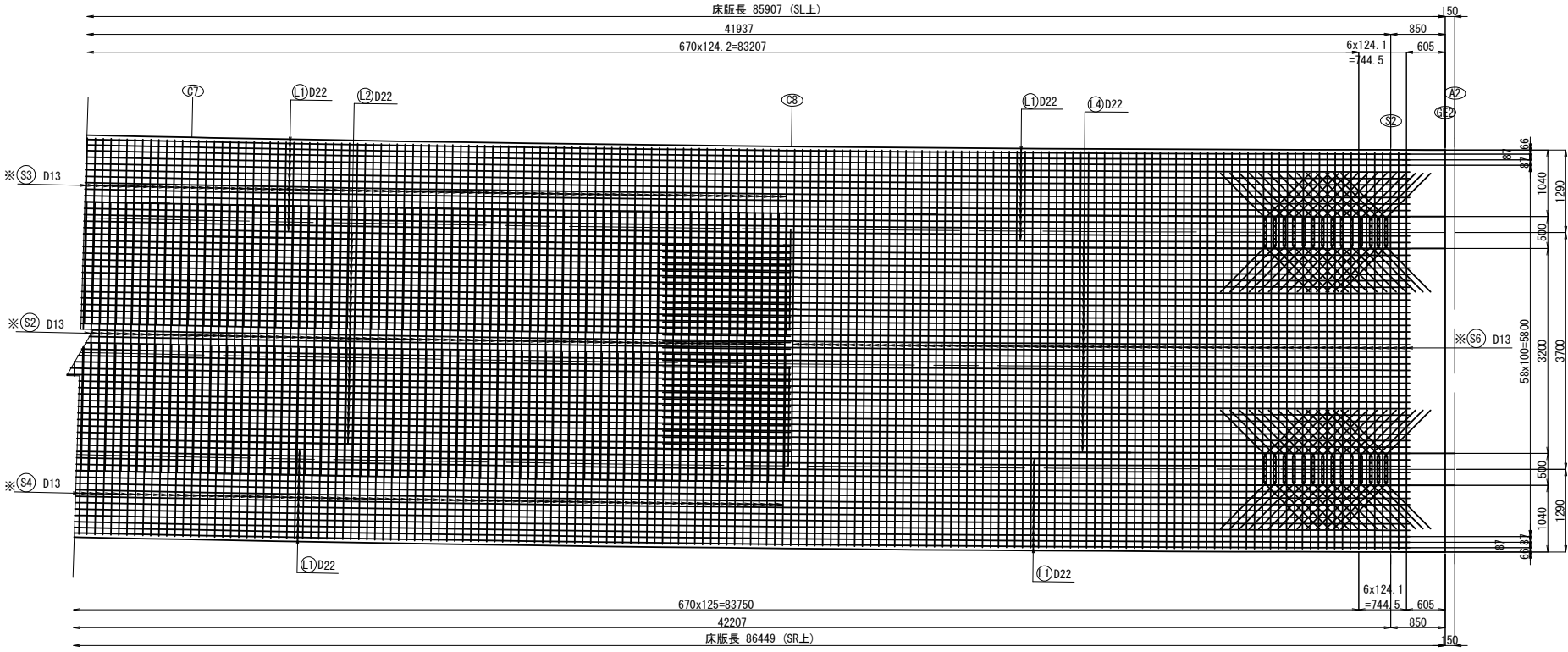
平面図



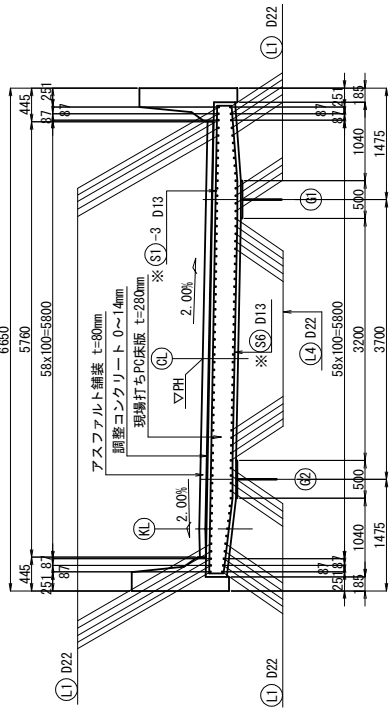
道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋			
床版配筋図（その5）			
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

下面

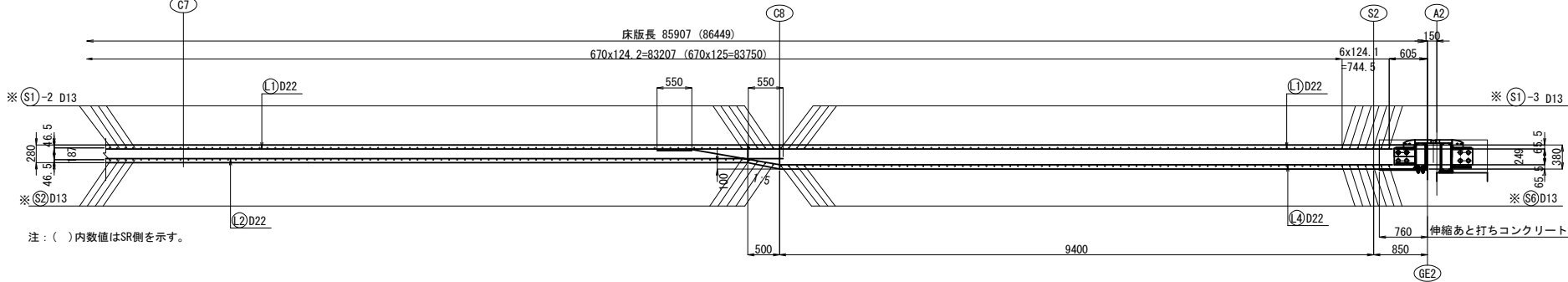
中間部断面図 (C1~C8)



桁端部断面図 (S2)

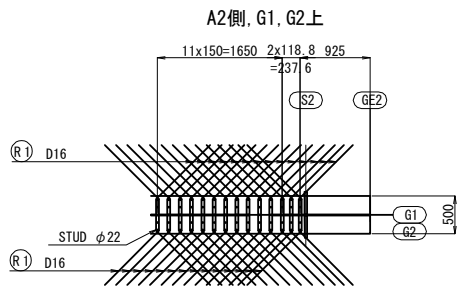


側面図

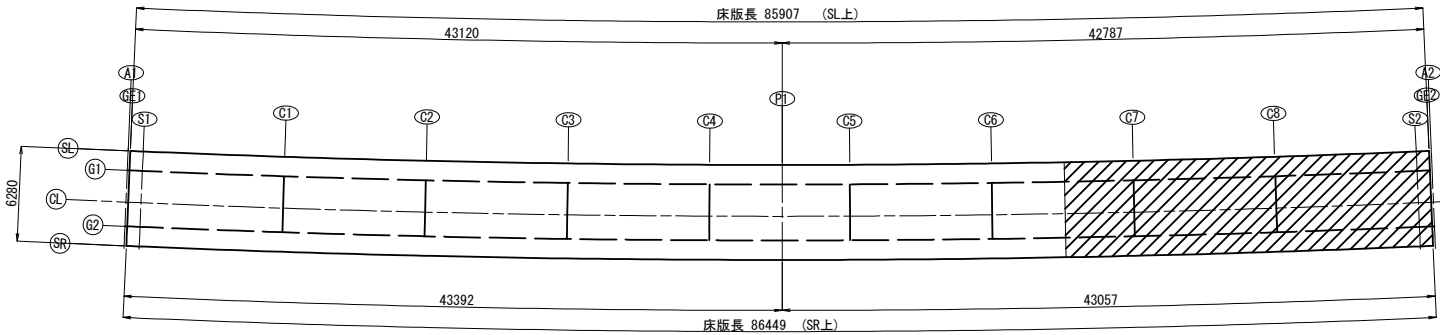


注：()内数値はSR側を示す。

ジベル補強筋詳細

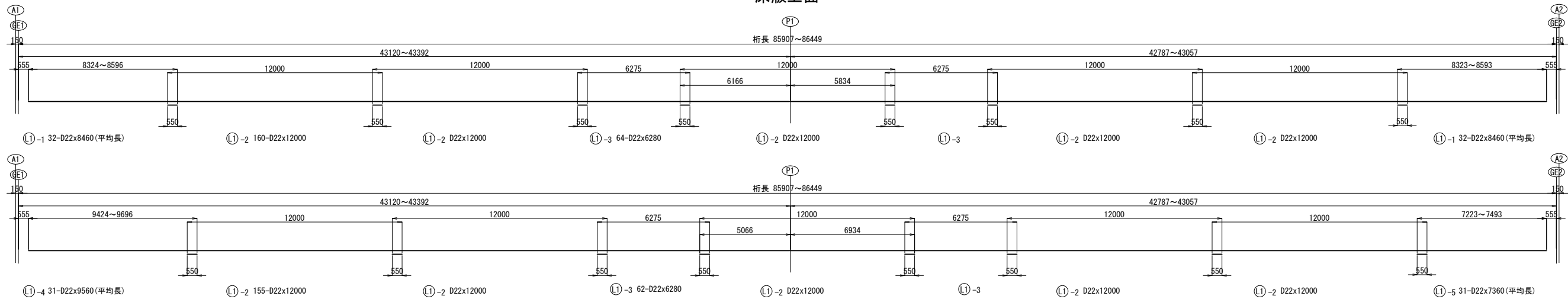


平面図

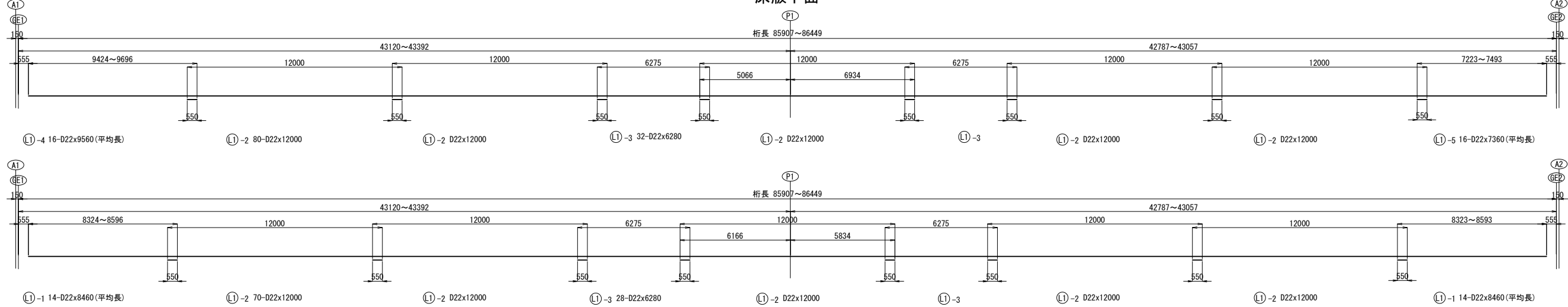
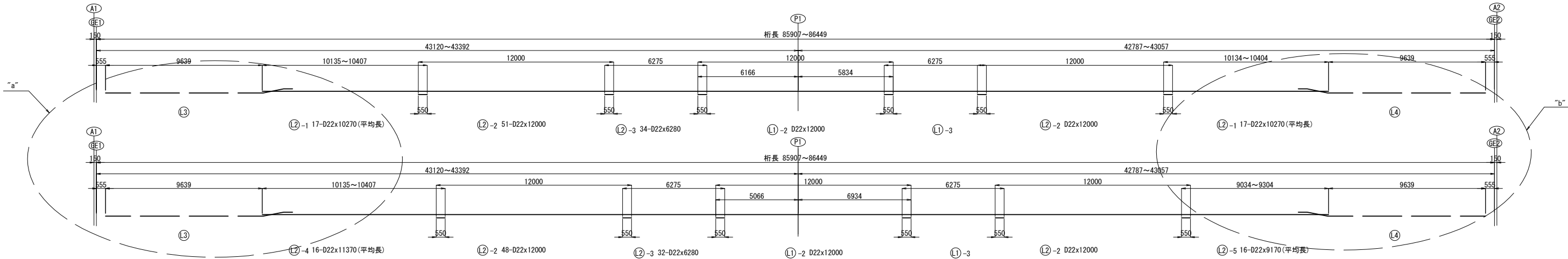


道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋			
床版配筋図（その6）			
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

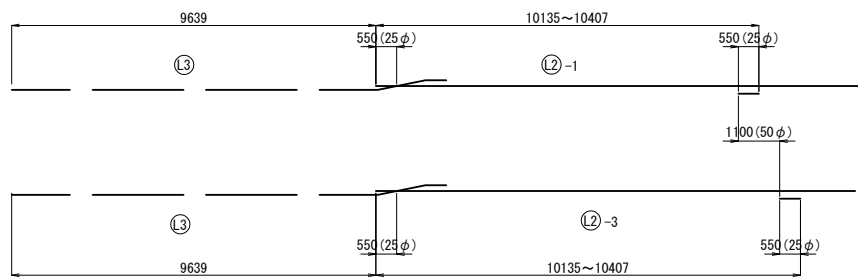
床版上面



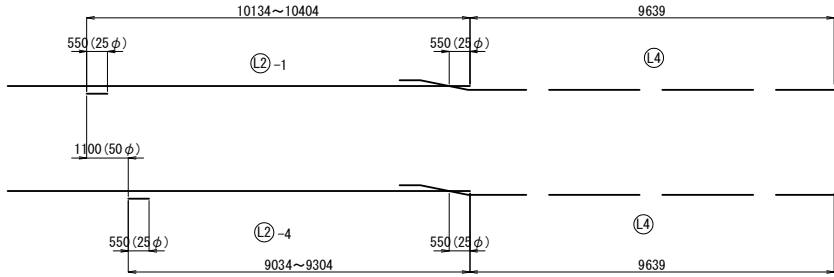
床版下面



“a”部詳細図 S=1:200

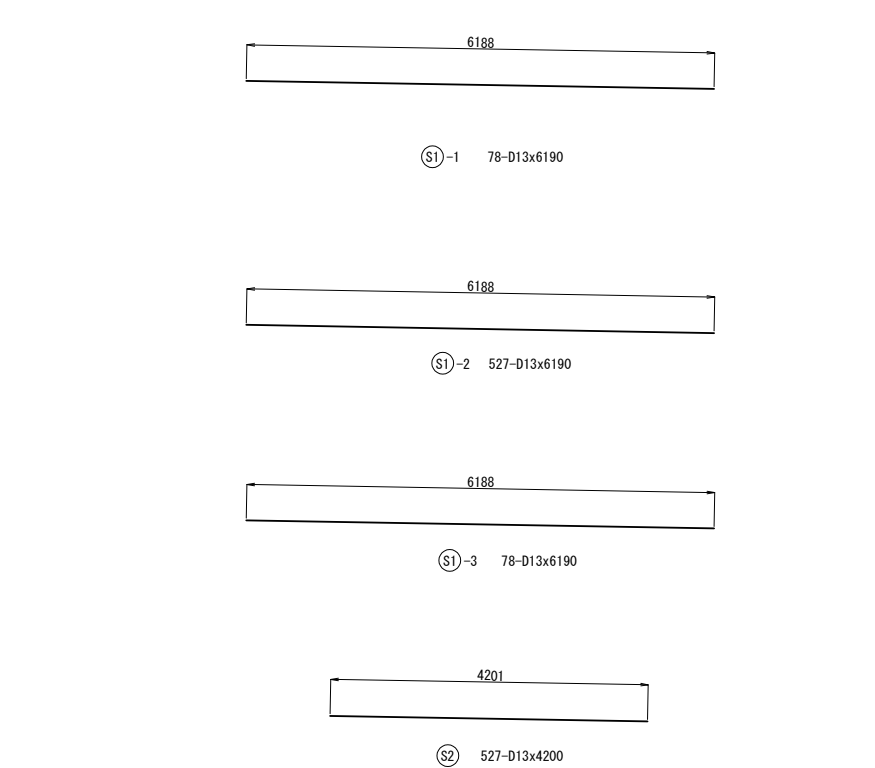
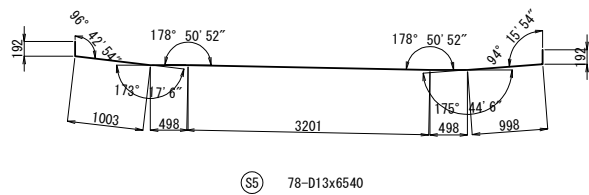
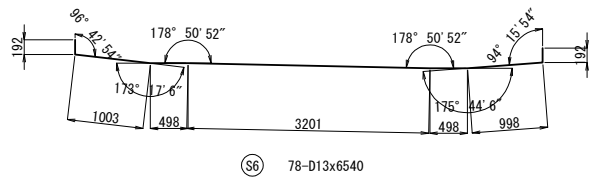
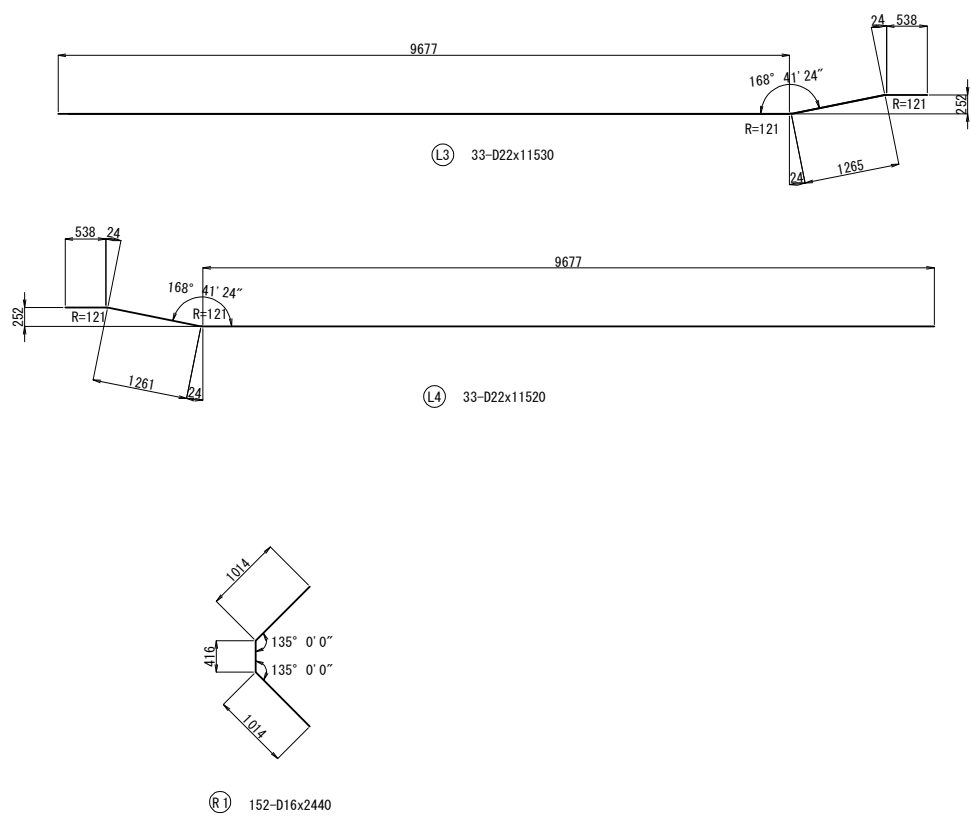


“b”部詳細図 S=1:200

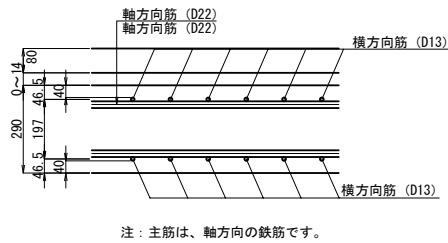


注記
1. 特記なき鉄筋材質は、SD345とする。
2. コンクリート強度は $\sigma_{ck}=40\text{N/mm}^2$ とする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋			
床版配筋図（その7）			
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



かぶり詳細図 S=1:25



注：主筋は、軸方向の鉄筋です。

鉄筋表

							(1橋当たり)
記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
※ S1-1	D13	6190	78	0.995	6.16	480	—————
※ S1-2	D13	6190	527	0.995	6.16	3246	—————
※ S1-3	D13	6190	78	0.995	6.16	480	—————
※ S2	D13	4200	527	0.995	4.18	2203	—————
※ S3	D13	3100	527	0.995	3.08	1623	—————
※ S4	D13	3170	527	0.995	3.15	1660	—————
※ S5	D13	6540	78	0.995	6.51	508	—————
※ S6	D13	6540	78	0.995	6.51	508	—————
L1-1	D22	8460	92	3.04	25.7	2364	————— 平均長
L1-2	D22	12000	465	3.04	36.5	16973	—————
L1-3	D22	6280	186	3.04	19.1	3553	—————
L1-4	D22	9560	47	3.04	29.1	1368	————— 平均長
L1-5	D22	7360	47	3.04	22.4	1053	————— 平均長
L2-1	D22	10270	34	3.04	31.2	1061	————— 平均長
L2-2	D22	12000	99	3.04	36.5	3614	—————
L2-3	D22	6280	66	3.04	19.1	1261	—————
L2-4	D22	11370	16	3.04	34.6	554	—————
L2-5	D22	9170	16	3.04	27.9	446	————— 平均長
L3	D22	11530	33	3.04	35.1	1158	—————
L4	D22	11520	33	3.04	35.0	1155	—————
R1	D16	2440	152	1.56	3.81	579	—————
							45847 kg
							SD345 鉄筋 D22 34560 kg
							SD345 鉄筋 D16 579 kg
エポキシ樹脂塗装鉄筋 SD345 鉄筋 ※ D13							10708 kg
SD345 合計							45847 kg
							コンクリート体積 123.1 m3
							型枠面積 496.7 m2

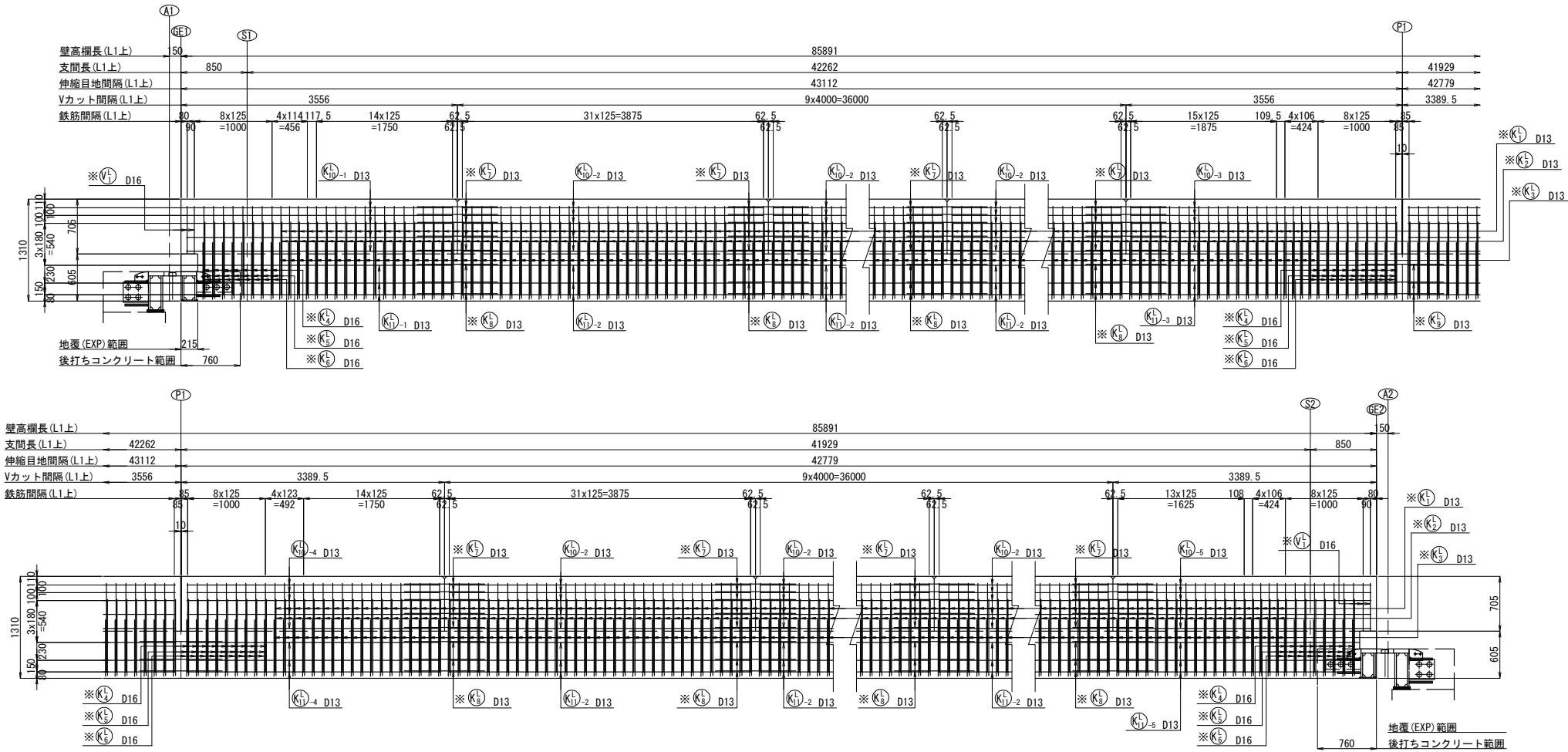
注) ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

鉄筋曲げ加工表

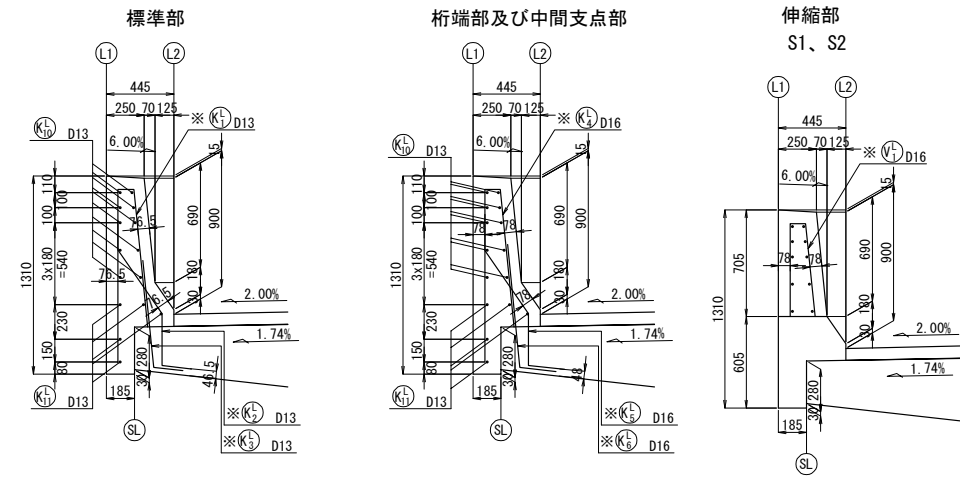
径	R=3φ	5.5φ	θ=45°		θ=60°		θ=90°		θ=135°	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
			φ	φ	φ	φ	φ	φ	φ	φ
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋 床版配筋図（その8）			
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社	日本橋造橋梁研究所	
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

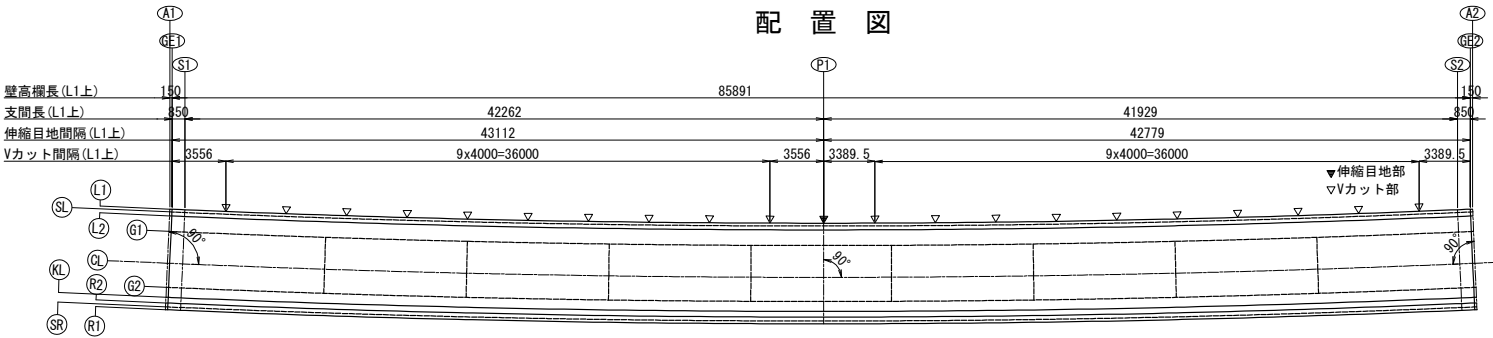
L側



断面図 S=1:50

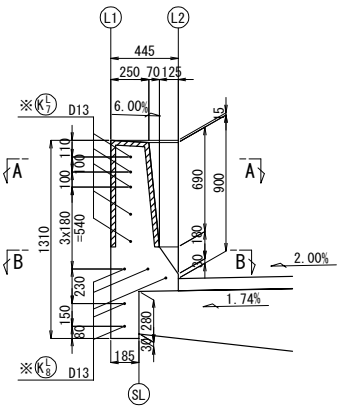


配置図

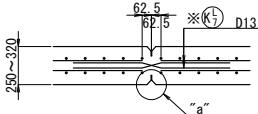


Vカット部詳細図 S=1:50

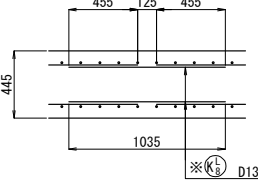
箇所: 20



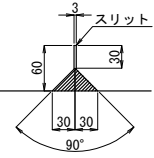
A - A



B - B

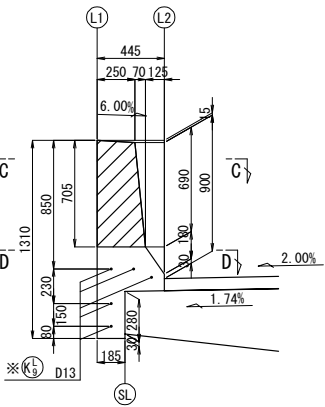


"a"部詳細図 S=1:10

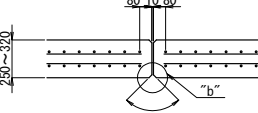


伸縮目地部詳細図 S=1:50

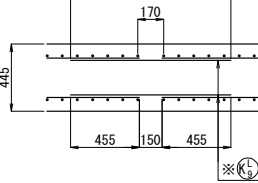
箇所: 1



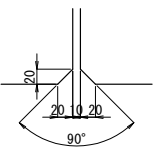
C - C



D - D



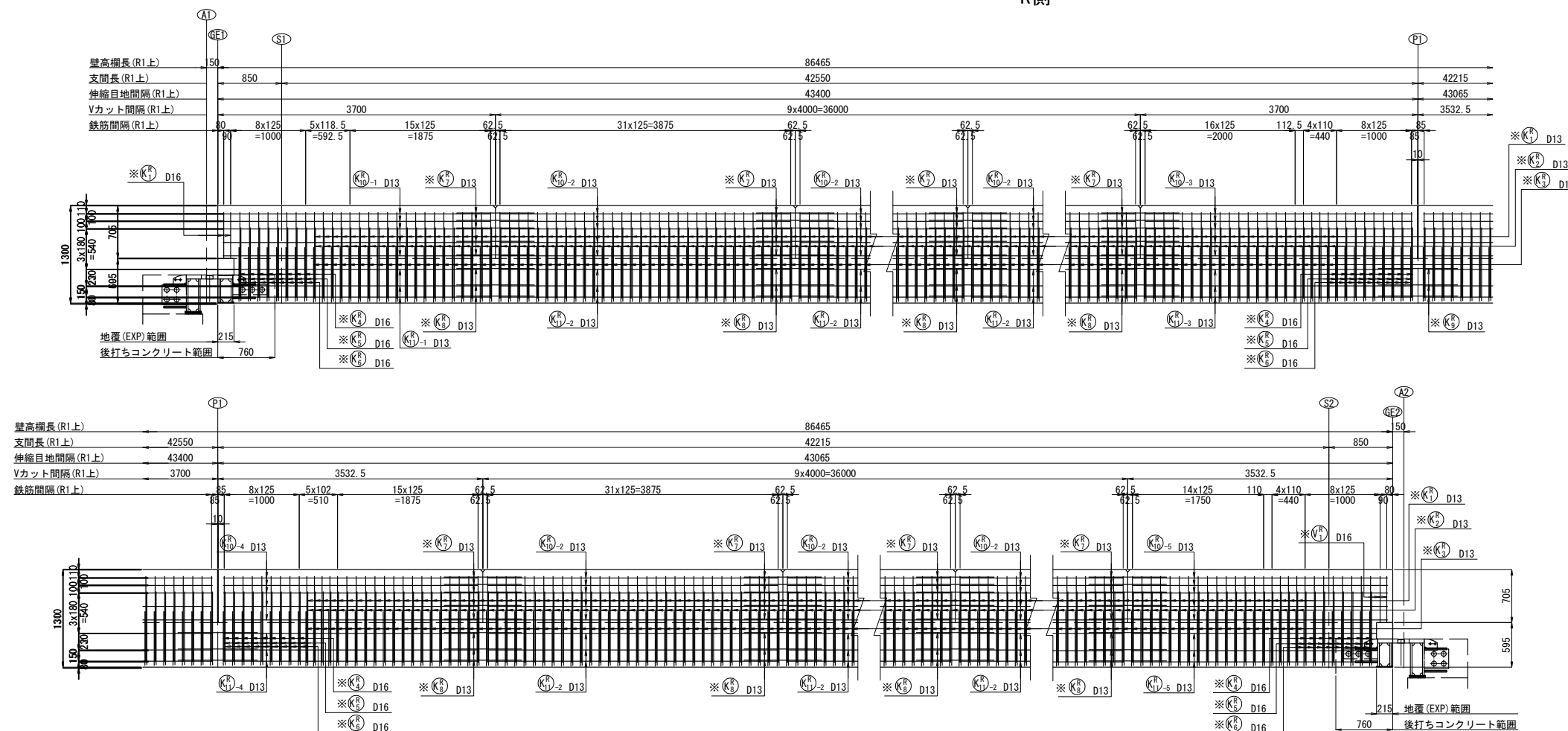
"b"部詳細図 S=1:10



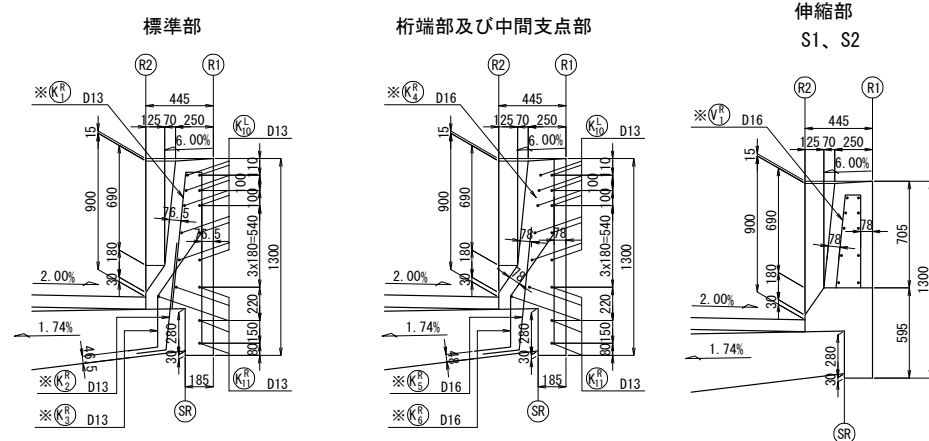
- 注記
1. 特記なき鉄筋材質は、SD345とする。
 2. コンクリート強度は $\sigma_{ok}=30N/mm^2$ とする。
 3. ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 壁高欄配筋図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

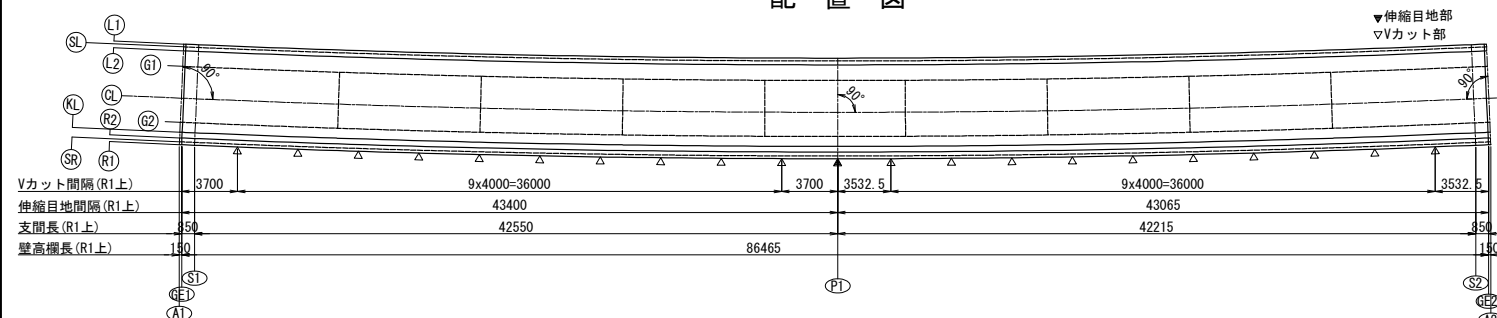
R側



断面图 S=1:50

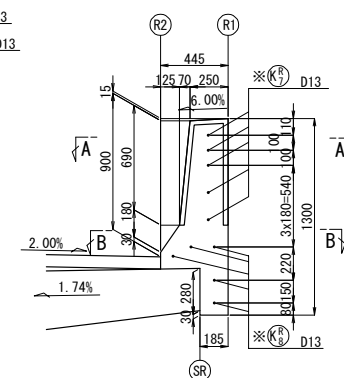
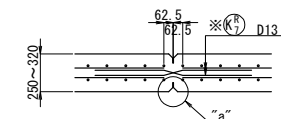


配置図

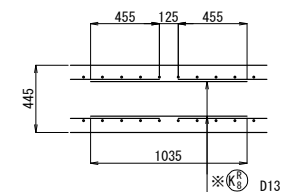


Vカット部詳細図 S=1:50

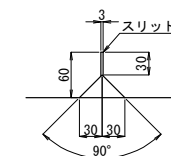
箇所：20


$$A - A$$


B - B

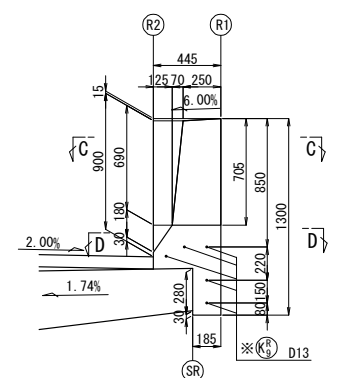
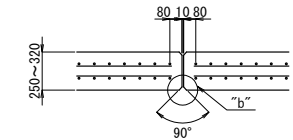


“a”部詳細図 S=1:10

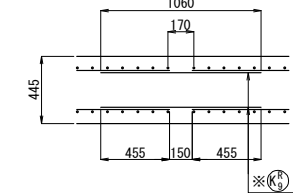


伸縮目地部詳細図 S=1:50

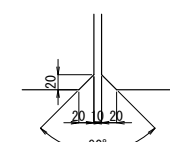
箇所：1


$$C = C$$


D - D



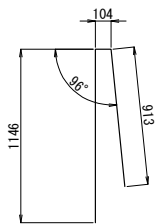
“b”部詳細図 S=1:10



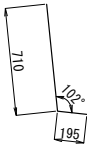
- 注記
1. 特記なき鉄筋材質は、SD345とする。
2. コンクリート強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ とする。
3. ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

<p>道東自動車道 本流鵜川第一橋（鏡上土工）工事</p>				
<p>占冠Aランプ橋</p>				
<p>壁高補配筋図（その２）</p>				
図面の種類				
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	<p>東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所</p>			

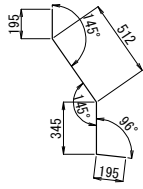
L 側 鉄 筋 加 工 図



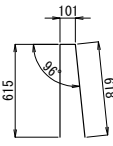
※ KL1 651-D13×2120



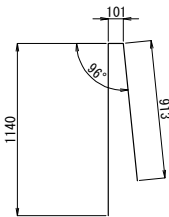
※ KL2 651-D13×890



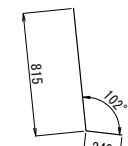
※ KL3 651-D13×1220



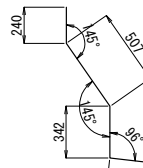
※ KL4 4-D16×1280



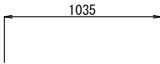
※ KL5 34-D16×2100



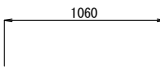
※ KL6 34-D16×1030



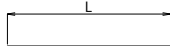
※ KL7 34-D16×1300



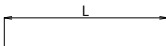
※ KL8 100-D13×1040



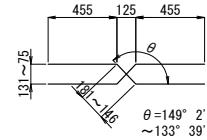
※ KL9 5-D13×1060



KL10-1	L	LL	N
KL10-1	3424	3420	10
KL10-2	3875	3880	180
KL10-3	3419	3420	10
KL10-4	3252	3250	10
KL10-5	3257	3260	10

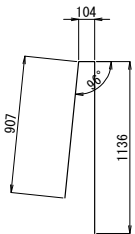


KL11-1	L	LL	N
KL11-1	3278	3280	5
KL11-2	3875	3880	90
KL11-3	3419	3420	5
KL11-4	3252	3250	5
KL11-5	3112	3110	5

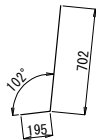


※ KL12 200-D13×1070 (平均長)

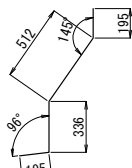
R 側 鉄 筋 加 工 図



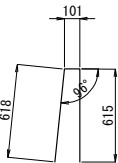
※ KR1 656-D13×2110



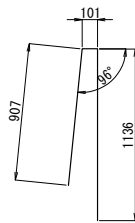
※ KR2 656-D13×880



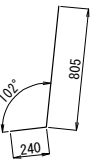
※ KR3 656-D13×1210



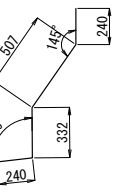
※ KR4 4-D16×1280



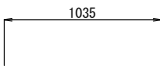
※ KR5 34-D16×2090



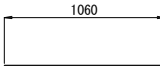
※ KR6 34-D16×1020



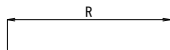
※ KR7 34-D16×1290



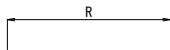
※ KR8 100-D13×1040



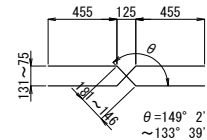
※ KR9 5-D13×1060



KR10-1	L	RR	N
KR10-1	3568	3570	10
KR10-2	3875	3880	180
KR10-3	3563	3560	10
KR10-4	3395	3400	10
KR10-5	3400	3400	10



KR11-1	L	RR	N
KR11-1	3353	3350	5
KR11-2	3875	3880	90
KR11-3	3563	3560	5
KR11-4	3395	3400	5
KR11-5	3185	3190	5



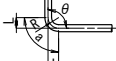
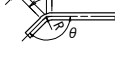
※ KR12 200-D13×1070 (平均長)

L側鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
KL1	D13	2120	651	0.995	2.11	1374	∥
KL2	D13	890	651	0.995	0.886	577	∖
KL3	D13	1220	651	0.995	1.21	788	∖
KL4	D16	2100	34	1.56	3.28	112	∥
KL5	D16	1030	34	1.56	1.61	55	∖
KL6	D16	1300	34	1.56	2.03	69	∖
KL7	D13	1070	200	0.995	1.06	212	∖ (平均長)
KL8	D13	1040	100	0.995	1.03	103	∖
KL9	D13	1060	5	0.995	1.05	5	∖
VL1	D16	1280	4	1.56	2.00	8	∥
KL10-1	D13	3420	10	0.995	3.40	34	∖
KL10-2	D13	3880	180	0.995	3.86	695	∖
KL10-3	D13	3420	10	0.995	3.40	34	∖
KL10-4	D13	3250	10	0.995	3.23	32	∖
KL10-5	D13	3260	10	0.995	3.24	32	∖
KL11-1	D13	3280	5	0.995	3.26	16	∖
KL11-2	D13	3880	90	0.995	3.86	347	∖
KL11-3	D13	3420	5	0.995	3.40	17	∖
KL11-4	D13	3250	5	0.995	3.23	16	∖
KL11-5	D13	3110	5	0.995	3.09	15	∖
合計						4541 kg	
鉄筋質量							
エポキシ樹脂塗装鉄筋				D16		244 kg	
エポキシ樹脂塗装鉄筋				D13		3059 kg	
						D13	1238 kg
合計						4541 kg	
コンクリート体積 $\sigma_{ck}=30N/mm^2$						32.27 m3	
型枠面積						219.60 m2	
伸縮目地材						0.20 m2	
Vカット延長体積						0.03 m3	

R側鉄筋表

記号	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	備考
KR1	D13	2110	656	0.995	2.10	1378	∥
KR2	D13	880	656	0.995	0.876	575	∖
KR3	D13	1210	656	0.995	1.20	787	∖
KR4	D16	2090	34	1.56	3.26	111	∥
KR5	D16	1020	34	1.56	1.59	54	∖
KR6	D16	1290	34	1.56	2.01	68	∖
KR7	D13	1070	200	0.995	1.06	212	∖ (平均長)
KR8	D13	1040	100	0.995	1.03	103	∖
KR9	D13	1060	5	0.995	1.05	5	∖
VR1	D16	1280	4	1.56	2.00	8	∥
KR10-1	D13	3570	10	0.995	3.55	36	∖
KR10-2	D13	3880	180	0.995	3.86	695	∖
KR10-3	D13	3560	10	0.995	3.54	35	∖
KR10-4	D13	3400	10	0.995	3.38	34	∖
KR10-5	D13	3400	10	0.995	3.38	34	∖
KR11-1	D13	3350	5	0.995	3.33	17	∖
KR11-2	D13	3880	90	0.995	3.86	347	∖
KR11-3	D13	3560	5	0.995	3.54	18	∖
KR11-4	D13	3400	5	0.995	3.38	17	∖
KR11-5	D13	3190	5	0.995	3.17	16	∖
合計						4550 kg	
鉄筋質量							
エポキシ樹脂塗装鉄筋				D16		241 kg	
エポキシ樹脂塗装鉄筋				D13		3060 kg	
				D13		1249 kg	
合計						4550 kg	
コンクリート体積 σ _{ck} =30N/mm2						32.23 m3	
型枠面積						220.19 m2	
伸縮目地材						0.20 m2	
Vカット延長体積						0.03 m3	

鉄筋加工寸法表						
$\theta \leq 90^\circ$ $R = 3\phi$				$\theta > 90^\circ$ $R = 5.5\phi$		
						
$\Delta L = 2L - a$						
径	$\theta = 90^\circ$			$\theta = 135^\circ$		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4

注記
1. 特記なき鉄筋材質は、SD345とする。
2. コンクリート強度はσck=30N/mm2とする。
3. ※印鉄筋は、エポキシ樹脂塗装鉄筋とする。

道東自動車道 本流川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 壁高欄配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

占冠PAランプ橋 支承詳細図（その1） S= 1:20

46 / 85

（占冠PAランプ橋 A1、A2）(E-10)

設計条件

設計方法	設計方法	A1	A2
最大反力 耐久性	R_{max}	1609 kN	1594 kN
最大鉛直圧縮力 耐荷性-変動支配 γ_b, γ_q 考慮	R_{max}'	1814 kN	1799 kN
死荷重反力 耐荷性-偶発支配 γ_p, γ_q 考慮	R_d'	968 kN	955 kN
設計水平力 耐荷性-偶発支配	橋軸方向 R_{Heq1}	663 kN	629 kN
	直角方向 R_{Heq2}	551 kN	538 kN
設計変位 耐久性	ΔL	44 mm	43 mm
	橋軸方向 ΔL_{e1}	±190 mm	±183 mm
	直角方向 ΔL_{e2}	±163 mm	±160 mm
設計鉛直力 耐荷性-偶発支配	下向き力 R_{bmax}	1911 kN	1869 kN
	上向き力 R_{bmin}	-290 kN	-286 kN
支承タイプ	免震ゴム支承		
せん断弾性係数	G_e	1.2 N/mm ²	
一次形状係数	S_1	7.820	
二次形状係数	S_2	5.556	
せん断ひずみの制限値	耐荷性-偶発支配 γ_s	250 %	

力学特性試験条件

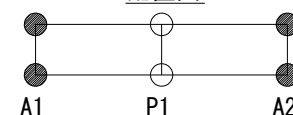
試験時鉛直荷重	耐久性	最大反力 R_{max}	R	1609 kN	1594 kN
回転照査時最大反力 耐久性	R_r	1430 kN	1419 kN		
照査荷重 耐久性	$R_{0.51+i}$	319 kN	318 kN		
死荷重 耐久性	R_d'	922 kN	909 kN		
回転変位量	δ_r	0.500 mm	0.495 mm		
照査荷重時圧縮変位量	δ_L	0.290 mm	0.289 mm		
圧縮剛性	K_v	1101 kN/mm	1101 kN/mm		
せん断変形試験					
試験時鉛直荷重	R_d または面圧6N/mm ²	R		1408 kN	
試験変位	175%時	U_{Be}		158 mm	
等価剛性	175%時	K_b		3.372 kN/mm	
等価減衰定数	175%時	h_b		14.5 %	

材料表

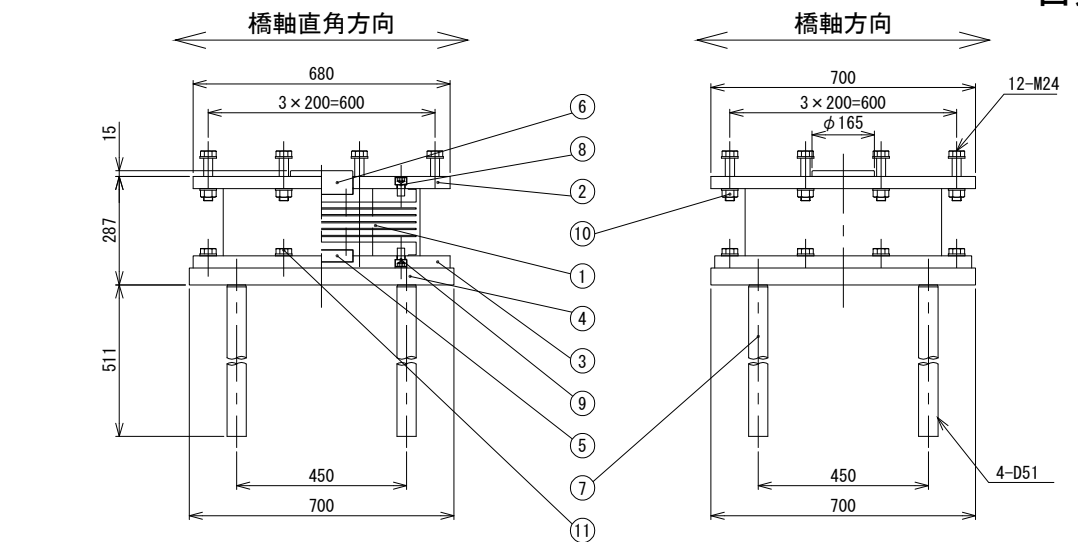
部番	品名	材質	個数	質量(kg)	備考
1	L R B	NR+SM490A+Pb	1	213.9	$G_0=1.2 \text{ N/mm}^2$
②	上 査	SM490A	1	111.2	
③	下 査	SM490A	1	110.5	
④	ベースプレート	SM490A	1	169.4	
⑤	せん断キー (1)	SM490A	1	10.6	
⑥	せん断キー (2)	SM490A	1	5.2	
7	下部アンカーボルト	SD345	4	34.7	鉄筋防錆剤塗布
8	六角穴付きボルト(上側)	-	8	1.0	JIS B 1176
9	六角穴付きボルト(下側)	-	8	1.0	JIS B 1176
⑩	六角ボルト	-	12	(7.6)	JIS B 1180 平座金付
⑪	六角ボルト	-	12	4.2	JIS B 1180 平座金付
全質量				669.3 (kg)	
一般外面の防食処理					
金属溶射	アルミニウム・マグネシウム合金溶射+フッ素樹脂塗装上塗り				

- 注1) ○ 印は金属溶射仕様とする
 注2) ◎ 印はSGめっき仕様とする
 注3) L R Bの質量は、参考質量とする
 注4) 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること
 注5) 六角穴付ボルトは黒色酸化皮膜処理とする
 注6) アンカーボルトは無塗装とし、ねじ込み後樹脂系シーリング処理とする
 ねじ部から10mm程度の範囲を高濃度亜鉛末塗装とする

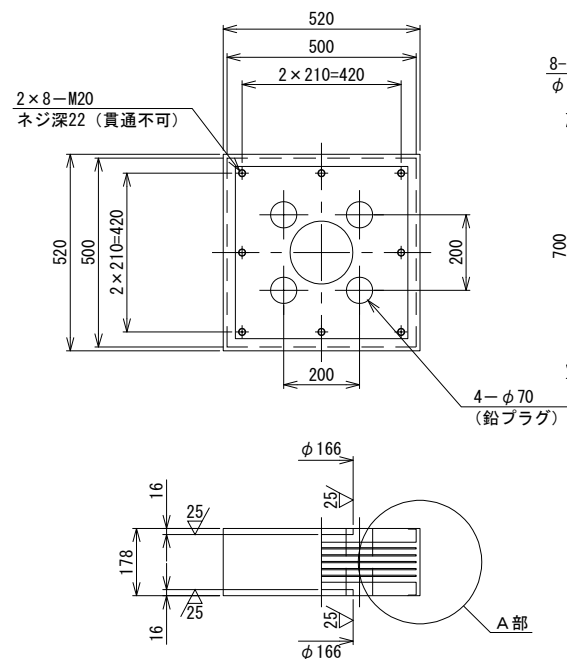
配置図



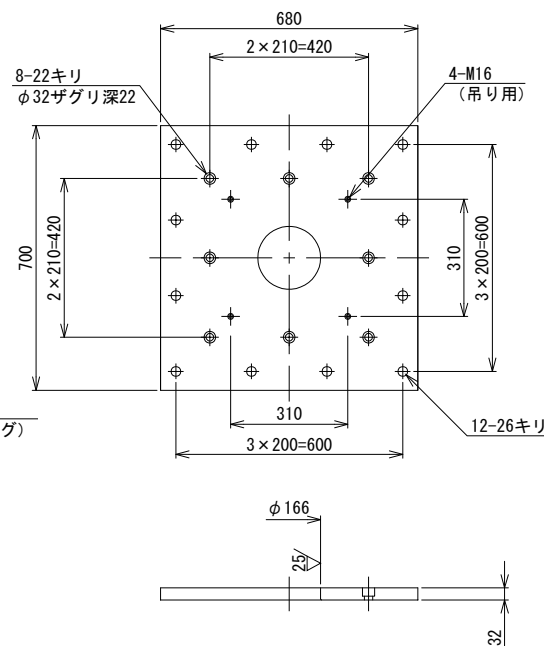
道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 支承詳細図（その1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



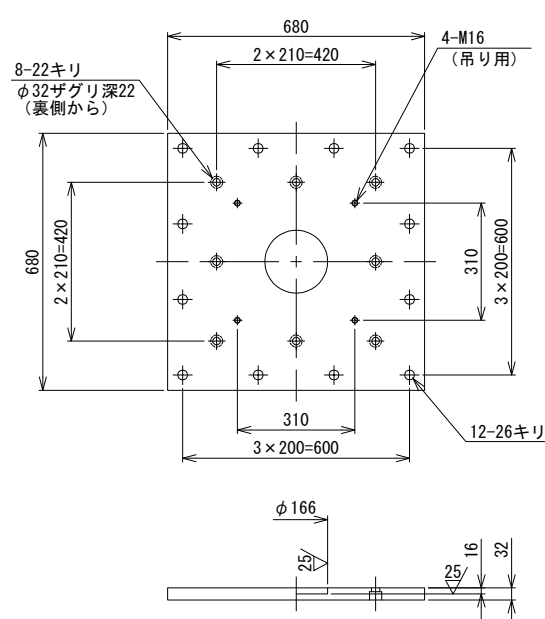
① $\nabla \left(\frac{25}{\nabla} \right)$ NR+SM490A+Pb



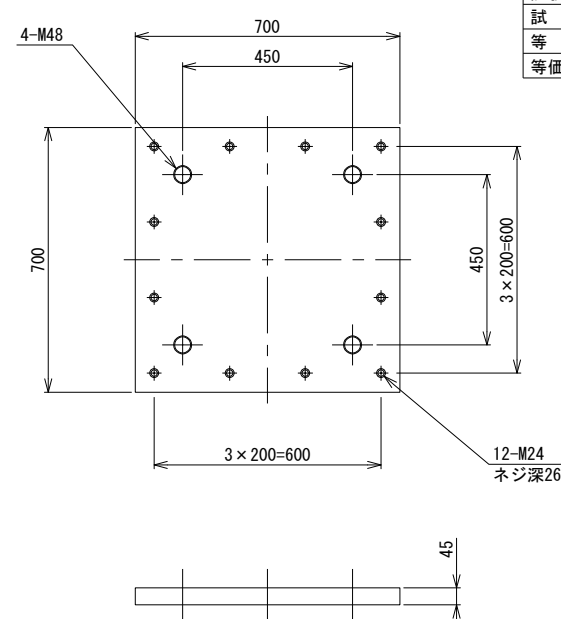
② $\nabla \left(\frac{25}{\nabla} \right)$ SM490A



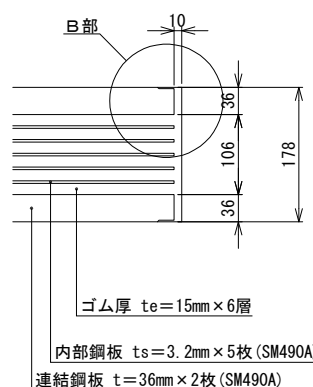
③ $\nabla \left(\frac{25}{\nabla} \right)$ SM490A



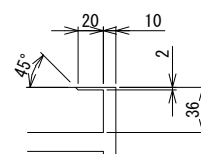
④ $\nabla \left(\frac{25}{\nabla} \right)$ SM490AまたはSCW480N



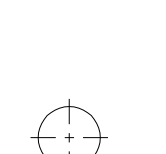
A部詳細 S=1:10



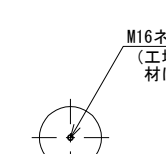
B部詳細 S=1:6



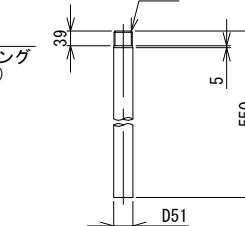
⑤ $\nabla \left(\frac{25}{\nabla} \right)$ SM490A



⑥ $\nabla \left(\frac{25}{\nabla} \right)$ SM490A

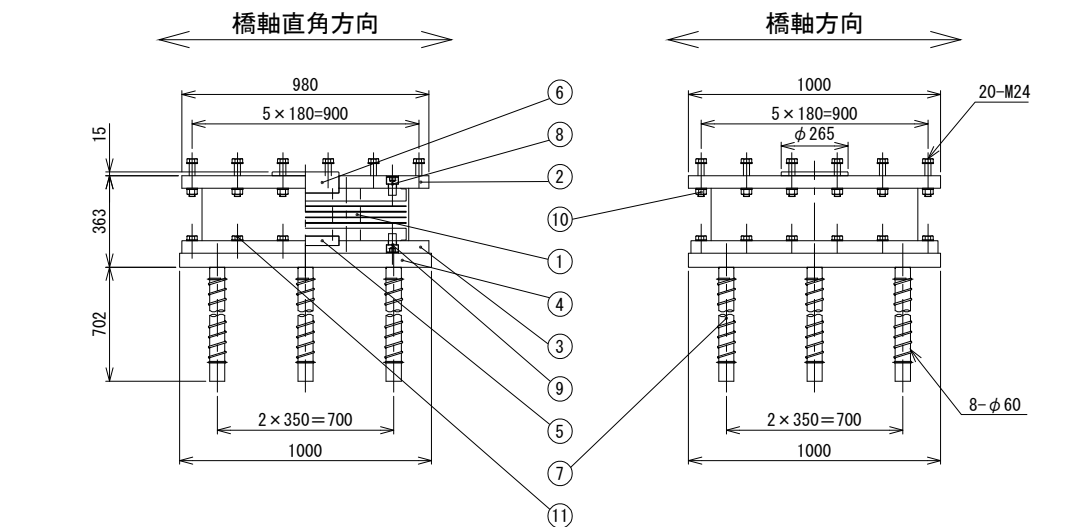
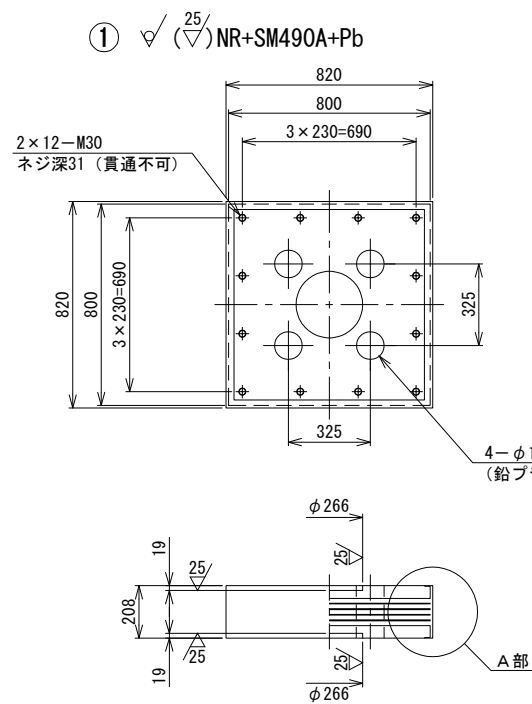


⑦ $\nabla \left(\frac{25}{\nabla} \right)$ SD345

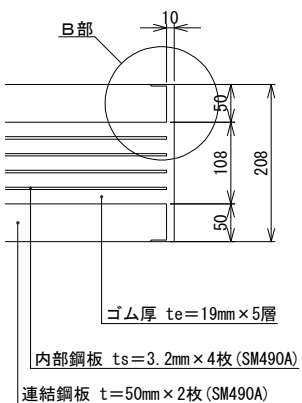
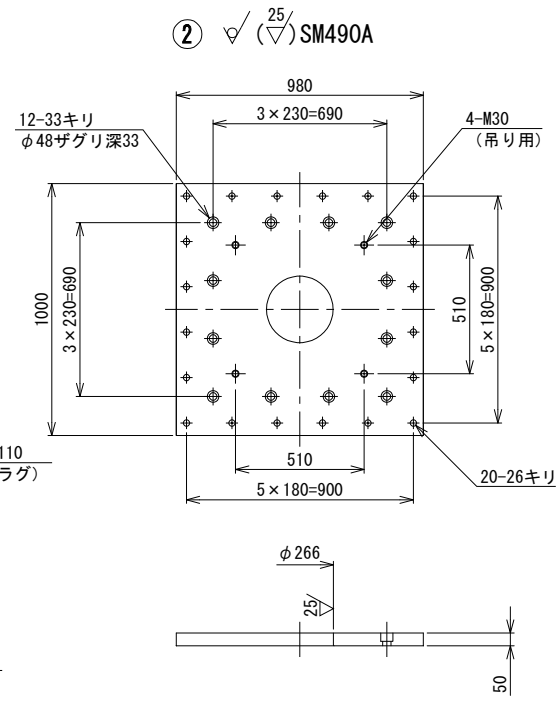


- ⑧ 六角穴付きボルト（上側） M20×30 12.9
 ⑨ 六角穴付きボルト（下側） M20×30 12.9
 ⑩ 六角ボルト 中 M24×(100) 8.8
 六角ナット 1種 中 M24 8
 （平座金2枚付き 22H）
 ⑪ 六角ボルト 中 M24×60 8.8
 （平座金付き 22H）

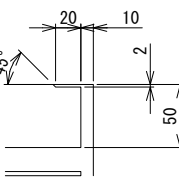
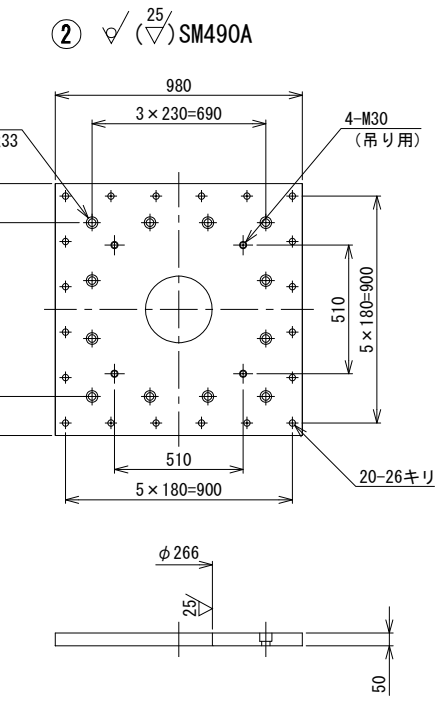
(占冠PAランプ橋 P1) (E-11)



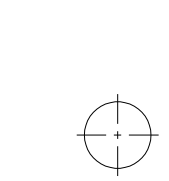
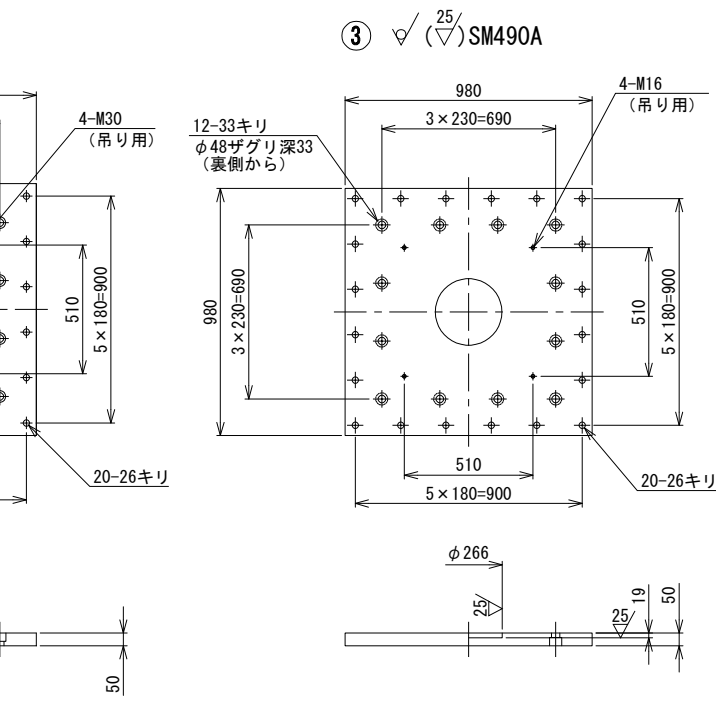
A部詳細 S=1:10



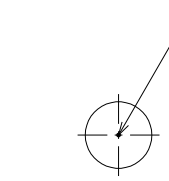
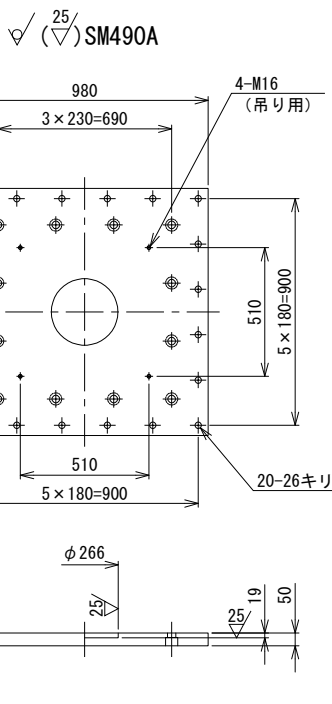
B部詳細 S=1:6



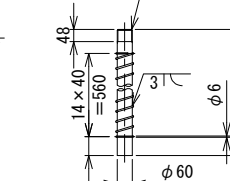
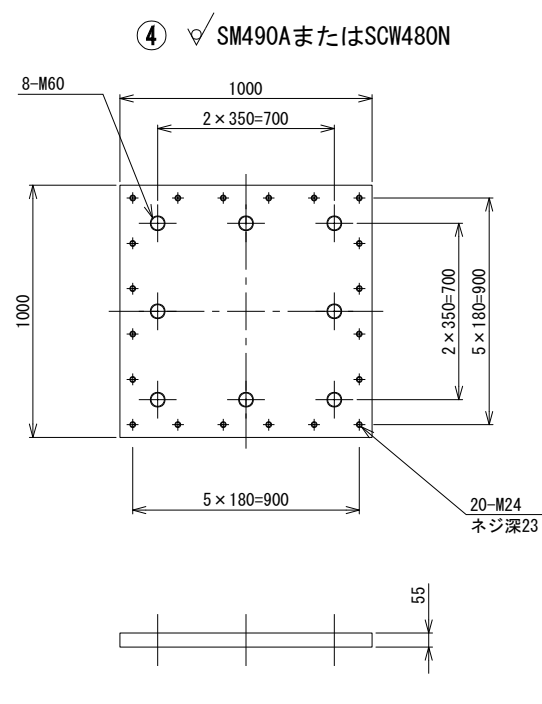
5 25/ SM490A



6 25/ SM490A



7 25/ S35CN+SR235



8 六角穴付きボルト (上側) M30×45 10.9

9 六角穴付きボルト (下側) M30×45 10.9

10 六角ボルト 中 M24×(100) 8.8

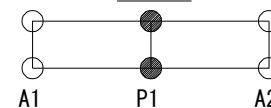
六角ナット 1種 中 M24 8

(平座金2枚付き 22H)

11 六角ボルト 中 M24×75 8.8

(平座金付き 22H)

配置図



設計条件

設 計 方 法		免震設計	
最大 反 力	耐久性	R_{max}	4085 kN
最大鉛直圧縮力	耐荷性-変動支配 γ_p, γ_q 考慮	R_{max}'	4503 kN
死 荷 重 反 力	耐荷性-偶発支配 γ_p, γ_q 考慮	R_d'	3000 kN
設 計 水 平 力	耐荷性-偶発支配	橋軸方向	R_{Heq1} 1319 kN
		直角方向	R_{Heq2} 1957 kN
設 計 変 位	耐久性	橋軸方向	ΔL 0 mm
	耐荷性-偶発支配	直角方向	ΔL_{e1} ± 160 mm
		下向き力	ΔL_{e2} ± 221 mm
設 計 鉛 直 力	耐荷性-偶発支配	下向き力	R_{bmax} 6262 kN
		上向き力	R_{bmin} -900 kN
免震ゴム支承			
支 承 タ イ プ		G_e	1.2 N/mm ²
せん断弾性係数		S_1	9.901
一次形状係数		S_2	8.421
二次形状係数		γ_s	250 %
せん断ひずみの制限値		耐荷性-偶発支配	

力学特性試験条件

圧縮試験			
試験時鉛直荷重	耐久性 最大反力 R_{max}	R	4085 kN
回転照査時最大反力	耐久性	R_r	3832 kN
照査荷重	耐久性	$R_{0.5 +i}$	— kN
死荷重	耐久性	R_d'	2857 kN
回転変位量		δ_r	0.532 mm
照査荷重時圧縮変位量		δ_L	— mm
圧縮剛性		K_v	3388 kN/mm
せん断変形試験			
試験時鉛直荷重	R_d または面圧6N/mm ²	R	3612 kN
試験変位	175%時	U_{Be}	± 166 mm
等価剛性	175%時	K_b	8.176 kN/mm
等価減衰定数	175%時	h_b	14.2 %

材料表

部番	品名	材質	個数	質量(kg)	備考
1	L R B	NR+SM490A+Pb	1	671.9	$G_e=1.2$ N/mm ²
2	上 査	SM490A	1	351.7	
3	下 査	SM490A	1	357.5	
4	ベースプレート	SM490A	1	420.4	
5	せん断キー(1)	SM490A	1	16.0	
6	せん断キー(2)	SM490A	1	36.4	
7	下部アンカーボルト	S35CN+SR235	8	139.2	鉄筋防錆剤塗布
8	六角穴付きボルト(上側)	—	12	6.0	JIS B 1176
9	六角穴付きボルト(下側)	—	12	6.0	JIS B 1176
10	六角ボルト	—	20	(12.7)	JIS B 1180 平座金付
11	六角ボルト	—	20	8.1	JIS B 1180 平座金付
全質量				2025.9	(kg)
一般外面の防食処理					
溶融亜鉛めっき 膜厚77μm以上, 49μm以上(ボルト類)					

注1) ○印は溶融亜鉛めっき仕様とする

JISH8841 HDZT77、ボルト類はHDZT49とする

注2) L R Bの質量は、参考質量とする

注3) 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること

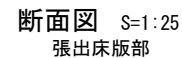
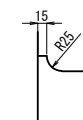
注4) 六角穴付きボルトは黒色酸化皮膜処理とする

注5) アンカーボルトは無塗装とし、ねじ込み後樹脂系シーリング処理とする

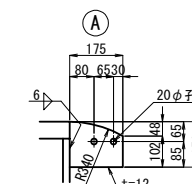
ねじ部から10mm程度の範囲を高温度亜鉛末塗装とする

道東自動車道			
本流鶴川第一橋(鋼上部工)工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 支承詳細図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	—
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名	—		
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

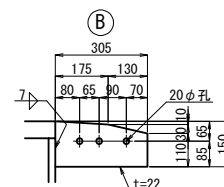
A1



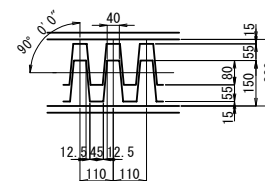
上部定着板詳細 S=1:25



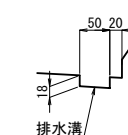
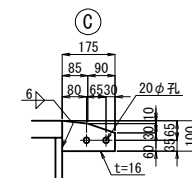
スノープラウ誘導板詳細 S=1:25



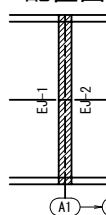
補助リブ詳細 S=1:25



配置図



配置図

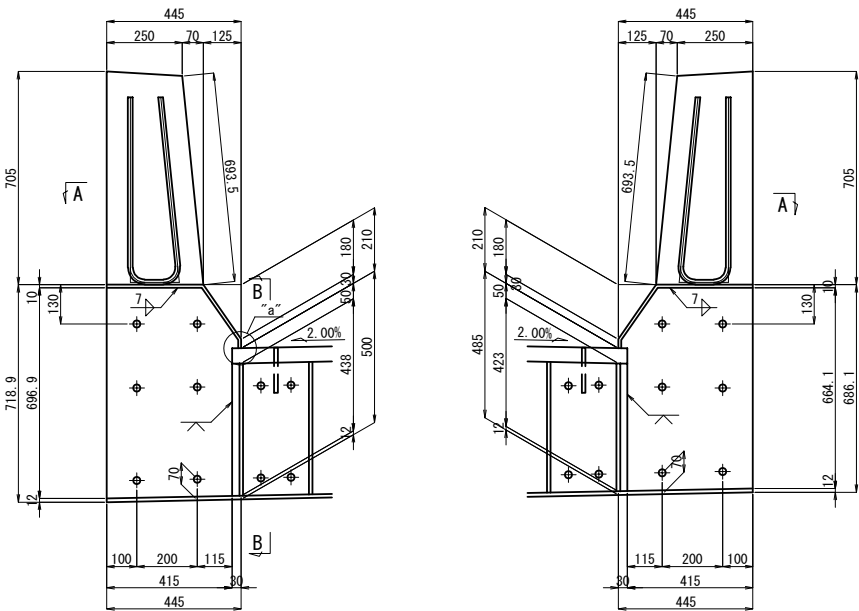


- 注記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。

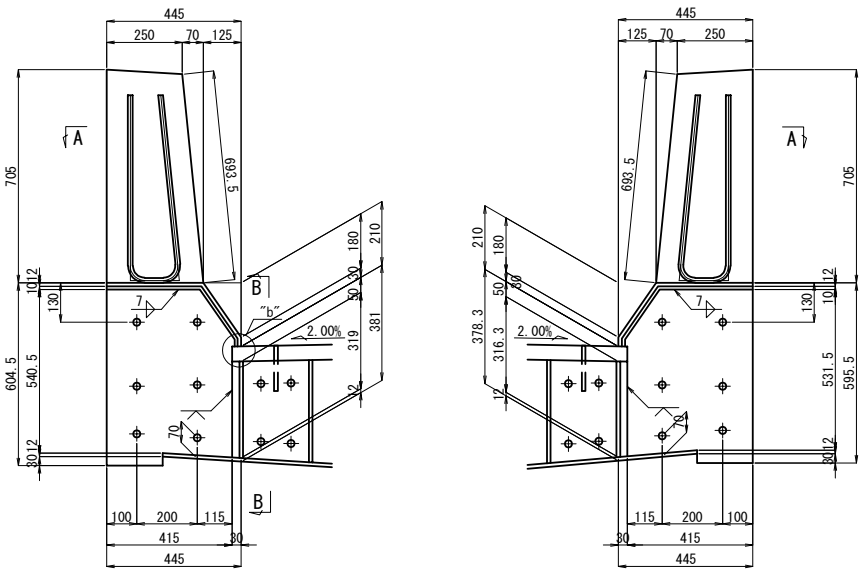
道東自動車道 本流鵜川第一橋（鋼上部工）工事				
図面の種類		占冠Pランプ橋 伸縮装置（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

地覆部詳細

EJ-1

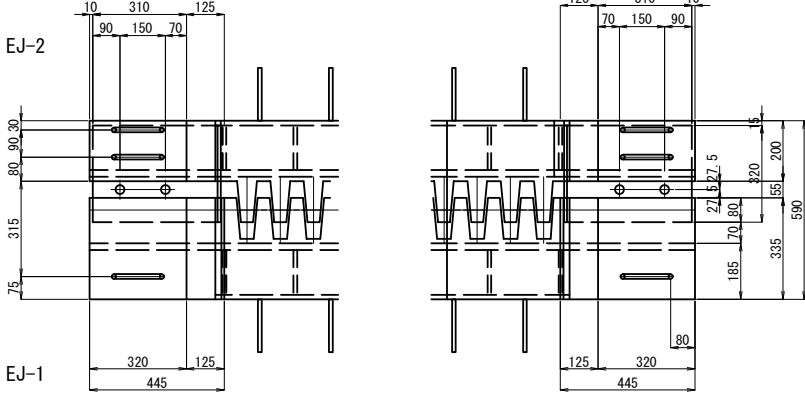


EJ-2



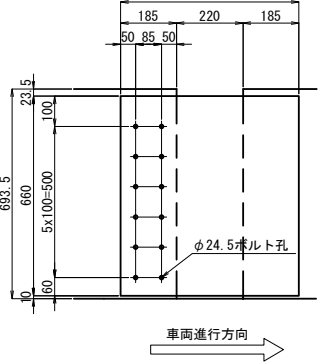
A1

A - A



壁高欄カバープレート

(※率計上項目)



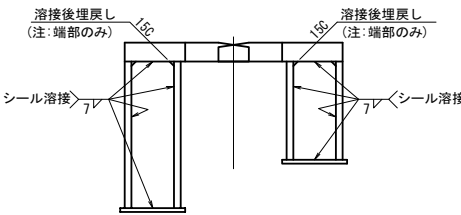
製作数：2
1-PL 660x15x590 (SUS304)
12-セラミックインサート M20 (先付け) (セラミック)
12-BOLT M20x115 (1-W, 1-SW付) (SUS304)

B - B

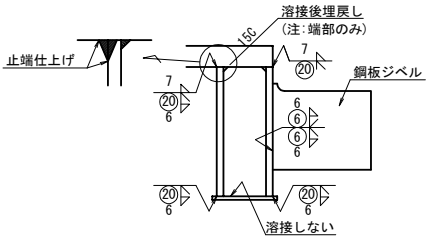
橋梁側

A1橋台側 EJ-1

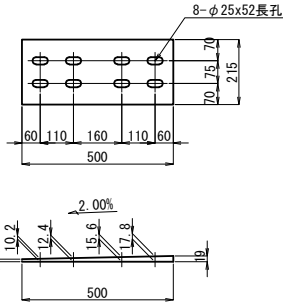
EJ-2



溶接詳細

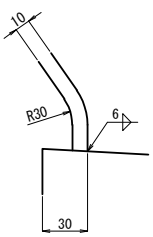
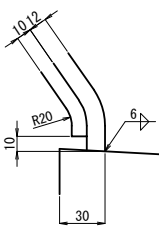


FILL PL詳細

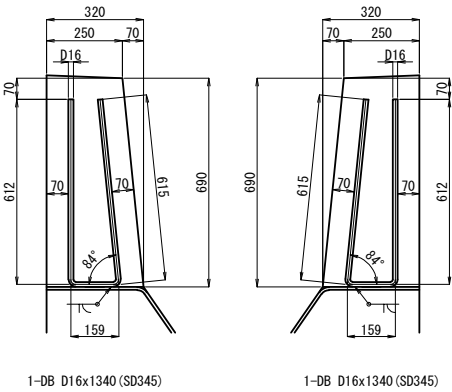


“a”部詳細 S=1:7.5

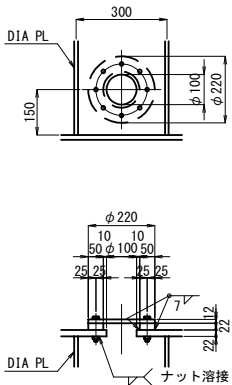
“b”部詳細 S=1:7.5



壁高欄鉄筋詳細



ハンドホール詳細



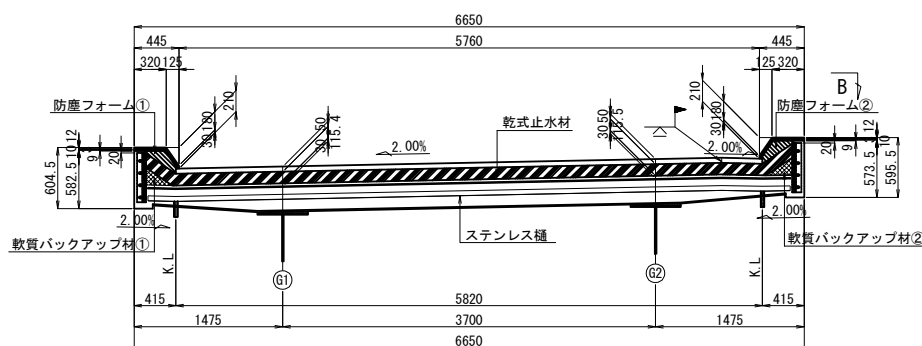
1-PL $\phi 220 \times 22$
1-PL $\phi 220 \times 12$ (SS400)
8-BN M12x75 (1-W) (SS400)

	製作数
EJ-2	4

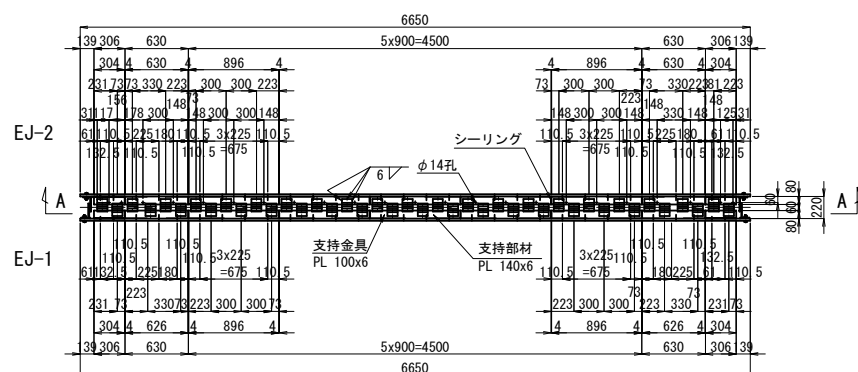
注記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 壁高欄塞ぎ板は、アンカー実測後製作のこと。
凡例
(※率計上項目)

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 伸縮装置（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

A1



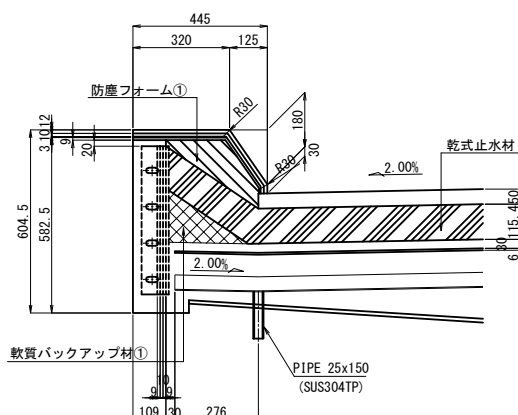
B - B



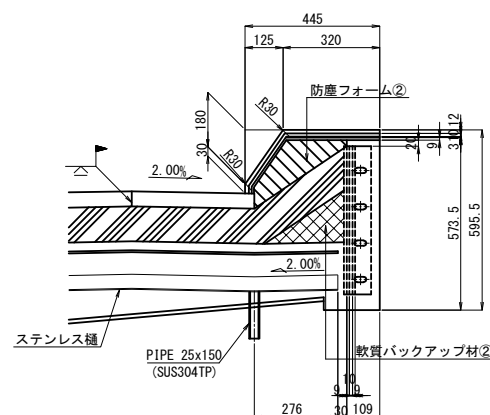
※ 4-PL 140x6x 304	1-FB 38x6x6373 (SUS304)	1- PL 250x3x6373 (SUS304)
※ 2-PL 140x6x 626	※ 23-BN M12x40 (S400) <1-ワ付>	1-ゴムPL 40x2x6373 (CR)
※ 10-PL 140x6x 896	※ 30-スタッド Bolt M16x30 (S400) <1種ナット・ワ付>	
※ 2-PL 140x6x 626	※ 42-PL 100x6x135	

非排水裝置地覆部詳細 S=1:25

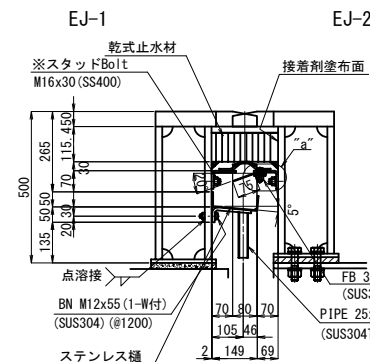
L 側



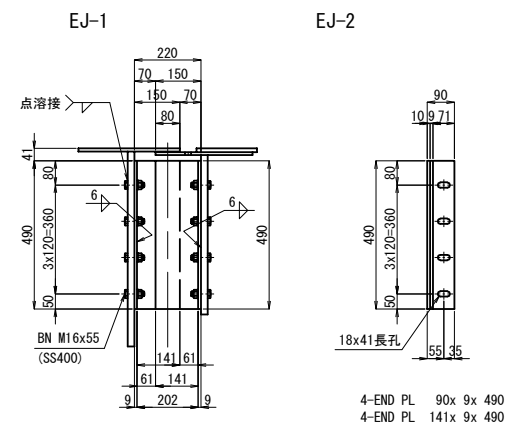
R 側



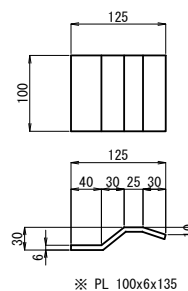
非排水装置断面图 S=1:25



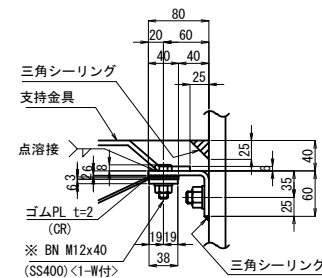
エンドプレート詳細 S=1:25



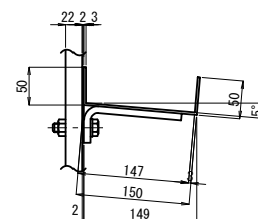
支持金具詳細 S=1:10



"a"部詳細 S=1:10

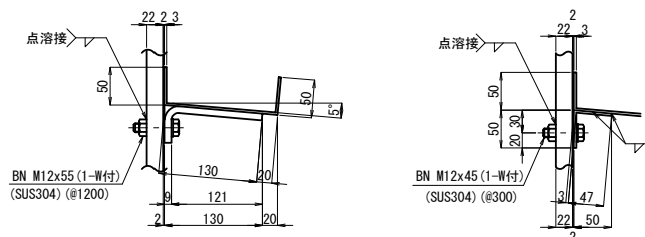


ステンレス桶詳細 S=1:10

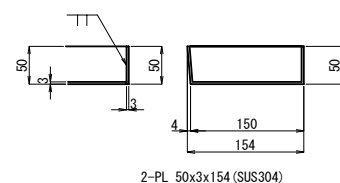


ステンレス樋受け詳細 S=1:10

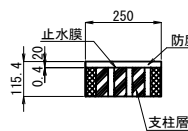
注. ステンレス桶受けは、本体※印部に取付



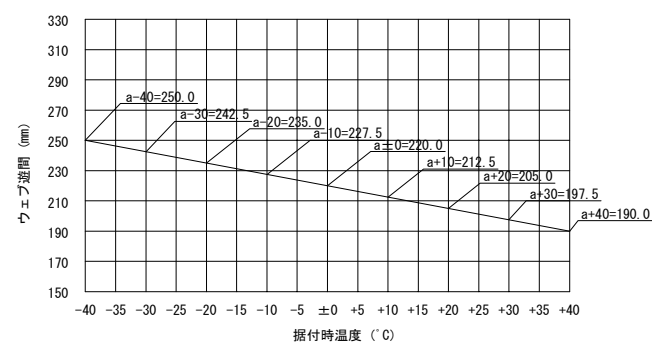
樋端部詳細 S=1:10



乾式止水材詳細 S=1:25



据付時ウェブ遊間表



注記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカラーップは全て50Rとする。
3. ※印部材は溶融亜鉛めっきを施す。

膜厚はJIS H8641 HDZT49 ~ HDZT77とする。

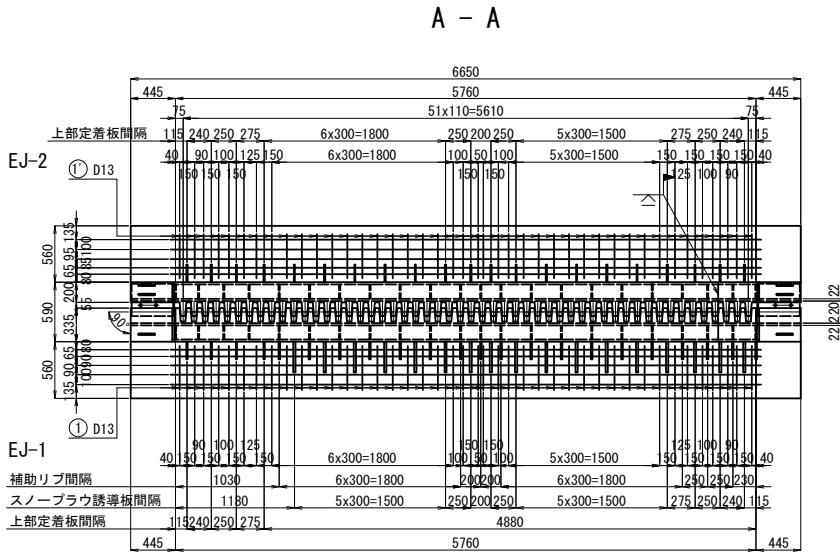
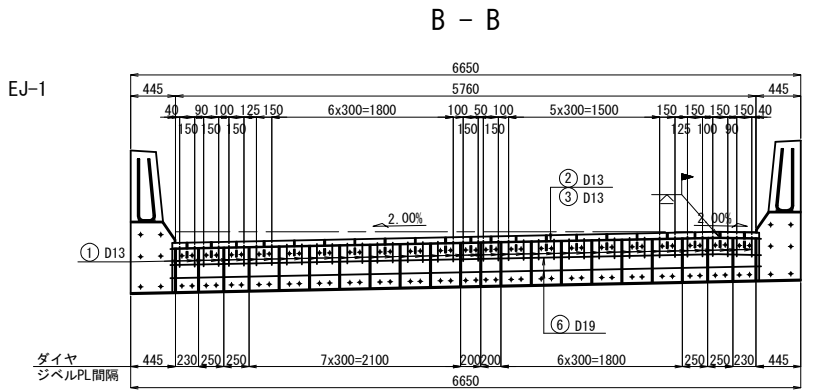
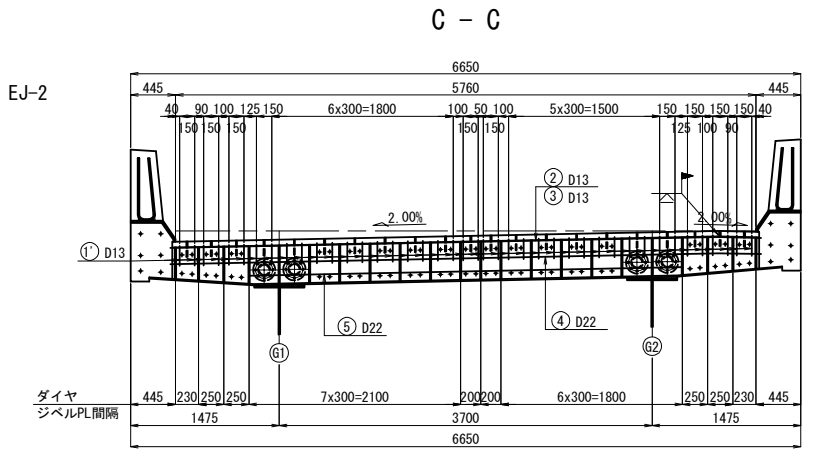
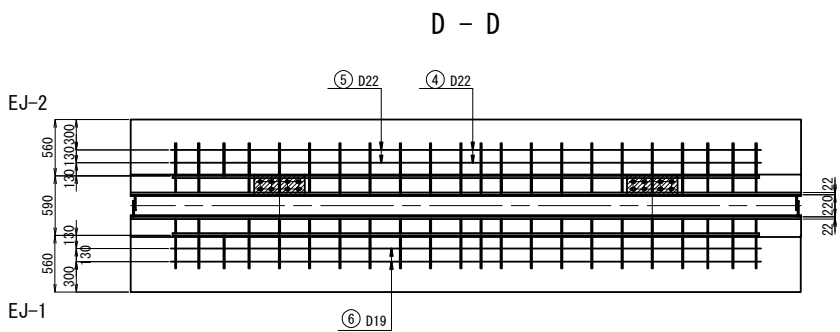
6mm以上の鋼材及びび鋼類並びに高力ボルト等は(膜厚77μm以上)とし、

3.2mm以上、6mm未満の鋼材は(膜厚63μm以上)とし、

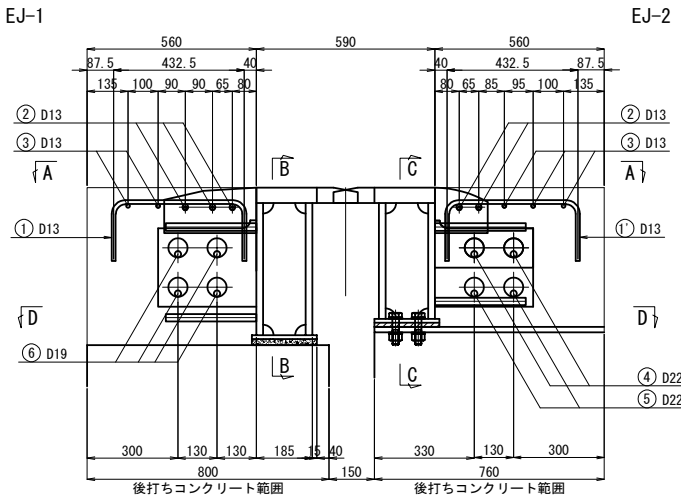
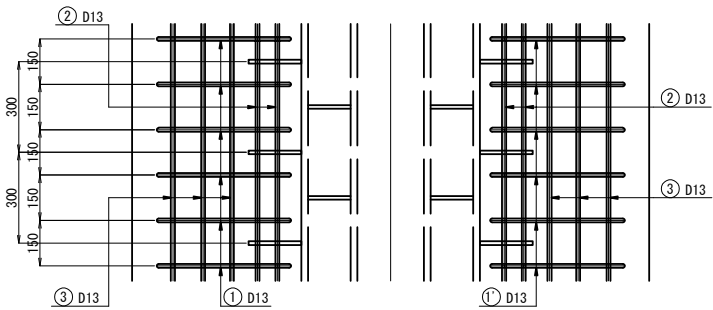
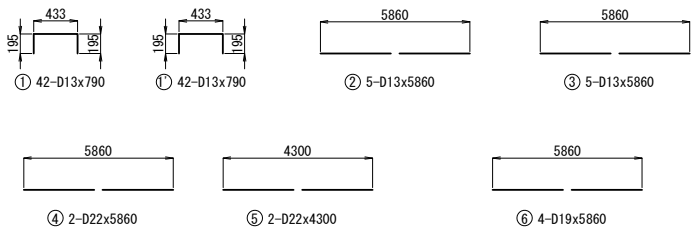
2.2mm未満の鋼材及び普通ボルト等は(膜厚49μm以上)とする。

	道東自動車道 本流鶏川第一橋（鋼上土工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 伸縮装置（その3）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

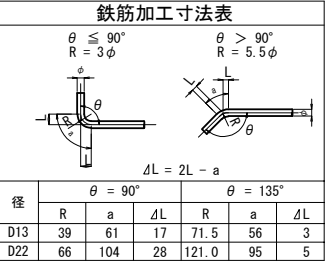
A1



断面図 S=1:25

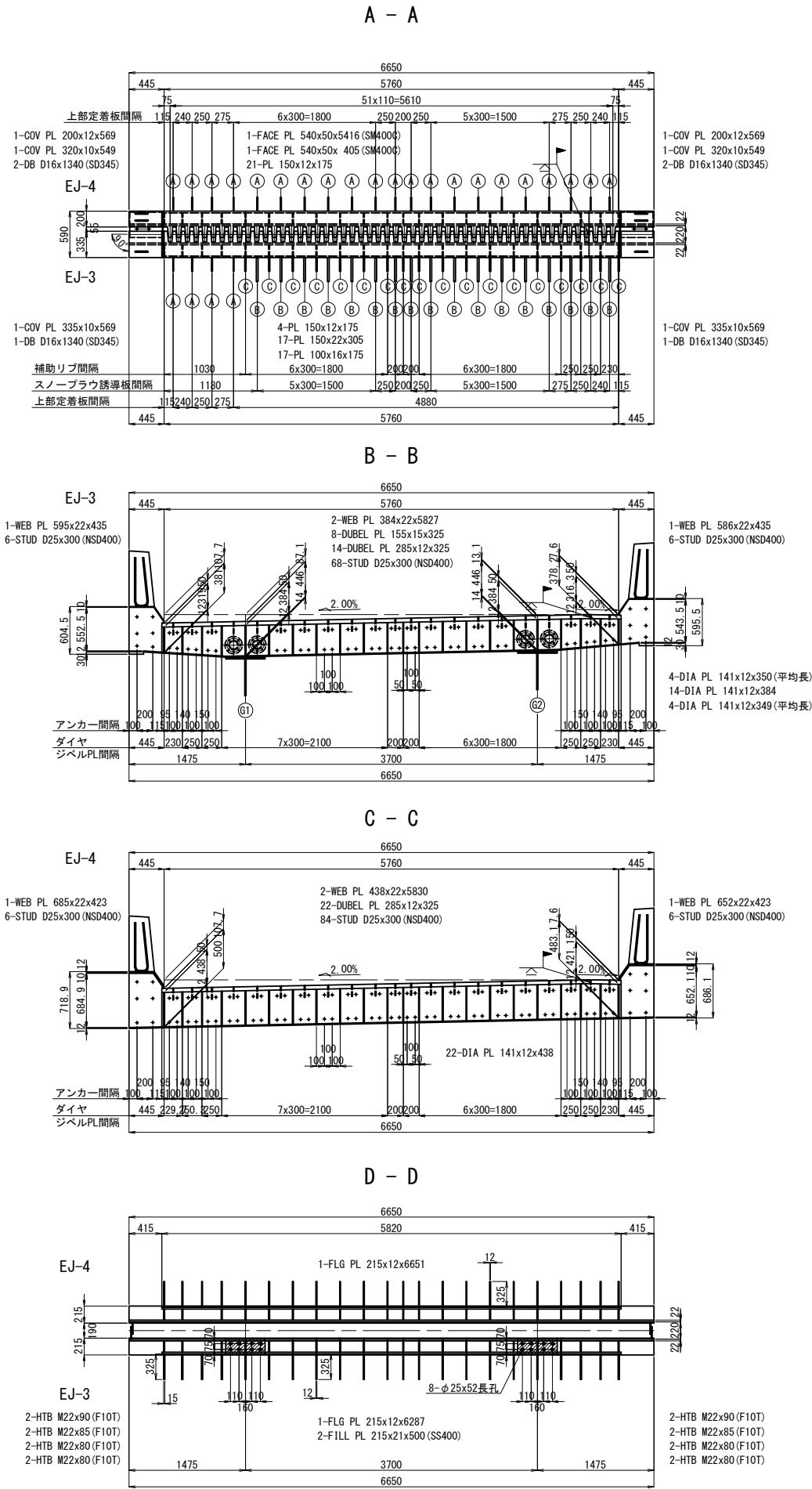
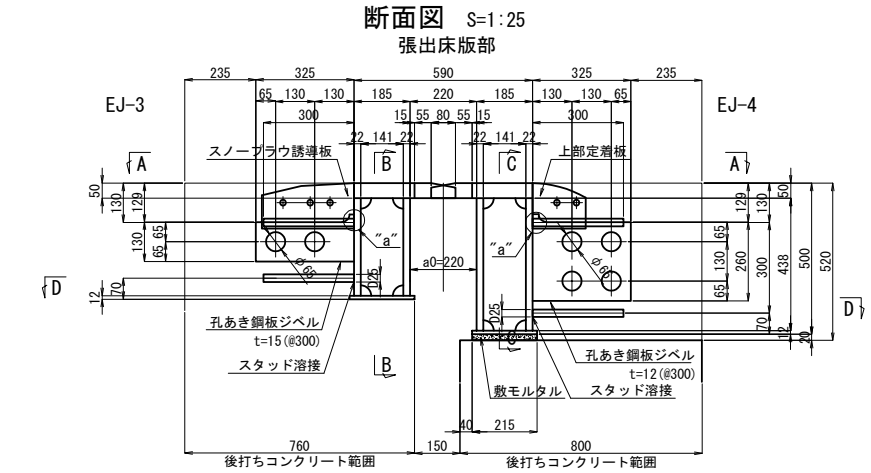


鉄筋表							
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
①	D13	790	42	0.995	0.786	33	□
①'	D13	790	42	0.995	0.786	33	□
②	D13	5860	5	0.995	5.83	29	—
③	D13	5860	5	0.995	5.83	29	—
④	D22	5860	2	3.04	17.8	36	—
⑤	D22	4300	2	3.04	13.1	26	—
⑥	D19	5860	4	2.25	13.2	53	—
合 計						239	kg
鉄筋質量						D22	62 kg
						D19	53 kg
						D13	124 kg

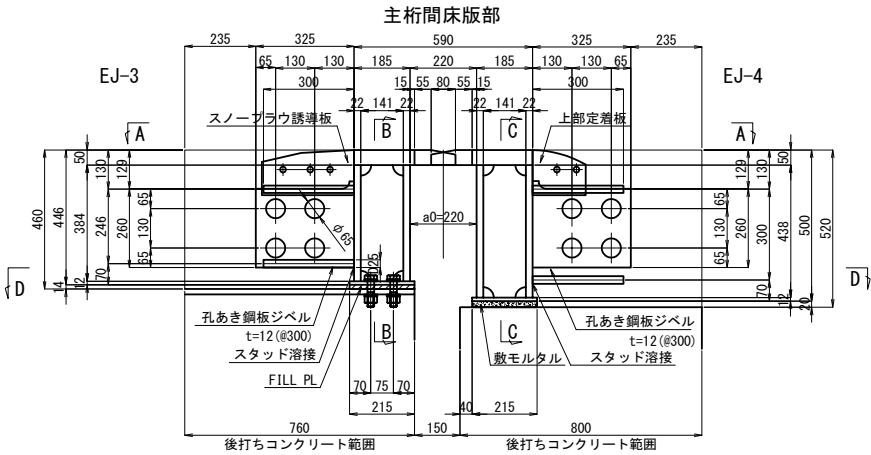


道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋			
伸縮装置（その4）			
図面の種類	図 示	図面番号	-
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

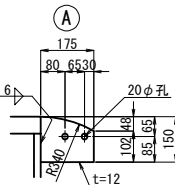
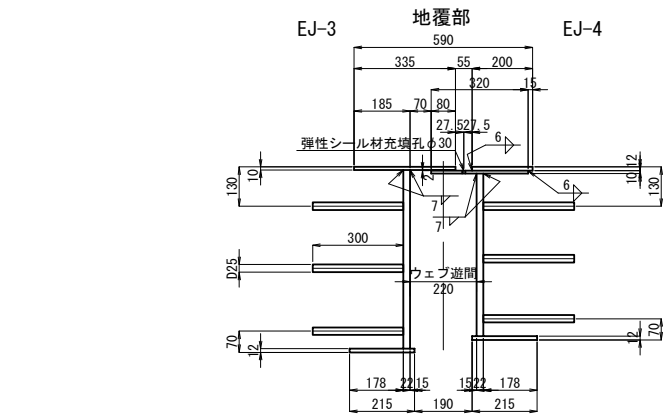
A2



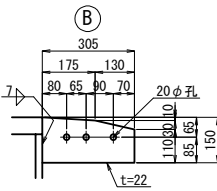
“a”部詳細 S=1:12.5



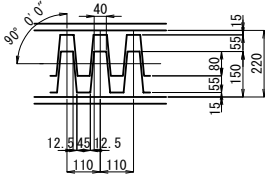
上部定着板詳細 S=1:25



スノープラウ誘導板詳細 S=1:25

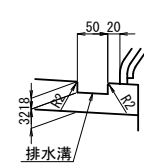


フィンガー詳細 S=1:25

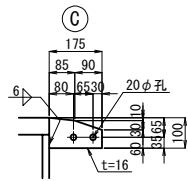


排水溝詳細 S=1:12.5

フェースプレート部

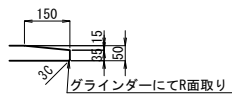


補助リブ詳細 S=1:25

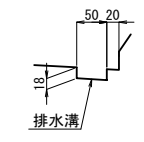


- 注記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。

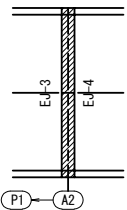
歯先詳細 S=1:25



後打ちコンクリート部

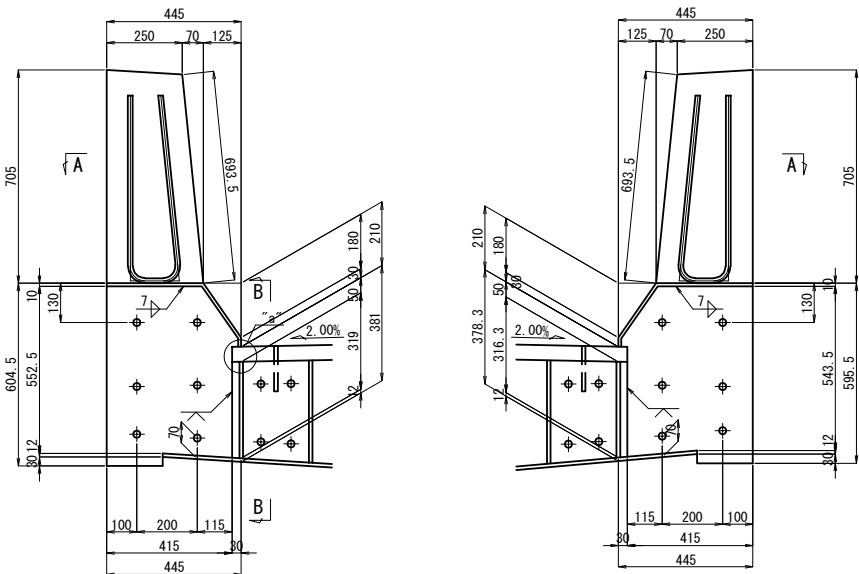


配置図

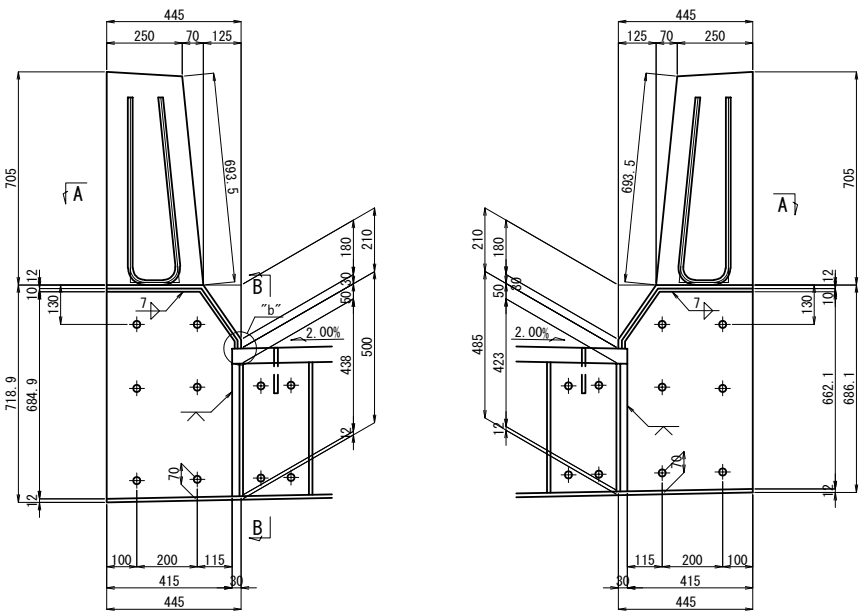


道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 伸縮装置（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

地覆部詳細
EJ-3

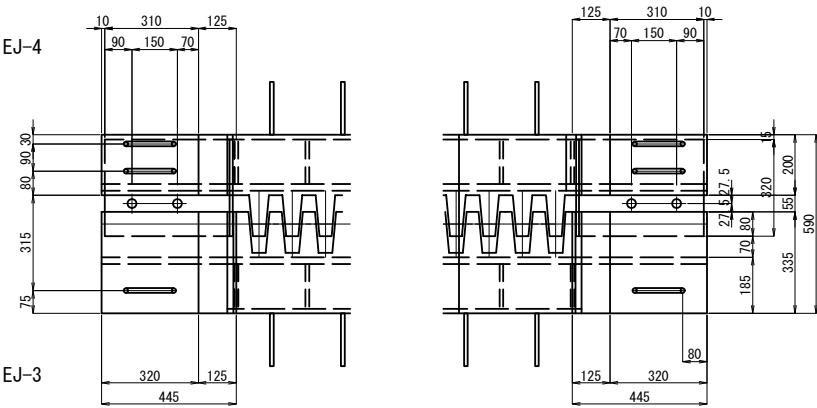


EJ-4

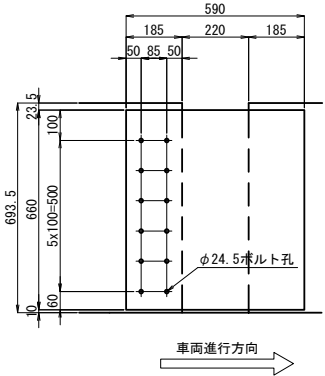


A2

A - A

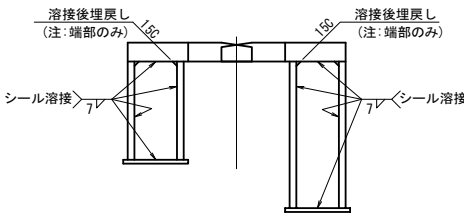


壁高欄カバープレート
(※率計上項目)

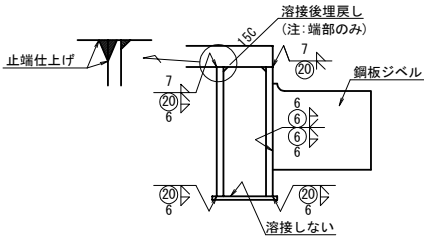


製作数：2
1-PL 660x15x590 (SUS304)
12-セラミックインサート M20 (先付け) (セラミック)
12-BOLT M20x115 (1-W, 1-SW付) (SUS304)

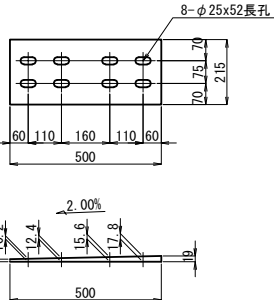
橋梁側 B - B A2橋台側
EJ-3 EJ-4



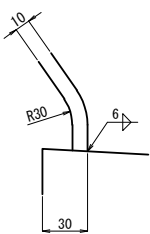
溶接詳細



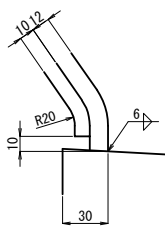
FILL PL詳細



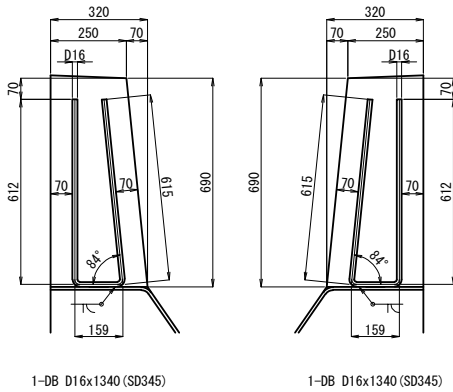
“a”部詳細 S=1:7.5



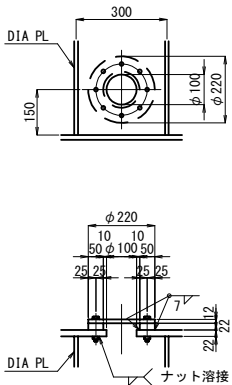
“b”部詳細 S=1:7.5



壁高欄鉄筋詳細



ハンドホール詳細



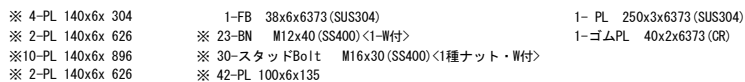
1-PL φ220x22
1-PL φ220x12 (SS400)
8-BN M12x75 (1-W) (SS400)

	製作数
EJ-3	4

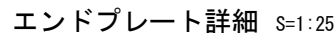
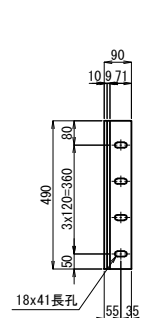
注記
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 壁高欄蓋ぎ板は、アンカー実測後製作のこと。
凡例
(※率計上項目)

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 伸縮装置（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

A2

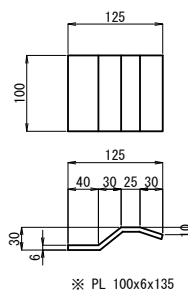
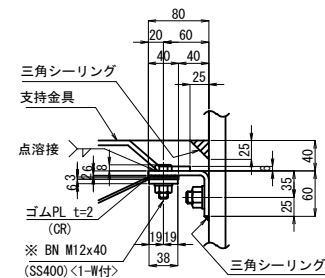


L 側



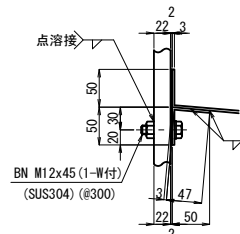
4-END PL	90x	9x	490
4-END PL	141x	9x	490

"a"部詳細 S=1:10

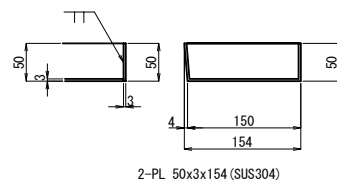
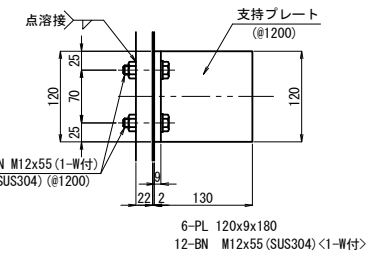
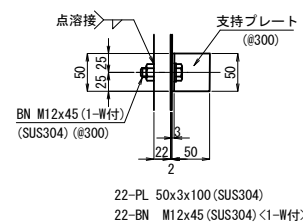


ステンレス樋受け詳細 S=1:10

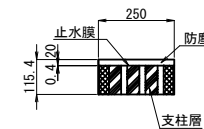
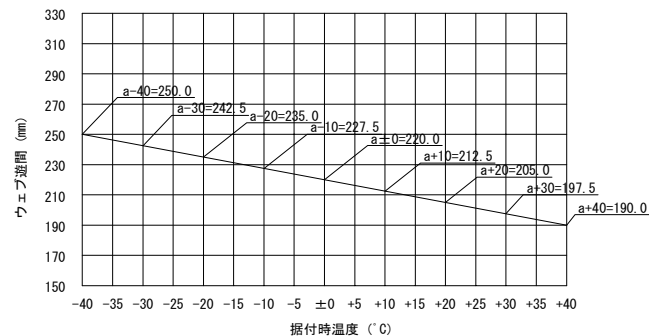
注. ステンレス桶受けは、本体※印部に取付



S=1:10



据付時ウェブ遊間表



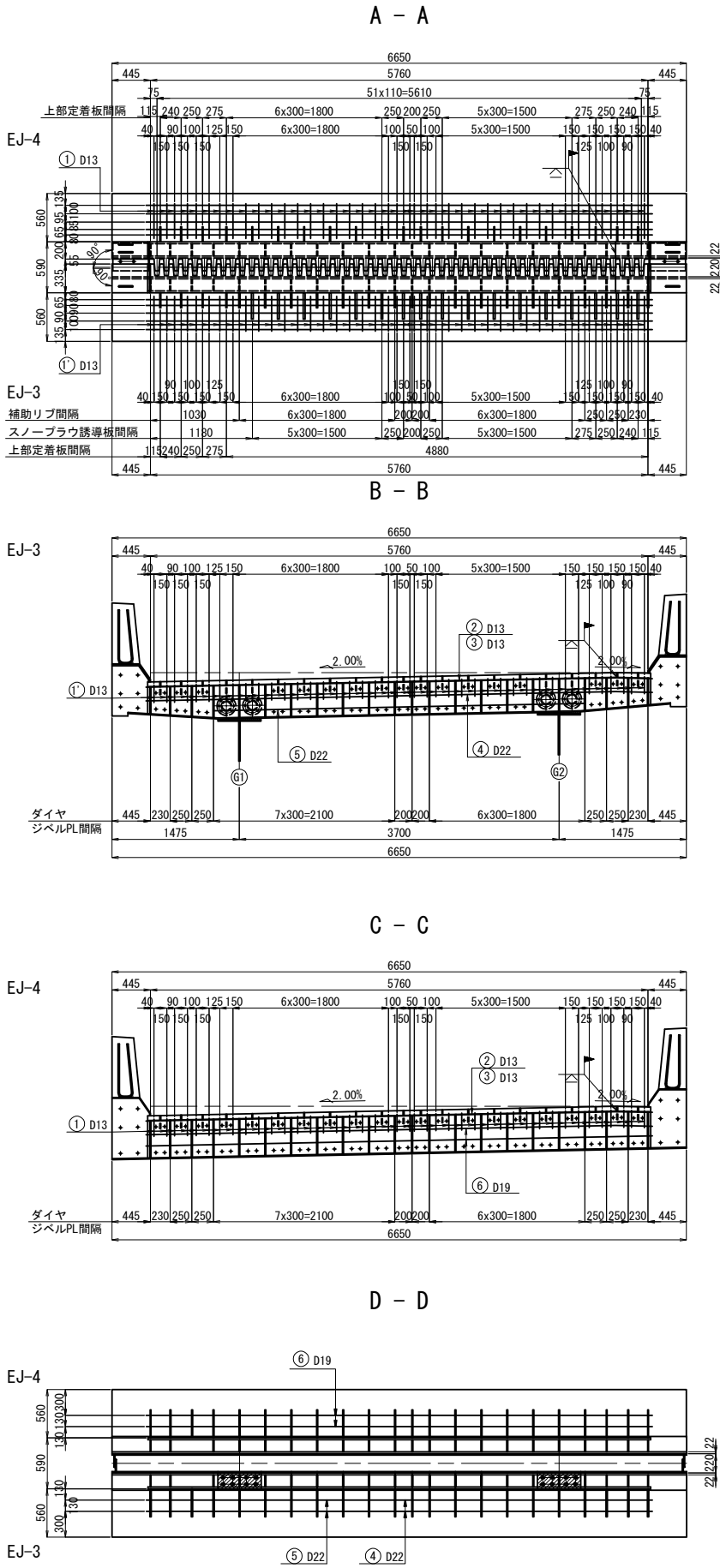
注記

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. ※印部材は溶融亜鉛めっきを施す。

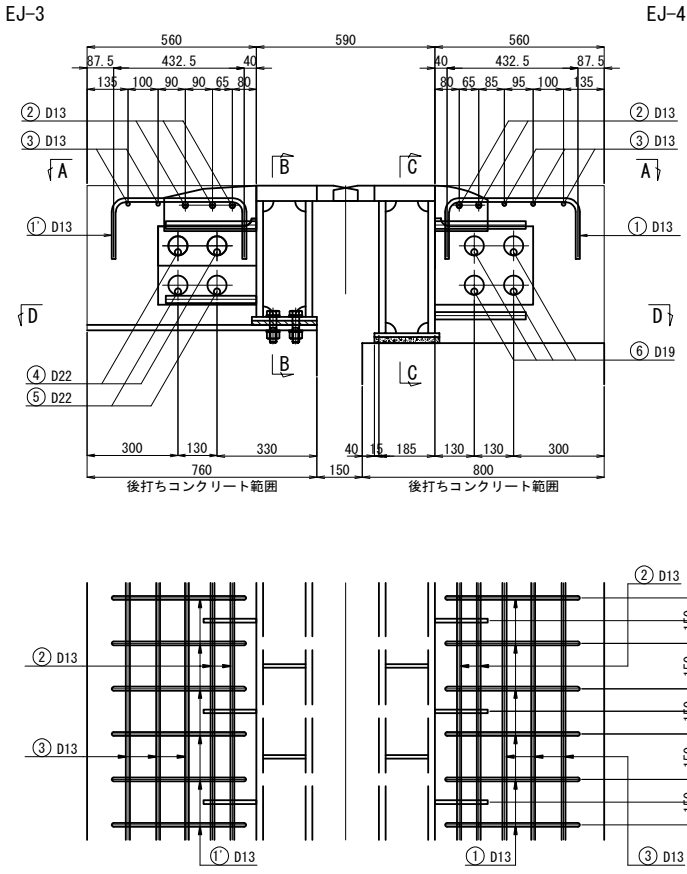
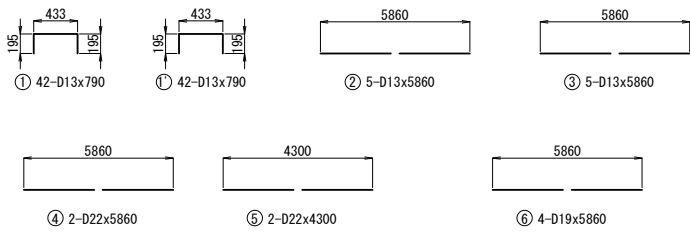
厚度：JIS H8641 HDZT49 ～ HDZT77とする。
6mm以上の鋼材及びび形鋼類並びに高力ボルト等は
(厚度77μm以上)とし、
2mm以上、6mm未満の鋼材は(厚度63μm以上)とし、
2mm未満の鋼材及び普通ボルト等は(厚度49μm以上)
とする。

	道東自動車道		
	本流越川第一橋（鋼上土工）工事		
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	伸縮装置（その7）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

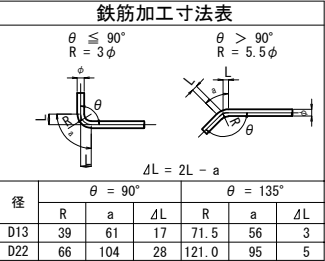
A2



断面図 S=1:25

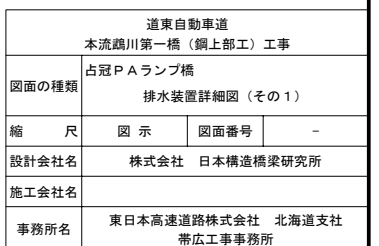


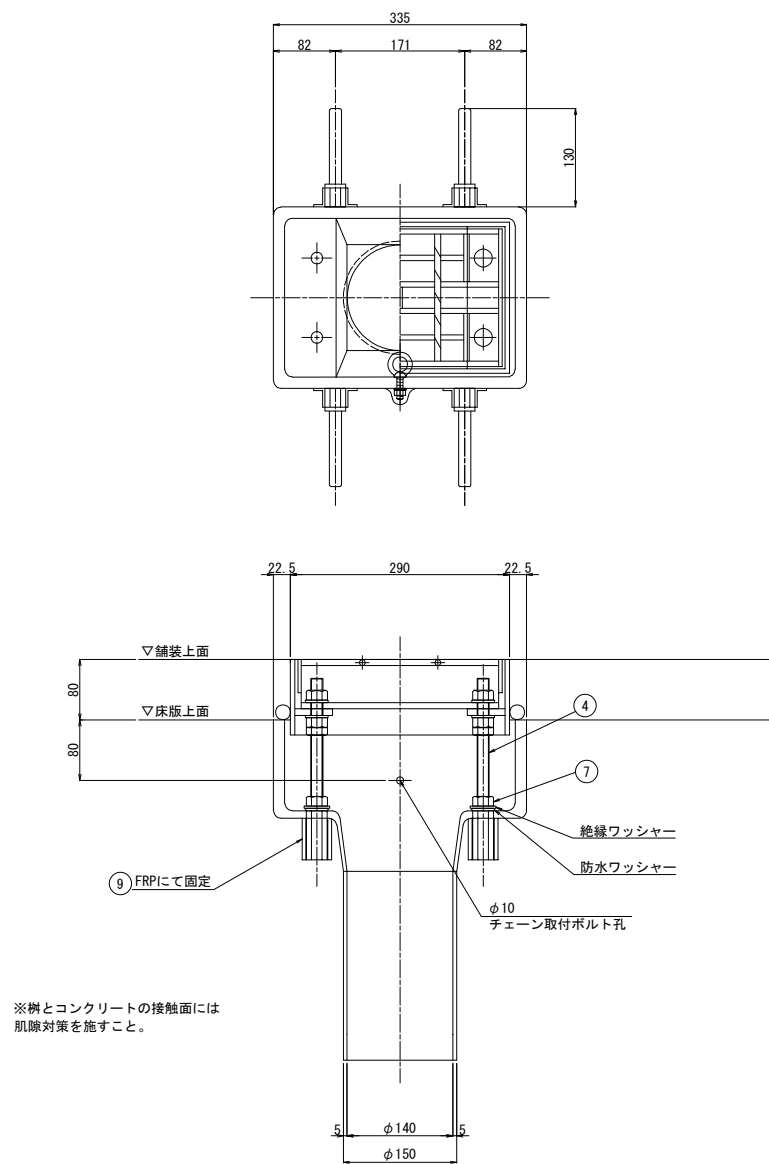
鉄筋表							
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
①	D13	790	42	0.995	0.786	33	□
①'	D13	790	42	0.995	0.786	33	□
②	D13	5860	5	0.995	5.83	29	—
③	D13	5860	5	0.995	5.83	29	—
④	D22	5860	2	3.04	17.8	36	—
⑤	D22	4300	2	3.04	13.1	26	—
⑥	D19	5860	4	2.25	13.2	53	—
合 計						239	kg
鉄筋質量						D22	62 kg
						D19	53 kg
						D13	124 kg



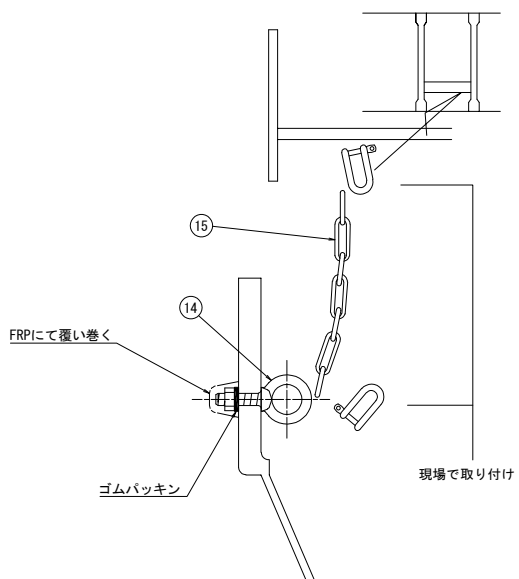
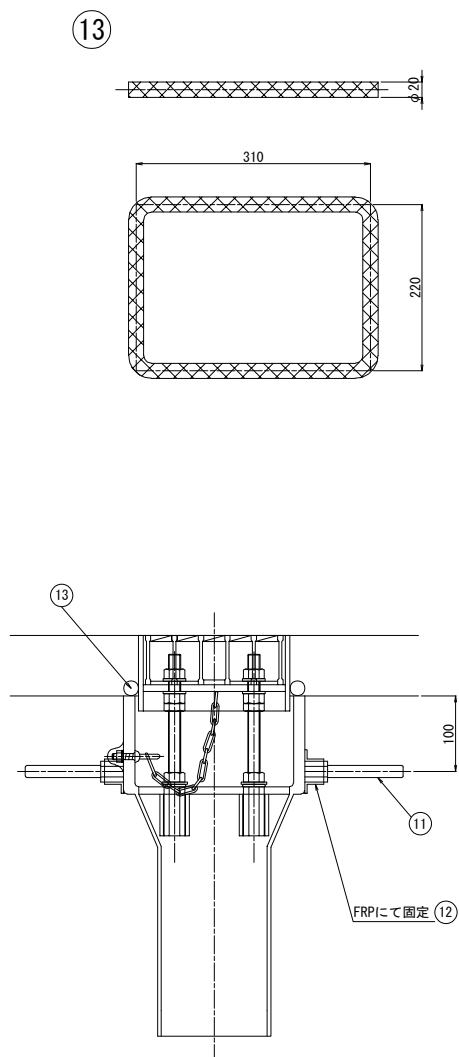
注記
1. 鉄筋の材質は、全て SD345 とする。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋 伸縮装置（その8）			
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

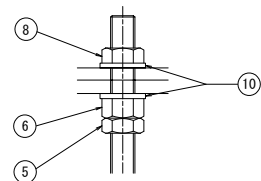
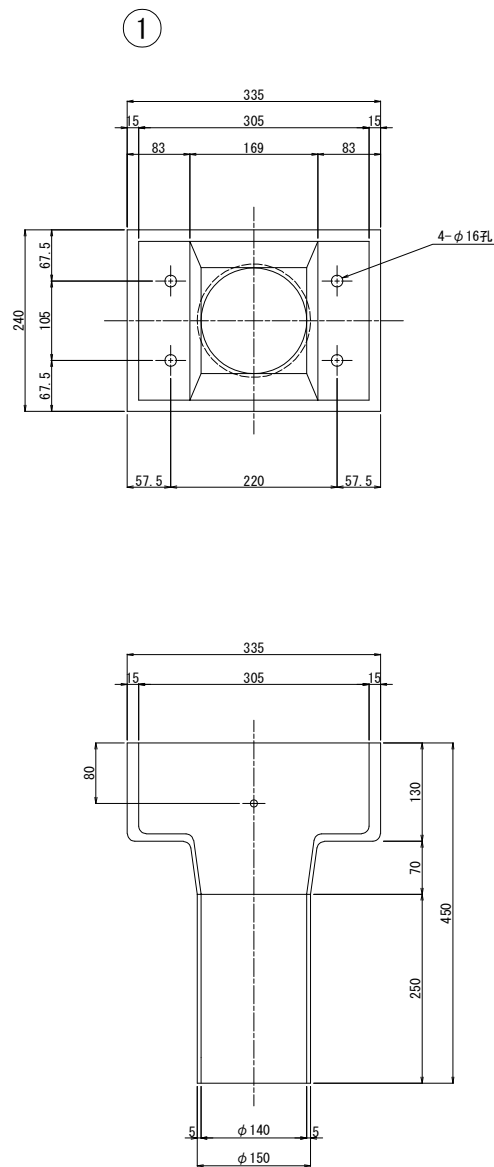
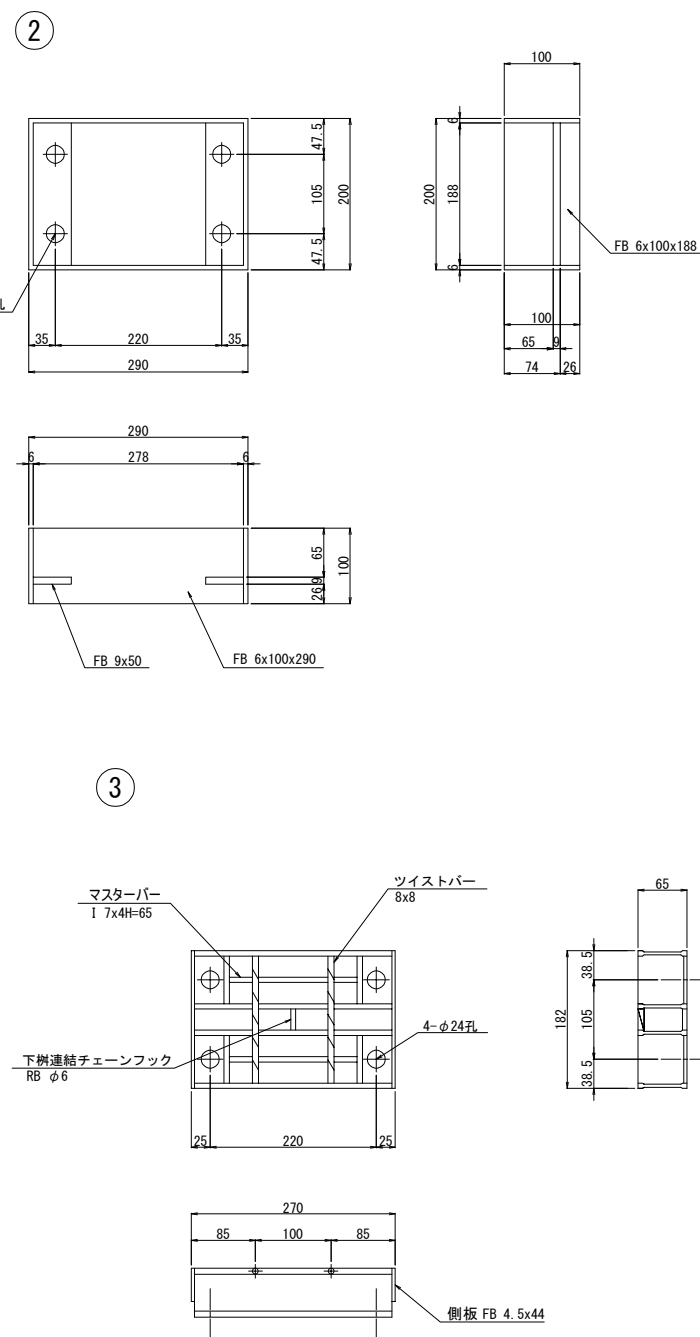




チェーン取付部詳細 S=1:5



グレーチング枠止ボルト部詳細 S=1:5



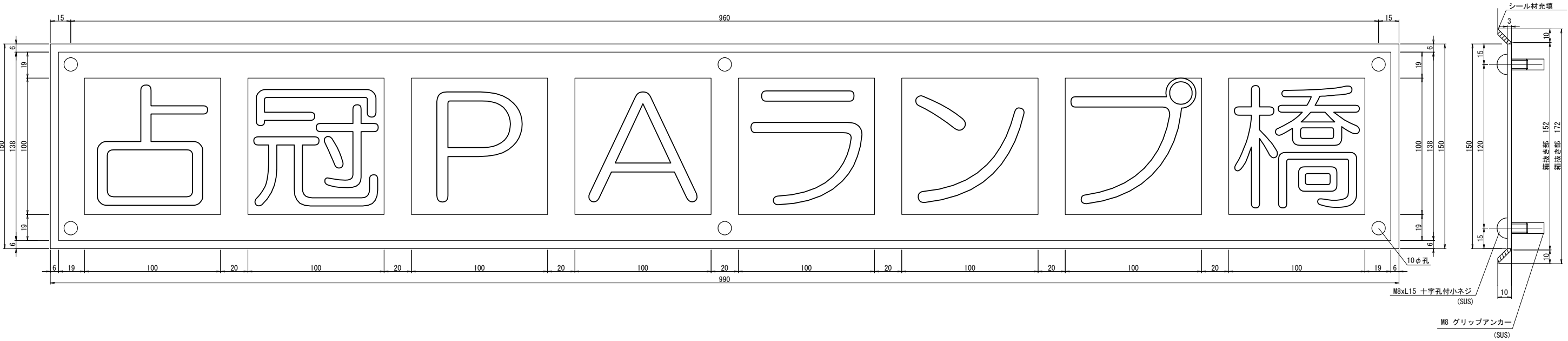
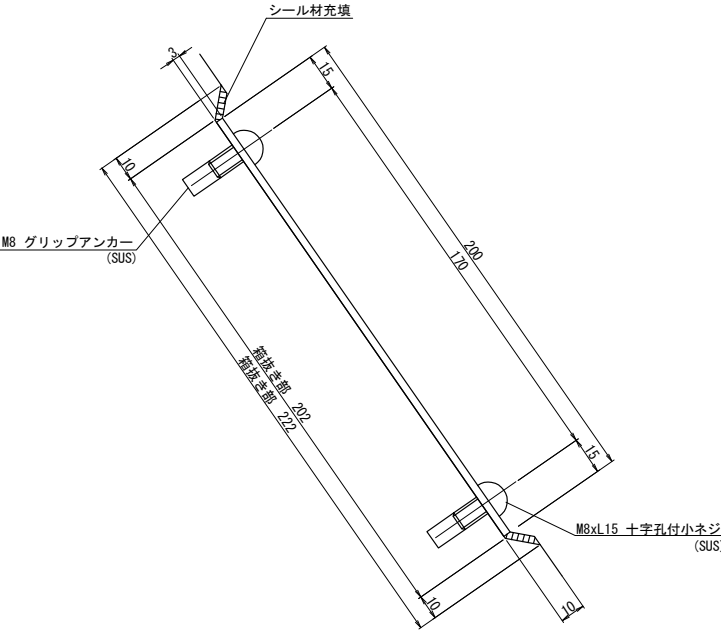
※絶縁w, 防水w含む

※ナット、ゴムw含む
※2-シャックル含む

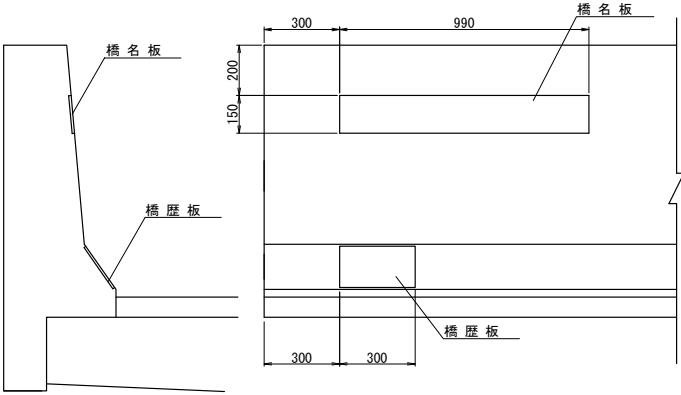
注) 1. 本図面は縮小図のため、
縮尺は表示と異なる。
2. 面取りは全てR10とする。

材 料 表						
FRP DRAIN TYPE KG-13						
番号	部 品 名 称	材 質	寸 法	数 量	重 量	備 考
1	本体下部	FRP	240x335x450	1	5.5	
2	本体上部	SS400	200x290x100	1	5.83	溶融亜鉛メッキ (HDZ55)
3	グレーチング	SS400	182x270x65	1	5.20	溶融亜鉛メッキ (HDZ55)
4	調整ボルト	SS400	M16x220寸切B	4	1.40	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
5	調整ナット (1)	SS400	M16 JIS 3種	4	0.12	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
6	調整ナット (2)	SS400	M16 JIS 1種	4	0.18	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
7	固定ナット	SS400	M16 JIS 1種	4	0.18	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
8	グレーチング固定ナット	SS400	M16 JIS 1種	4	0.18	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
9	支持ナット	SS400	M16x50高ナット	4	0.52	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
10	平座金	SS400	呼び16並丸	8	0.10	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
11	アンカーバー	SS400	$\phi 16$ x110	4	0.70	
12	インサートナット	SS400	M16x30高ナット	4	0.05	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
13	ペーブドレーン	ポリエステル	$\phi 20$	1	---	
14	アイボルト	SS400	M8x30	1	---	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
15	チェーン	SS400	$\phi 5$ x200	1	---	溶融亜鉛メッキ (HDZ35)
合 計 重 量					19.96 kg	

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋			
排水装置詳細図（その2）			
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



橋名板・橋歴板設置位置図



配置図

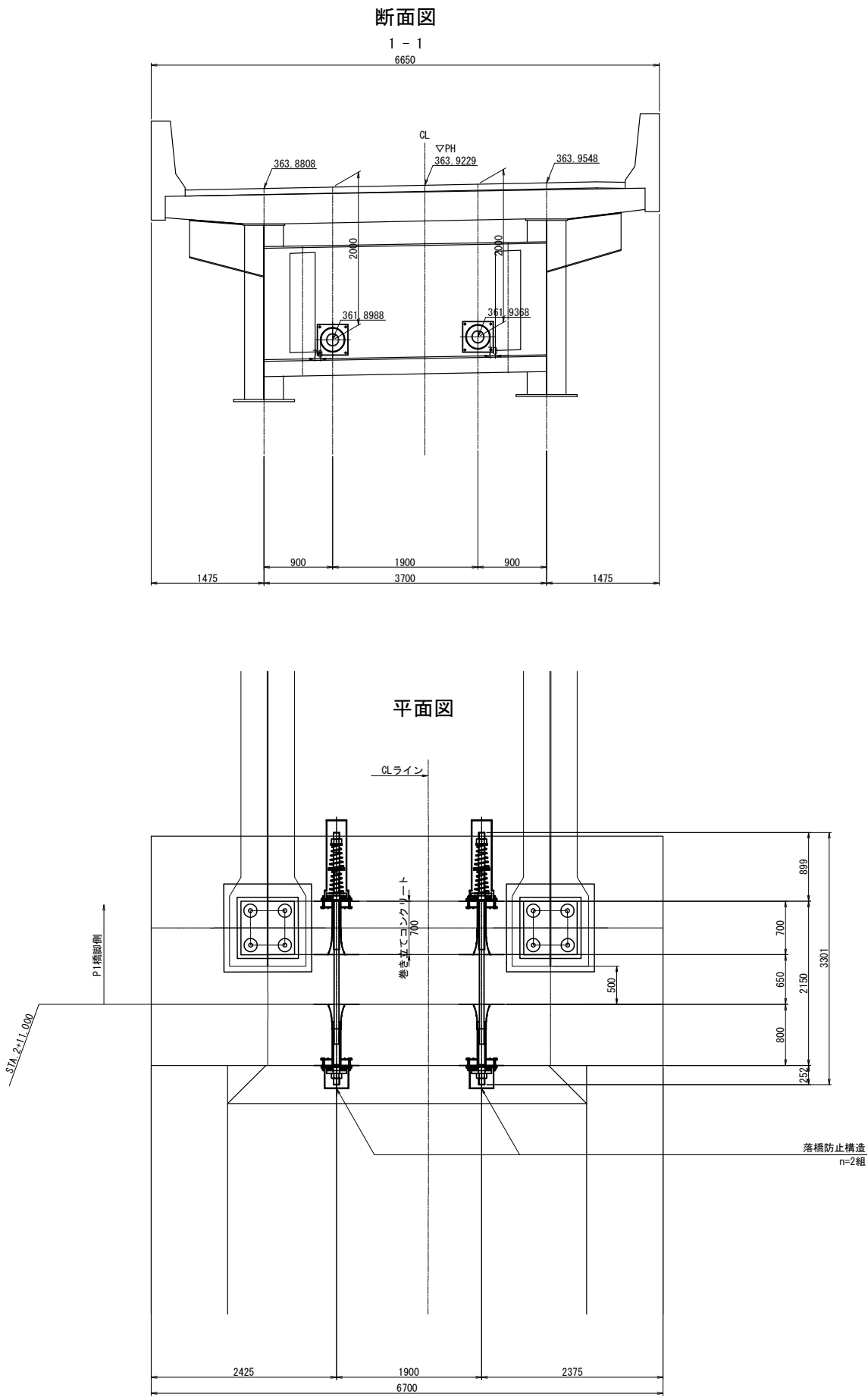
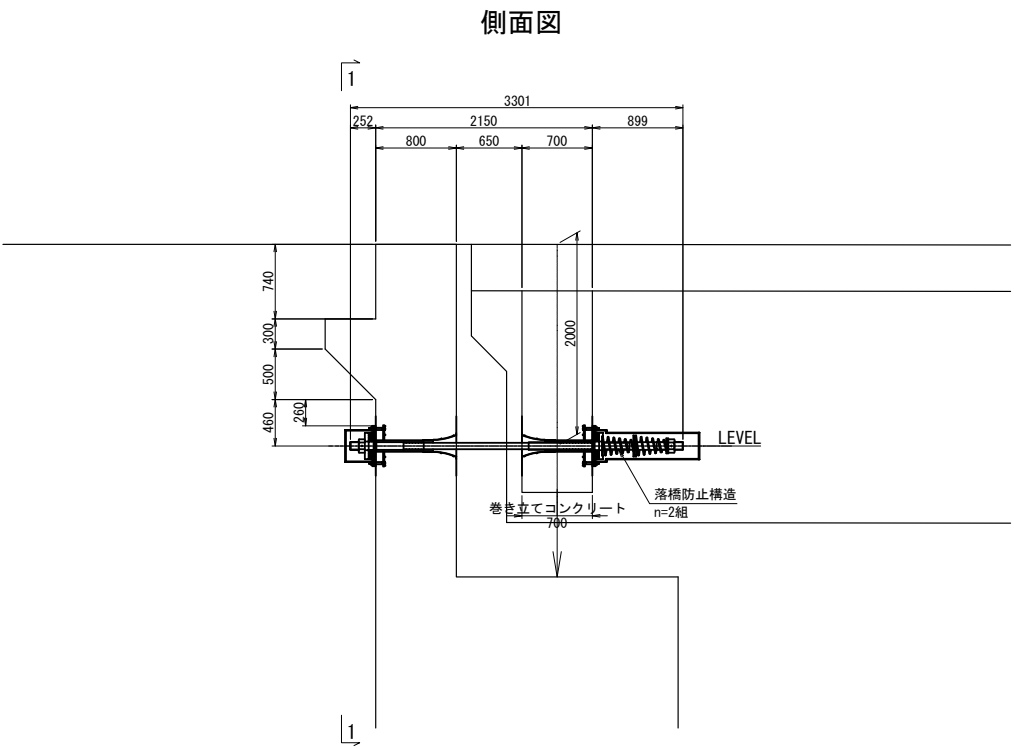


注記
1. JIS H4000 A 5052P (アルミニウム板)
2. 表面は高耐候性フィルム被覆とする。
3. 地：黒色 文字：金文字とする。
4. 字体は橋名板は丸ゴシック、橋歴板はゴシックとする。
5. 取付後、シール材を施すものとする。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	橋名板・橋歴板		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

A1橋台：配置図

S1



設計条件表

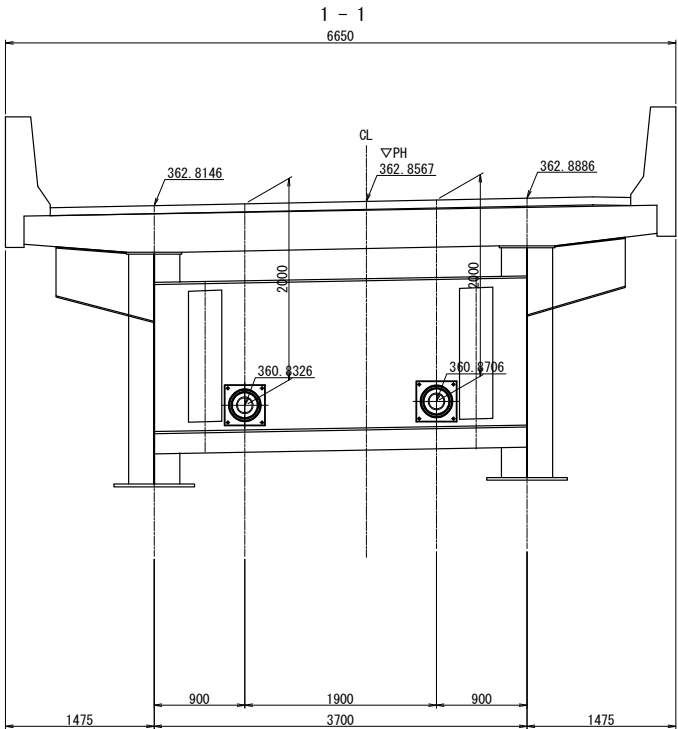
	単位	A1橋台	備考
死荷重反力	kN	1892	Rd
設計地震力	kN	2838	1.5Rd
設置本数	本	2	
1本当り水平力	kN	1419	1.5Rd/本数
設計遊間量	mm	600	

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	落橋防止構造図（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

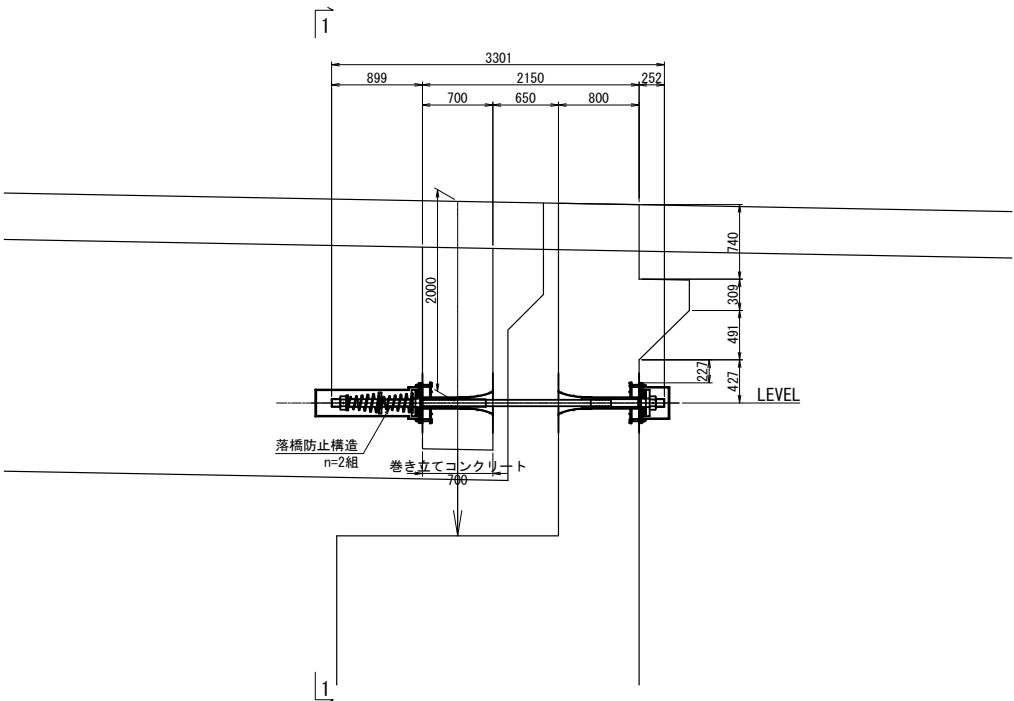
A2橋台：配置図

S2

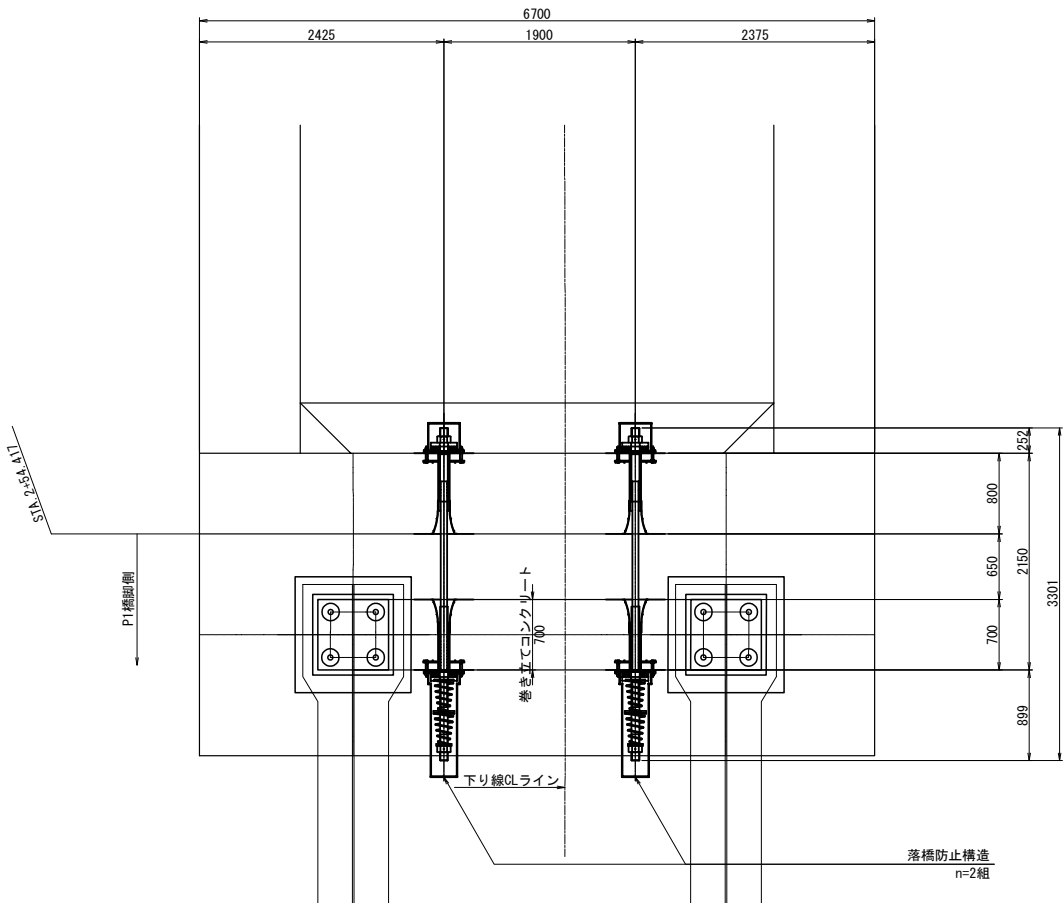
断面図



側面図



平面図

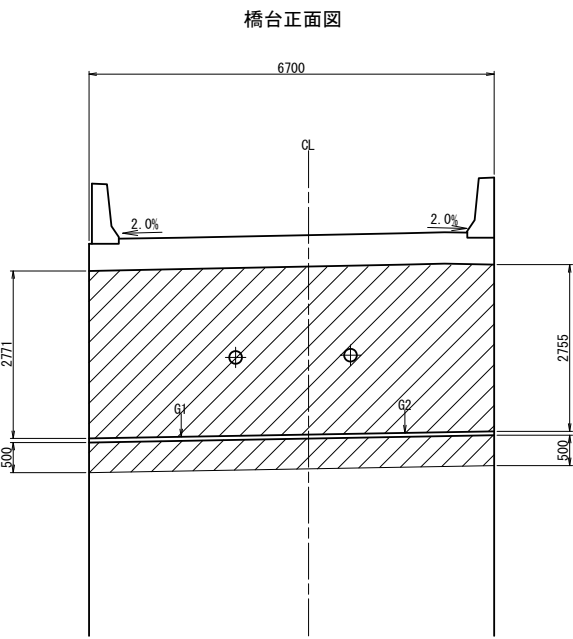
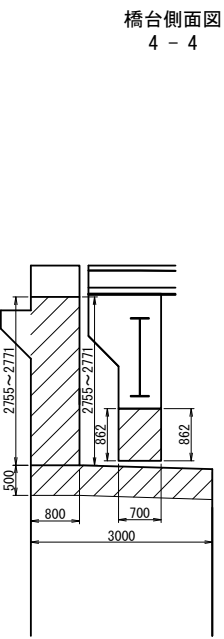
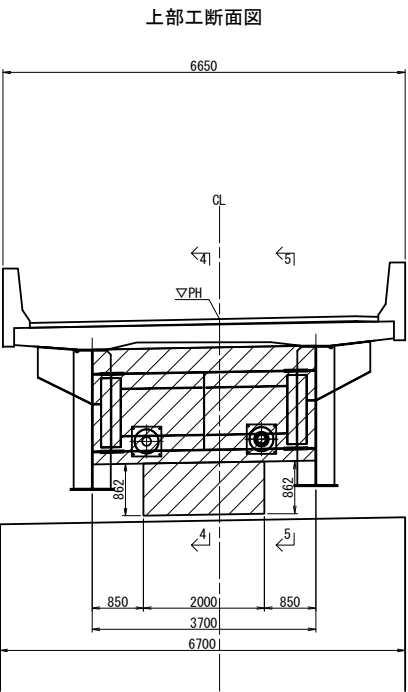
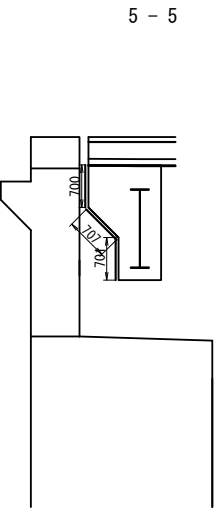
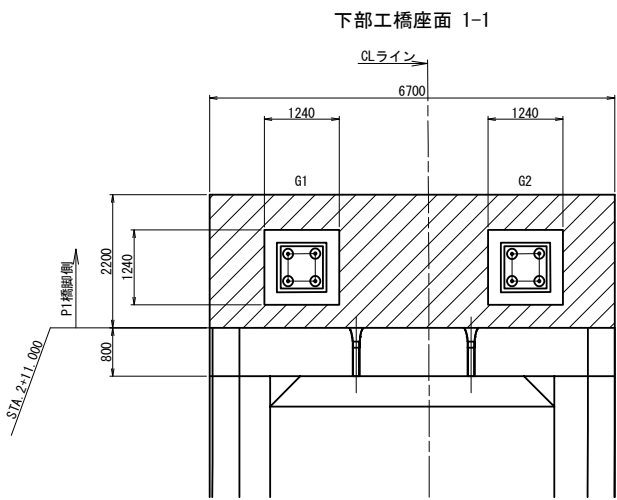
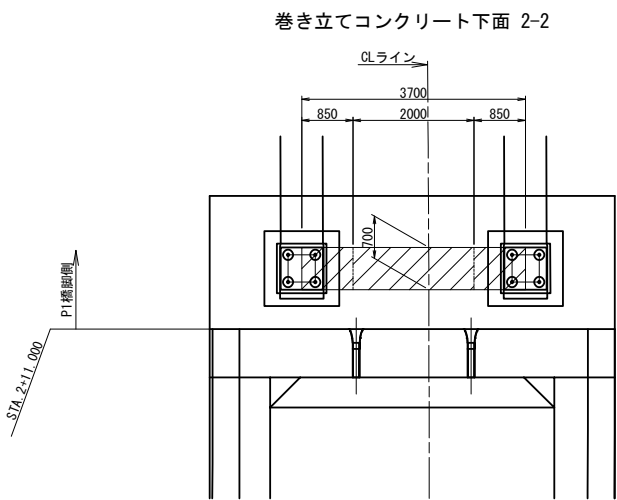
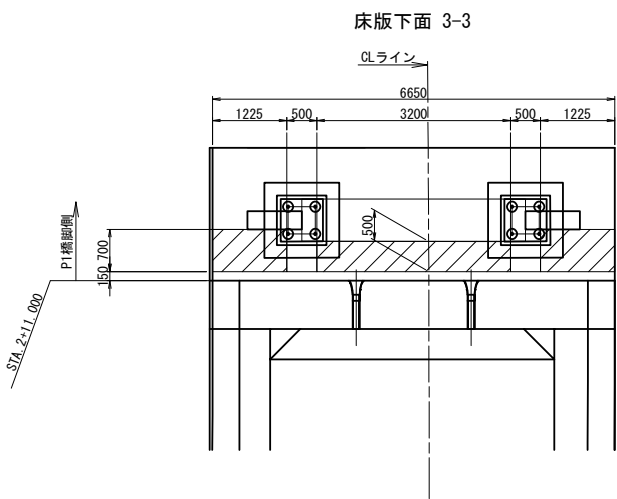


設計条件表

	単位	A2橋台	備考
死荷重反力	kN	1870	Rd
設計地震力	kN	2805	1.5Rd
設置本数	本	2	
1本当り水平力	kN	1403	1.5Rd/本数
設計遊間量	mm	600	

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 落橋防止構造図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

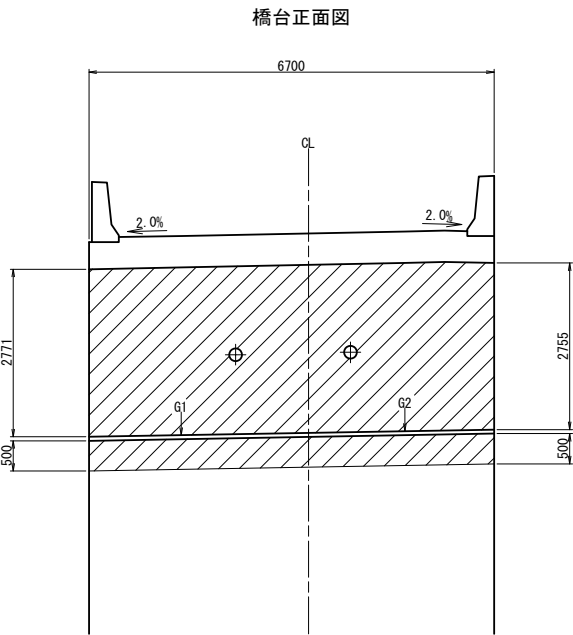
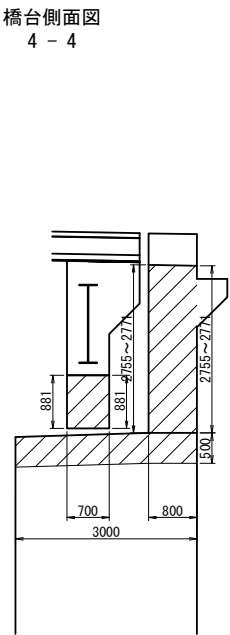
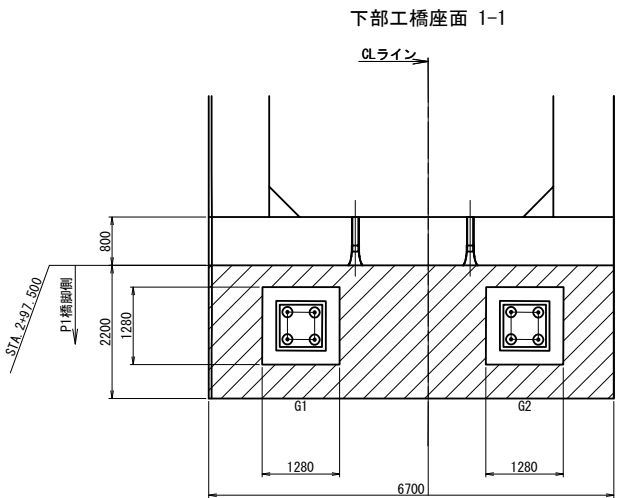
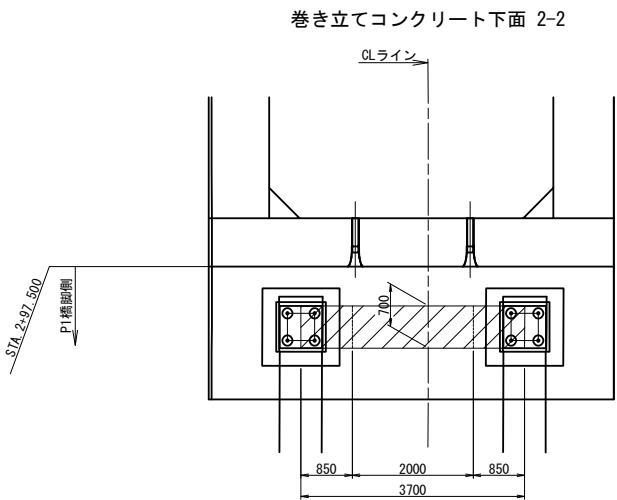
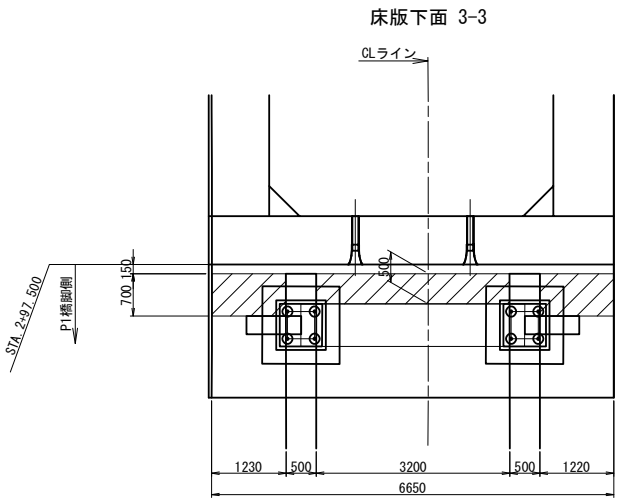
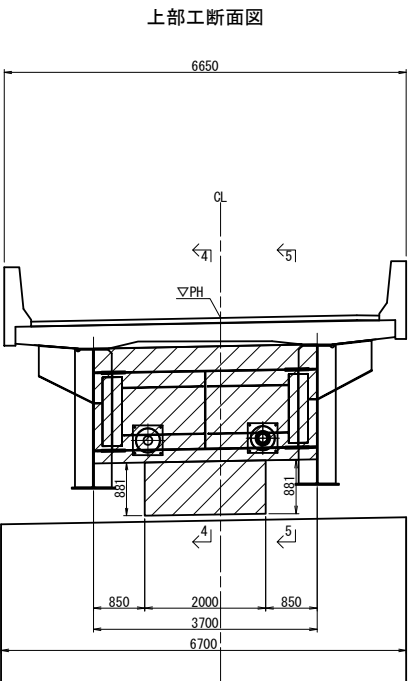
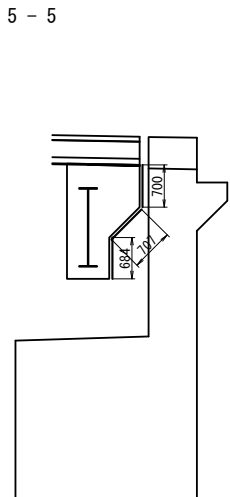
A1橋台



数量表	(㎡)
下部工躯体	41.0
床版下面	3.3
巻き立てコンクリート	9.0
段差防止構造	4.3
合計	57.6

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 コンクリート表面被覆工（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

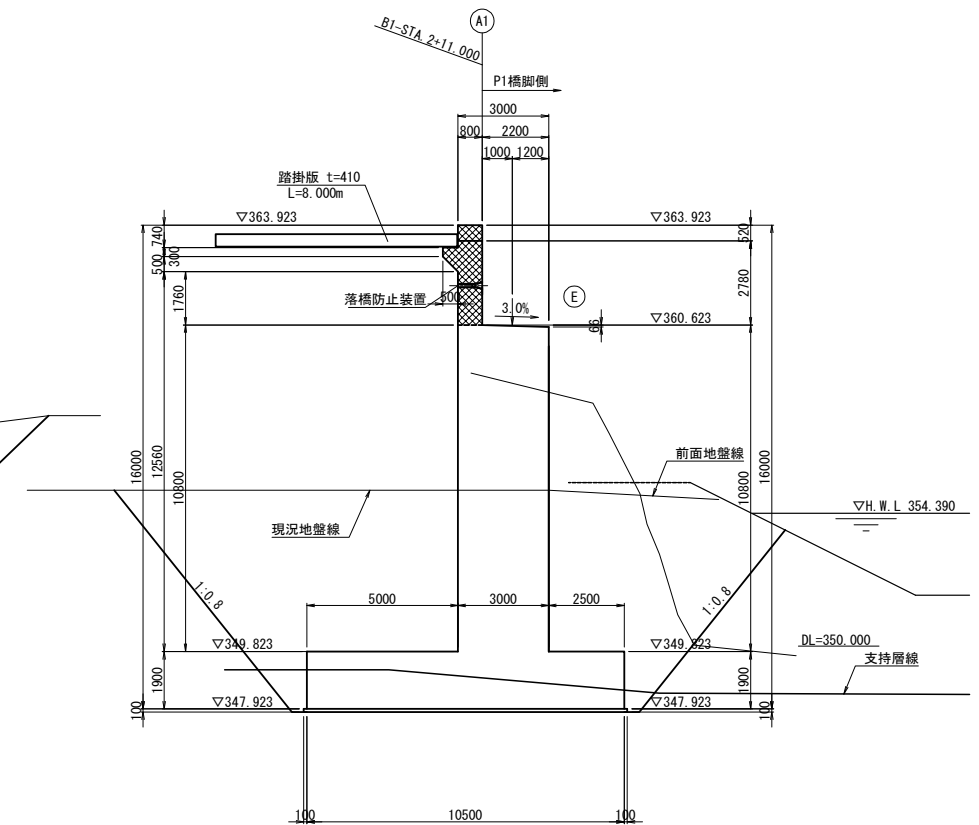
A2橋台



数量表 (㎡)	
下部工躯体	40.8
床版下面	3.3
巻き立てコンクリート	8.9
段差防止構造	4.4
合計	57.4

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	コンクリート表面被覆工（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

断面図(3-3)

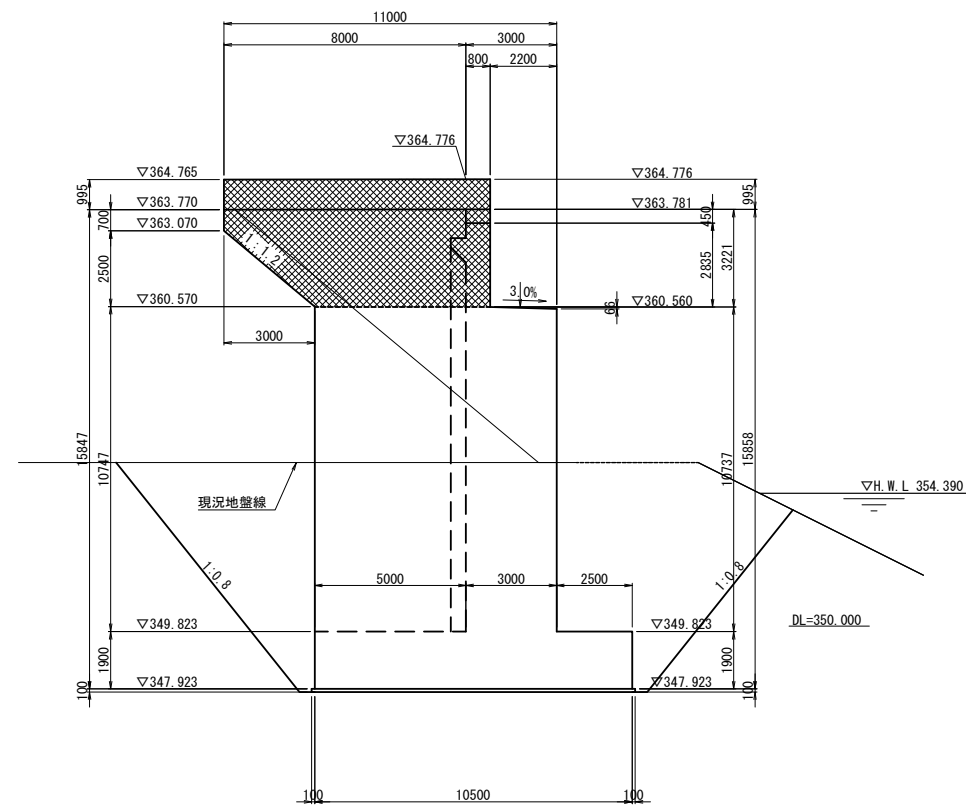


		A1橋台	
		G1	G2
路面計画高	Z1	363.881	363.95
舗装厚	h1	0.080	0.08
調整コンクリート	h2	0.003	0.01
床版厚	h3	0.280	0.28
ハンチ高	h4	0.100	0.10
主桁高	h5	2.300	2.30
下フランジ厚	h6	0.022	0.02
ソールプレート厚	h7	0.040	0.04
支承高	h8	0.287	0.28
音座モルタル厚	h9	0.033	0.03
台座	h10	0.180	0.18
構造高合計	Σh	3.325	3.33
下部工天端高	Z2	360.556	360.62

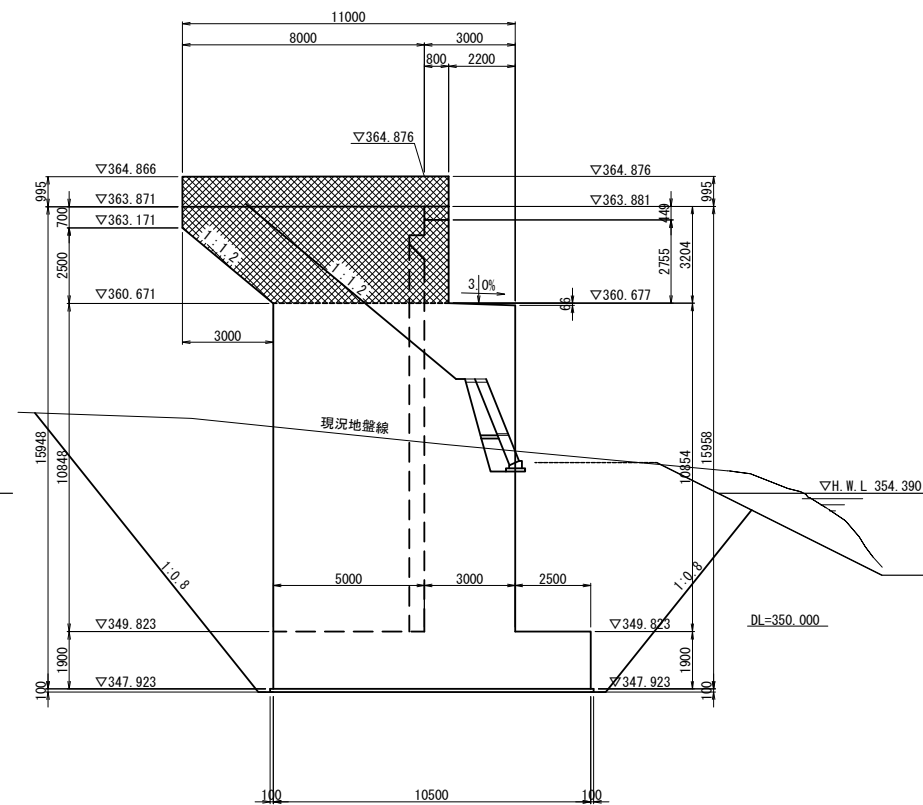
コンクリート	躯体・地覆・壁高欄	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
鉄筋	躯体・地覆・壁高欄	SD345

道東自動車道			
本志鷗川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠ＰＡランプ橋 A１橋台構造一般図（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		

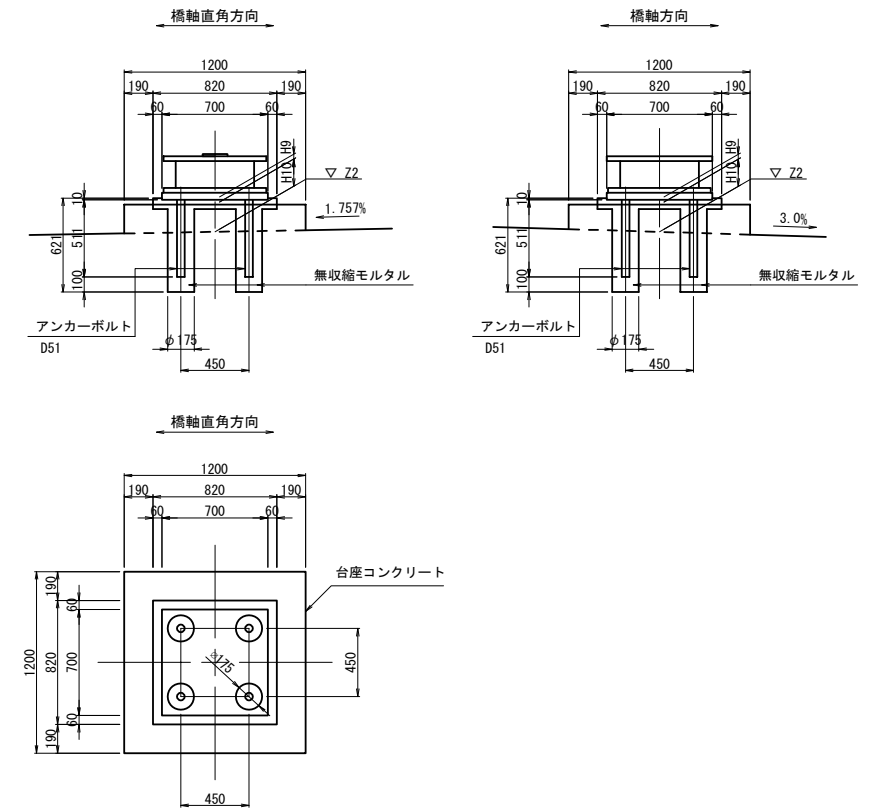
断面図(4-4)



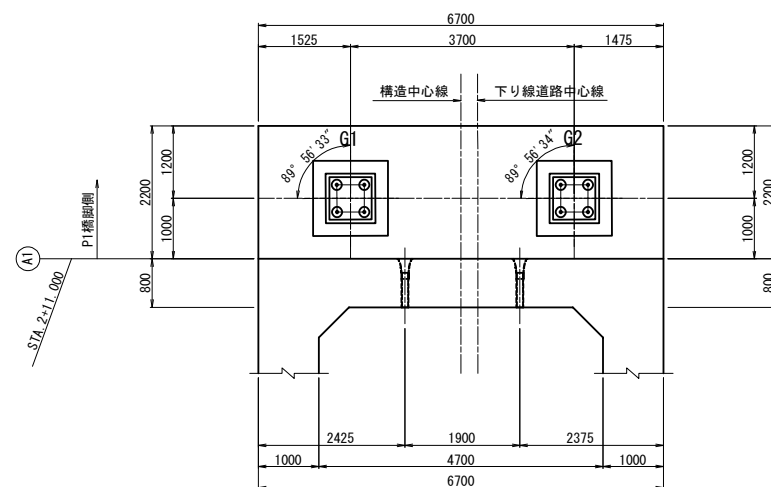
断面図(5-5)



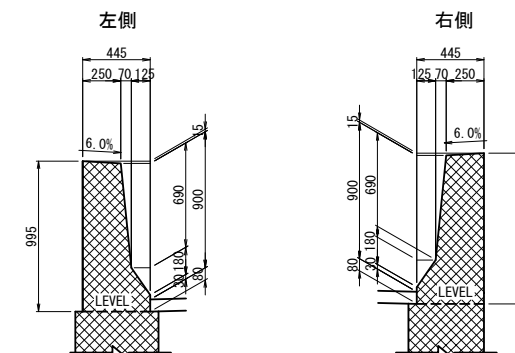
支 承 部 詳 細 図 S=1:75



支承配置図 S=1:125



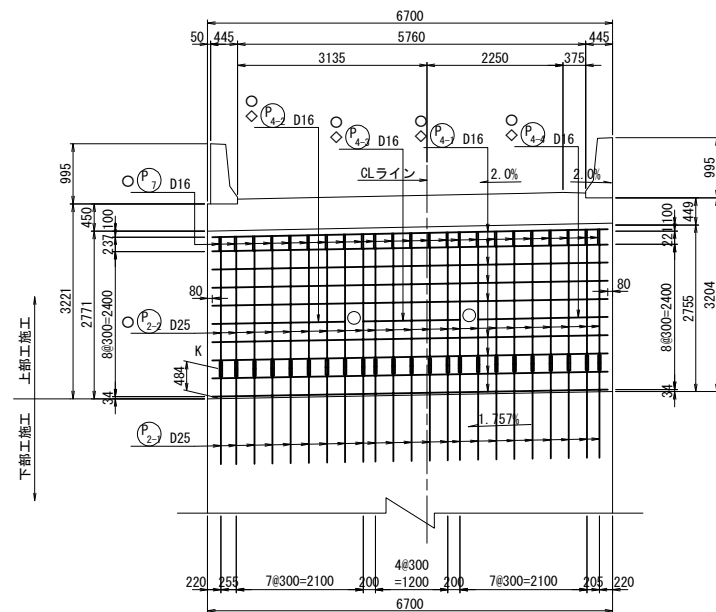
壁高欄詳細 S=1:50



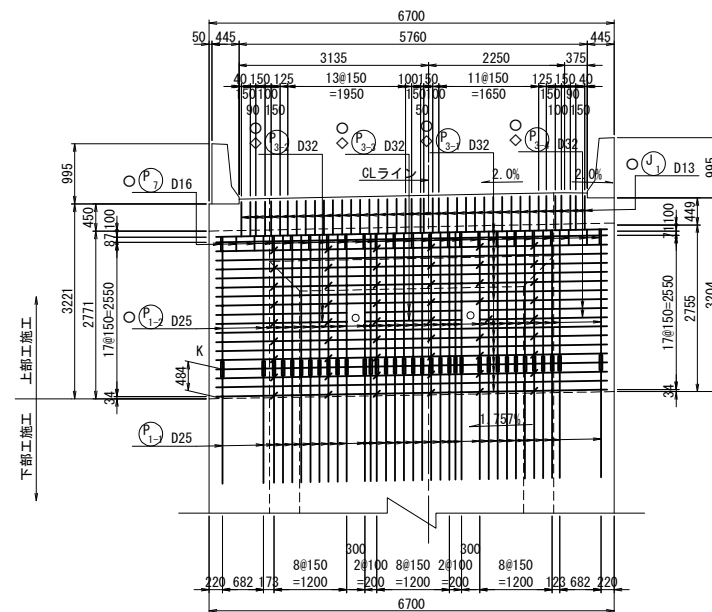
注):  は本工事施工範囲を表す。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上土工）工事			
図面の種類	占冠ＰＡランプ橋 Ａ１橋台構造一般図（その２）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

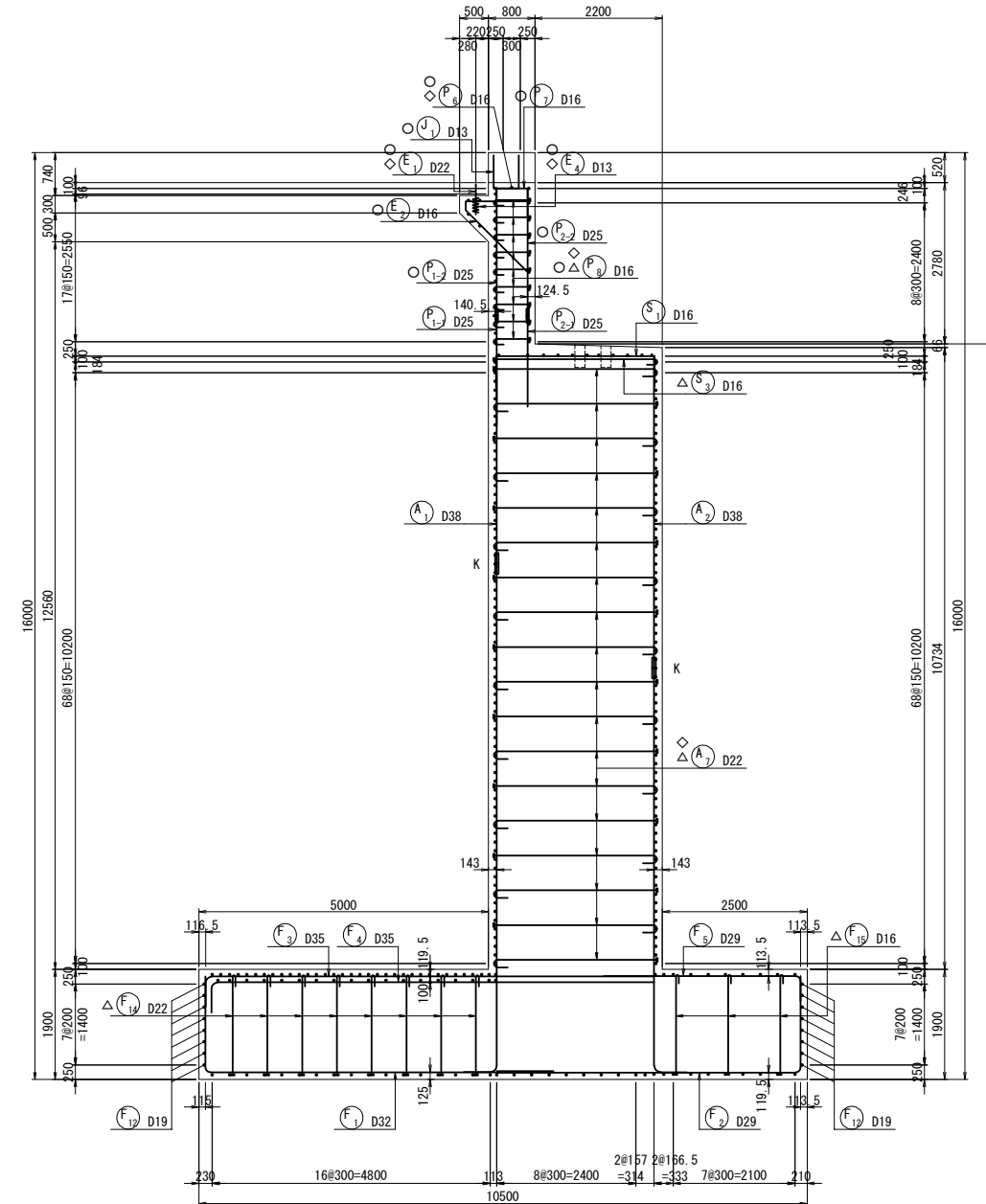
パラペット正面図
2 - 2



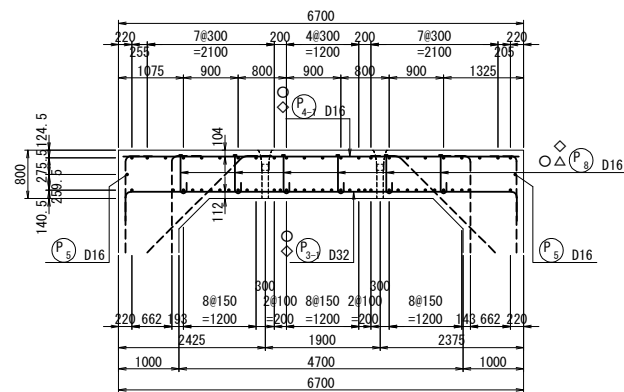
パラペット背面図
3 - 3



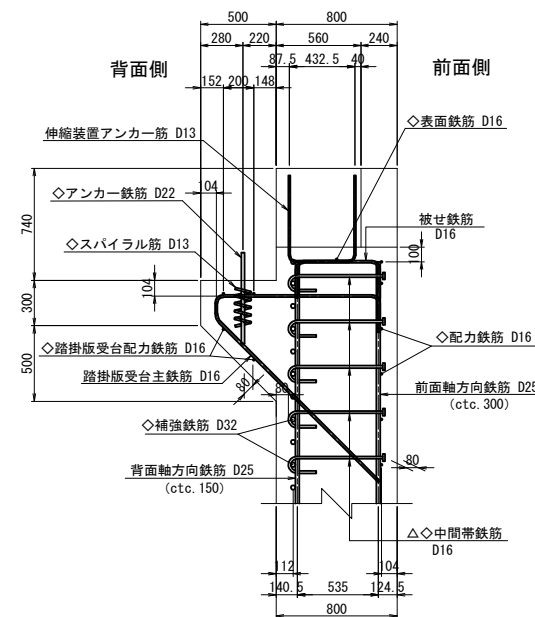
側面図
1 - 1



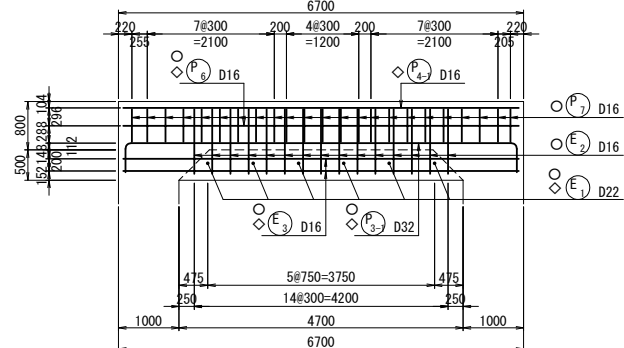
パラペット平面図
4 - 4



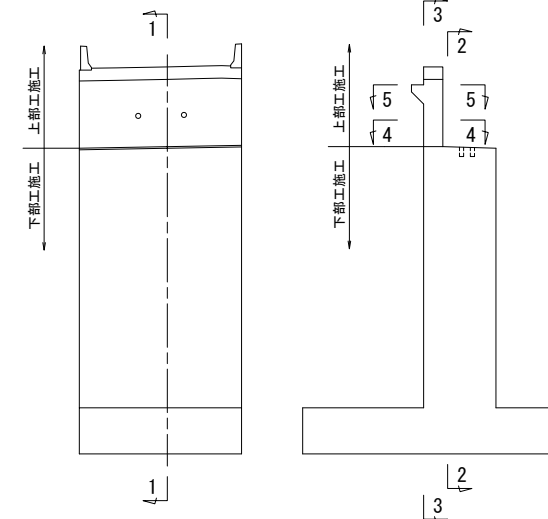
パラペットかぶり詳細図 S=1 : 50



踏掛版受台平面図
5 - 5



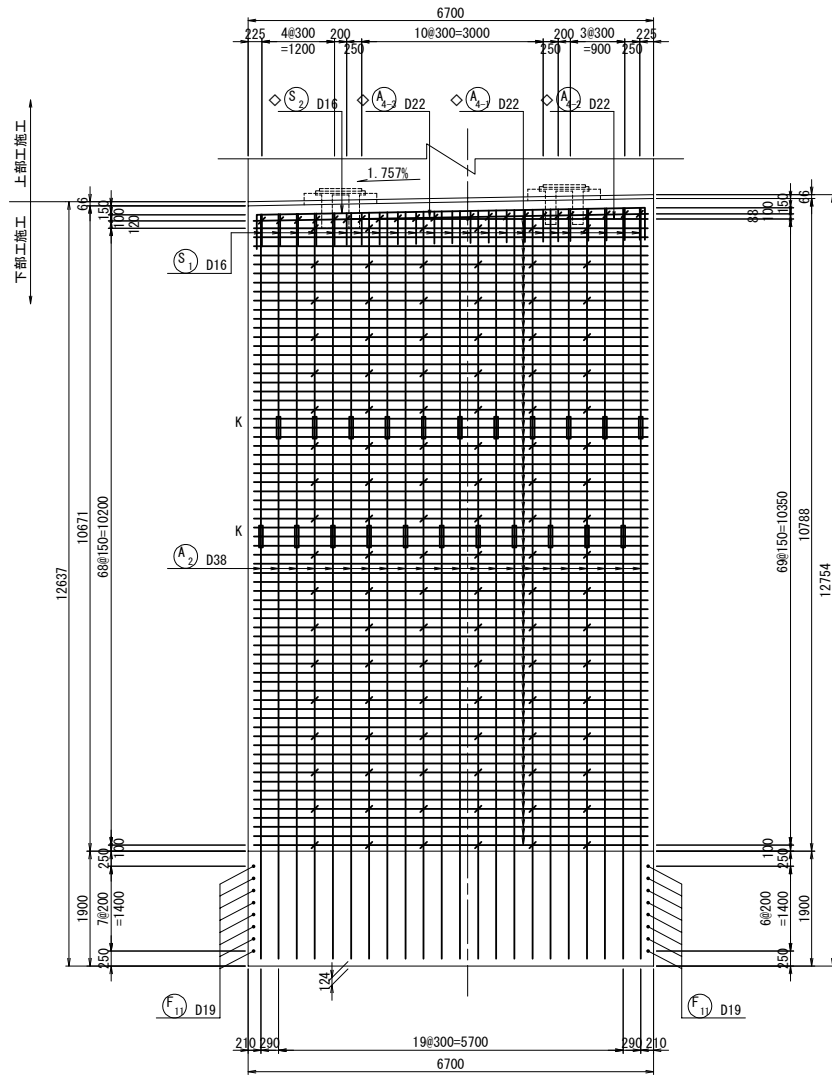
位置図



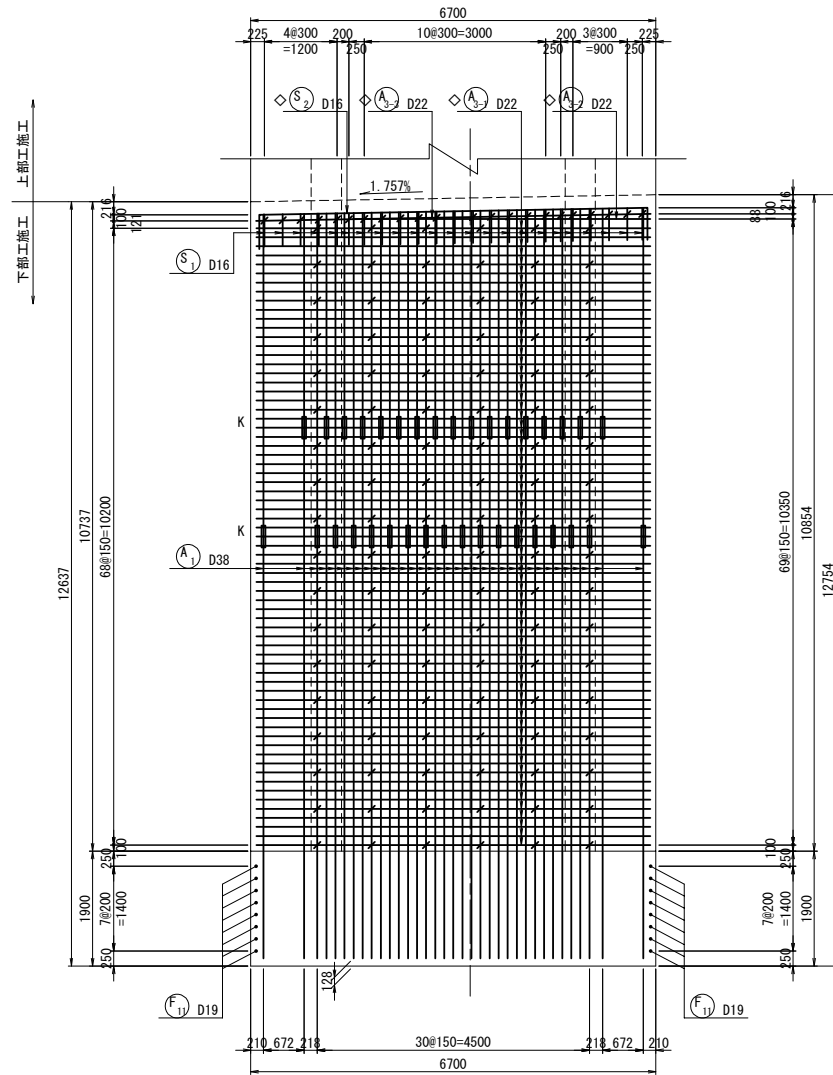
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠Pアランプ橋 A1 橋台配筋図（その1）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

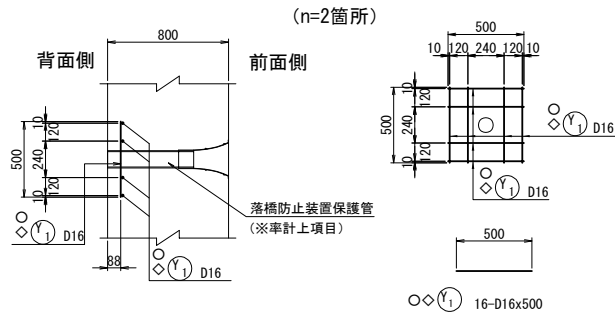
縦壁正面図
1 - 1



縦壁背面図
2 - 2

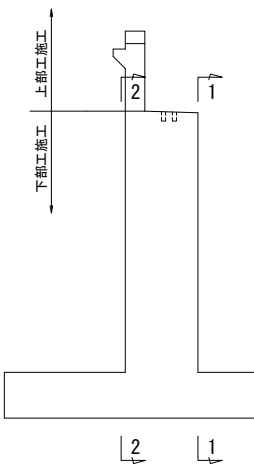


落橋防止構造用鉄筋 S=1:50

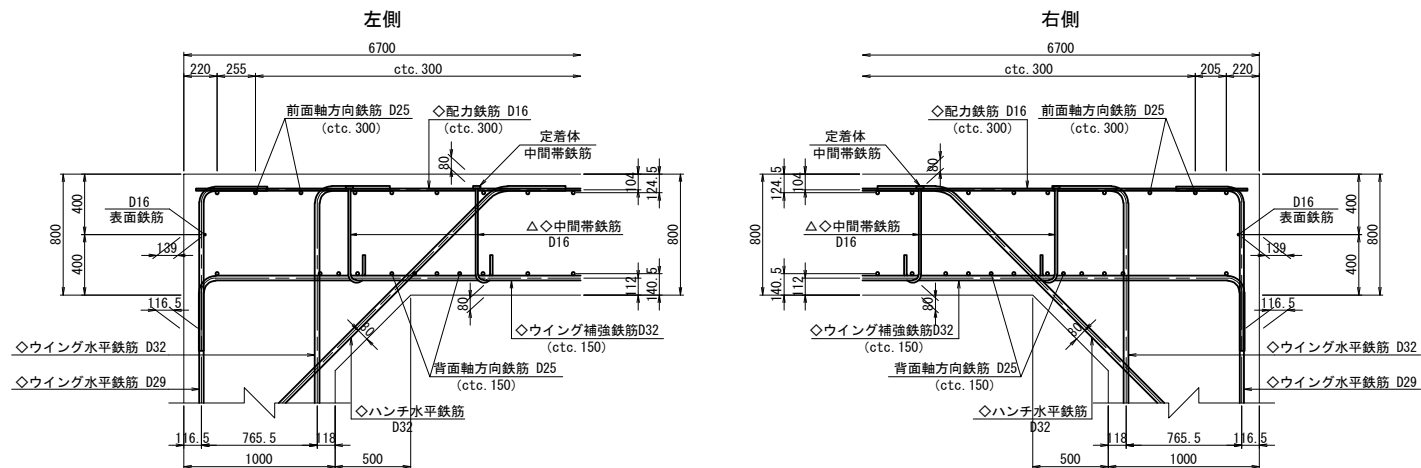


注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

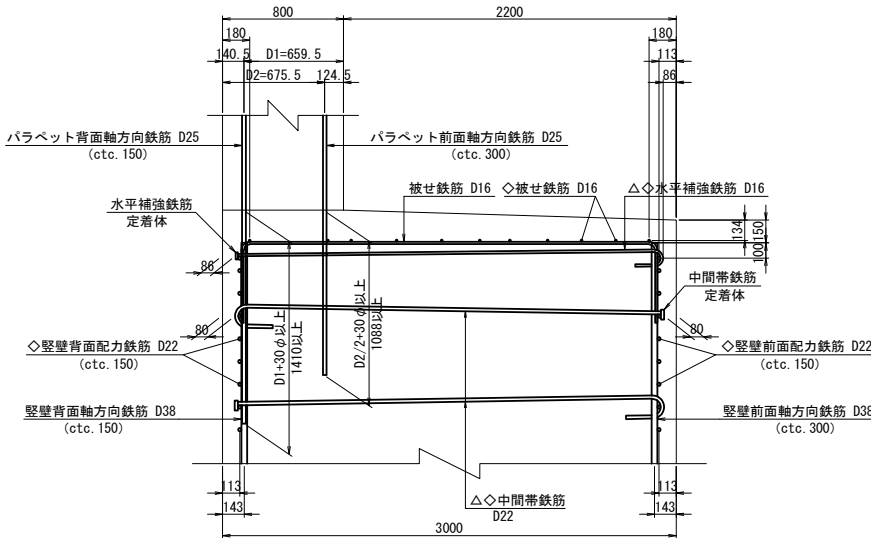
位置図



パラペット端部かぶり詳細図 S=1:50

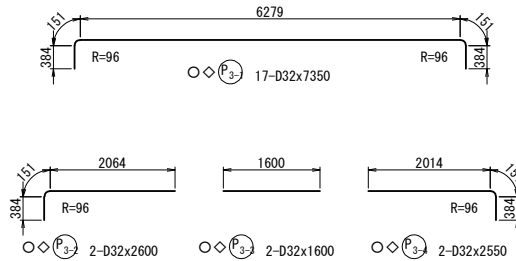
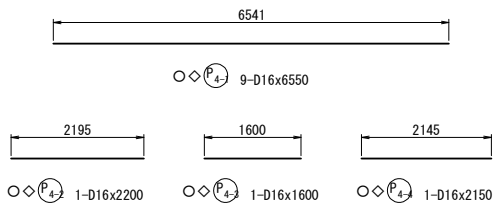
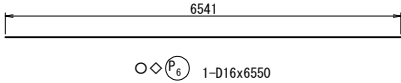
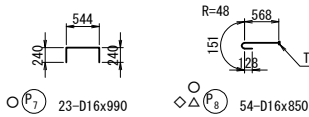
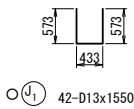
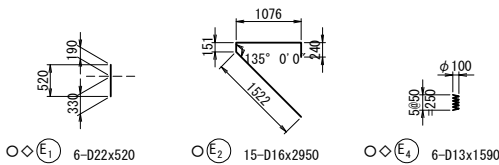
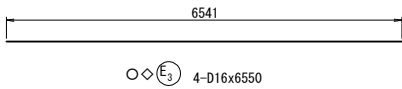
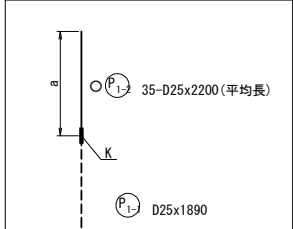


橋座かぶり詳細図 S=1:50

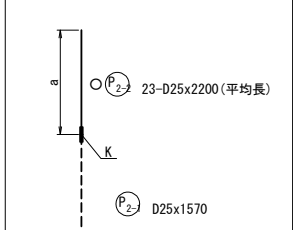


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 凡例
(※率計上項目)

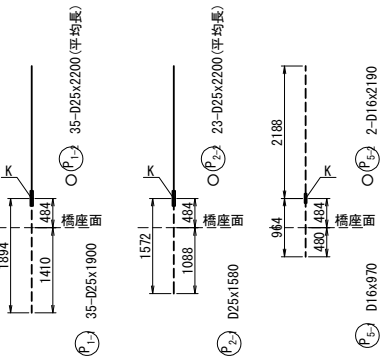
道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A1橋台配筋図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



記号	径	本数	a	L
1	D25	1	2179	2180
2	D25	1	2188	2190
3	D25	1	2189	2190
4	D25	1	2190	2190
5	D25	1	2190	2190
6	D25	1	2191	2190
7	D25	1	2191	2190
8	D25	1	2191	2190
9	D25	1	2192	2190
10	D25	1	2192	2190
11	D25	1	2192	2190
12	D25	1	2193	2190
13	D25	1	2193	2190
14	D25	1	2194	2190
15	D25	1	2194	2190
16	D25	1	2194	2190
17	D25	1	2195	2200
18	D25	1	2195	2200
19	D25	1	2195	2200
20	D25	1	2196	2200
21	D25	1	2196	2200
22	D25	1	2196	2200
23	D25	1	2197	2200
24	D25	1	2197	2200
25	D25	1	2197	2200
26	D25	1	2198	2200
27	D25	1	2198	2200
28	D25	1	2199	2200
29	D25	1	2199	2200
30	D25	1	2200	2200
31	D25	1	2200	2200
32	D25	1	2200	2200
33	D25	1	2201	2200
34	D25	1	2201	2200
35	D25	1	2201	2200
平均長		35		2195

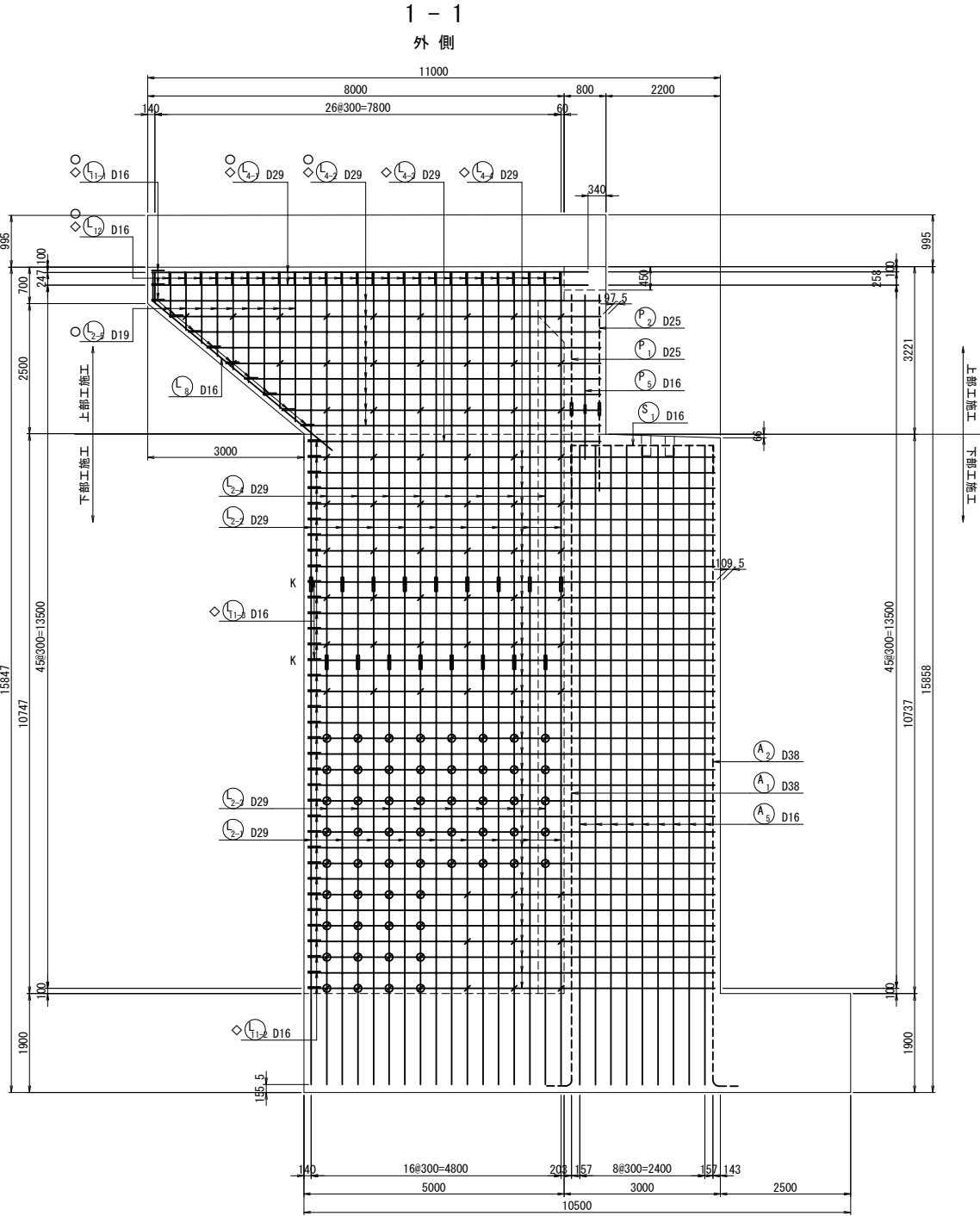
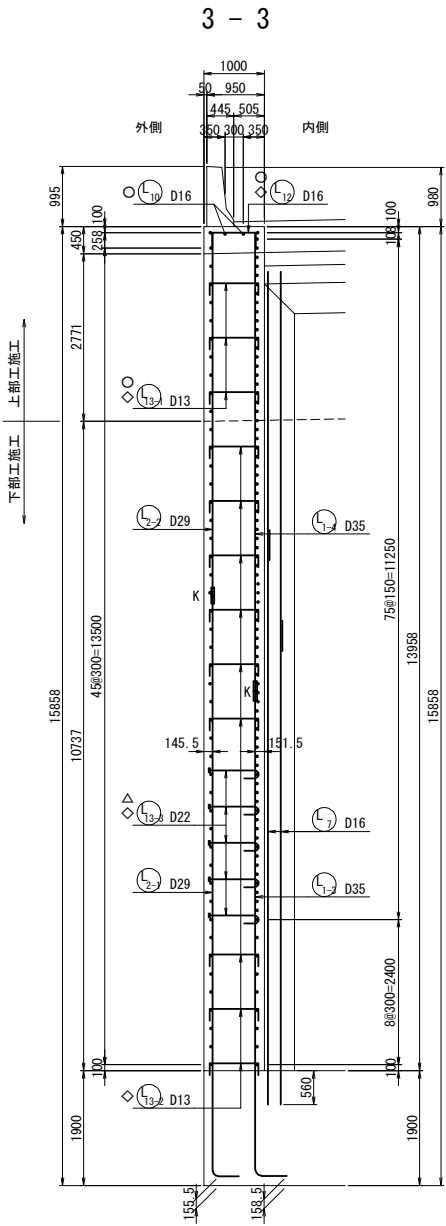
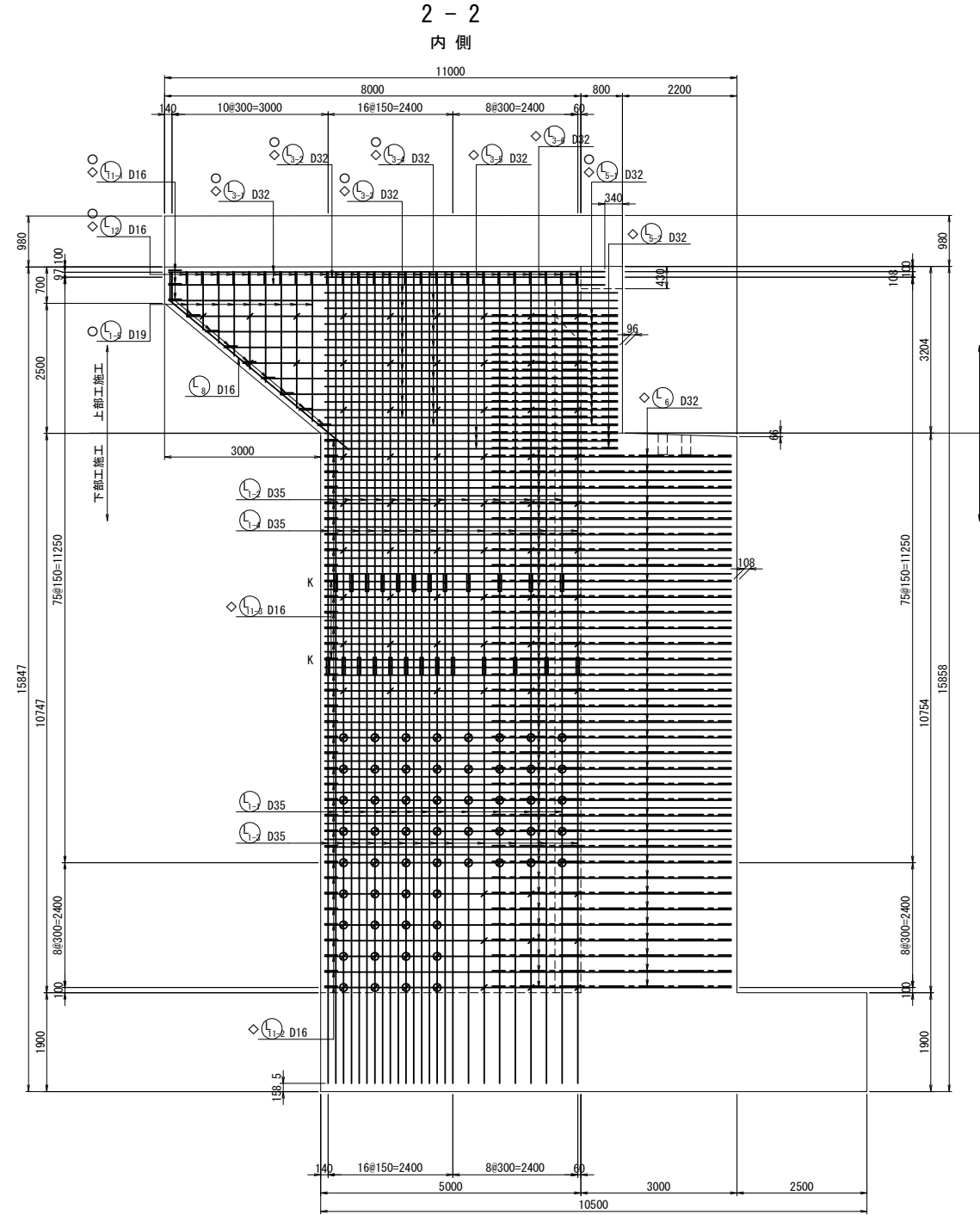


記号	径	本数	a	L
1	D25	1	2179	2180
2	D25	1	2187	2190
3	D25	1	2188	2190
4	D25	1	2188	2190
5	D25	1	2189	2190
6	D25	1	2190	2190
7	D25	1	2191	2190
8	D25	1	2191	2190
9	D25	1	2192	2190
10	D25	1	2193	2190
11	D25	1	2193	2190
12	D25	1	2194	2190
13	D25	1	2195	2200
14	D25	1	2195	2200
15	D25	1	2196	2200
16	D25	1	2197	2200
17	D25	1	2197	2200
18	D25	1	2198	2200
19	D25	1	2198	2200
20	D25	1	2199	2200
21	D25	1	2200	2200
22	D25	1	2200	2200
23	D25	1	2201	2200
平均長		23		2194

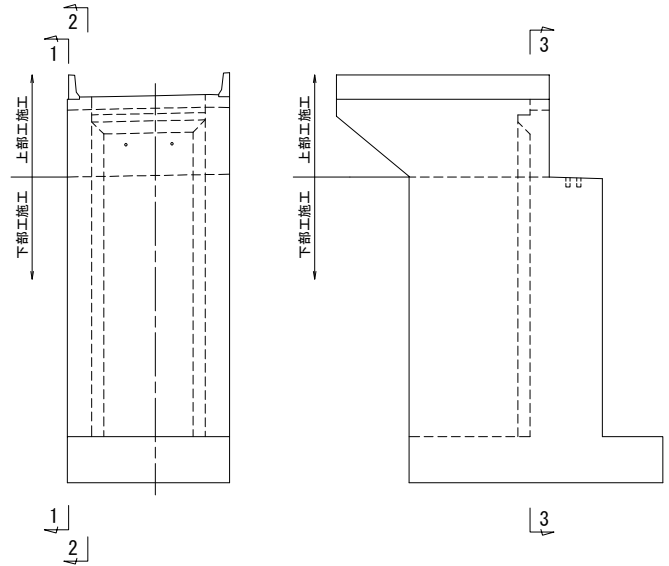


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A 1橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

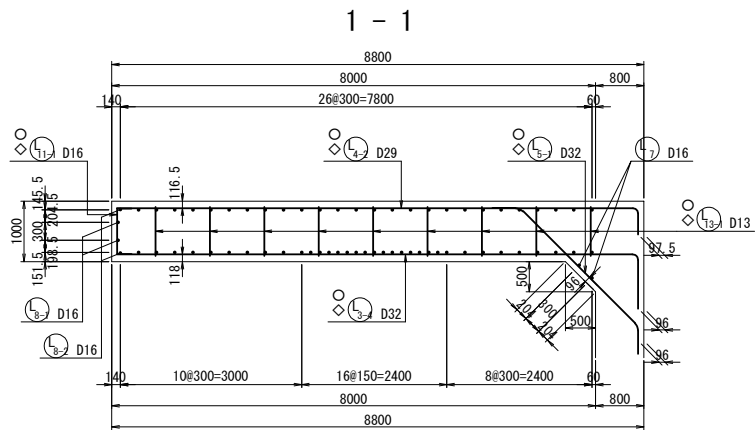
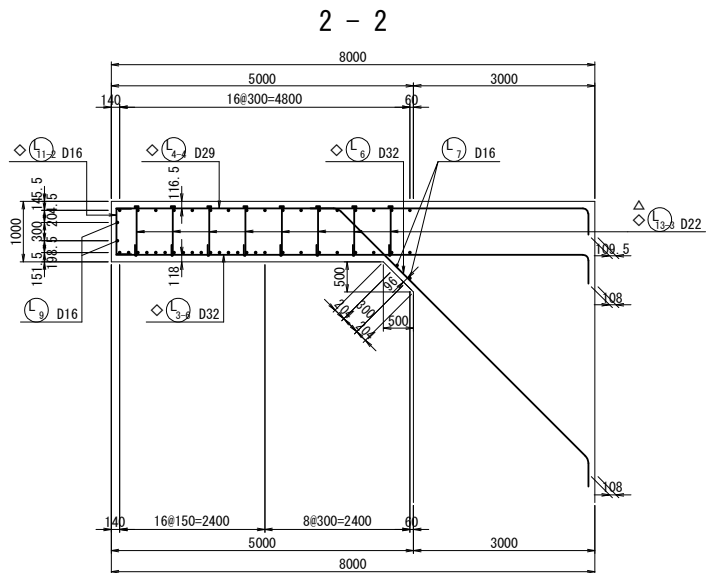


位置図

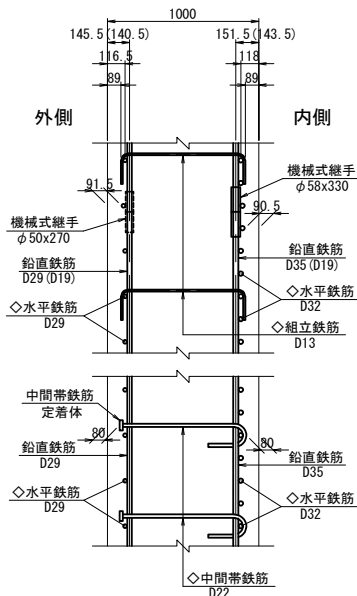


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) Kは機械式継手を表わす。
注8) ⊙は $\odot_{(13)}$ 鉄筋を表わす。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A1橋台配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

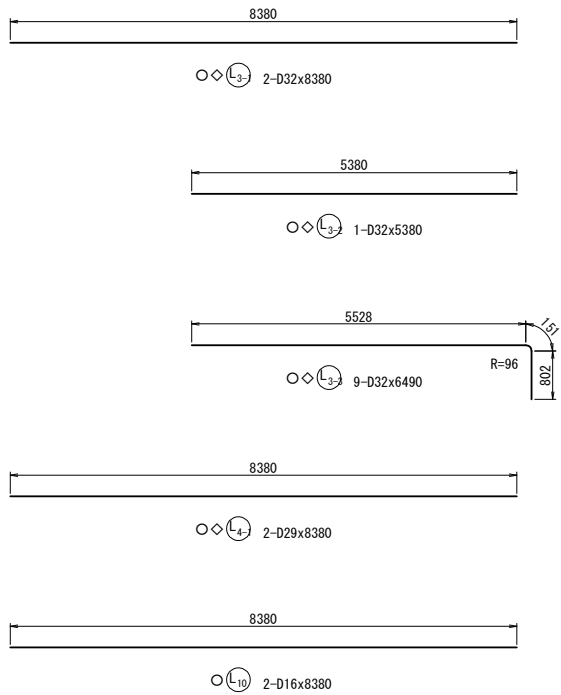
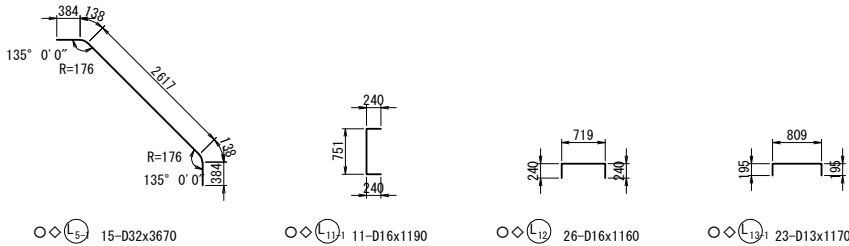


左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

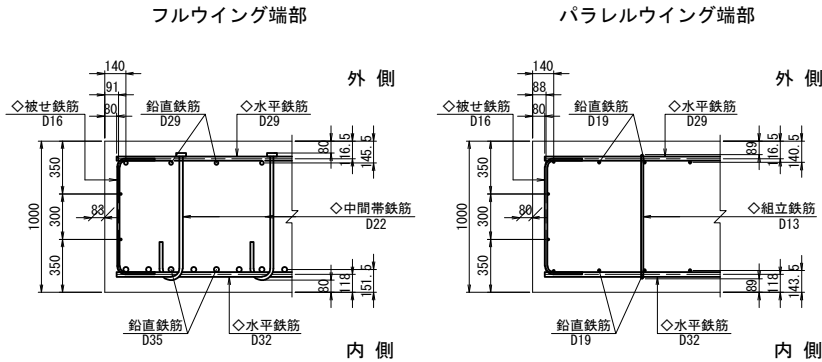


※（ ）内は、パラレルウイング部を示す。

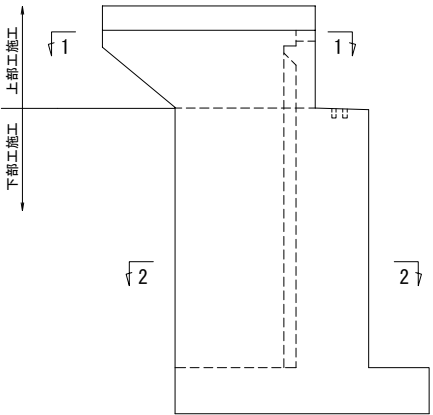
上部工施工鉄筋



左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



位置図

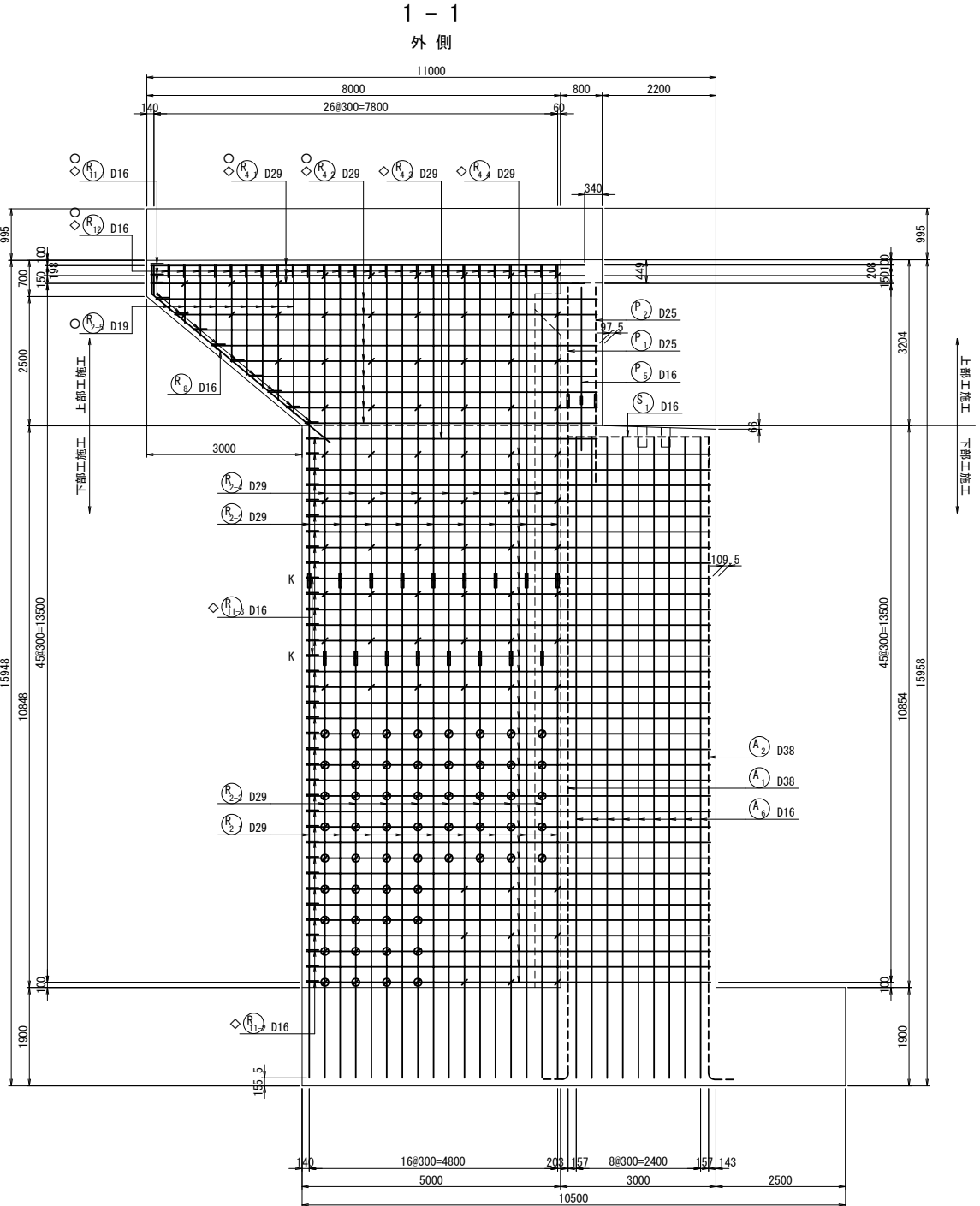
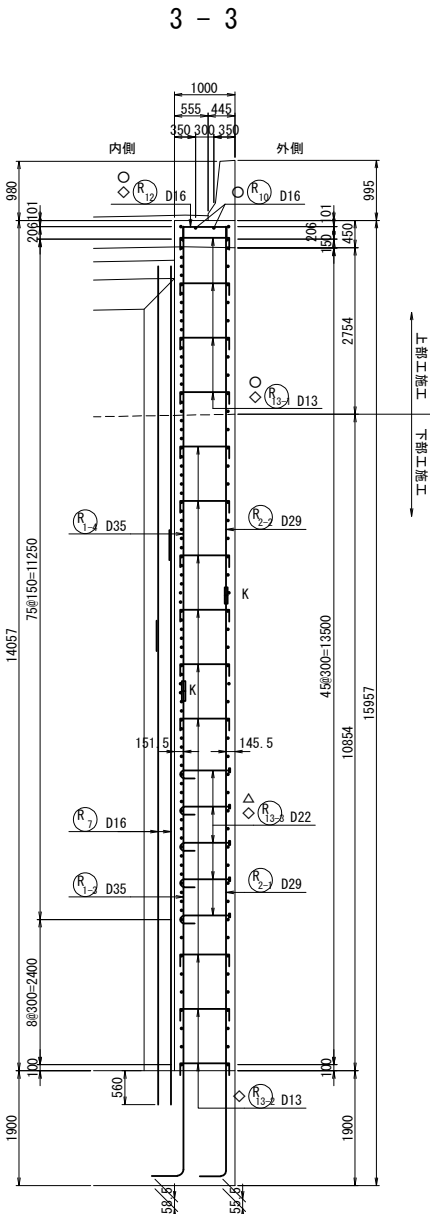
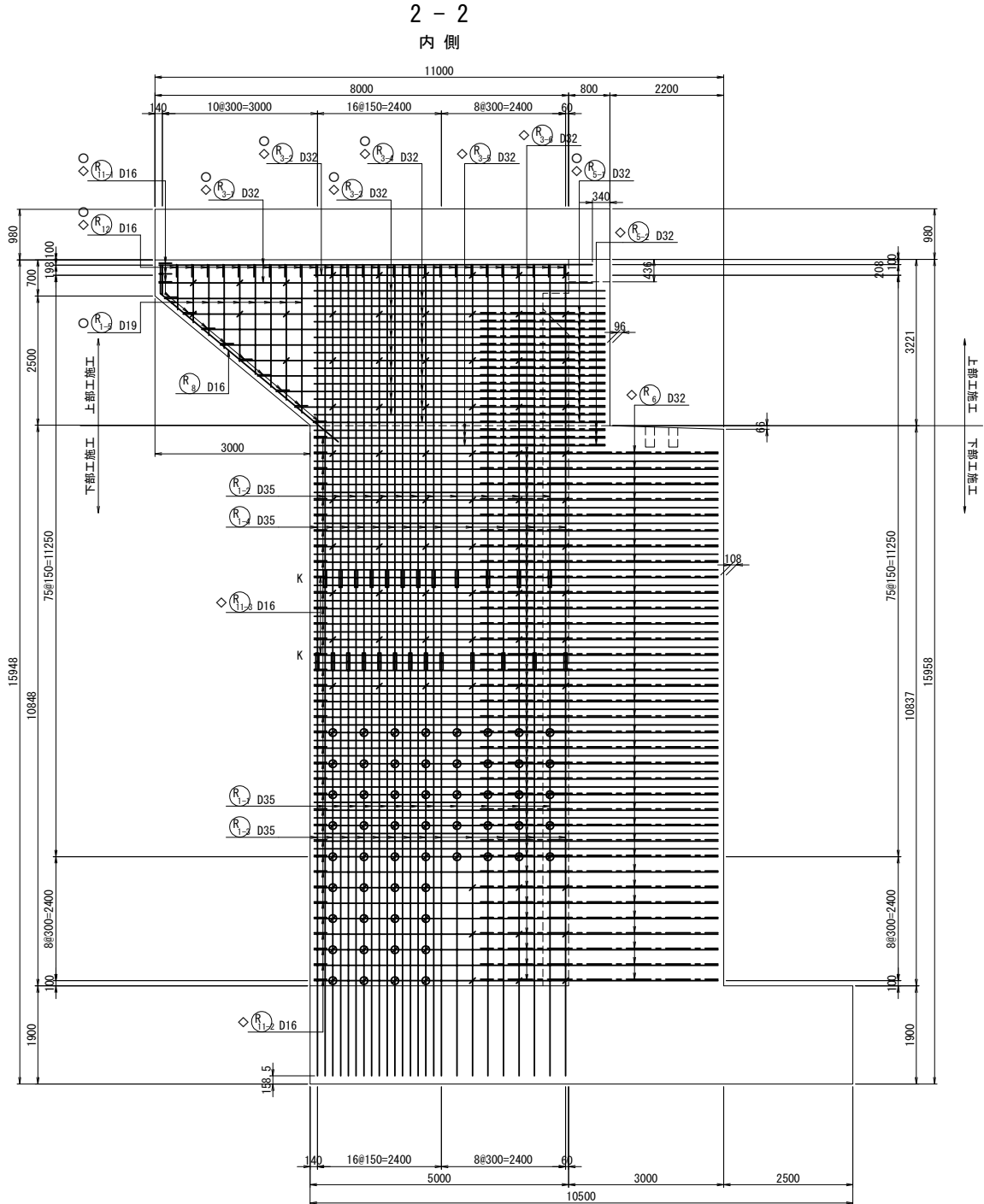


○◇(L3) 9-D32x8060 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D32	1	5667	6620
2	D32	1	6027	6980
3	D32	1	6387	7340
4	D32	1	6747	7700
5	D32	1	7107	8060
6	D32	1	7467	8420
7	D32	1	7827	8780
8	D32	1	8187	9140
9	D32	1	8528	9480
平均長		9		8058

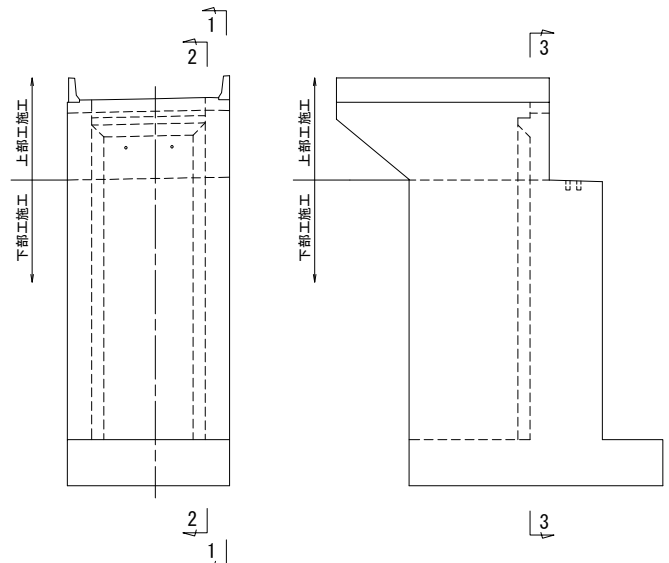
○◇(L4) 9-D29x7600 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D29	1	5674	6160
2	D29	1	6034	6520
3	D29	1	6394	6880
4	D29	1	6754	7240
5	D29	1	7114	7600
6	D29	1	7474	7960
7	D29	1	7834	8320
8	D29	1	8194	8680
9	D29	1	8535	9020
平均長		9		7598

- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A 1橋台配筋図（その5）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

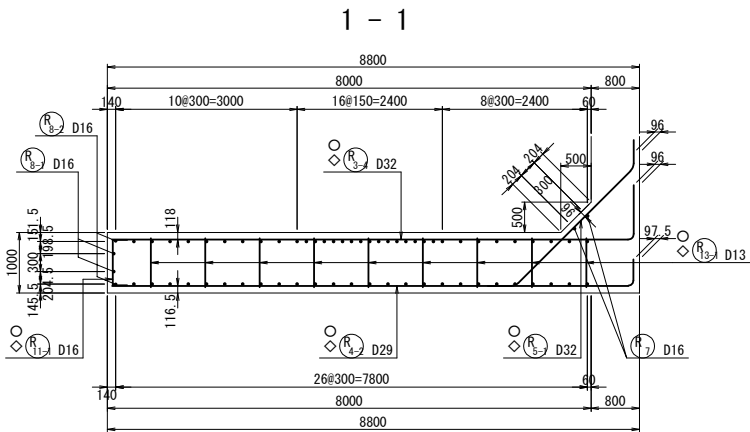
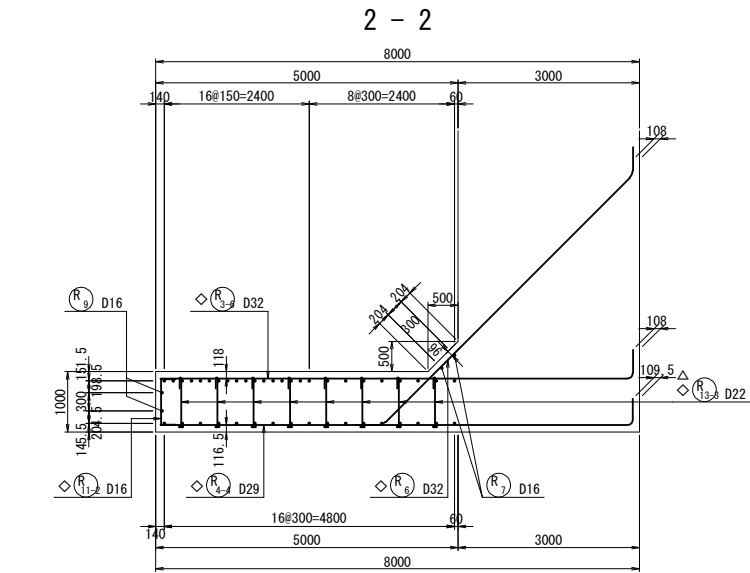


位置図

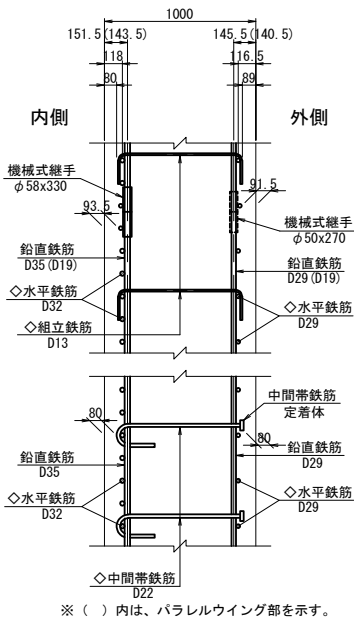


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) Kは機械式継手を表す。
注8) ⊙はR₃₂鉄筋を表す。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A1橋台配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

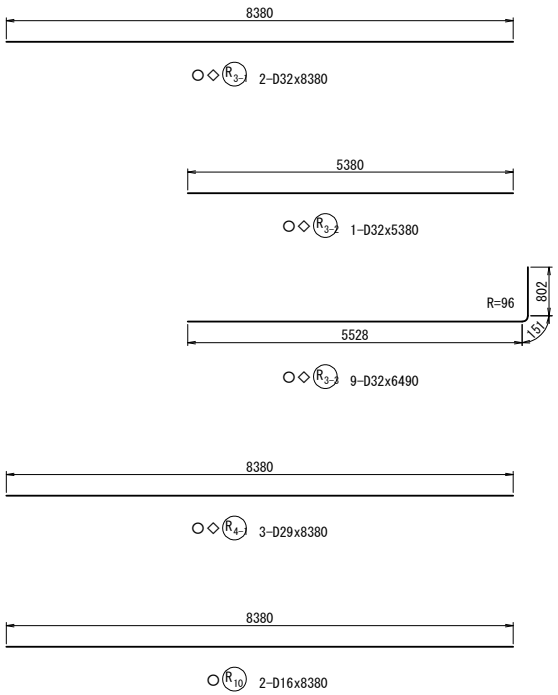
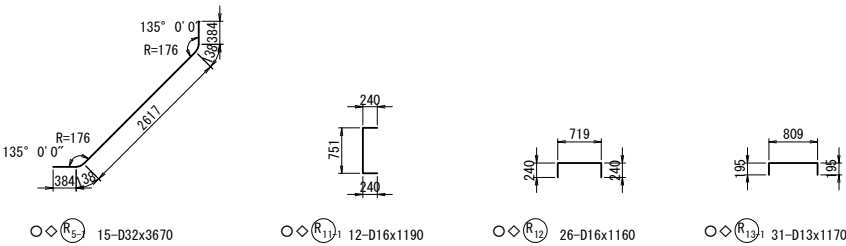


右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

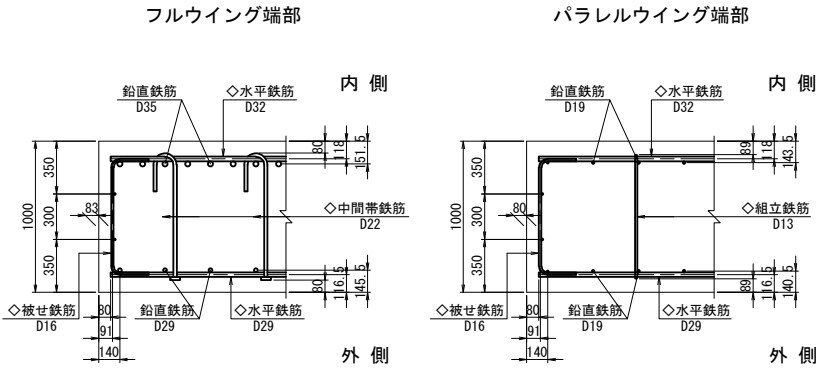


※（ ）内は、パラレルウイング部を示す。

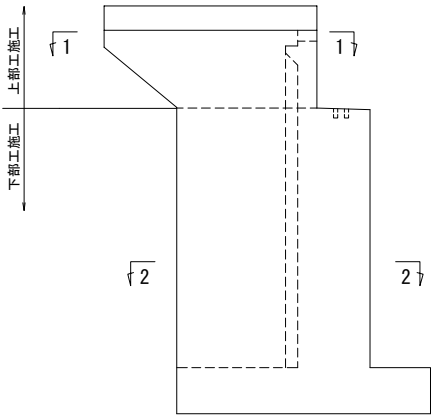
上部工施工鉄筋

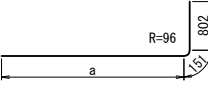


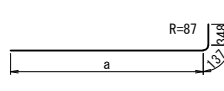
右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



位置図



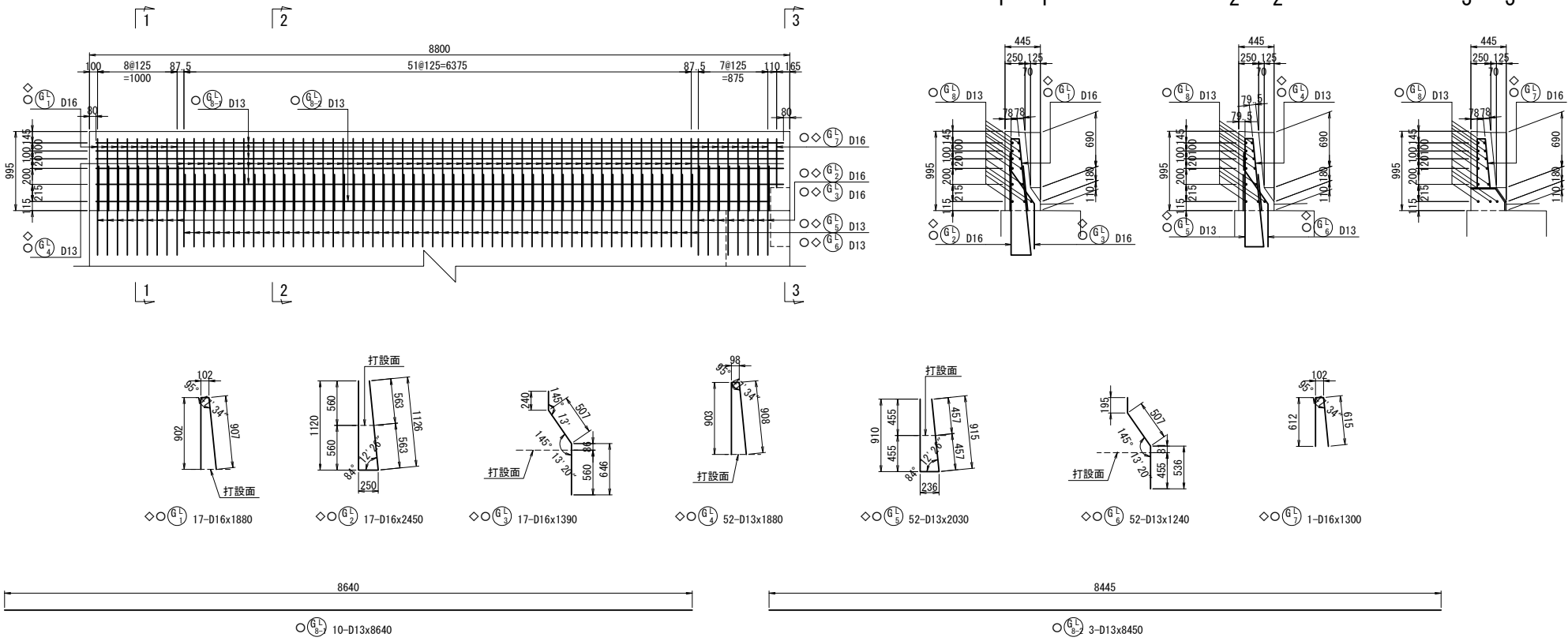
				
○◇(R ₃) 9-D32x7940 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D32	1	5546	6500
2	D32	1	5906	6860
3	D32	1	6266	7220
4	D32	1	6626	7580
5	D32	1	6986	7940
6	D32	1	7346	8300
7	D32	1	7706	8660
8	D32	1	8066	9020
9	D32	1	8426	9380
平均長		9		7940

				
○◇(R ₄) 9-D29x7480 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D29	1	5553	6040
2	D29	1	5913	6400
3	D29	1	6273	6760
4	D29	1	6633	7120
5	D29	1	6993	7480
6	D29	1	7353	7840
7	D29	1	7713	8200
8	D29	1	8073	8560
9	D29	1	8433	8920
平均長		9		7480

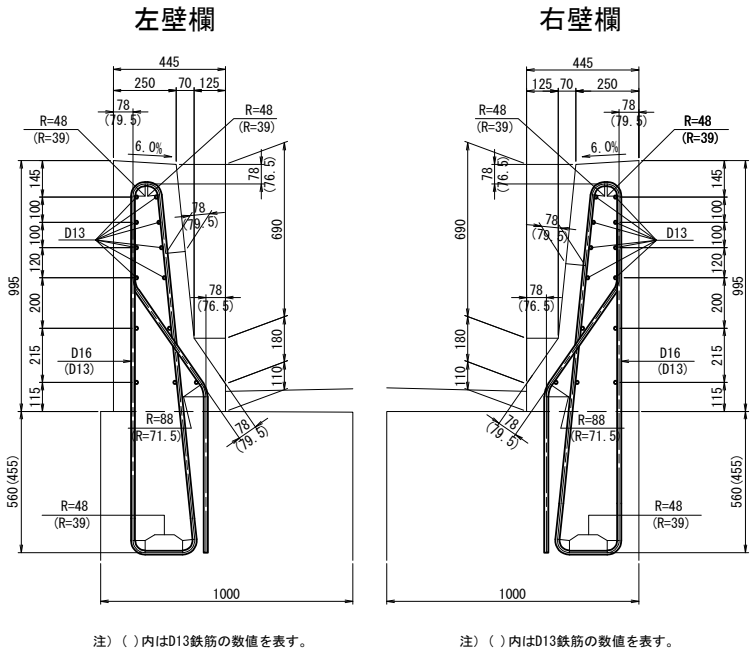
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
- 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 - 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A 1橋台配筋図（その7）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

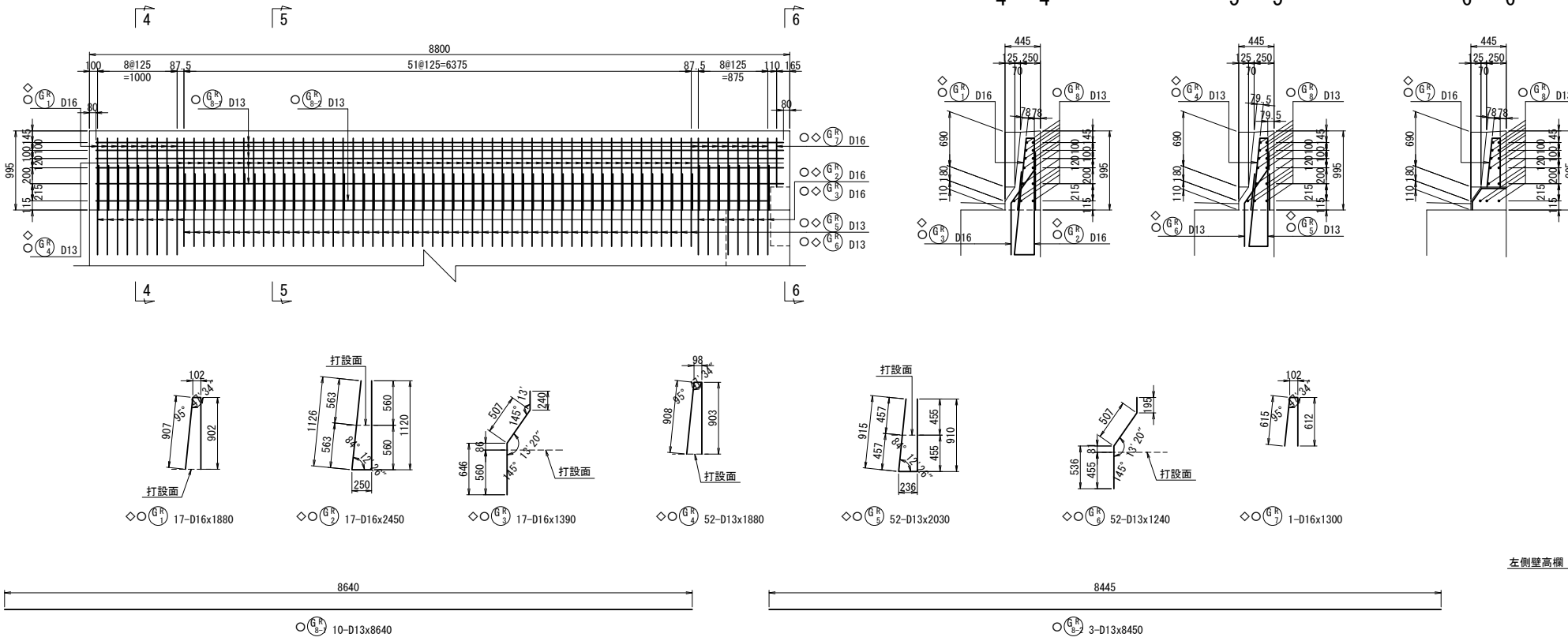
左壁欄側面展開図



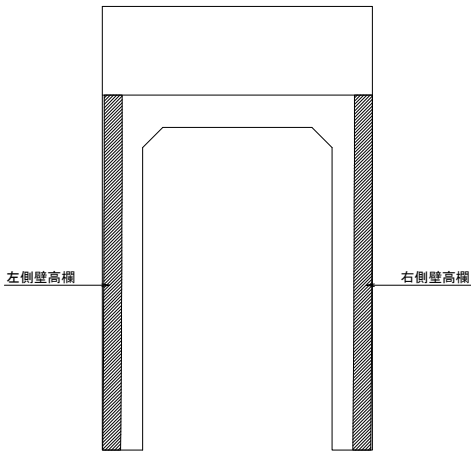
壁高欄かぶり詳細図 S=1:30



右壁欄側面展開図



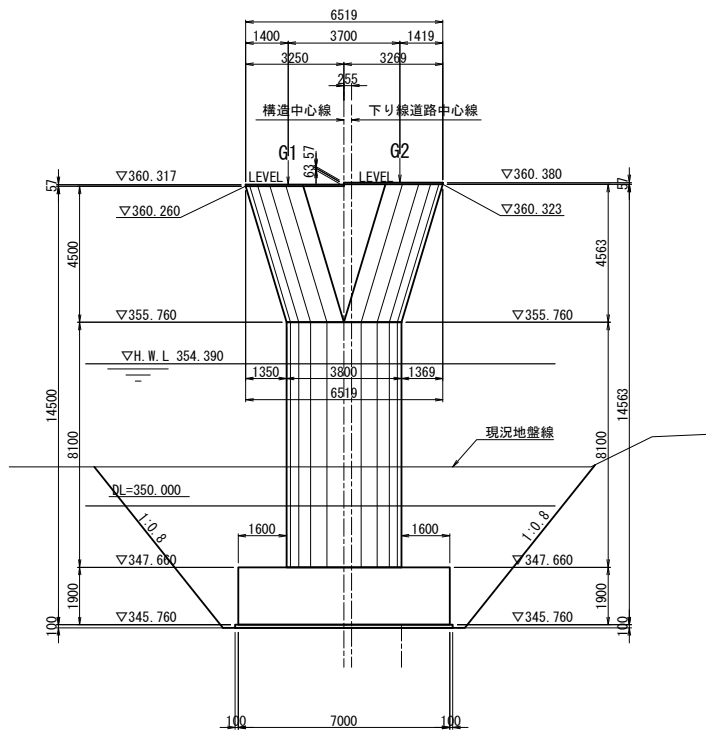
位置図



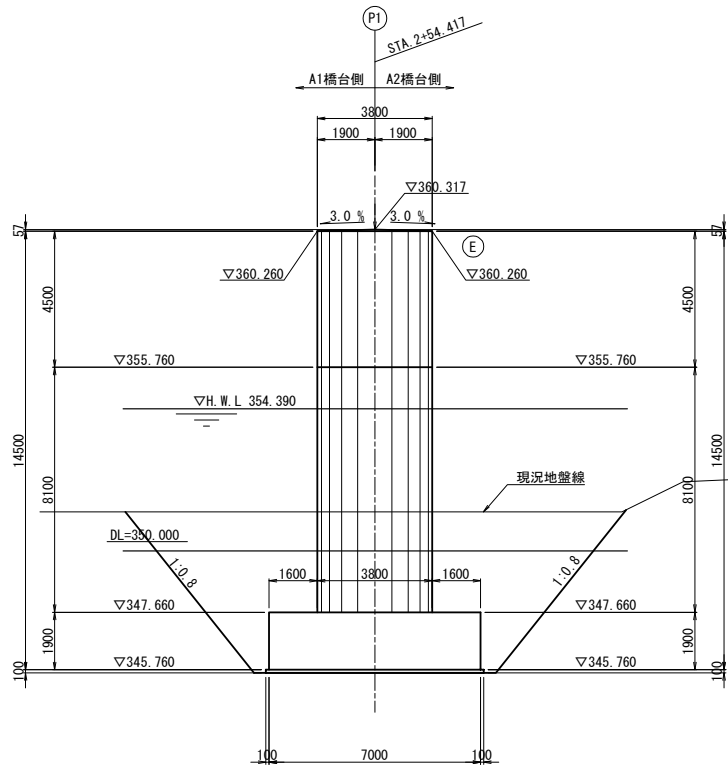
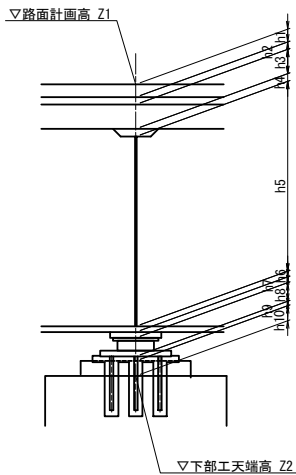
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A 1橋台配筋図（その8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

正面図(1-1)



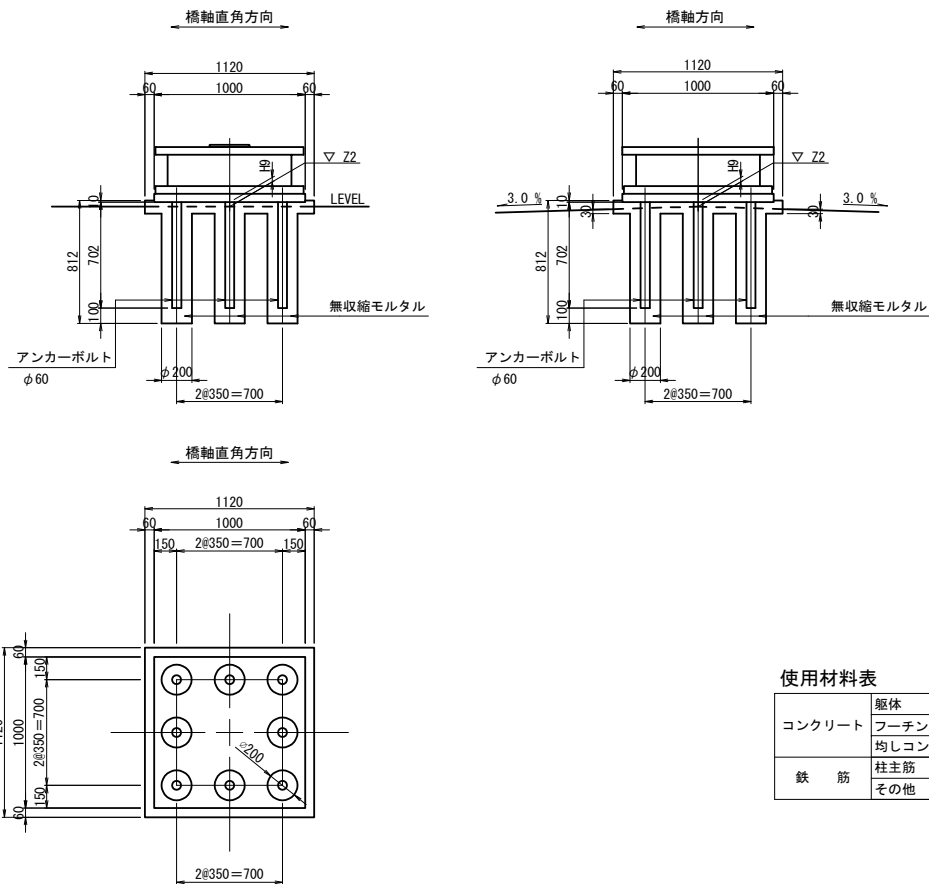
断面図(2-2)



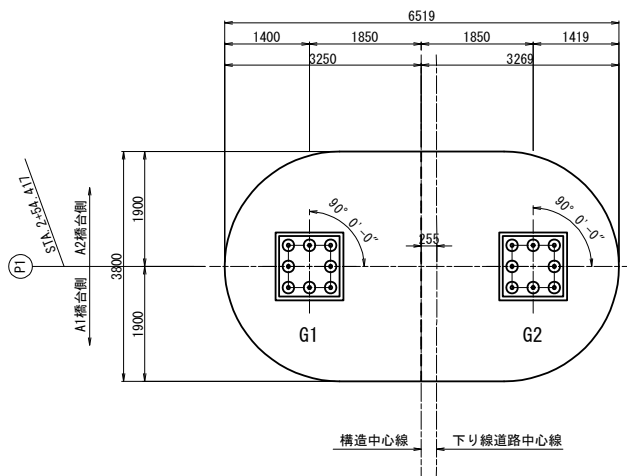
構造高表

		P1橋脚	
		G1	G2
路面計画高	Z1	363.566	363.640
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.003	0.012
床版厚	h3	0.280	0.280
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.300	2.300
下フランジ厚	h6	0.048	0.050
ソールプレート厚	h7	0.045	0.045
支承高	h8	0.363	0.363
寄座モルタル厚	h9	0.030	0.030
台座	h10	—	—
構造高合計	Σh	3.249	3.260
下部工天端高	Z2	360.317	360.380

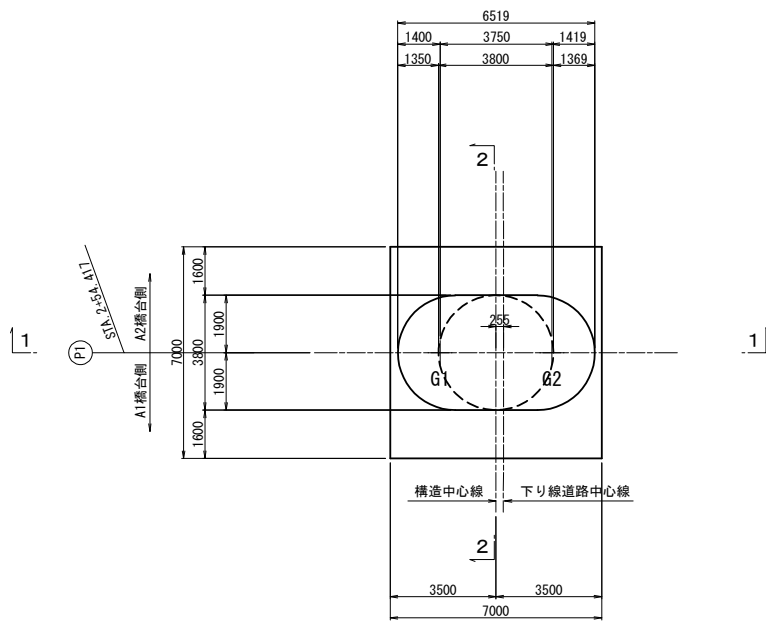
支承部詳細図 S=1:75



支承配置図 S=1:125



平面図



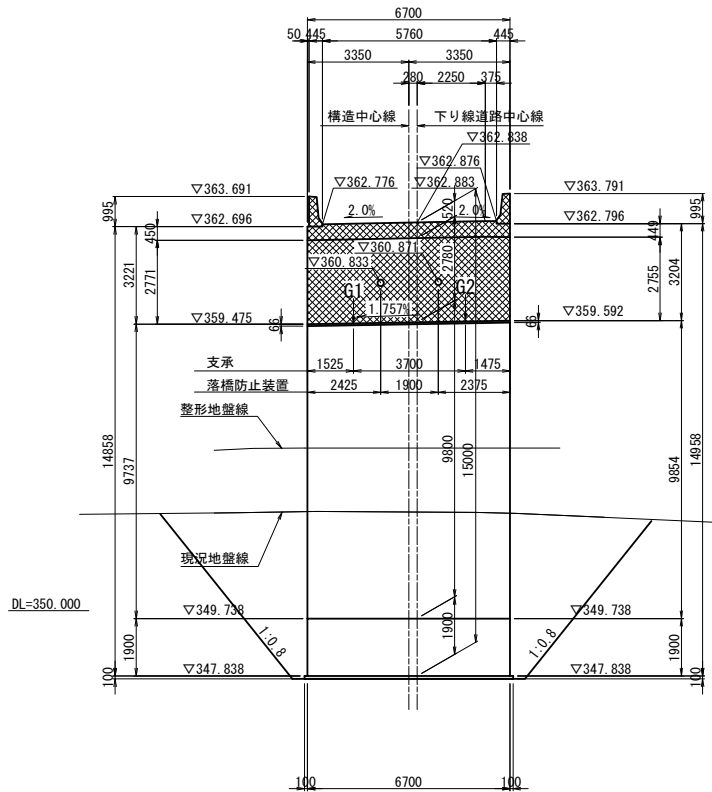
使用材料表

コンクリート	躯体	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均しコンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
鉄筋	柱主筋	SD490
	その他	SD345

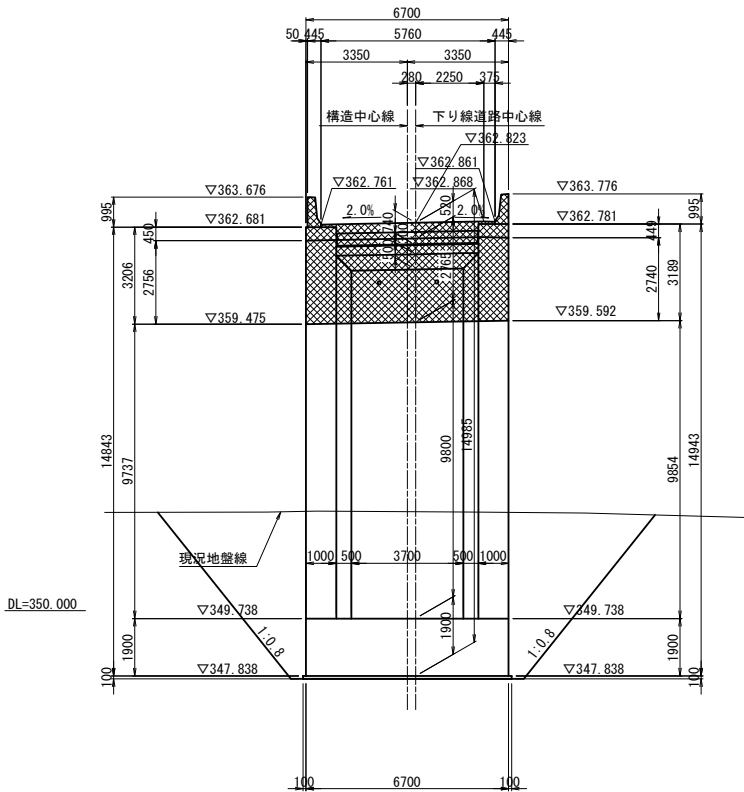
注: は上部工施工範囲を表す。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 P1橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

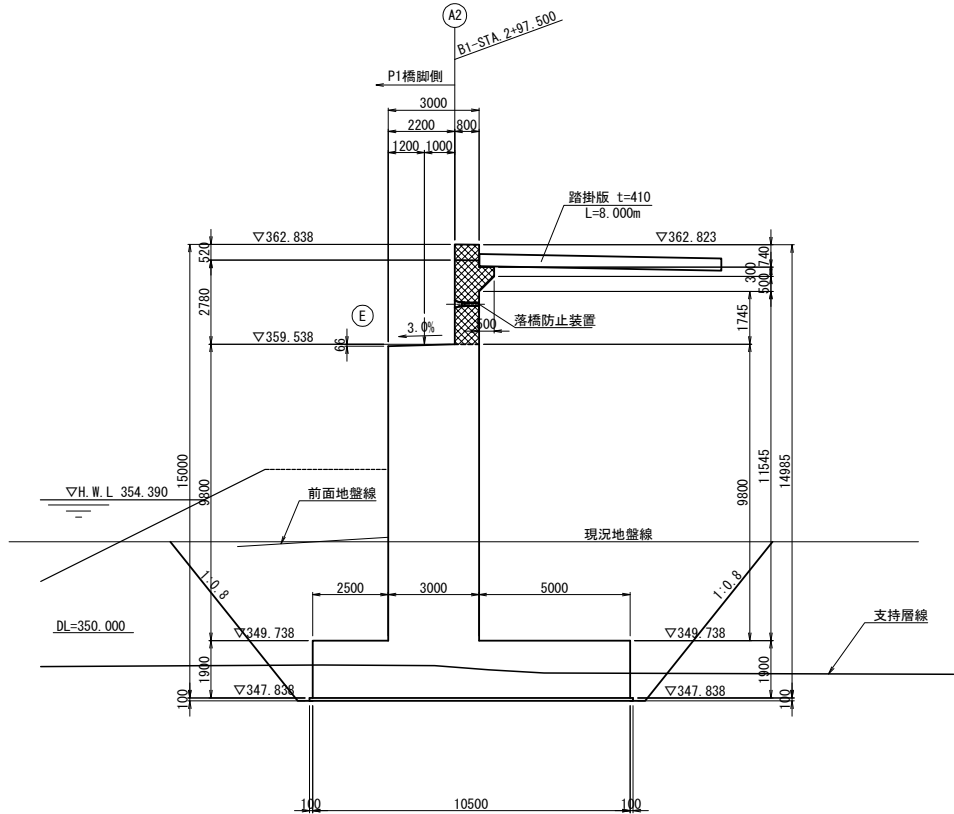
正面図(1-1)



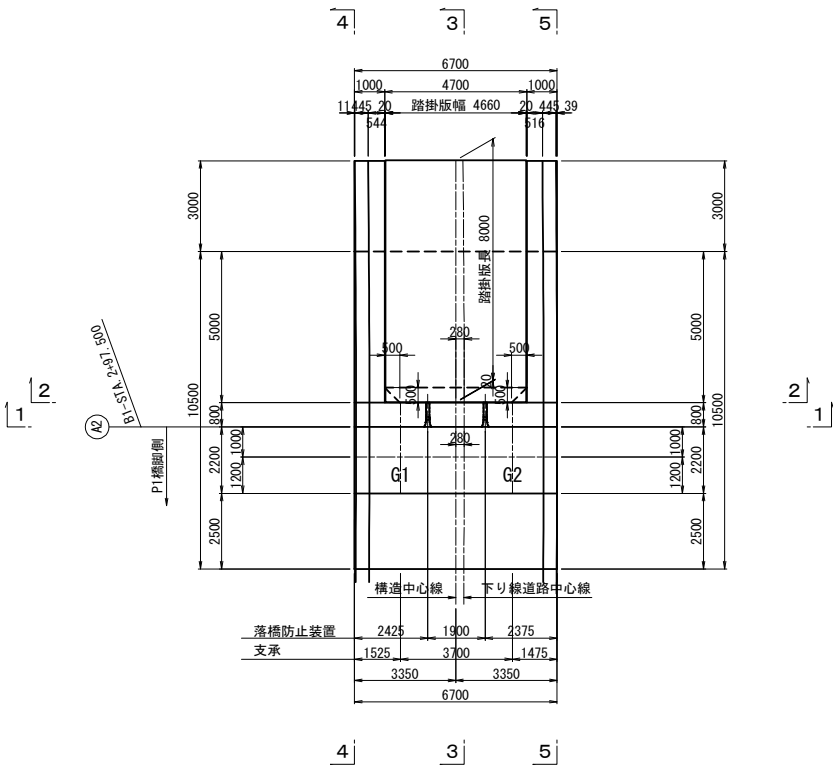
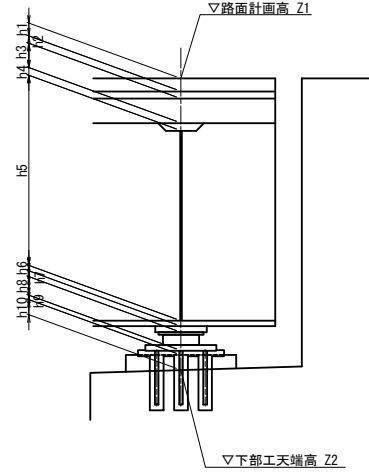
背面図(2-2)



断面図(3-3)



平面図



構造高表

		A2橋台	
		G1	G2
路面計画高	Z1	362.815	362.889
舗装厚	h1	0.080	0.080
調整コンクリート	h2	0.003	0.012
床版厚	h3	0.280	0.280
ハンチ高	h4	0.100	0.100
主桁高	h5	2.300	2.300
下フランジ厚	h6	0.022	0.022
ソールプレート厚	h7	0.044	0.044
支承高	h8	0.287	0.287
寄座モルタル厚	h9	0.038	0.038
台座	h10	0.190	0.190
構造高合計	Σh	3.344	3.353
下部工天端高	Z2	359.471	359.536

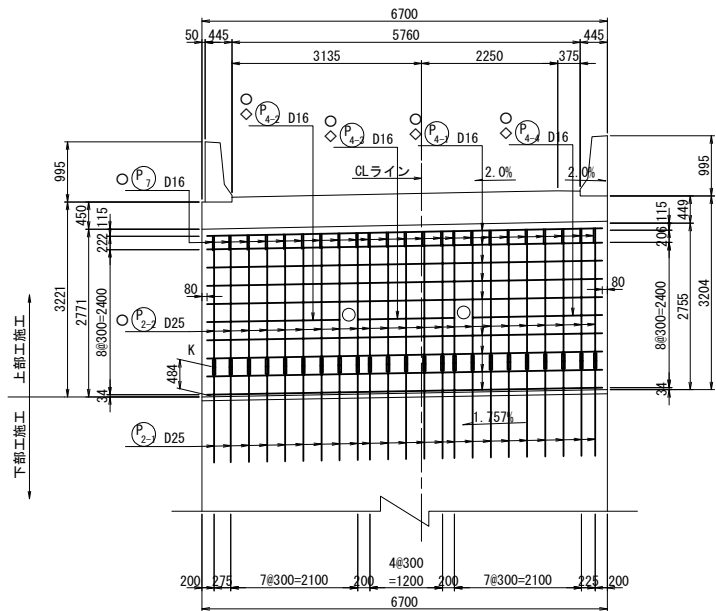
使用材料表

コンクリート	躯体・地覆・壁高欄	σck=30N/mm ²
鉄筋	躯体・地覆・壁高欄	SD345

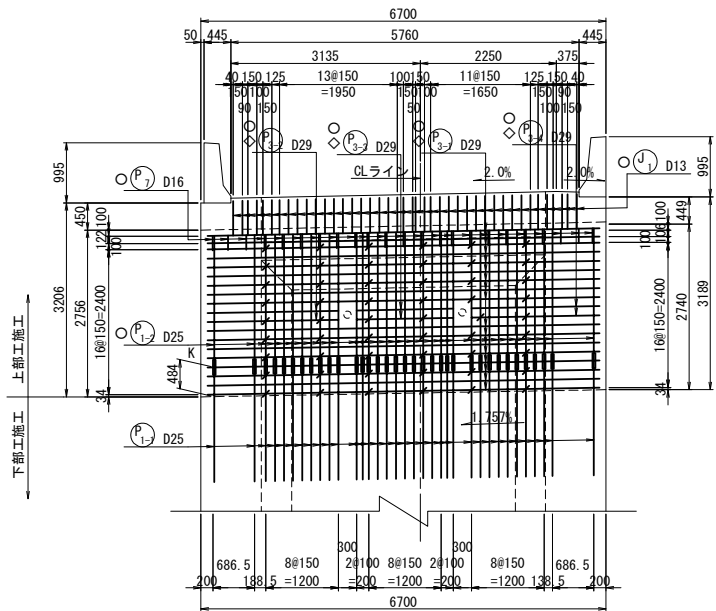
注: [Hatched Box] は本工事施工範囲を表す。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A2橋台構造一般図（その1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

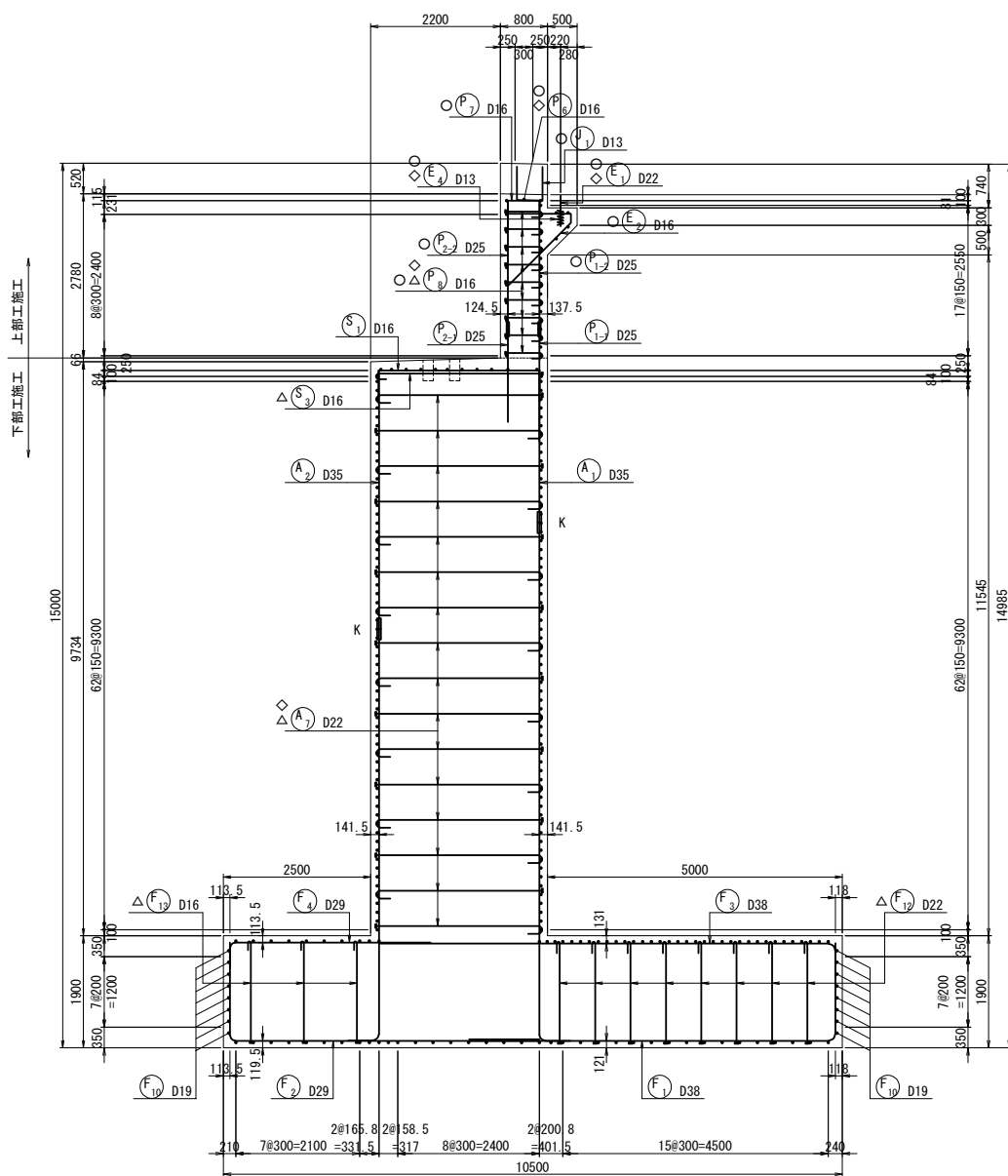
パラペット正面図
2 - 2



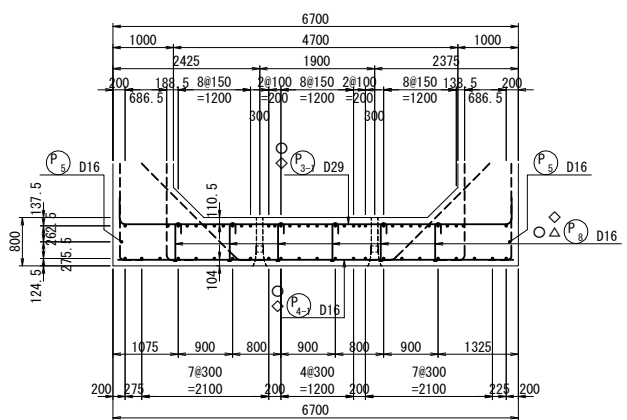
パラペット背面図
3 - 3



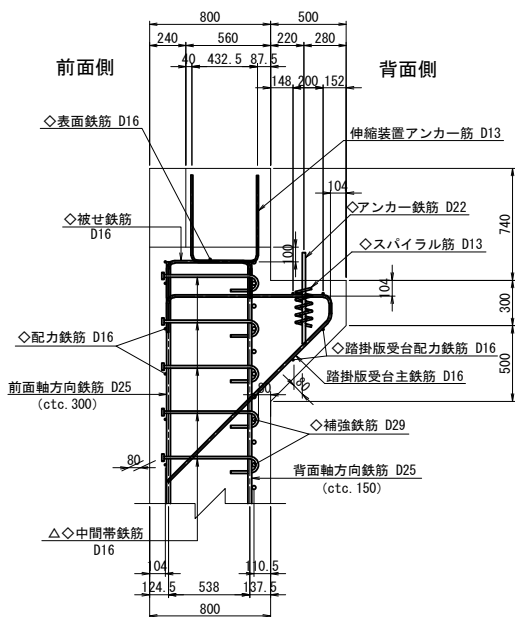
側面図
1 - 1



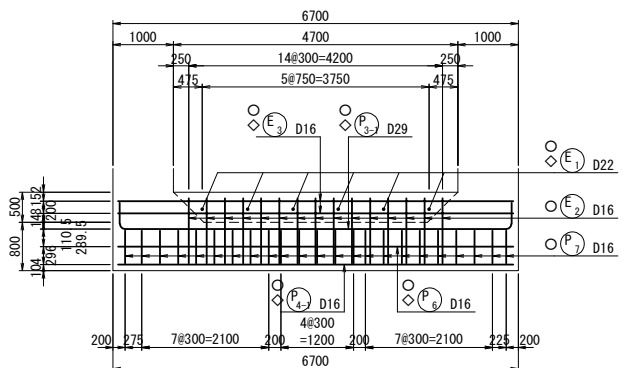
パラペット平面図
4 - 4



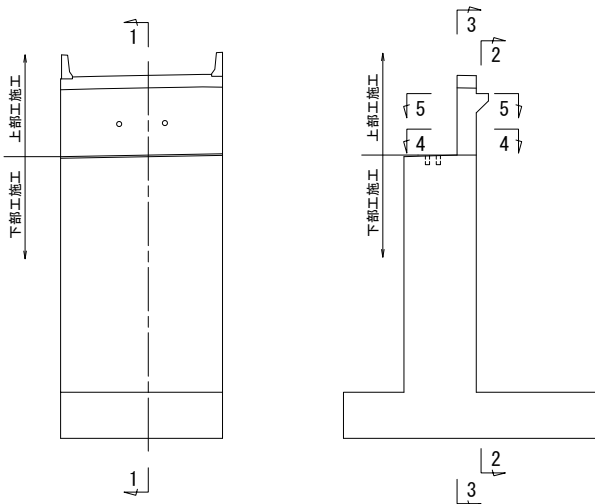
パラペットかぶり詳細図 S=1:50



踏掛版受台平面図
5 - 5

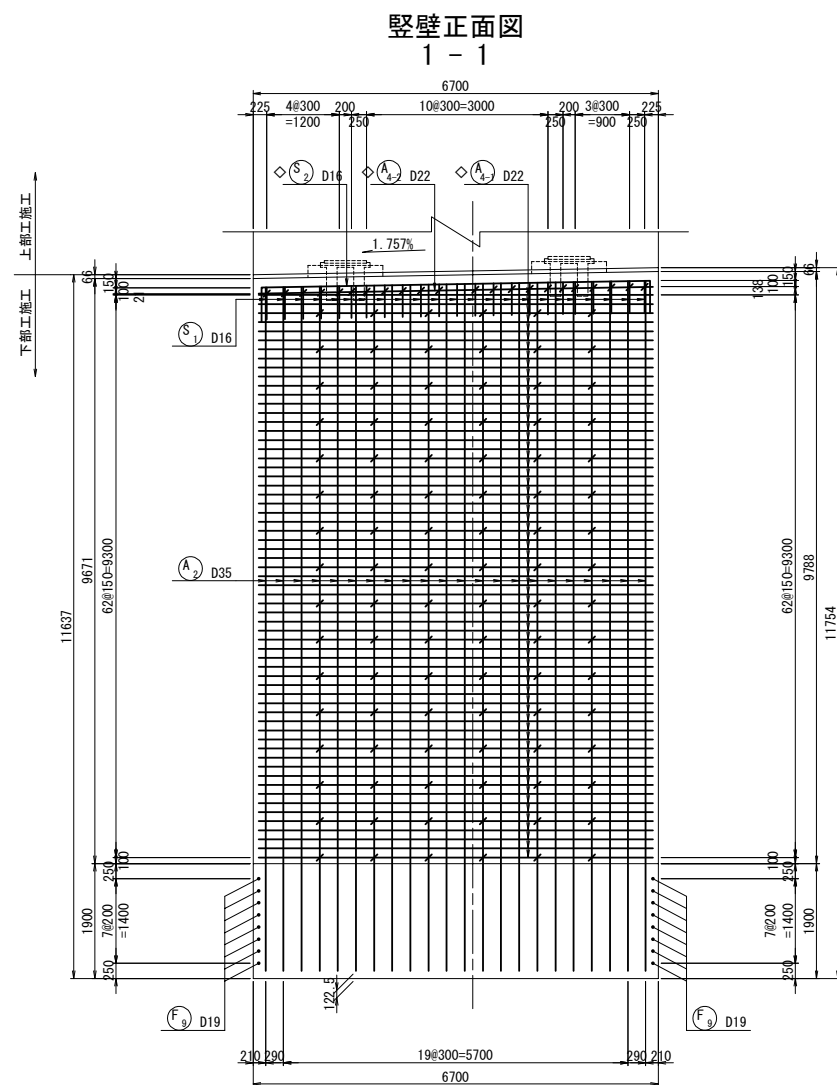
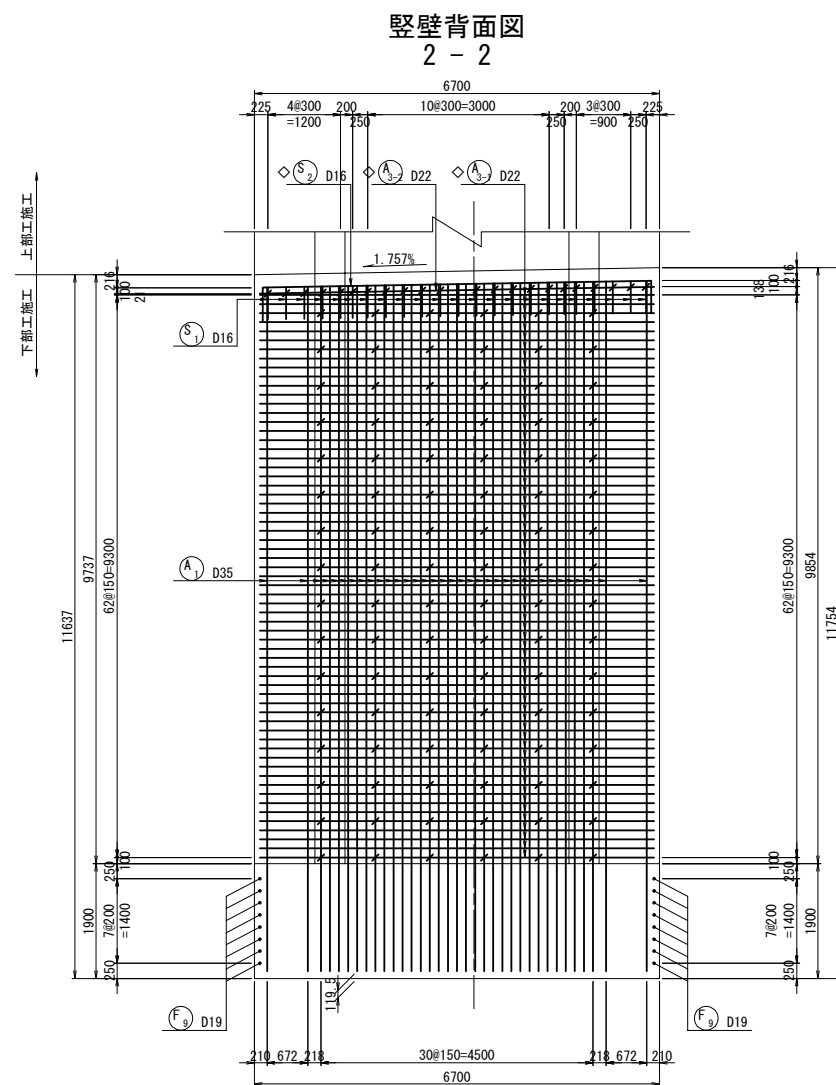
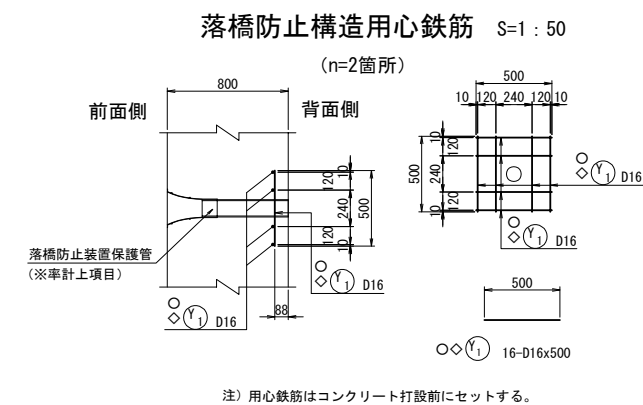


位置図

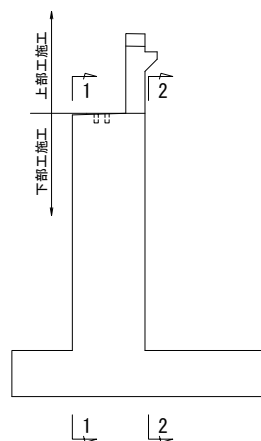


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

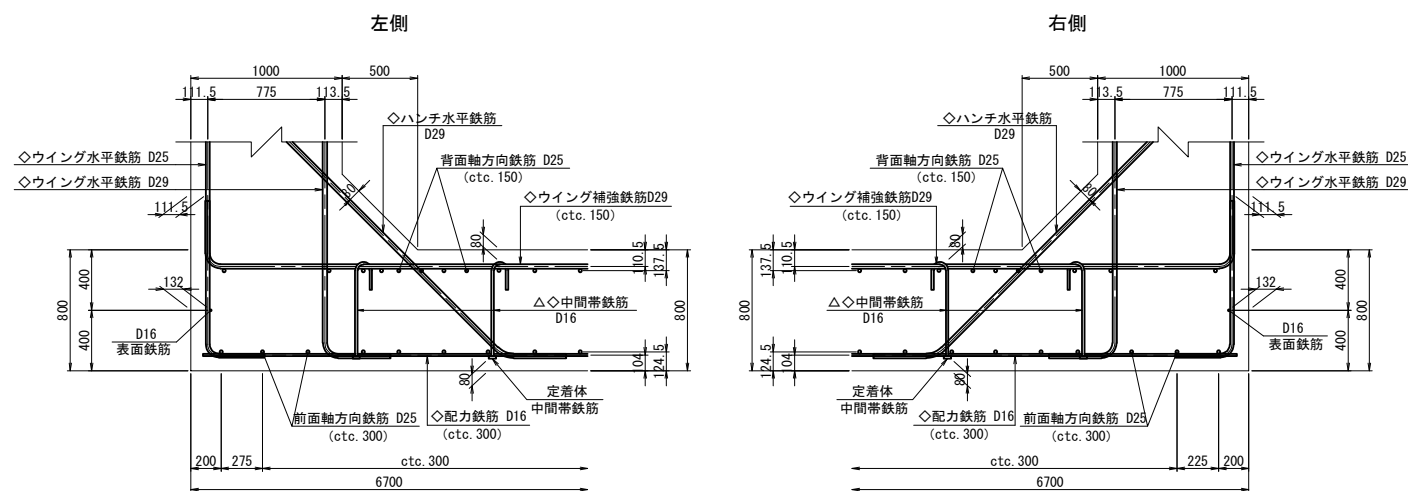
道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A2橋台配筋図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



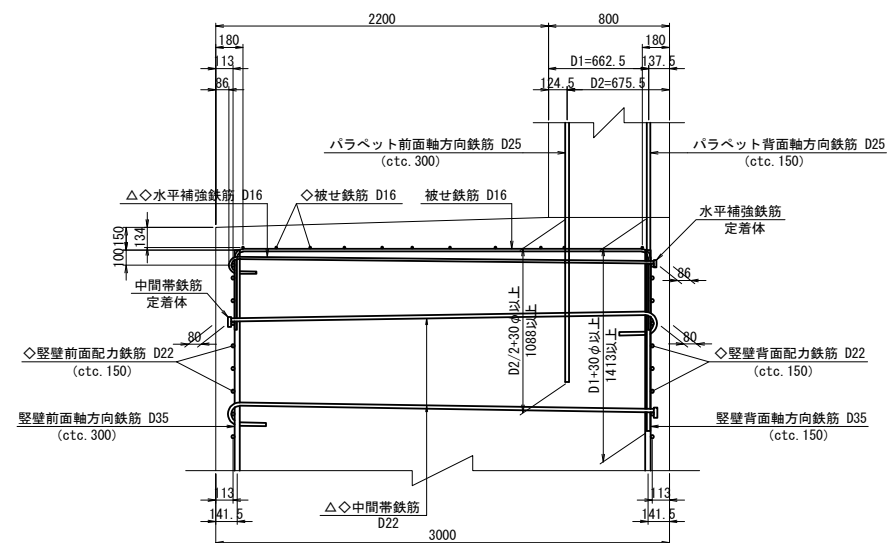
位置図



パラペット端部かぶり詳細図 S=1:50

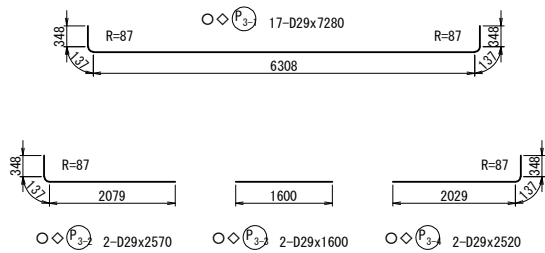
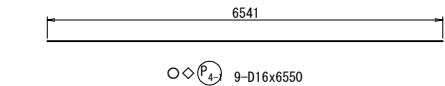
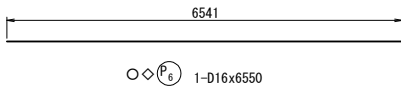
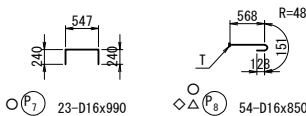
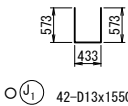
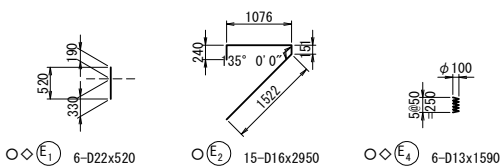
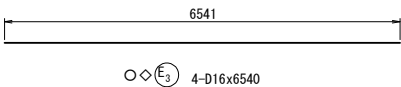


橋座かぶり詳細図 S=1:50

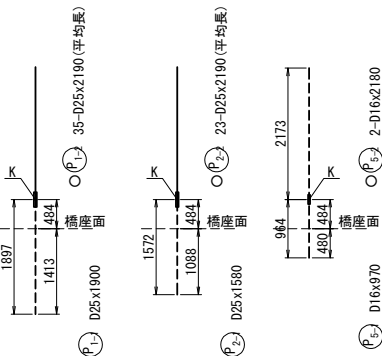


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ◇鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
- 凡例 (※率計上項目)

道東自動車道			
本流川第一橋（鋼上部工）工事			
占冠PAランプ橋			
A2橋台配筋図（その2）			
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



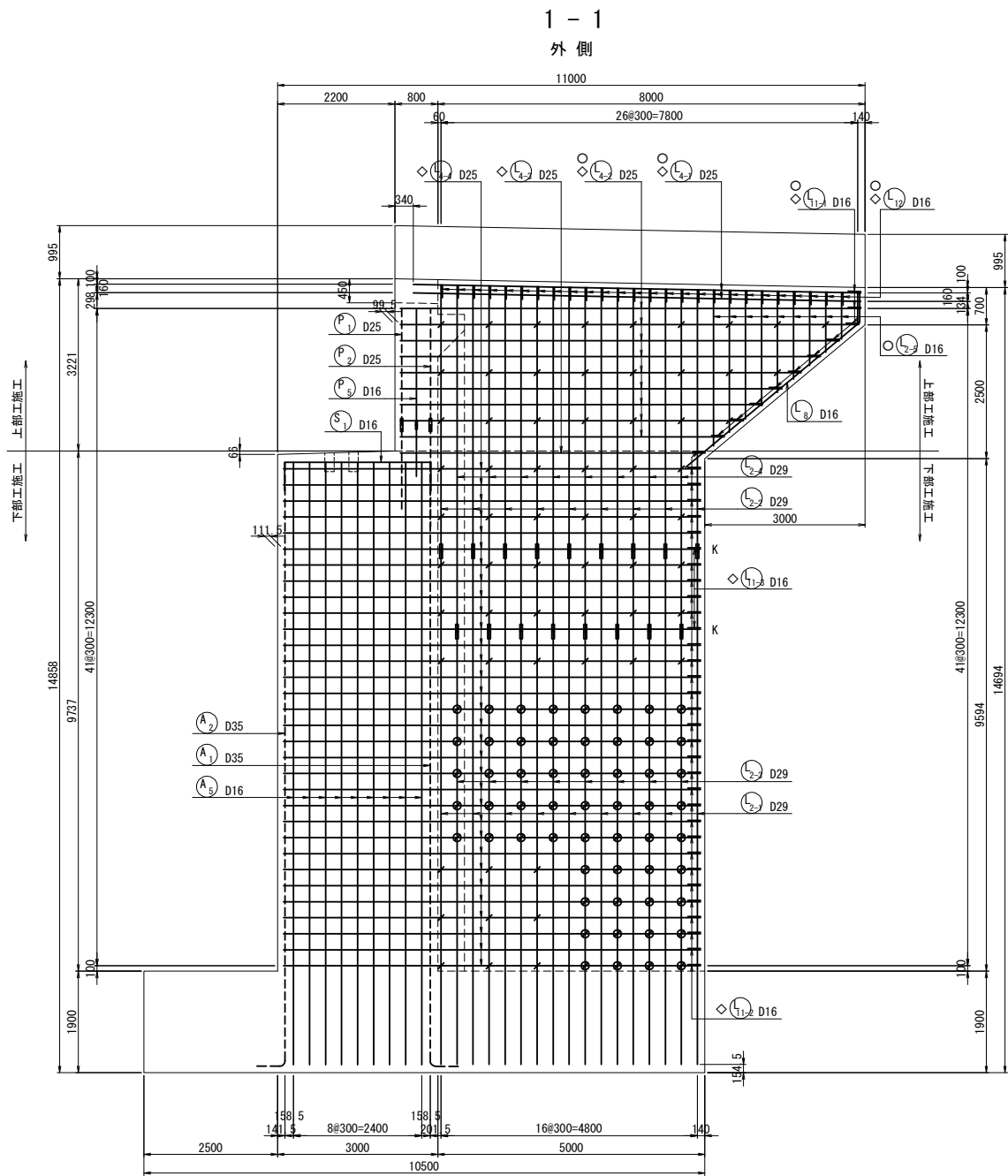
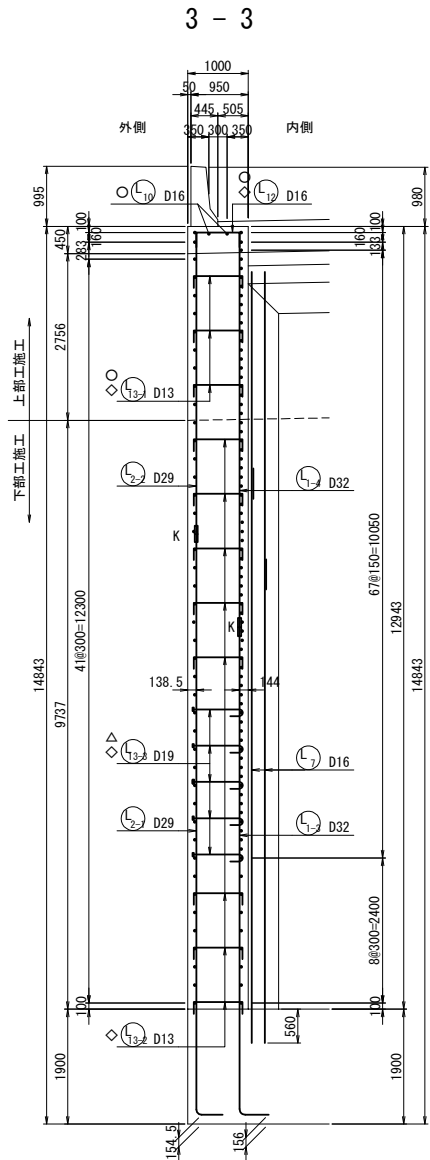
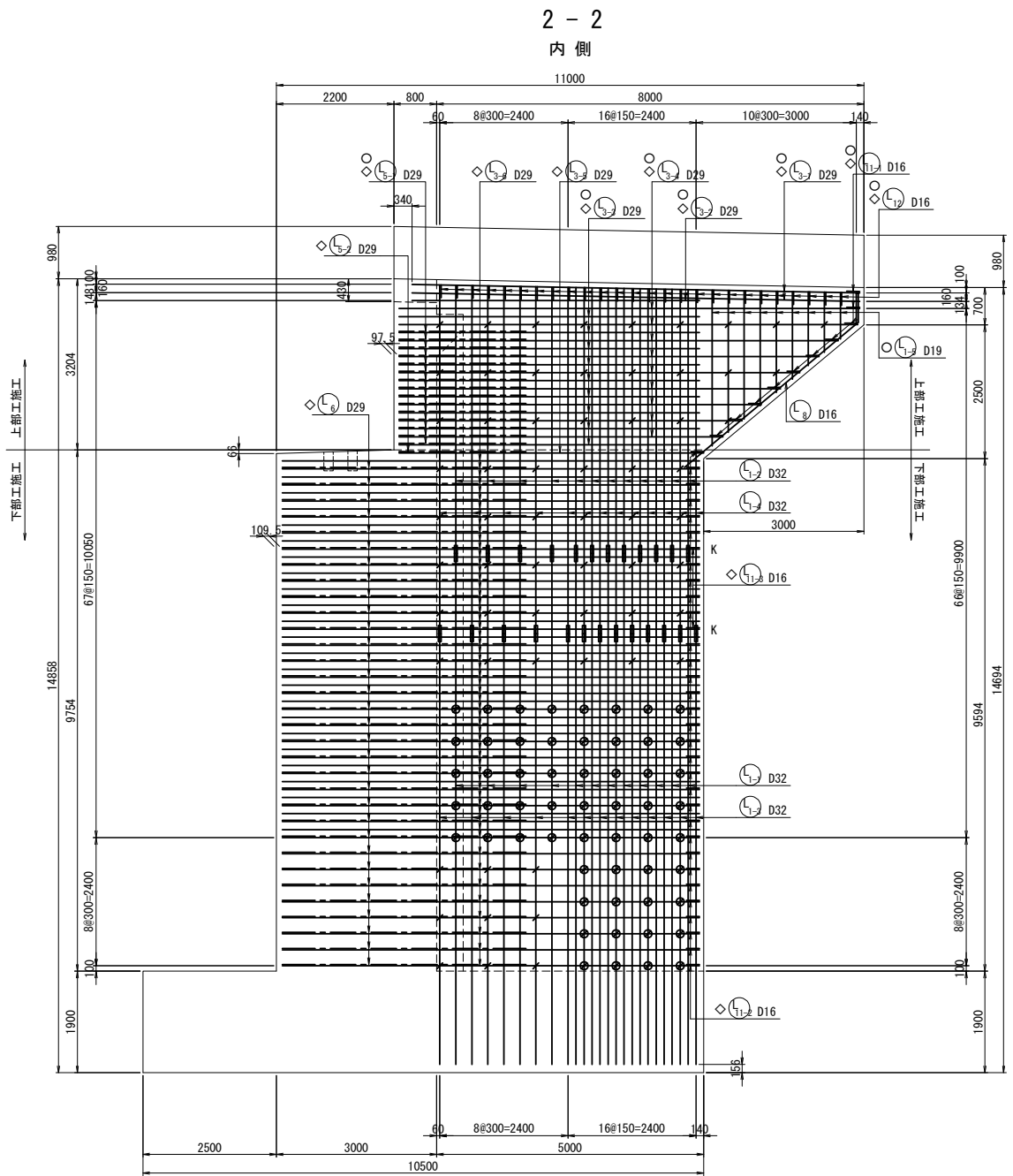
記 号	径	本数	L
1	D25	1	2173
2	D25	1	2174
3	D25	1	2175
4	D25	1	2175
5	D25	1	2176
6	D25	1	2176
7	D25	1	2176
8	D25	1	2177
9	D25	1	2177
10	D25	1	2178
11	D25	1	2178
12	D25	1	2179
13	D25	1	2179
14	D25	1	2179
15	D25	1	2179
16	D25	1	2180
17	D25	1	2180
18	D25	1	2181
19	D25	1	2181
20	D25	1	2181
21	D25	1	2182
22	D25	1	2182
23	D25	1	2182
24	D25	1	2183
25	D25	1	2183
26	D25	1	2184
27	D25	1	2184
28	D25	1	2184
29	D25	1	2185
30	D25	1	2185
31	D25	1	2185
32	D25	1	2186
33	D25	1	2186
34	D25	1	2187
35	D25	1	2188
平均長		35	2181



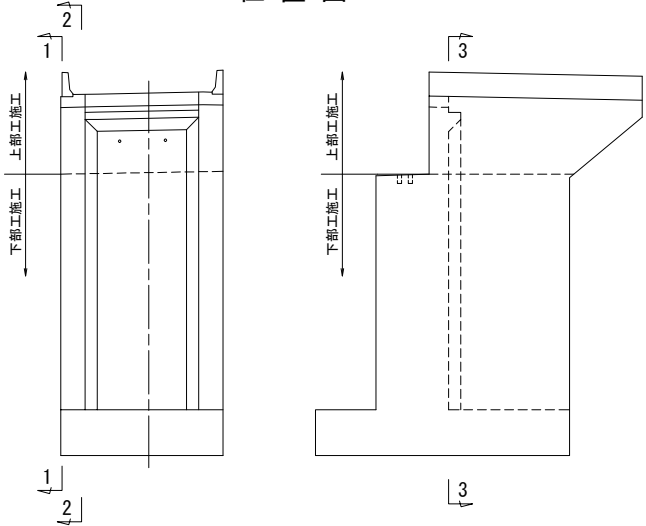
記 号	径	本数	L
1	D25	1	2173
2	D25	1	2174
3	D25	1	2174
4	D25	1	2175
5	D25	1	2176
6	D25	1	2176
7	D25	1	2177
8	D25	1	2178
9	D25	1	2179
10	D25	1	2179
11	D25	1	2180
12	D25	1	2181
13	D25	1	2181
14	D25	1	2182
15	D25	1	2183
16	D25	1	2183
17	D25	1	2184
18	D25	1	2185
19	D25	1	2185
20	D25	1	2186
21	D25	1	2187
22	D25	1	2188
23	D25	1	2188
平均長		23	2181

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A2橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



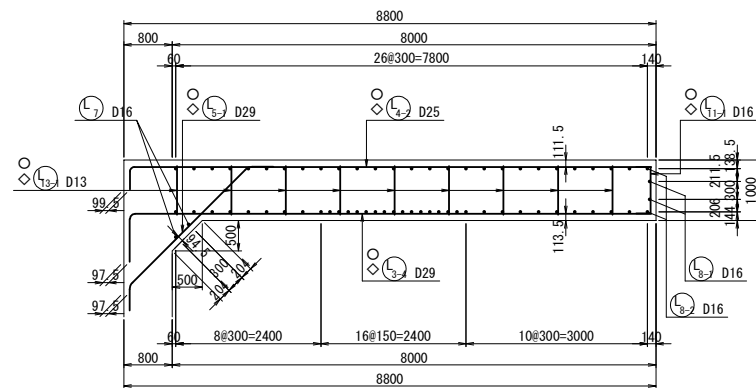
位置図



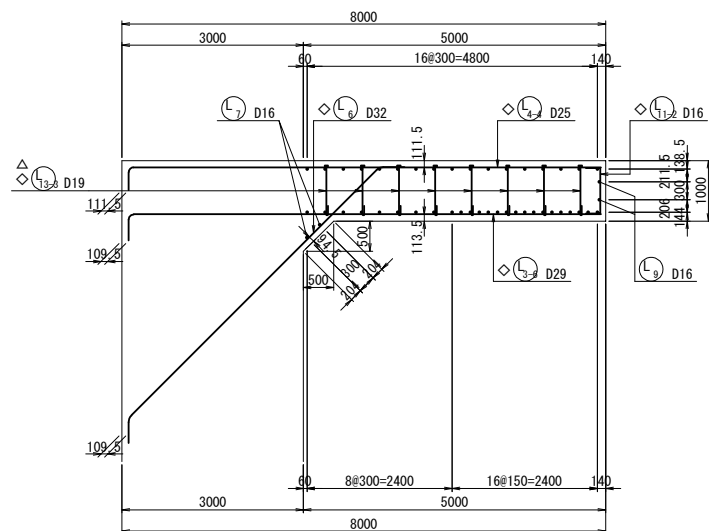
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ○鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) Kは機械式継手を表す。
注8) ⊙はT33鉄筋を表す。

道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A2橋台配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

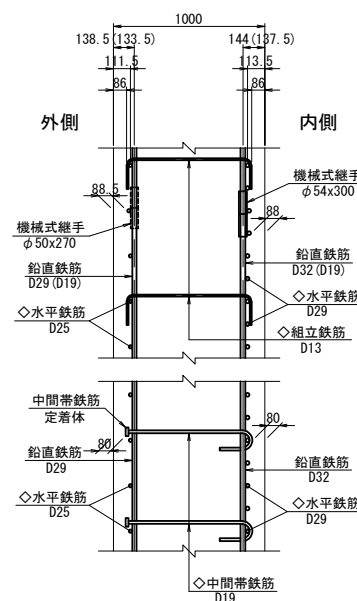
1 - 1



2 - 2

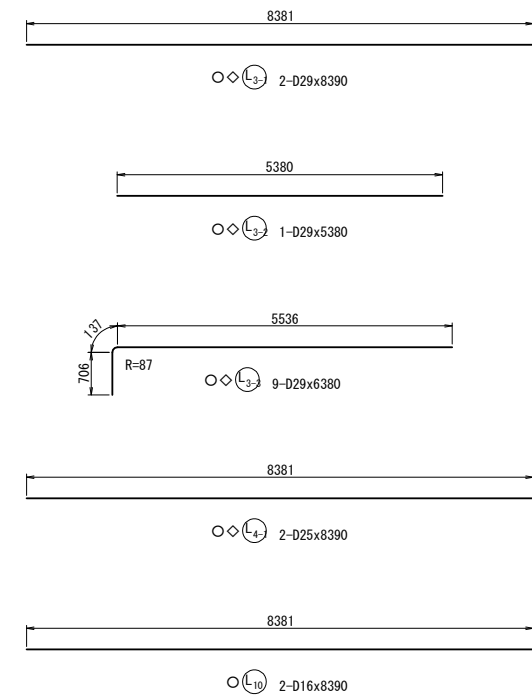
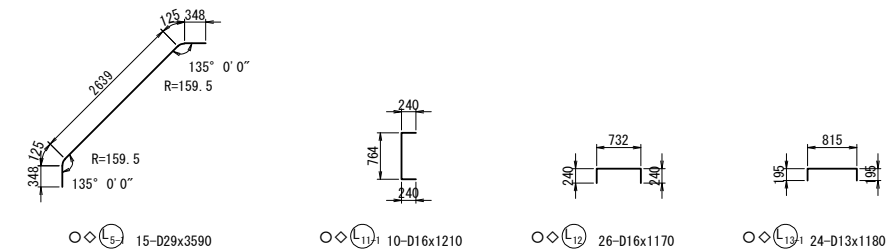


左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



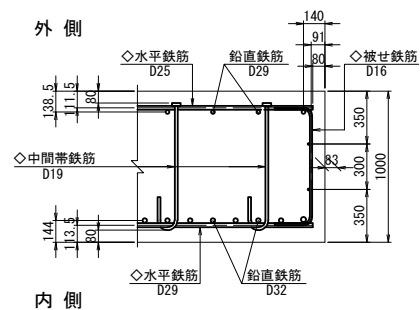
※ () 内は、パラレルウイング部を示す。

上部工施工鉄筋

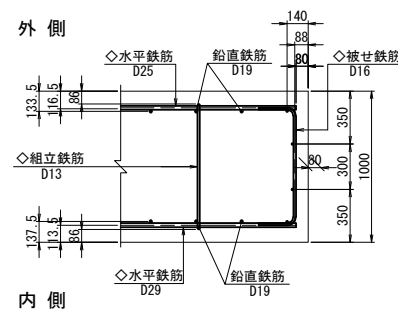


左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

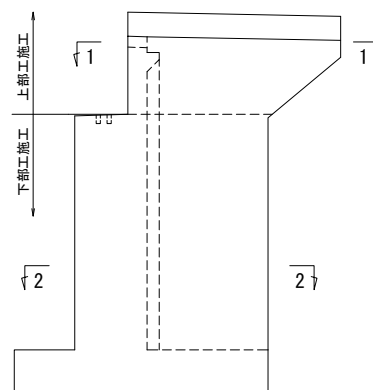
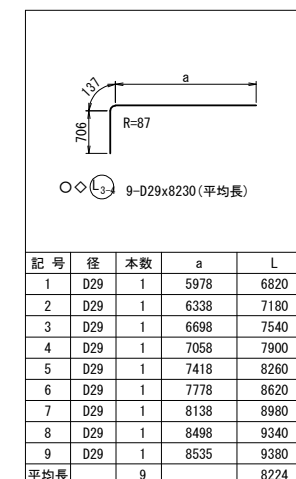
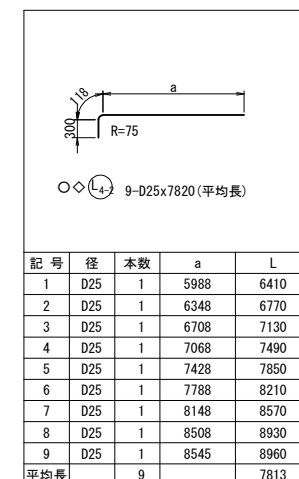
フルウイング端部



パラレルウイング端部

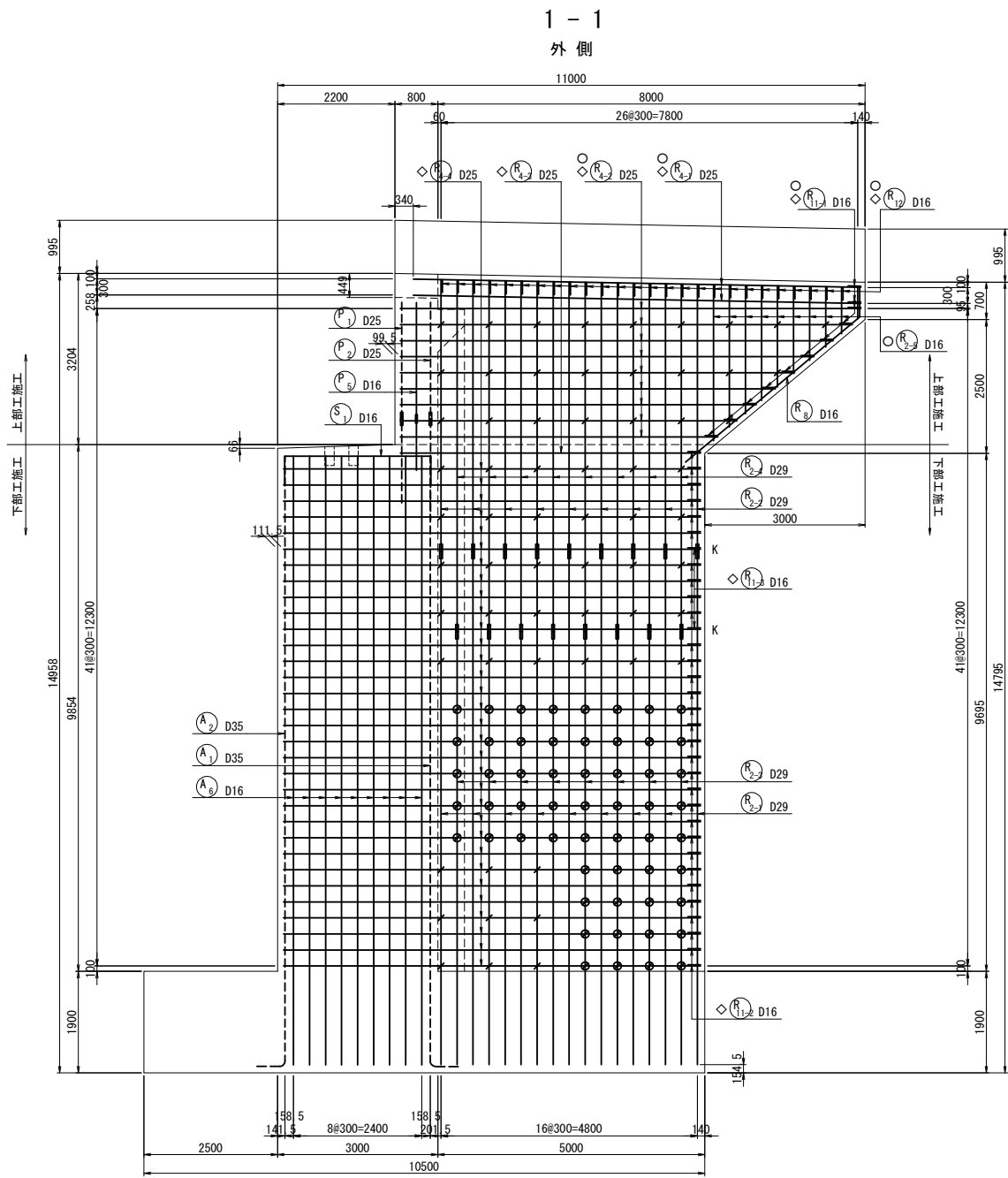
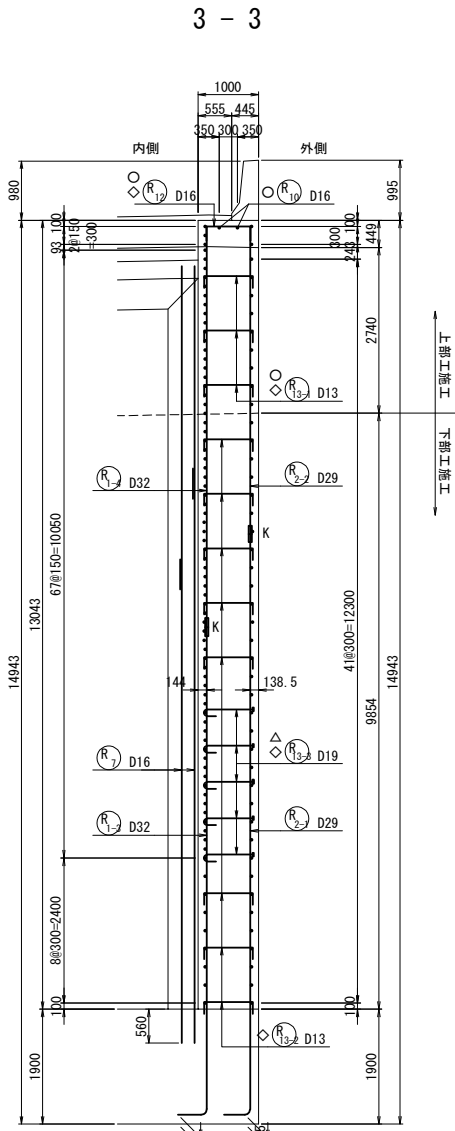
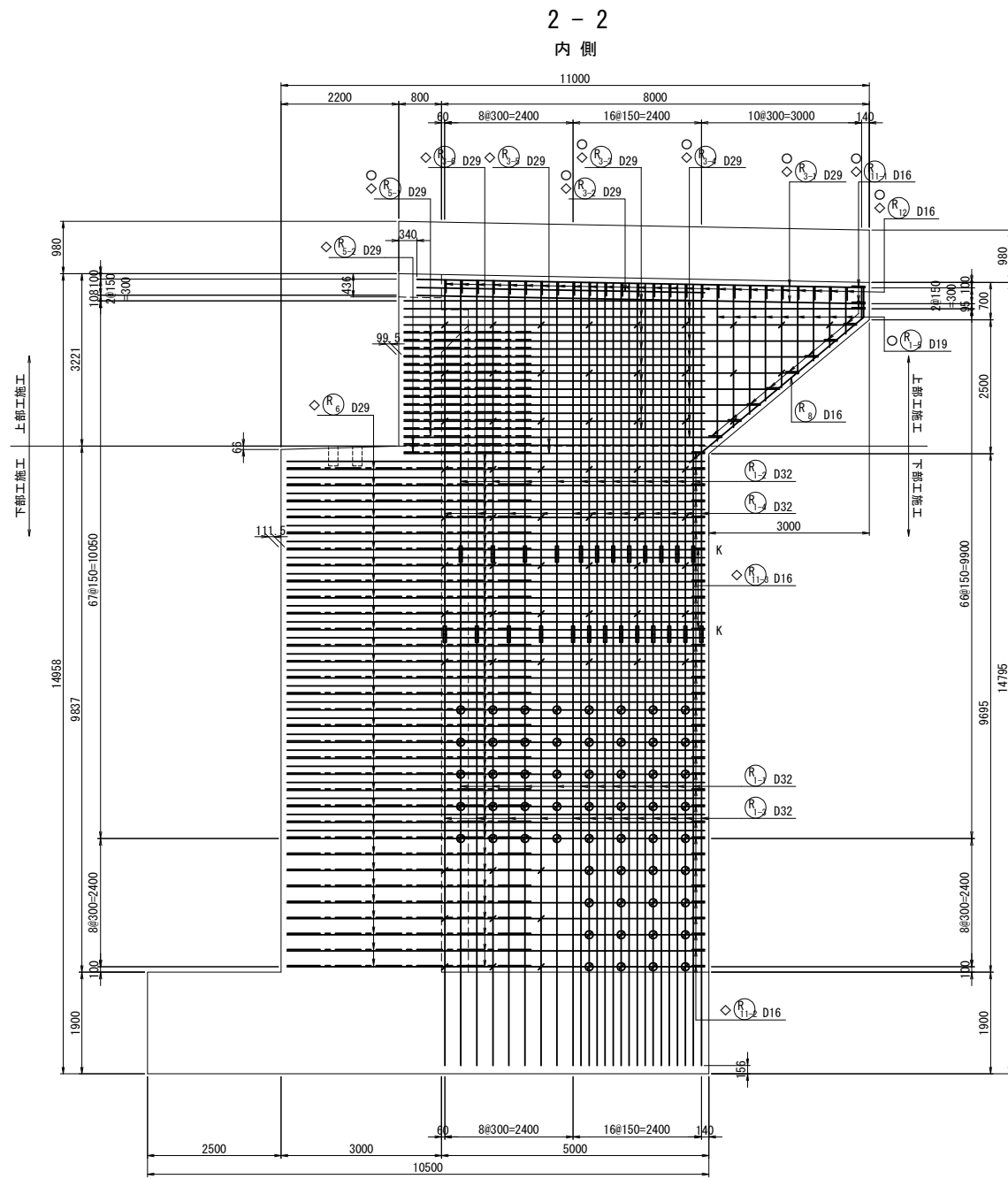


位置図

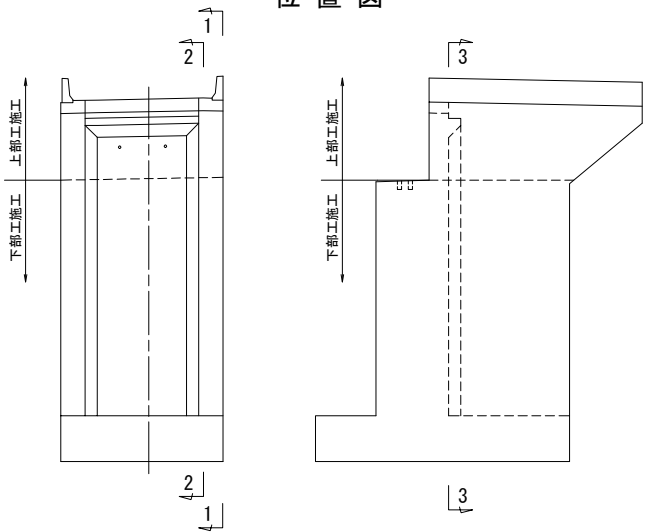


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路標示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 定着定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づくこと。
- 注3) 印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上りの10mm丸めとする。

道東自動車道 本流鷗川第一橋（橋上部工）工事				
図面の種類		占冠PAランプ橋 A2橋合設筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事業務所			

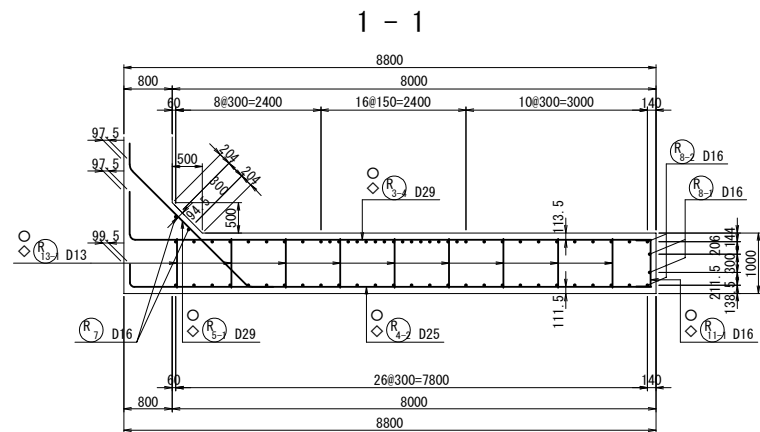
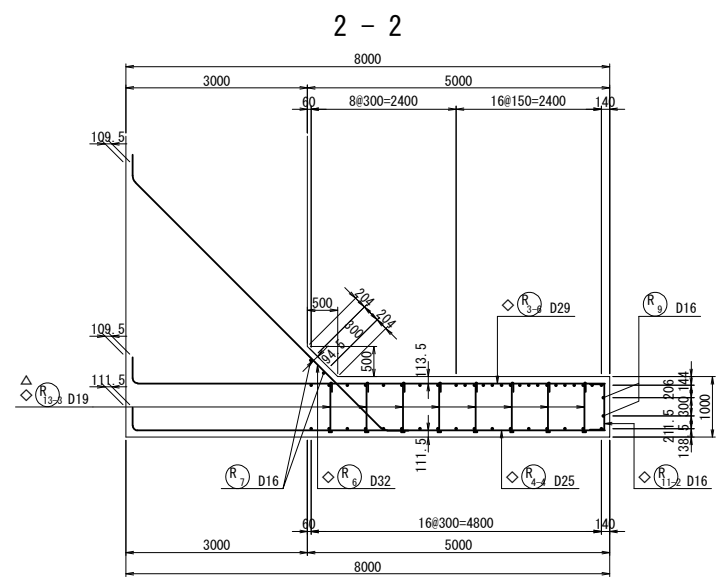


位置図

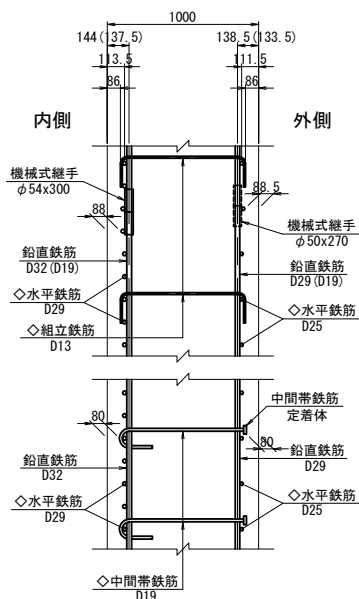
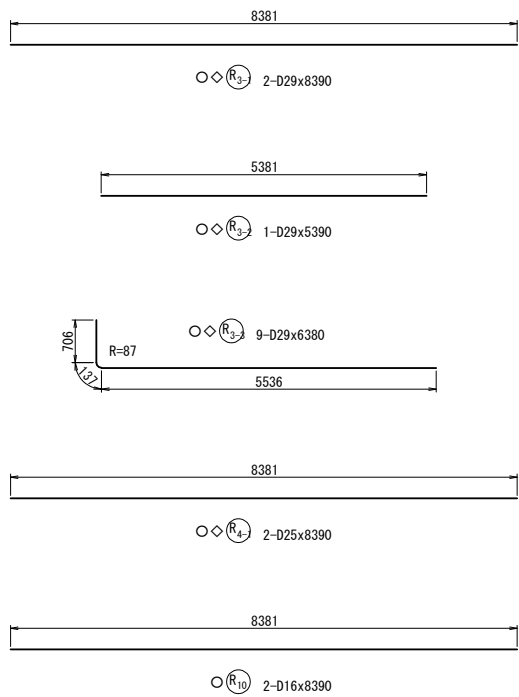
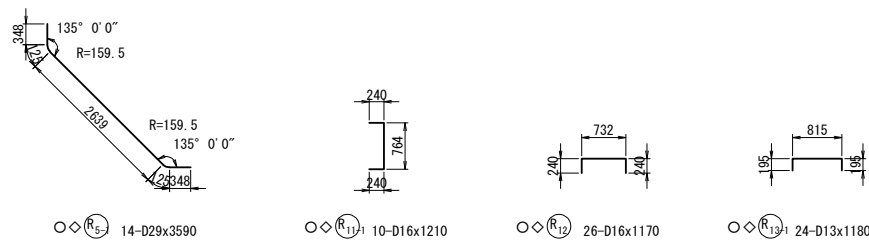


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は本工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注7) Kは機械式継手を表す。
注8) ⊙はR₃₂鉄筋を表す。

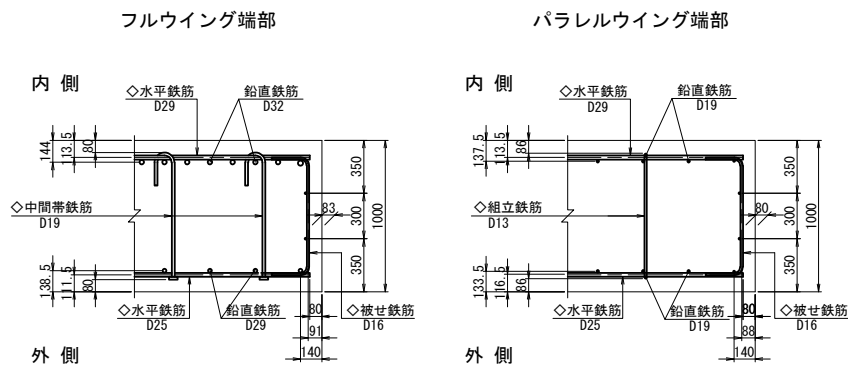
道東自動車道 本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A2橋台配筋図（その6）	図面番号	-
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所	施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所		



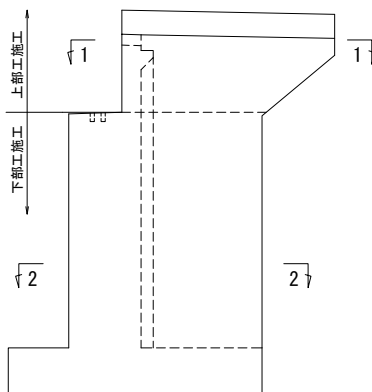
右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50



右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50



位置図



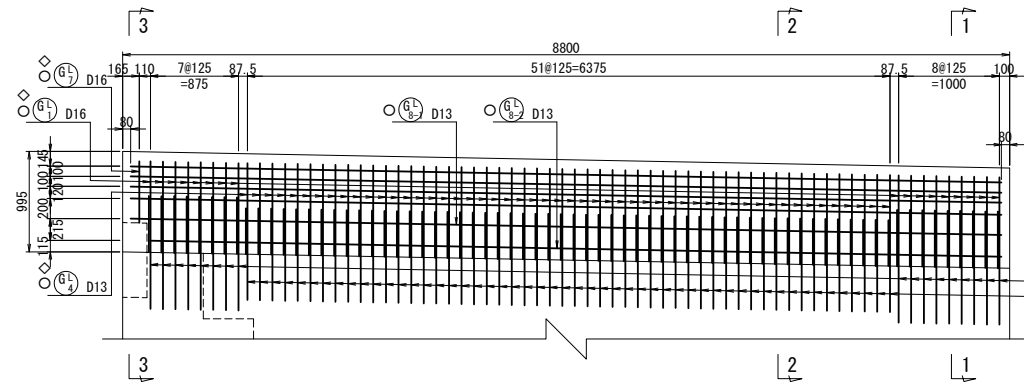
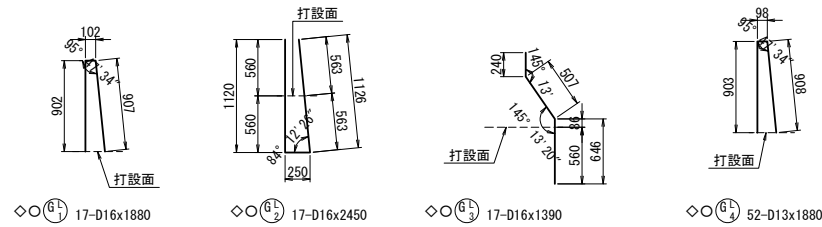
記号	径	本数	a	L
1	D29	1	5855	6700
2	D29	1	6215	7060
3	D29	1	6575	7420
4	D29	1	6935	7780
5	D29	1	7295	8140
6	D29	1	7655	8500
7	D29	1	8015	8860
8	D29	1	8375	9220
9	D29	1	8533	9380
平均長		9		8118

記号	径	本数	a	L
1	D25	1	5867	6290
2	D25	1	6227	6650
3	D25	1	6587	7010
4	D25	1	6947	7370
5	D25	1	7307	7730
6	D25	1	7667	8090
7	D25	1	8027	8450
8	D25	1	8387	8810
9	D25	1	8545	8960
平均長		9		7707

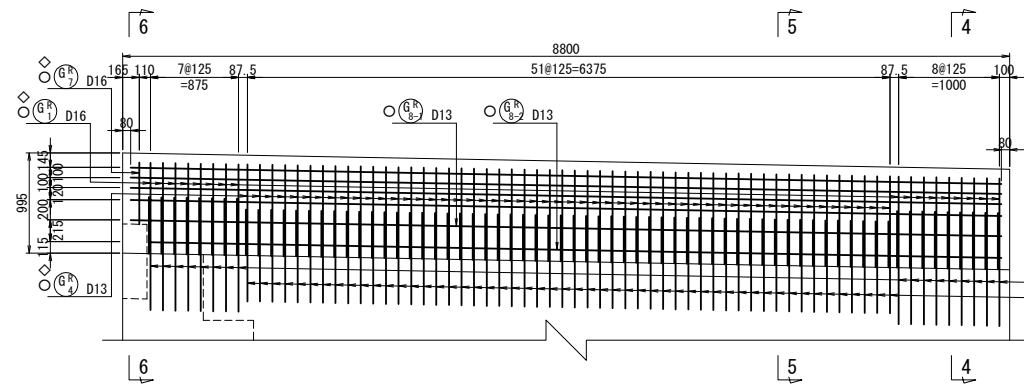
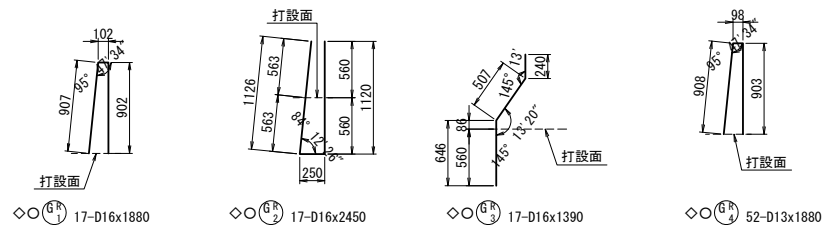
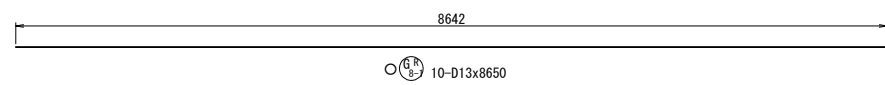
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋 A2橋台配筋図（その7）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

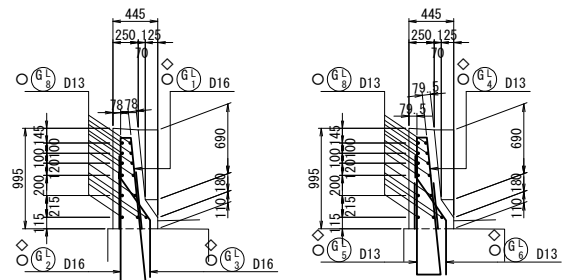
左壁欄側面展開図



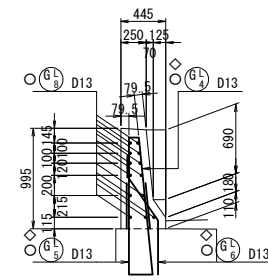
右壁欄側面展開図



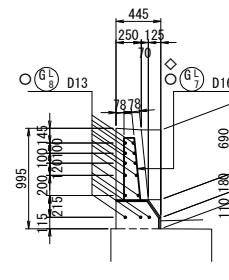
1 - 1



2 - 2

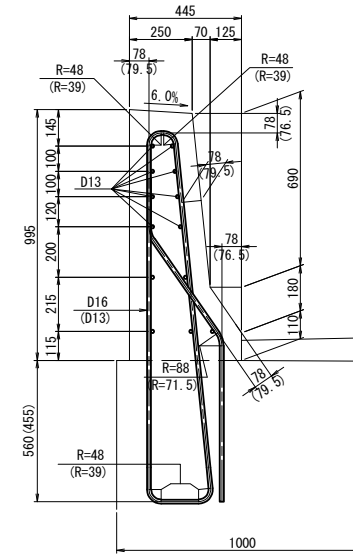


3 - 3



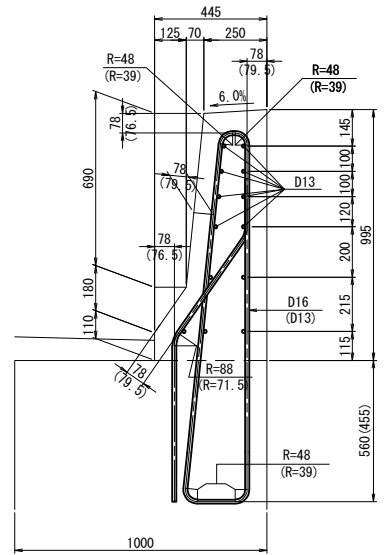
壁高欄かぶり詳細図 S=1 : 30

左壁欄



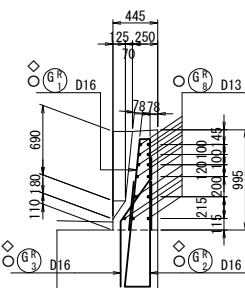
注) ()内はD13鉄筋の数値を表す。

右壁欄

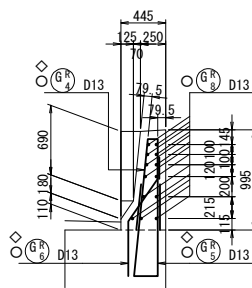


注) ()内はD13鉄筋の数値を表す。

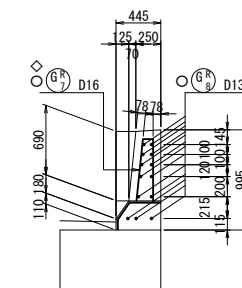
4 - 4



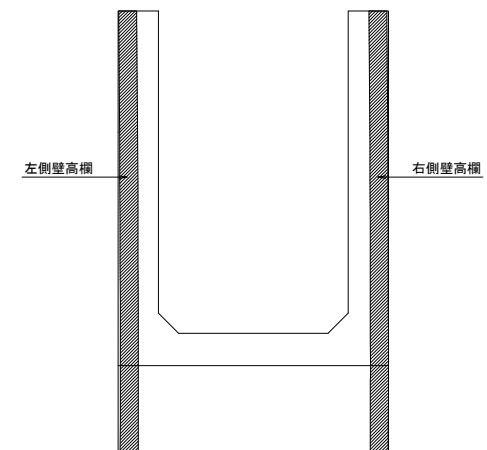
5 - 5



6 - 6



位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足する説。
1. 道路橋示方書-同解説(H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は本工事施設鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切上げの10mm丸とする。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上土工）工事			
図面の種類		占冠P Aランプ橋 A2橋合配筋図（その8）	
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計社社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工社社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

占冠PAランプ橋 A2橋台配筋図 (その9)

鉄筋表

	種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)							
◇	P3-1	D29	7280	17	5.04	36.7	624	┐
◇	P3-2	D29	2570	2	5.04	13.0	26	┐
◇	P3-3	D29	1600	2	5.04	8.06	16	┐
◇	P3-4	D29	2520	2	5.04	12.7	25	┐
◇	P4-1	D16	6550	9	1.56	10.2	92	┐
◇	P4-2	D16	2200	1	1.56	3.43	3	┐
◇	P4-3	D16	1600	1	1.56	2.50	3	┐
◇	P4-4	D16	2150	1	1.56	3.35	3	┐
◇	P6	D16	6550	1	1.56	10.2	10	┐
◇	△	P8	D16	850	54	1.56	1.33	72
							874	→ (54) C kg
◇	E1	D22	520	6	3.04	1.58	9	
◇	E3	D16	6540	4	1.56	10.2	41	┐
							50	kg
◇	Y1	D16	500	16	1.56	0.780	12	┐
							12	kg
◇	L3-1	D29	8390	2	5.04	42.3	85	┐
◇	L3-2	D29	5380	1	5.04	27.1	27	┐
◇	L3-3	D29	6380	9	5.04	32.2	290	┐
◇	L3-4	D29	8230	9	5.04	41.5	374	┐ (平均長)
◇	L4-1	D25	8390	2	3.98	33.4	67	┐
◇	L4-2	D25	7820	9	3.98	31.1	280	┐ (平均長)
◇	L5-1	D29	3590	15	5.04	18.1	272	┐
◇	L11-1	D16	1210	10	1.56	1.89	19	┐
◇	L12	D16	1170	26	1.56	1.83	48	┐
◇	L13-1	D13	1180	24	0.995	1.17	28	┐
							1490	kg
◇	R3-1	D29	8390	2	5.04	42.3	85	┐
◇	R3-2	D29	5390	1	5.04	27.2	27	┐
◇	R3-3	D29	6380	9	5.04	32.2	290	┐
◇	R3-4	D29	8120	9	5.04	40.9	368	┐ (平均長)
◇	R4-1	D25	8390	2	3.98	33.4	67	┐
◇	R4-2	D25	7710	9	3.98	30.7	276	┐ (平均長)
◇	R5-1	D29	3590	14	5.04	18.1	253	┐
◇	R11-1	D16	1210	10	1.56	1.89	19	┐
◇	R12	D16	1170	26	1.56	1.83	48	┐
◇	R13-1	D13	1180	24	0.995	1.17	28	┐
							1461	kg
◇	GL1	D16	1880	17	1.56	2.93	50	┐
◇	GL2	D16	2450	17	1.56	3.82	65	┐
◇	GL3	D16	1390	17	1.56	2.17	37	┐
◇	GL4	D13	1880	52	0.995	1.87	97	┐
◇	GL5	D13	2030	52	0.995	2.02	105	┐
◇	GL6	D13	1240	52	0.995	1.23	64	┐
◇	GL7	D16	1300	1	1.56	2.03	2	┐
							420	kg
◇	GR1	D16	1880	17	1.56	2.93	50	┐
◇	GR2	D16	2450	17	1.56	3.82	65	┐
◇	GR3	D16	1390	17	1.56	2.17	37	┐
◇	GR4	D13	1880	52	0.995	1.87	97	┐
◇	GR5	D13	2030	52	0.995	2.02	105	┐
◇	GR6	D13	1240	52	0.995	1.23	64	┐
◇	GR7	D16	1300	1	1.56	2.03	2	┐
							420	kg
◇	J1	D13	1550	42	0.995	1.54	65	┐
							65	kg

エポキシ樹脂塗装鉄筋
鉄筋質量集計 (SD345)

	鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計	(機械定着)
D29	2762 kg	—	—	2762 kg	
D25	690 kg	—	—	690 kg	
D22	9 kg	—	—	9 kg	
D16	606 kg	—	72 kg	678 kg	(54)
D13	653 kg	—	—	653 kg	
合 計	4720 kg	—	72 kg	4792 kg	(54)

普通鉄筋(SD345)

P1-2	D25	2190	35	3.98	8.72	305	↓ (平均長) B
P2-2	D25	2190	23	3.98	8.72	201	↓ (平均長) B
P5-2	D16	2180	2	1.56	3.40	7	↓ B
P7	D16	990	23	1.56	1.54	35	□
							548 kg

E2	D16	2950	15	1.56	4.60	69	7
E4	D13	1590	6	0.995	1.58	9	11
							78 kg

L10	D16	8390	2	1.56	13.1	26	—
							26 kg

R10	D16	8390	2	1.56	13.1	26	—
							26 kg

GL8-1	D13	8650	10	0.995	8.61	86	—
GL8-2	D13	8450	3	0.995	8.41	25	—
							111 kg

GR8-1	D13	8650	10	0.995	8.61	86	—
GR8-2	D13	8450	3	0.995	8.41	25	—
							111 kg

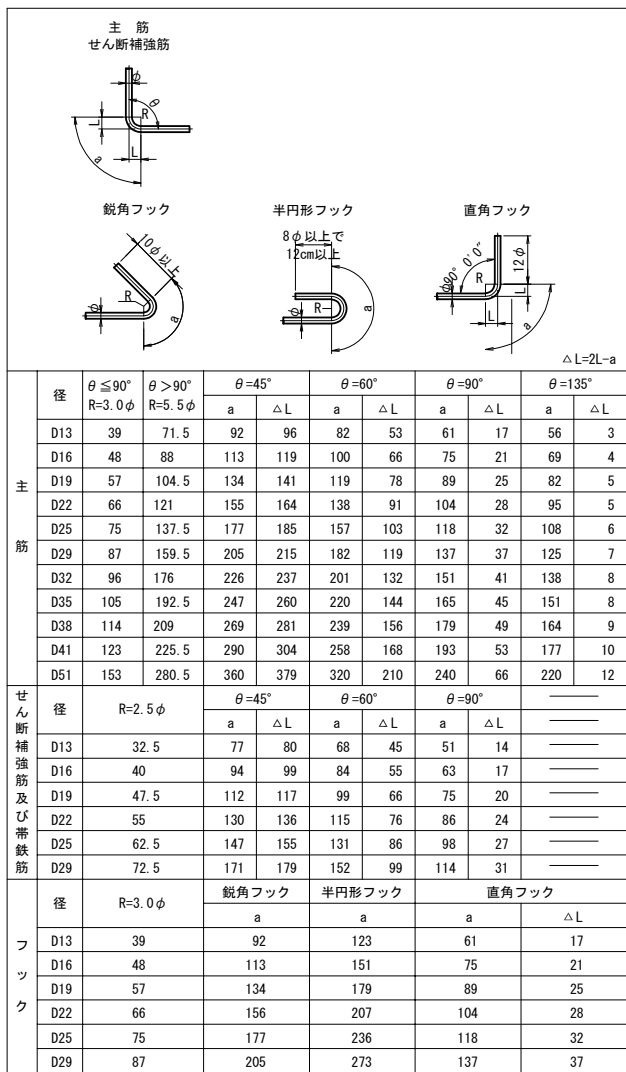
普通鉄筋質量集計 (SD345)

	鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計
D25	-	506 kg	-	506 kg
D16	156 kg	7 kg	-	163 kg
D13	231 kg	-	-	231 kg
合 計	387 kg	513 kg	-	900 kg

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	箇 数					
	$0 < L \leq 1m$	$1m < L \leq 2m$	$2m < L \leq 3m$	$3m < L \leq 4m$	$4m < L \leq 5m$	$5m < L \leq 6m$
D16 (防錆処理)	54					
D22 (防錆処理)						
合計 (防錆処理)						54

鉄筋加工寸法表 (SD345)



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書・同解説(H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置位置は、施工条件に応じて定着体と半円形構造物の位置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) ①印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋はエポキシ樹脂塗装鉄筋を表す。
注5) 鉄筋長は切上げの10mm丸めとする。
注6) ()内は機械式鉄筋定着工法箇所を示す。
注7) []内は機械継手継手箇所を示す。

道東自動車道			
本流鶴川第一橋（鋼上部工）工事			
図面の種類	占冠PAランプ橋		
	A2橋台配筋図（その9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
	帯広工事事務所		